

明治国際医療大学 救急救命学科

講義概要

〔2024〕

救急救命学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
大学の教育と研究	前期	1	1
コミュニケーション論	前期	1	2
基礎ゼミ	前期	1	2
学習技法	前期	1	1
生命倫理	前期	1	1
医学概論	後期	1	1
医療コミュニケーション学	後期	1	1
人体の構造と機能Ⅰ	前期	1	2
人体の構造と機能Ⅱ	後期	1	2
救急医学概論	後期	1	2
都市型救助実習	後期	1	1
救急処置実習 A - Ⅰ	通年	1	4
ライフセービング実習	前期	1	2
健康スポーツ実習Ⅱ	後期	1	1
看護学概論	後期	2	2
東洋医学概論	後期	2	2
人体の構造と機能Ⅲ	前期	2	2
病理学	前期	2	1
救急症候学Ⅰ	前期	2	2
救急症候学Ⅱ	後期	2	2
疾病救急医学Ⅰ	前期	2	2
外傷救急医学Ⅰ	後期	2	2
附属病院実習	後期	2	1
救急医学各論	後期	2	2
救急処置概論	前期	2	2
患者搬送技術論	前期	2	2
救急処置実習 A - Ⅱ	通年	2	4
救急救命学総合演習Ⅰ	通年	2	2
フィールドワーク実習	前期	2	1
ウォーターレスキュー実習	前期	2	1
マウンテンレスキュー実習	後期	2	2
健康スポーツ実習Ⅳ	後期	2	1
スポーツ医学基礎	前期	2	2
スポーツ医学応用	後期	2	2

救急救命学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
インターンシップ	後期	3	1
介護実習	後期	3	1
災害時心身ケア演習	前期	3	2
病院内医療演習	前期	3	2
救急症候学Ⅲ	前期	3	2
救急症候学Ⅳ	前期	3	2
疾病救急医学Ⅲ	前期	3	2
疾病救急医学Ⅳ	前期	3	2
外傷救急医学Ⅱ	前期	3	2
救急処置実習 A - Ⅲ	通年	3	4
救急処置実習 B (病院内実習)	後期	3	4
救急処置実習 C (救急車同乗実習)	後期	3	1
救急処置実習 D (海外実習)	前期	3	1
救急救命学総合演習Ⅱ	後期	3	2
スポーツボランティア	後期	3	1
卒業研究Ⅰ	後期	3	2
疾病救急医学Ⅴ	前期	4	2
環境障害と中毒	前期	4	1
救急処置各論	前期	4	2
救急処置実習 A - Ⅳ	通年	4	4
救急救命学総合演習Ⅲ	通年	4	2
救急救命学総合演習Ⅳ	通年	4	2
卒業研究Ⅱ	前期	4	2
合計単位数			106
省令で定める基準単位数			13

講義科目名称： 日本国憲法（法学含む）

授業コード： 2E301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
山谷 真			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。		
授業計画	第1講	日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。	
	第2講	[備考] 幸福追求権・平等権 [到達目標] 憲法第13条・第14条の意義を説明できる。憲法第13条・14条に関連する判例を指摘できる。	
	第3講	[備考] 自由権1 [到達目標] 憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法第20条・第21条に関連する判例を指摘できる。	
	第4講	[備考] 自由権2 [到達目標] 憲法第22条・第31条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。	
	第5講	[備考] 社会権 [到達目標] 憲法25条の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。	
	第6講	[備考] 国務請求権・新しい人権 [到達目標] 請求権や新しい人権の意義を説明できる。新しい人権に関連する判例を指摘できる。	
	第7講	[備考] 参政権 [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度につき説明できる。	
	第8講	[備考] 国会 [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義やそれがどのような場合に認められるかを指摘できる。	
	第9講	[備考] 内閣 [到達目標] 内閣の組織や権能について説明できる。	
	第10講	[備考] 裁判所 [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。	
	第11講	[備考] 地方自治 [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。	
	第12講	[備考] 天皇・平和主義その他 [到達目標] 天皇の地位を説明できる（特に明治憲法と日本国憲法における地位の違いについて）。 憲法9条の意義について説明できる。	
	第13講	[備考] 明憲と日憲・法治主義と法の支配・直接民主制・法学概論 [到達目標] 明治憲法と日本国憲法における人権（国民の権利）や統治機構に関する相違点を指摘できる。	

	<p>法治主義と法の支配の意義の違いを説明できる。</p> <p>[備考] 第14講 医療をめぐる法律問題 [到達目標] 民事法と刑事法の違いを理解した上で、医療事故が発生した場合の法的な問題について、 民事責任、刑事責任、行政法上の責任にわけて説明できる。</p> <p>[備考] 第15講 これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	既習事項の確認や指示された問題（特に公務員試験問題）の演習を行う。
教科書	なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・全受講者 芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第七版』（岩波書店）。 ・公務員試験受験志望者 過去問精選問題集 出たDATA問(2)社会科学 基礎編 国家公務員・地方初級公務員試験オープンセサミシリーズ参考書 (1)政治・経済・社会
成績評価	<p>試験60%・レポートや毎回の提出物30%・授業態度など平常点10点</p> <p>※各回における課題を課した場合、期限後に提出した場合は減点し、期限後1週間過ぎた場合は提出を認めない。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山谷真</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	選択
担当教員			
和田 伸一			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この学科は公務員試験を考えている学生が大半であろう。よって、社会科学の知識を取得させることにより、公務員試験の合格を目指すことに主眼が置かれる。		
授業計画	第1講	民主政治の基本原理 [到達目標] 民主主義を理解し、説明できる。	
	第2講	基本的人権 [到達目標] 基本的人権の内容を理解し、説明できる。	
	第3講	比較政治制度 [到達目標] 各国の政治形態を理解し、説明できる。	
	第4講	平和主義 [到達目標] 平和について理解し、説明できる。	
	第5講	国会 [到達目標] 国会について理解し、説明できる。	
	第6講	内閣 [到達目標] 内閣について理解し、説明できる。	
	第7講	裁判所 [到達目標] 裁判所について理解し、説明できる。	
	第8講	地方自治 [到達目標] 地方自治について理解し、説明できる。	
	第9講	政党政治 [到達目標] 政党政治について理解し、説明できる。	
	第10講	選挙制度 [到達目標] 選挙について理解し、説明できる。	
	第11講	マスコミ [到達目標] 国民の政治参加について、マスコミについて理解し、説明できる。	
	第12講	政治思想 [到達目標] ホブス、ロック、ルソーについて理解し、説明できる。	
	第13講	国際政治 1 [到達目標] 国際連盟と国際連合について理解し、説明できる。	
	第14講	国際政治 2 [到達目標] 国際連盟と国際連合について理解し、説明できる。	
	第15講	国際政治 3 [到達目標] 冷戦から冷戦終結について理解し、説明できる。	
	第16講	資本主義経済 [到達目標] 資本主義経済とは何かを理解し、説明できる。	
	第17講	資本主義と社会主義 [到達目標] 資本主義と社会主義の違いは何か理解し、説明できる。	
	第18講	国民所得と経済成長 [到達目標] 国民所得とは何か理解し、説明できる。	
	第19講	戦後の日本経済 1 [到達目標] 日本経済を歴史的に理解し、説明できる。	
	第20講	戦後の日本経済 2 [到達目標] 日本経済を歴史的に理解し、説明できる。	
	第21講	通貨と金融のはたらき [到達目標] お金について理解し、説明できる。	
	第22講	租税 [到達目標] 税金について理解し、説明できる。	
	第23講	財政のはたらき [到達目標] 国の財政について理解し、説明できる。	
	第24講	労働問題	

	<p>第25講 社会保障 1 [到達目標] 労働問題と労働運動について理解し、説明できる。</p> <p>第26講 社会保障 2 [到達目標] 社会保障の歴史について理解し、説明できる。</p> <p>第27講 現代日本社会について [到達目標] 現代の社会保障の問題について理解し、説明できる。</p> <p>第28講 これからの日本社会について [到達目標] 日本社会をめぐる問題について理解し、説明できる。</p> <p>第29講 日本を取り巻く世界のゆくえ [到達目標] グローバル世界の中で、台頭する中国・北朝鮮・東アジアは世界が注目する場となり、世界のゆくえを揺るがす状況を考える。</p> <p>第30講 まとめ（評価含む） [到達目標] 社会科学の基礎を理解し、説明できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習：各授業で指定される範囲の予習を行う。（45分程度）</p> <p>復習：授業で行った範囲の問題演習を行う。（45分程度）</p>
教科書	<p>指定なし。</p> <p>適宜、授業プリントを使用。</p>
参考書	特になし
成績評価	レポート（20%）、試験（80%）による総合評価
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 和田 伸一</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス : wdashinichi@ezweb.ne.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	自己の救急救命士としてのキャリア形成について、情報収集を行うこと。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 50% ・実習先評価 50%
担当教員の基本情報	担当教員名：山下 歩 研究室：6号館2階講師室 オフィスアワー：随時 連絡先：a_yamashita@meiji-u.ac.jp
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・山下歩：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-3、○-4 科目ナンバー：HE-3-MS12-ES-P-0
	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ先企業については調整中 ・第1-3講については講義、第4講以降は実習を行う。 ・インターンシップ先企業との調整次第では授業構成に変更あり。 ・インターンシップ参加後にレポート提出を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
智原 栄一			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド & 対面）	
添付ファイル			

授業目標	医療における危機的な場面で外国語が母語の人とどのようにして必要不可欠な情報のやり取りをするのかを初歩的な英語を材料に考える。英語の内容は高校まで（主に中学校レベル）のものの復習で基礎を固めるとともに、医療分野の基礎的な専門用語や現代の社会問題を話題にする際に必要な基礎単語の語彙を増やし将来外国人スタッフとコミュニケーションするための準備を行う。同時に英文の段落の構成などの基本を知りある程度の説明的な英文を読み取る能力を養う。
授業計画	<p>第1回（オンデマンド） 現場で使えるようになるには英語とどう取り組むのか</p> <p>外国人とのコミュニケーションツールとして英語をどのように学習するべきかについてのアイデアを理解し、自分に適した方法を考える。外国語としての英語の特徴を知り日本語や他の言語との比較を理解することができる。中学校程度の英語の基礎文法の確認。 英語になじむためのヒントを見つける</p> <p>第2回（オンデマンド） 英語の略号やカタカナ語になった英語 有名な歌詞などを例に出し、どのようにして自分の好きなジャンルと英語を結びつけていくかを考えてみる。NATO phonetic code から英語の音になじむ。日常の中にある英語由来の言葉に気づく。</p> <p>第3回 確認テスト#1 NATO phonetic code、日本語として使うカタカナ英語。 中学校基礎文法#1 などが出題範囲。 試験後解説を行う。</p> <p>第4回（オンデマンド） 身体と生理的な状態を英語で説明する。基本的な動詞（look, help）</p> <p>第5回（オンデマンド） 頭からつま先まで英語で自分の身体部位を表現できる。快不快や楽しい悲しいなど基本的な精神状態が英語で説明できる。基本的な動詞（look, help）について基本例文と共に理解する。 外傷部位と病的な状態を英語で説明する。基本的な動詞（let, make）</p> <p>第6回（オンデマンド） 怪我に関する英語表現や身体症状を表す基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞（let, make）について基本例文と共に理解する</p> <p>第7回 家族や社会的状態を英語で説明する。基本的な動詞（compare、excite）</p> <p>第8回（オンデマンド） 患者の家族状況や社会的状況を表現する基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞（compare、excite）について基本例文と共に理解する</p> <p>第9回（オンデマンド） 確認テスト#2 第4回から第6回の内容に沿って身体部位や状態を英語で表現できるか、基本的な動詞が適切に使えるかなどについて試験する。試験後解説を行う。 Introduction to Medical English Chapter#1 Circulatory system</p> <p>第10回（オンデマンド） Explain how the blood goes around your body? Why the heart is so important? What is the pulmonary circulation? Introduction to Medical English Chapter#2 Nervous System</p> <p>第11回（オンデマンド） Explain the difference of central nervous system and perioheral nervous system. How the brain control our body? What is the role of peripheral nervous system? Introduction to Medical English Chapter#3 Respiratory System</p> <p>第12回 How do you breathe? How the oxgen is taken into the body? Explain the anatomical structure of breathing both in macroscopic and microscopic aspects. Introduction to Medical English Chapter#4 Digestive System</p> <p>第13回（オンデマンド） Why eating and drinking is important for us? How the food turn into the nutrients? Explain some disorders of the digestive system.</p> <p>第14回 確認テスト#3 第8回から第11回の内容についての基本的な人体の整理・解剖構造が英語で理解できているかを試験する。試験後解説を行う。</p>

	<p>第13回 (オンデマンド) 英文読解に挑む (paragraphをまるごと理解する)</p> <p>知らない単語があっても文脈(context) から重要性や同じ意味の表現をみつけ推測しながら全体を理解する方法を理解する。英語の医学関係教科書に触れる。</p> <p>第14回 (オンデマンド) My (exciting) days in the hospital レポート作成</p> <p>自分が怪我をして、救急車で運ばれ、入院し検査・治療・手術 (全身麻酔) をうけ退院するまでの1週間を英文日記にしてみる。</p> <p>第15回 最終確認テスト# 4</p> <p>第1回から第14回までの内容全体を含むテストを行い。試験後解説を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義予定に従い予習を行う。GoogleClassroom に上げた課題を自分で解いてみる (40分) 前回講義の内容を復習し、与えられた英文テキストや授業に用いた教科書の単元を数回音読し、1回以上書写する (40分)。
教科書	必要な授業資料は 適宜GoogleClassroomにあげるのので、事前に自分で確認すること。
参考書	やさしい医学英語 Introduction to medical English 青野淳子 編 医学書院 中学高校時に使用した英語文法の教科書、英和・和英辞書
成績評価	授業内に行う複数回の確認テスト(各20%x3)。第15回目に行う最後の確認テスト(40%)の成績が最も重視される。
担当教員の基本情報	担当教員名：智原 栄一 (ちはら えいいち) 英語検定1級 通訳技能検定2級 海外医学部在籍経験あり。 研究室：6号館 2F メールアドレス：e_chihara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:30-17:30
備考	diploma policy ⑤◎ ①○ ③○ 科目ナンバー：HE-3-LI3-ES-S-0
	確認テストの回 (授業計画参照、変更されることがあるので注意) は対面で実施するので 必ず出席して試験を受けること。 アクティブラーニング：授業内で出された課題に対して都度出題されるGoogleFormsなどで回答する。
	オンデマンドの授業は各回終了後にGoogleformsで授業内容に関するテストを行いそれに対する回答をもって出席とする。 ※友人による代行など架空もしくは不正出席は重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。
	課題のフィードバックは授業内に口頭で行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
智原 栄一			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療における危機的な場面で外国語が母語の人とどのようにして必要不可欠な情報のやり取りをするのかを初歩的な英語を材料に考える。英語の内容は高校まで（主に中学校レベル）のものの復習で基礎を固めるとともに、医療分野の基礎的な専門用語や現代の社会問題を話題にする際に必要な基礎単語の語彙を増やし将来外国人スタッフとコミュニケーションするための準備を行う。同時に英文の段落の構成などの基本を知りある程度の説明的な英文を読み取る能力を養う。
授業計画	<p>第1回 現場で使えるようになるには英語とどう取りまわすのか 外国人とのコミュニケーションツールとして英語をどのように学習すべきかについてのアイデアを理解し、自分に適した方法を考える。外国語としての英語の特徴を知り日本語と他の言語との比較を理解することができる。中学校程度の英語の基礎文法の確認。</p> <p>第2回 英語になじむためのヒントを見つける 英語の略号やカタカナ語になった英語 有名な歌詞などを例に出し、どのようにして自分の好きなジャンルと英語を結びつけていくかを考えてみる。NATO phonetic code から英語の音になじむ。日常の中にある英語由来の言葉に気づく。</p> <p>第3回 確認テスト#1 NATO phonetic code、日本語として使うカタカナ英語。中学校基礎文法#1 などが出題範囲。 試験後解説を行う。</p> <p>第4回 身体と生理的な状態を英語で説明する。基本的な動詞 (look, help) 頭からつま先まで英語で自分の身体部位を表現できる。快不快や楽しい悲しいなど基本的な精神状態が英語で説明できる。基本的な動詞 (look, help)について基本例文と共に理解する。</p> <p>第5回 外傷部位と病的な状態を英語で説明する。基本的な動詞 (let, make) 怪我に関する英語表現や身体症状を表す基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞 (let, make)について基本例文と共に理解する。</p> <p>第6回 家族や社会的状態を英語で説明する。基本的な動詞 (compare, excite) 患者の家族状況や社会的状況を表現する基本的な英語表現を学習する。基本的な動詞 (compare, excite)について基本例文と共に理解する。</p> <p>第7回 確認テスト#2 第4回から第6回の内容に沿って身体部位や状態を英語で表現できるか、基本的な動詞が適切に使えるかなどについて試験する。試験後解説を行う。</p> <p>第8回 Introduction to Medical English Chapter # 1 Circulatory system Explain how the blood goes around your body? Why the heart is so important? What is the pulmonary circulation?</p> <p>第9回 Introduction to Medical English Chapter # 2 Nervous System Explain the difference of central nervous system and perioheral nervous system. How the brain control our body? What is the role of peripheral nervous system?</p> <p>第10回 Introduction to Medical English Chapter # 3 Respiratory System How do you breathe? How the oxgen is taken into the body? Explain the anatomical structure of breathing both in macroscopic and microscopic aspects.</p> <p>第11回 Introduction to Medical English Chapter # 4 Digestive System Why eating and drinking is important for us? How the food turn into the nutrients? Explain some disorders of the digestive system.</p> <p>第12回 確認テスト#3 第8回から第11回の内容についての基本的な人体の整理・解剖構造が英語で理解できているかを試験する。試験後解説を行う。</p> <p>第13回 英文読解に挑む (paragrahをまるごと理解する) 知らない単語があっても文脈(context) から重要性や同じ意味の表現をみつけ推測しながら全体を理解する方法を理解する。英語の医学関係教科書に触れる。</p> <p>第14回 My (exciting) days in the hospital レポート作成 自分が怪我をして、救急車で運ばれ、入院し検査・治療・手術(全身麻酔)をうけ退院するまでの1週間を英文日記にしてみる。</p> <p>第15回 最終確認テスト#4 第1回から第14回までの内容全体を含むテストを行い。試験後解説を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義予定に従い予習を行う。GoogleClassroom に上げた課題を自分で解いてみる(40分) 前回講義の内容を復習し、与えられた英文テキストや授業に用いた教科書の単元を数回音読し、1回以上書写する(40分)。
教科書	必要な授業資料は 適宜GoogleClassroomにあげるのので、事前に自分で確認すること。
参考書	やさしい医学英語 Introduction to medical English 青野淳子 編 医学書院 中学高校時に使用した英語文法の教科書、英和・和英辞書

成績評価	授業内に行う複数回の確認テスト(各20%x3)。第15回目に行う最後の確認テストの成績が最も重視される(40%)。
担当教員の基本情報	担当教員名：智原 栄一（ちはら えいいち）英語検定1級 通訳技能検定2級 海外医学部在籍経験あり。 研究室：6号館 2F メールアドレス：e_chihara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日16:30-17:30
備考	diploma policy ⑤◎ ②○ ③○ 科目ナンバー：HE-3-LI3-ES-S-0
	アクティブラーニング：授業内で出された課題に対して都度出題されるGoogleFormsなどで回答する。
	※架空もしくは不正出席は重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。
	課題のフィードバックは授業内に口頭で行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
諫山 憲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：45時間	授業形態：実習/ブレンディッド	
添付ファイル			

授業目標	超高齢社会を迎えている我が国において、高齢者の対応や身体的機能などを学習することが重要である。高齢者に関する医療・救急対応を学び、介護職員がどのように高齢者と接しているかについて、体験等を通じて、高齢者に関する救急事案を含めた医療介護福祉職として高齢者への対応力を養うことを目標とする。グループワーク（報告）や演習により学習を深める。		
授業計画	第1-2回	○授業ガイダンスとシラバスの確認 ○授業方針と概要 【授業概要】 ・オリエンテーション ・シラバス内容の説明 ・介護実習の授業方針・概要の説明を行う。 【到達目標】 ・介護実習の目的が説明できる。 ・介護実習の必要性が説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：シラバスをよく読み、授業目的、授業内容、到達目標、授業形態などを確認する。 参考書・インターネット等を活用し、介護と各回のキーワードについて調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。	
	第3-4回	○高齢者疑似体験・介護に必要な手技実習 【授業概要】 ・高齢者の疑似体験を通じ、介護に必要な手技について説明する。 【到達目標】 ・車いすへの移乗・ベッド上の体位変換が実施できる。 ・高齢者の身体変化を実感し、成人との比較ができる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、車いすへの移乗、体位変換、高齢者の身体変化を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。	
	第5-6回	○高齢者医療の現状 【授業概要】 ・高齢者医療の現状について説明する。 【到達目標】 ・我が国における高齢者医療の現状について理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、高齢者医療の現状を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。	
	第7-8回	○社会における高齢者の現状と課題 【授業概要】 ・超高齢社会における高齢者介護の現状と課題について説明する。 ・動画等、視覚的な資料から高齢者介護についてレポートにまとめる。 【到達目標】 ・超高齢社会における高齢者介護の現状と課題を理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、高齢者介護の現状と課題を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。	
	第9-12回	○グループ学習（高齢者介護と救急医療の現状と課題について） 【授業概要】 ・高齢者介護に関する救急医療の現状と課題について説明する。 【到達目標】 ・高齢者介護と救急医療の現状と課題について理解し、グループで討論し説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有；グループワークを行う。 予習：参考書・インターネット等を活用し、高齢者救急医療について調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。	
	第13-16回	○グループ学習 KP（紙芝居プレゼンテーション）法 【授業概要】 ・グループ討論により高齢者医療と救急医療の理解を深める。KP法によるプレゼンテーション 【到達目標】 ・KP法について理解する。 ・グループ討論により高齢者医療と救急医療の理解を深め、プレゼンテーションができる。 【授業形態】：アクティブラーニング有；グループワークを行う。 予習：参考書・インターネット等を活用し、KP法を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。	
	第17-19回	○グループ発表 【授業概要】 ・各グループで選定したテーマに沿って、グループ発表を行う。 【到達目標】 ・各グループの発表から高齢者と救急医療の関係性について理解し、説明できる。	

	<p>・グループで調べた内容をプレゼンテーションできる。 【授業形態】：アクティブラーニング有：プレゼンテーション 予習：各グループでプレゼンテーションの練習、発表精度をあげる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。 ○口頭発表（介護と救急、高齢者介護と救急救命士）</p> <p>【授業概要】 ・これまでの授業を通じて学んだ内容を口頭発表する。 【到達目標】 ・これまでの講義・体験・グループ学習を通じて気づき学んだことについて、他者に伝達（プレゼンテーション）できる。 ・学びの共有から理解を深める。 【授業形態】：アクティブラーニング有：口頭発表 予習：実習を通して気づき学んだことを整理しておく。 復習：講義で学習した内容をまとめる。 ○まとめ・ディスカッション</p> <p>【到達目標】 ・これまでの講義で学んだことについてまとめ、さらに学んだ内容についてディスカッションを行い、理解を深める。 【授業形態】：アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 予習：これまで学んだことを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる（レポート作成）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：授業で提示された課題について自身で調べ、考察する。（30分） 復習：授業で学習した内容についてレポートにまとめる。（30分）
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はしない ・適宜配布
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実技演習：20% ・実習レポート：20% ・授業内での質疑応答：10% ・グループ討論（授業中の発言・発表内容）・口頭発表：20% ・課題の提出状況：10% ・授業参加姿勢（受講態度、授業内での発言の積極性）：20% <p>授業への出席と積極的な授業参加姿勢およびレポート内容を中心に、授業中の発言・発表内容、課題提出などを加味して総合的に評価する。</p> <p>・期末試験の受験要件は、全講義コマ数4/5(80%)以上の出席が必須条件となる。</p>
担当教員の基本情報	担当教員名：諫山憲司 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-2、○-3 科目ナンバー：「HE-3-ME5-RS-P-1」
	Google Classroomを活用した（講義・演習）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
諫山 憲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習/ブレンディッド	
添付ファイル			

授業目標	<p>心身のヘルスケアは、日常だけでなく災害時・後の地域復興過程においても重要である。災害時の臨床的な心身ケアを学ぶ前に、そもそもの地球に住まう“いち種”（ヒト）として、「生態系や地球環境」と「ヒト」との関係性から災害対策、災害医療や統合医療を考察し、スピリチュアルな災害支援との関連性を深める。援助者（災害救援者）の燃え尽き症候群（バーンアウト）など現代社会の課題を踏まえつつ、被災者だけでなく災害救援者の心身ケアについても理解し、予防的また事後にも対応できる基本的なケアを学び、身に着けることを目標とする。</p> <p>具体的には、SDGs、Eco-DRR、SFA、ICF、災害リスクコミュニケーション、消防チャプレン、惨事ストレス、海外事例、量子力学など、心身のケアに関わるテーマについて、幅広い観点から学習する。前半では、国内外の災害に関する重要なフレームワークや災害時・後の心身ケアを学び、後半は各自が考える災害時心身ケアについて口頭発表を通じて他者に伝え共有する。全体での議論を通じ、授業内容の理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ○授業ガイダンスとシラバスの確認 ○授業方針と概要 【授業概要】 ・オリエンテーション ・シラバス内容の説明 ・災害時心身ケアの授業方針・概要の説明を行う。 【到達目標】 ・災害時心身ケアの目的が説明できる。 ・災害時心身ケアの必要性が説明できる。 ・災害時心身ケアの方法について、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：シラバスをよく読み、授業目的、授業内容、到達目標、授業形態などを確認する。 参考書・インターネット等を活用し、災害時における心身のケア、各回のキーワードについて調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第2回 ○SDGs（Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標）と災害対策 【授業概要】 ・SDGsと災害対策について説明する。 【到達目標】 ・SDGsと災害対策について理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、SDGsと災害対策を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第3回 ○Eco-DRR(Ecosystem-based disaster risk reduction; 生態系を活用した防災・減災) 【授業概要】 ・Eco-DRRについて説明する。 【到達目標】 ・Eco-DRRについて理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、Eco-DRRを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第4回 ○SFA(The Sendai Framework for Disaster Risk Reduction; 仙台防災枠組2015-2030)とICF（国際生活機能分類） 【授業概要】 ・SFA、ICFについて説明する。 【到達目標】 ・SFA、ICFについて理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、SFA、ICFを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第5回 ○海外災害対策事例①（キューバ・コスタリカ） 【授業概要】 ・海外災害対策事例①について説明する。 【到達目標】 ・海外災害対策事例①について理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、海外災害対策①を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第6回 ○海外災害対策事例②（イスラエル/アルメニア共和国） 【授業概要】 ・海外災害対策事例②について説明する。 【到達目標】 ・海外災害対策事例②について理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、海外災害対策②を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p>

第7回	○海外災害対策事例③（アジア：カンボジア・ラオス・ベトナム） 【授業概要】 ・海外災害対策事例③について説明する。 【到達目標】 ・海外災害対策事例③について理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、海外災害対策③を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第8回	○災害リスクコミュニケーション 【授業概要】 ・災害リスクコミュニケーションについて説明する。 【到達目標】 ・災害リスクコミュニケーションについて理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、災害リスクコミュニケーションを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第9回	○災害時・後ストレス 【授業概要】 ・災害時・後ストレスについて説明する。 【到達目標】 ・災害時・後ストレスについて理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、災害時・後ストレスを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第10回	○惨事ストレス 【授業概要】 ・惨事ストレスについて説明する。 【到達目標】 ・惨事ストレスについて理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、惨事ストレスを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第11回	○消防チャブレン 【授業概要】 ・消防チャブレンについて説明する。 【到達目標】 ・消防チャブレンについて理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、消防チャブレンを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第12回	○量子力学（バイオフィトン）とストレス 【授業概要】 ・バイオフィトン（生体微弱発光）とストレスについて説明する。 【到達目標】 ・バイオフィトンとストレスについて理解し、説明できる。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、バイオフィトンを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第13回	○口頭/グループ発表① 【授業概要】 ・口頭/グループ発表について説明する。 【到達目標】 ・これまでの授業を通じ各自が考える災害時心身ケアについて発表する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、これまで学んだことを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第14回	○口頭/グループ発表② 【授業概要】 ・口頭/グループ発表について説明する。 【到達目標】 ・これまでの授業を通じ各自が考える災害時心身ケアについて発表する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、これまで学んだことを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。
第15回	○まとめ・ディスカッション 【到達目標】 ・これまでの講義で学んだことについてまとめ、さらに学んだ内容についてディスカッションを行い、理解を深める。 【授業形態】：アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 予習：参考書・インターネット等を活用し、これまで学んだことを調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる（レポート作成）。
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：授業で提示された課題について自身で調べ、考察する。（120分） 復習：授業で学習した内容についてレポートにまとめる。（120分）
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	・一ノ瀬 友博「生態系減災 Eco-DRR:自然を賢く活かした防災・減災」慶應義塾大学出版会（2021/1/23） ・「市民のための 仙台防災枠組 2015-2030」（PDF） https://sendai-resilience.jp/media/pdf/sfdr_2.pdf ・伊藤美登里「ウルリッヒ・ベックの社会理論：リスク社会を生きるということ」勁草書房（2017/7/8）

	<ul style="list-style-type: none"> ・松井 豊「惨事ストレスとは何か: 救援者の心を守るために」河出書房新社 (2019/10/12) ・適宜配布
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー : 40% ・授業内での質疑応答 : 10% ・議論 (授業中の発言・発表内容) : 10% ・課題の提出状況 : 20% ・授業参加姿勢 (受講態度、授業内での発言の積極性) : 20% <p>授業への出席と積極的な授業参加姿勢およびリアクションペーパーの内容を中心に、授業中の発言・発表内容、課題提出などを加味して総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 諫山憲司 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	諫山憲司: 消防官としての実務経験に基づき授業を行う。
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-3、○-4、○-5</p> <p>科目ナンバー : 「HE-3-ME7-RS-S-0」</p>
	Google Classroomを活用した (講義・演習)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
坪倉 寛明			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士が関与できる医療を含む社会課題の範囲が今後拡大することを視野に、病院医療の仕組みを知り様々な職種がどのように関わっているのかを知る。医療をめぐる様々な課題を考える際の多様な視点に気づき自分の考えを他人にうまく伝えたり意見の異なる人とのように議論するのかをテーマに沿ったグループディスカッションとプレゼンテーションを通して訓練する。		
授業計画	第1講	オリエンテーション 現代医療において病院が果たす社会的役割を理解し、どのような職種が連携して多様な医療サービスの提供を行っているのかについて俯瞰的な解説を行い。次回以降の演習の狙いと進め方についても説明を行う。 [授業形態] アクティブラーニング無し。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第2講	グループ割・救急救命士は病院でなにができる？法的根拠 [到達目標] 病院内においての、救急救命士の処置範囲と法的根拠を理解する。 [備考] 講義の後、現行法上の問題点等について、ディスカッションを行う。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第3講	病院事務処理の流れ [到達目標] 演習の進め方を理解する。一般的な病院における受付から検査・診療 入退院の事務手続きの流れが説明できる。保険診療とは何かが説明できる。 [備考] 病院事務担当者から事務手続きの流れや保険診療とは何かの説明を受けた後、グループディスカッション。与えられた医療行政に関するテーマからグループごとに課題を選択。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第4講	テーマごとグループディスカッションとプレゼンテーション#3 [到達目標] グループごとに取り上げた医療行政関連のテーマについて簡潔に説明できる。 [備考] テーマの現状と問題点、話し合った解決策などをグループごとに代表者が発表する。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第5講	臨床検査部の役割 [到達目標] 臨床検査部の役割や輸血業務における赤十字血液センターとの業務について説明できる。 [備考] 病院臨床検査部担当者から臨床検査部の業務内容を輸血業務も含めて説明を受けた後、グループディスカッション。与えられた検査関連テーマからグループごとに課題を選択。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第6講	テーマごとグループディスカッションとプレゼンテーション#5 [到達目標] グループごとに取り上げた臨床検査関連のテーマについて簡潔に説明できる。 [備考] テーマの現状と問題点、話し合った解決策などをグループごとに代表者が発表する。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第7講	放射線科の役割 [到達目標] 放射線科の役割と、各種検査における安全管理の内容。日常と医療における放射線被ばくの内容や安全性について理解する。 [備考] 放射線科担当者から病院における放射線検査の内容や必要性。放射線の安全性を理解するために必要な基礎知識の説明を受けた後 グループディスカッション。与えられた放射線関連テーマからグループごとに課題を選択。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第8講	テーマごとグループディスカッションとプレゼンテーション#7 [到達目標] グループごとに取り上げた臨床検査関連のテーマについて簡潔に説明できる。 [備考] テーマの現状と問題点、話し合った解決策などをグループごとに代表者が発表する。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)	
	第9講	薬剤部の役割	

	<p>[到達目標]薬剤部の業務内容と薬剤における安全管理や副作用被害救済制度の内容や薬物乱用の弊害などについて理解する。 [備考]薬剤部担当者から薬剤管理システムや運用安全対策・服薬指導などについての説明を受けた後、グループディスカッション。与えられた薬剤管理関連テーマからグループごとに課題を選択。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)</p> <p>第10講 テーマごとグループディスカッションとプレゼンテーション#9 [到達目標] グループごとに取り上げた臨床検査関連のテーマについて簡潔に説明できる。 [備考]テーマの現状と問題点、話し合った解決策などをグループごとに代表者が発表する。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)</p> <p>第11講 リハビリテーション部の役割 [到達目標]リハビリテーション部の業務内容、理学療法と作業療法の違い、早期リハビリ介入の意義などについて説明できる。 [備考]リハビリテーション担当者からリハビリテーション部の業務内容、理学療法と作業療法の違い、早期リハビリ介入や在宅リハビリなどについて説明を受けた後、グループディスカッション。与えられたリハビリテーション関連テーマからグループごとに課題を選択。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)</p> <p>第12講 テーマごとグループディスカッションとプレゼンテーション#11 [到達目標] グループごとに取り上げた臨床検査関連のテーマについて簡潔に説明できる。 [備考]テーマの現状と問題点、話し合った解決策などをグループごとに代表者が発表する。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)</p> <p>第13講 看護部の役割 [到達目標]外来・病棟などにおける看護業務の内容と夜間を含めたシフト勤務について説明できる。看護業務などにおける患者拘束の内容と必要性を理解する。 [備考]看護担当者から外来・病棟での看護業務内容や看護診断とは何か・患者拘束はどんな場合に必要かなどについて説明を受けた後、グループディスカッション。与えられた看護関連テーマからグループごとに課題を選択。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)</p> <p>第14講 テーマごとグループディスカッションとプレゼンテーション#13 [到達目標] グループごとに取り上げた臨床検査関連のテーマについて簡潔に説明できる。 [備考]テーマの現状と問題点、話し合った解決策などをグループごとに代表者が発表する。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)</p> <p>第15講 全体の総括と未来のあるべき医療像 [到達目標]現状の様々な課題を踏まえて来るべき医療のあるべき形を議論できる。 [備考]全体総括の後、未来の医療像についてグループディスカッションを行う。 [授業形態] アクティブラーニングあり。 [予習] 参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分) [復習] 各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	参考書などの該当箇所をあらかじめ読み、基本的な知識を得ておく (120分程度)。各講義の後対応する箇所を参考書などで確認し知識を確実なものにする。(120分程度) グループごとに選定したテーマについて文献などを調査し課題の理解に努める。(1.5時間程度)
教科書	イラスト図解 そこが知りたい 病院・医療のしくみ (木村憲洋 著、毎日新聞出版、2021)
参考書	特になし
成績評価	第15講を除く奇数講は個人ごとのレポート(7回)。偶数講及び第15講はグループごとのテーマについてのプレゼンテーションのまとめをグループごとに提出。プレゼンテーション担当者(計8回)は回り持ちで担当し、時間内のプレゼンテーションも評価対象とする。レポート評価60%・プレゼンテーション評価40% 評価対象者は、全講義コマ数3/5以上とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 智原栄一、坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の2限目及び4限目
備考	DPとの関連性◎-2 ○-4 ○-5 科目ナンバー: HE-3-MM8-ES-S-0
	課題等に対し、フィードバックが必要な場合は次回の講義時に行う。
	坪倉寛明: 消防官として現場経験37年、内救急救命士歴21年とJPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験及び知識をもとに講義、実技を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
守岡 大吾			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	Google Classroomを活用する。
添付ファイル			

授業目標	<p>症候学とは症候を研究する臨床医学の一分野であり、救急症候学では救急医療に関係の深い症候について学修する。 本授業の目標は以下の通りである。</p> <p>①傷病者情報と症候から鑑別診断と臨床推論を交え、疾患の予測と区別することができる。 ②症候から推測される疾患や所見を理解し、病態について説明することができる。 ③傷病者情報を元に緊急度・重症度を判断して、根拠を説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/体温上昇の鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】</p> <p>①体温上昇の定義を説明できる。 ②体温上昇の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③体温上昇の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い体温上昇について説明できる。 ④体温上昇の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>第2回 体温上昇の鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】</p> <p>①体温上昇の定義を説明できる。 ②体温上昇の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③体温上昇の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い体温上昇について説明できる。 ④体温上昇の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>第3回 頭痛の鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】</p> <p>①頭痛の定義を説明できる。 ②頭痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③頭痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い頭痛について説明できる。 ④頭痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>第4回 頭痛の鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】</p> <p>①頭痛の定義を説明できる。 ②頭痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③頭痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い頭痛について説明できる。 ④頭痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p>

第5回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>運動麻痺の鑑別と疾患</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①運動麻痺の定義を説明できる。 ②運動麻痺の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③運動麻痺の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い運動麻痺について説明できる。 ④運動麻痺の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p>
第6回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>一過性意識消失と失神の鑑別と疾患</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一過性意識消失と失神の定義を説明できる。 ②一過性意識消失と失神の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③一過性意識消失と失神の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い一過性意識消失と失神について説明できる。 ④一過性意識消失と失神の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p>
第7回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>めまいの鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①めまいの定義を説明できる。 ②めまいの原因となる代表的疾患について説明できる。 ③めまいの随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高いめまいについて説明できる。 ④めまいの傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p>
第8回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>めまいの鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①めまいの定義を説明できる。 ②めまいの原因となる代表的疾患について説明できる。 ③めまいの随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高いめまいについて説明できる。 ④めまいの傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p>
第9回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>痙攣の鑑別と疾患</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①痙攣の定義を説明できる。 ②痙攣の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③痙攣の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い痙攣について説明できる。 ④痙攣の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p>
第10回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>意識障害の鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①意識障害の定義を説明できる。 ②意識障害の原因となる代表的疾患について説明できる。

	<p>③意識障害の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い意識障害について説明できる。 ④意識障害の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 意識障害の鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】 ①意識障害の定義を説明できる。 ②意識障害の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③意識障害の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い意識障害について説明できる。 ④意識障害の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p>
第11回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 意識障害の鑑別と疾患③</p> <p>【到達目標】 ①意識障害の定義を説明できる。 ②意識障害の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③意識障害の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い意識障害について説明できる。 ④意識障害の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p>
第12回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 国家試験問題演習①</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p>
第13回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 国家試験問題演習②</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p>
第14回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 国家試験問題演習③/記述試験</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p>
第15回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読すること(所要時間120分) 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること(所要時間120分)
教科書	改訂第救急救命士標準テキスト第10版（へるす出版） PEMECガイドブック2023（へるす出版）
参考書	特記事項なし
成績評価	提出物をすべての提出していることを成績評価の前提とする。 ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。 最終評価：記述試験70%、小テスト20%、課題評価10%
担当教員の基本情報	担当教員名：守岡大吾 研究室：6号館2階助教室 オフィスアワー：授業終了後1時間 メールアドレス:d_morioka@meiji-u.ac.jp
備考	医療機関での臨床経験に基づいて授業を行う。
	事前学習課題について、授業内にて内容をフィードバックする。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3 科目ナンバー：HE-3-MM12-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
矢部 真弓			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義(ブレンディッド型)	
添付ファイル			

授業目標	①PEMECのアルゴリズムを理解する。 ②臨床推論シート、関連図を作成し現場傷病者および国家試験症例問題（C・D問題）に対応できる基礎知識の習得を行う。			
授業計画	第1講	オリエンテーション、PEMECについて 【到達目標】 PEMECの活動について理解する。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 (予習) 改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習) 授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。	第2講	臨床推論、関連図、疾患見取図(マインドマップ)・腹痛 【到達目標】 臨床推論を交えながら系統立てて考えたことを関連図や見取図として表記できる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 (予習) 改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習) 授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
	第3講	胸痛・動悸 【到達目標】 胸痛・動悸に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 (予習) 改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習) 授業で作成したを完成臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。	第4講	呼吸困難 【到達目標】 呼吸困難に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 (予習) 改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習) 授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
	第5講	腰背部痛 【到達目標】 腰背部痛に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 (予習) 改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習) 授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。	第6講	高齢者・在宅医療 【到達目標】 高齢者・在宅療法に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 (予習) 改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習) 授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
	第7講	婦人科疾患 【到達目標】 婦人科疾患に関連するケースシナリオを通して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 (予習) 改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。		

	(復習) 授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第8講	頭痛・運動麻痺・めまい 【到達目標】頭痛・運動麻痺・めまいに関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第9講	外傷のある内因性 【到達目標】外傷のある内因性に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】アクティブラーニングあり 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第10講	血糖異常 【到達目標】血糖異常に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第11講	意識障害 【到達目標】意識障害に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第12講	一過性意識消失・失神 【到達目標】一過性意識消失・失神に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第13講	環境障害 【到達目標】環境障害に関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第14講	ICLS・ACLS 【到達目標】ICLS・ACLSに関して現場活動を臨床推論を交えながら系統立てて考えることができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。 【授業形態】アクティブラーニングあり ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)授業で作成した臨床推論シートもしくは関連図(見取図)を完成させること。
第15講	まとめ・定期試験 【到達目標】第1～第14講の内容についてのまとめおよび期末筆記試験を行う。 【備考】(予習)改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。
授業時間外の学習(準備学習等)について	(予習)授業計画に記載した授業のテーマに沿って、改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを事前に読み理解する。(120分) (復習)講義中に作成した臨床推論シート・関連図を完成させ提出。(120分)
教科書	『改定第10版救急救命士標準テキスト』監修 厚生省救急救命士教育研究会(へるす出版)
参考書	PEMECガイドブック2023(へるす出版)、PCECガイドブック2016(へるす出版) エビデンスに基づく(脳・消化器・循環器・呼吸器)看護ケア関連図(中央法規) 関連図と検査で理解する、疾患・病態・生理パーフェクトガイド(総合医学社) 病気の見取図(照林社) マインドマップでつながる!わかる!(Gakken) エマージェンシー臨床推論(日経メディカル) 救急脳のつくり方(東京法令出版)
成績評価	本講義における全コマ数3/5以上の出席と欠席レポートの全提出をお願いします。 評価割合:復習(臨床推論シート又は関連図)30%、期末試験70%、 ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試

	験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 矢部 真弓 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : m_yabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	提出レポート : 提出されたレポートに関しては、評価と必要に応じてコメントを記載し返却する。 矢部 真弓 : 医療機関での臨床経験に基づいて講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3 科目ナンバー HE-3-MM13-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
坪倉 浩美、岩本 美由紀、小西 奈美			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義・グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	母性・小児・精神領域での救急に関する基礎知識を学び、救急搬送要請等での必要な対応ができる。各領域での救急搬送される疾患についての知識を深める。 講義はオムニバスで行う		
授業計画	4/17 第1回目	妊娠期の身体的特性 担当教員：坪倉浩美	
		授業目標 胎児の発育とその生理が理解できる 母体の生理的变化が理解できる	
		授業形態 講義形式 コミュニケーションカードを使用	
	4/24 第2回目	分娩の経過 担当教員：坪倉浩美	
		授業目標 分娩の進行と産婦の身体的変化が理解できる 分娩が胎児に及ぼす影響が理解できる	
		授業形態 講義形式 DVD視聴 コミュニケーションカードを使用	
	5/8 第3回目	分娩介助方法 演習 担当教員：坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ	
		授業目標 分娩介助方法が理解できる。	
		授業形態 講義形式 DVD視聴 デモンストレーション コミュニケーションカードを使用	
	5/15 第4回目	産褥経過と新生児の生理 担当教員：坪倉浩美	
		授業目標 産褥期の身体的変化が理解できる 新生児の生理が理解できる	
		授業形態 講義形式 コミュニケーションカードを使用	
	5/22 第5回目	出産直後の新生児ケア 担当教員：坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ	
		授業目標 出生直後に必要な新生児のケアが理解できる	
		授業形態 講義形式 DVD視聴 コミュニケーションカードを使用	
	5/30 第6回目	精神保健の考え方 担当教員：小西奈美	
		授業目標 精神の健康と障害の3つの側面、精神の健康の基準が理解できる	
		授業形態 講義、DVD視聴、グループワーク、コミュニケーションカードを使用	
	6/6 第7回目	精神障害の捉え方が理解できる 担当教員：小西奈美	
		授業目標 精神障がい者とは、精神保健福祉法による精神障がい者の定義が理解できる	
		授業形態 講義、DVD視聴、グループワーク、コミュニケーションカードを使用	
	6/13 第8回目	救急搬送で出会う精神障がい者の疾患と治療 担当教員：小西奈美	
		授業目標 主な精神疾患の症状と治療について理解することができる。	
		授業形態 講義、DVD視聴、グループワーク、コミュニケーションカードを使用	
	6/20 第9回目	救急搬送で出会う精神障がい者とのかかわり方 担当教員：小西奈美	
		授業目標 精神障がい者とのかかわり方について理解することができる。	
		授業形態 講義、DVD視聴、グループワーク、コミュニケーションカードを使用	
	6/27 第10回目	精神障がい者の救急搬送の実際 担当教員：戸田一男	

	<p>授業目標 精神障がい者の救急搬送の実際を知ることができる。</p> <p>授業形態 講義、グループワーク、コミュニケーションカードを使用</p> <p>5/9 第11回目 小児の各発達段階に応じた身体的・精神的特徴と小児救急の特徴 担当教員：岩本美由紀</p> <p>授業目標 小児の各発達段階に応じた身体的・精神的特徴がわかる。 小児救急の特徴がわかる。</p> <p>授業形態 講義形式+グループワーク</p> <p>5/16 第12回目 小児救急の代表的な疾患とアセスメント 担当教員：岩本美由紀</p> <p>授業目標 小児救急に多い疾患の特徴がわかる。 小児救急に代表的な疾患の症状やヒストリーから原因疾患が想定できる。</p> <p>授業形態 講義形式+グループワーク</p> <p>5/23 第13回目 子どもの死因と事故の特徴 担当教員：岩本美由紀</p> <p>授業目標 発達段階別の事故の特徴を述べるができる 熱傷・溺水・誤嚥・誤飲・中毒などの応急処置の方法を知っている</p> <p>授業形態 講義+グループワーク+小テストと解説</p> <p>5/29 第14回目 小児の各発達段階に応じたコミュニケーションとアセスメント 担当教員：岩本美由紀</p> <p>授業目標 小児の発達段階に応じたコミュニケーション方法がわかる。 小児の各発達段階に応じたアセスメント方法がわかる。</p> <p>授業形態 講義+グループワーク</p> <p>7/4 15回目 試験</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義予定の内容を確認して関連部分の学習を30分程度予習して授業に臨むこと。講義後は、授業内容の復習をして内容を理解する(60分程度)。
教科書	指定しないが、救急の教科書を持参
参考書	適宜紹介
成績評価	<p>試験</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から30分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から70分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前に連絡をください)</p> <p>岩本美由紀 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : m_iwamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前に連絡をください)</p> <p>小西 奈美 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : n_konishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前に連絡をください)</p>
備考	<p>臨床での実務経験をもとに「疾病救急医学Ⅲ」について授業を進める。</p> <p>坪倉浩美：総合病院に助産師として勤務 岩本美由紀：総合病院に看護師として勤務 小西奈美：</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3
	科目ナンバー：HE-0-MM16-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
武内 勇人、梅田 雅宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	疾病救急医学分野から、神経系疾患の病態と症候について理解する。 神経系疾患の傷病者に対する適切な観察、観察した症状・所見から原因疾患の鑑別と必要な処置の判断をできるようにする。
授業計画	<p>第1講 神経系疾患①神経系の機能解剖（武内） 【到達目標】 神経系の機能解剖について理解する。神経細胞の仕組みと働きについて学ぶ。脳の機能局在について説明できるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 77-96を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第2講 神経系疾患②神経症候学（武内） 【到達目標】 神経疾患による症状の出現する機構について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 90、322-326、470-476、488-491を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第3講 神経系疾患③神経症候学、頭痛、てんかん、めまい（武内） 【到達目標】 頭痛、てんかんそれぞれについて、分類、原因、病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・重症度の判定・処置・判断をできるようにする。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 492-510を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第4講 神経系疾患④検査（武内） 【到達目標】 神経系疾患の検査方法について理解して、それぞれの利点、欠点を知り、病態に適した検査方法が選択できるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 212-214を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第5講 神経系疾患⑤脳血管障害（武内） 【到達目標】 脳血管障害(脳卒中)の代表的な疾患として、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血があることを理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断・搬送医療機関の選定をできるようにする。搬送時の注意点についても説明できるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 548-552を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第6講 神経系疾患⑥脳腫瘍、神経外傷（武内） 【到達目標】 脳腫瘍の症状、治療方法を理解する。 神経外傷の病態、症候、治療法および予後について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 556、715-732を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>

第7講	<p>神経系疾患⑦末梢神経障害、変性疾患（武内）</p> <p>【到達目標】 末梢神経障害、変性疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 554-556を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第8講	<p>神経系疾患⑧感染性疾患、認知症（武内）</p> <p>【到達目標】 感染性疾患、認知症の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 各自のスマートフォンを持参すること。</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストのp. 554, 662を熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第9講	<p>画像診断を活用した神経系疾患①（梅田）</p> <p>【到達目標】 画像診断を活用した神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第10講	<p>画像診断を活用した神経系疾患②（梅田）</p> <p>【到達目標】 画像診断を活用した神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第11講	<p>画像診断を活用した神経系疾患③（梅田）</p> <p>【到達目標】 画像診断を活用した神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第12講	<p>画像診断を活用した神経系疾患④（梅田）</p> <p>【到達目標】 画像診断を活用した神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第13講	<p>画像診断を活用した神経系疾患⑤（梅田）</p> <p>【到達目標】 画像診断を活用した神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第14講	<p>画像診断を活用した神経系疾患⑥（梅田）</p> <p>【到達目標】 画像診断を活用した画像診断を活用した神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>
第15講	<p>まとめ/試験</p> <p>【到達目標】 第1講～第14講の内容についての総復習を行い、期末筆記試験で知識習得の確認を行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。</p>

	(復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	【予習】改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 【復習】授業の学んだ内容についてレポートにまとめること。(本授業における時間外学習は、週4時間となります)
教科書	・改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
参考書	・必要に応じて、追加の資料を配布します。
成績評価	小テストおよび期末試験で評価します。 *注意事項 ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 武内 勇人 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : h_takeuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了1時間 担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了1時間
備考	武内 勇人 : 本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。 梅田 雅宏 : 本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-1、○-2、○-3 科目ナンバー : HE-3-MM17-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
山下 歩			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷学における解剖学・生理学から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態の知識を各外傷部位ごとに解説し系統的な理解が出来るようになる。 ・防ぎえた外傷死を減らすための観察・処置・判断について理解し、搬送先の医療機関の選定を具体的に実施できるように外傷学の知識を身につける。 ・熱傷、雷撃症等の特殊な外傷に対する知識を習得し、適切な観察や判断、処置が行えるようにする。
授業計画	<p>第1講 問題演習(疫学と病態生理)</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「防ぎ得た外傷死」「ロードアンドゴー」「トラウマバイパス」について説明できる。 ②高リスク受傷機転の概念と具体例について説明できる。 ③外傷に伴う生体の反応について説明できる。 ④外傷に伴うショックの成因について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p> <p>復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと</p> <p>第2講 問題演習(頭部・顔面・頸部外傷)</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①頭部外傷に特徴的な外力の作用機序と一次性脳損傷と二次性脳損傷について説明できる。 ②頭部外傷の続発症・後遺症について説明できる。 ③顔面・頸部外傷における出血と気道閉塞の原因について説明できる。 ④主な顔面骨折、眼、鼻、耳、口唇・口腔・歯牙、頸部の損傷について説明できる。 ⑤観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ⑥緊急度・重症度の評価について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p> <p>復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと</p> <p>第3講 問題演習(頭部・顔面・頸部外傷②)</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①頭部外傷に特徴的な外力の作用機序と一次性脳損傷と二次性脳損傷について説明できる。 ②頭部外傷の続発症・後遺症について説明できる。 ③顔面・頸部外傷における出血と気道閉塞の原因について説明できる。 ④主な顔面骨折、眼、鼻、耳、口唇・口腔・歯牙、頸部の損傷について説明できる。 ⑤観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ⑥緊急度・重症度の評価について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p> <p>復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと</p> <p>第4講 問題演習(胸部・腹部外傷)</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①胸部外傷と呼吸・循環不全の関連について説明できる。 ②心臓・大血管の主な損傷について説明できる。 ③腹部外傷の出血と消化管損傷の病態について説明できる。 ④実臓器損傷・管腔臓器損傷・血管損傷・後腹膜臓器損傷・腹壁損傷について説明できる。 ⑤観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ⑥緊急度・重症度の評価について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>

第5講	<p>復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと 問題演習(骨盤・四肢外傷)</p> <p>【到達目標】 ①受傷機転と骨盤骨折の形態について説明できる。 ②骨盤骨折に伴う臓器損傷、それに伴う病態について説明できる。 ③骨折の主な合併症と脱臼、筋肉・腱損傷、捻挫、血管・神経損傷の病態について説明できる。 ④各種損傷(切断、コンパートメント症候群、クラッシュ症候群など)について説明できる。 ⑤観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ⑥緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと</p>
第6講	<p>小児・高齢者の外傷</p> <p>【到達目標】 ①小児・高齢者の外傷の病態を理解して、傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される小児・高齢者の外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する</p>
第7講	<p>妊婦の外傷</p> <p>【到達目標】 ①妊婦の外傷の病態を理解して、傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される妊婦の外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと</p>
第8講	<p>熱傷①</p> <p>【到達目標】 ①熱傷の受傷機転と病態について説明できる。 ②「熱傷深度」「熱傷面積」「重症度分類」について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと</p>
第9講	<p>熱傷②</p> <p>【到達目標】 ①熱傷の受傷機転と病態について説明できる。 ②「熱傷深度」「熱傷面積」「重症度分類」について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと</p>
第10講	<p>化学損傷</p> <p>【到達目標】 ①化学損傷の原因となる物質(酸、アルカリ)とそれぞれの病態と症候について説明できる。 ②化学損傷のうち全身状態が悪化しやすいものについて説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>

第11講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと 電撃傷・雷撃傷</p> <p>【到達目標】 ①電撃傷・雷撃傷の病態について説明できる。 ②電撃傷・雷撃傷に対する現場活動上の注意点について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第12講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと 縊頸・絞頸</p> <p>【到達目標】 ①縊頸の定義、病態、症候について説明できる。 ②絞頸と扼頸の定義、病態、症候について説明できる。 ③縊頸・絞頸に対する処置について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第13講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと 刺咬傷</p> <p>【到達目標】 ①哺乳類による主な咬症と病態・合併症について説明できる。 ②各種生物（マムシ、ヘビ、節足動物、海洋生物）による刺咬症について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第14講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと 国家試験問題演習①</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第15講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に問題演習を行うこと 国家試験問題演習②/筆記試験</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：試験で出題された内容について改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読すること（所要時間120分） 復習：授業で学んだ内容を元に問題を解答すること（所要時間120分）
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（全1巻）（へるす出版） 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版）
参考書	なし
成績評価	授業内の記述試験にて60%以上の正答率を満たすことを成績評価の前提の基礎とする。

	<p>期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 架空出席が発覚した場合は、期末試験の受講が無効となり、再試験のみの扱いとなる。</p> <p>最終評価：記述試験80%、小テスト20%、</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：山下 歩 研究室：6号館2階講師室 オフィスアワー：授業終了後1時間</p>
備考	<p>消防署での臨床経験を元に授業を行う。</p>
	<p>事前学習課題について、授業内にて内容をフィードバックする。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3 科目コード：HE-3-MM20-RS-L-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	4	必修
担当教員			
守岡 大吾、上久保 敦、矢部 真弓、福井 建皓			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：実習/ブレンディッド型	Google Classroomを活用する。
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、救急救命士の資格取得を目標とし、基本的な解剖学に基づいた救急処置法を身に付けるとともに、人の命の尊さ、大切さを理解し、救急救命処置要領を習得し、即戦力となる実践型教育を本授業の主眼とする。本科目の目標は以下の通りである。</p> <p>①社会人としての常識や感性を身につけ、医療人としての倫理観と責任感を理解することで、礼儀礼節や規律を重んじた行動を遂行することができる。 ②傷病者の緊急度と重症度の判断を的確に行い、一般的な救急隊活動(外傷・内因性・CPA)や災害対応の要点を理解して実践することができる。 ③シミュレーションを始めとした実践型教育を行う中で、互いの活動を吟味して評価することができる。</p>
授業計画	<p>第1-4講 オリエンテーション/PEMECについて</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> PEMECの活動の概念について理解をする。 内因性ロード&ゴーの概念について理解する。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り(質疑応答、隊活動のフィードバック)</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》PEMECガイドブックを熟読する。 《復習》授業で行った想定訓練に関連するページを熟読する。</p> <p>第5-8講 腹痛・嘔吐・下痢をきたす疾患の鑑別について</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 腹痛・嘔吐・下痢を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 症候(腹痛・嘔吐・下痢)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 腹痛・嘔吐・下痢を主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック)</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>第9-12講 胸痛・動悸をきたす疾患の鑑別について①</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 胸痛・動悸を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 症候(胸痛・動悸)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 胸痛・動悸を主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック)</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>第13-16講 胸痛・動悸をきたす疾患の鑑別について②</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 胸痛・動悸を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 症候(胸痛・動悸)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 胸痛・動悸を主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック)</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>第17-20講 呼吸困難をきたす疾患の鑑別について</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸困難を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 症候(呼吸困難)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 呼吸困難を主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック)</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p>

第21-22講	<p>《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>スキルチェック①</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学修した疾患について、シナリオトレーニングの中で鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・傷病者の状態から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・傷病者の症候や状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p>
第23-24講	<p>《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>総合想定訓練</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の傷病者に対して適切な鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候や受傷部位などから適切に重症度・緊急度のを判断できる。 ・様々な状況の傷病者に対して状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p>
第25-28講	<p>《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>腰背部痛をきたす疾患の鑑別について/環境障害について</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰背部痛を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候（腰背部痛）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・腰背部痛を主訴とする傷病者や特殊な環境下の傷病者に対して必要な処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p>
第29-32講	<p>《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>ショックをきたす疾患の鑑別について</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショックを呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候（ショック）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・ショックを主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p>
第33-36講	<p>《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>スキルチェック②/総合想定訓練</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学修した疾患について、シナリオトレーニングの中で鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・傷病者の状態から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・傷病者の症候や状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p>
第37-40講	<p>《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>多数傷病者対応/MCLSについて（概論）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数傷病者対応における概要を理解することができる。 ・多数傷病者の中から重症度・緊急度の高い傷病者をトリアージすることができる。 ・適切な手段でトリアージを行い、正確にトリアージタグを記載することができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p>
第41-42講	<p>《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>総合想定訓練</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の傷病者に対して適切な鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候や受傷部位などから適切に重症度・緊急度のを判断できる。 ・様々な状況の傷病者に対して状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>

第43-44講	<p>ク)</p> <p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>総合想定訓練</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の傷病者に対して適切な鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候や受傷部位などから適切に重症度・緊急度を判断できる。 ・様々な状況の傷病者に対して状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第45講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>国家試験問題演習/記述テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験問題演習を通して、鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・国家試験問題演習を通して重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・国家試験問題演習を通して症候や傷病者の状況に合わせた対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第46-49講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>総合想定訓練</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の傷病者に対して適切な鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候や受傷部位などから適切に重症度・緊急度を判断できる。 ・様々な状況の傷病者に対して状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第50-53講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>妊婦・高齢者に特徴的な疾患</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦/高齢者に特徴的な疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・妊婦/高齢者に特徴的な疾患について重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・妊婦/高齢者に対して疾患の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第54-57講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>頭痛・運動麻痺・めまいをきたす疾患の鑑別について</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭痛・運動麻痺・めまいを呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候（頭痛・運動麻痺・めまい）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・頭痛・運動麻痺・めまいを主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第58-61講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>一過性意識消失をきたす疾患の鑑別について/PCECのアルゴリズムについて</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一過性意識消失を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候（一過性意識消失）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・一過性意識消失を主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第62-63講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>スキルチェック③</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学修した疾患について、シナリオトレーニングの中で鑑別診断と臨床推論を行うこ

	<p>とができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷病者の状態から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・傷病者の症候や状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>意識障害・血糖異常をきたす疾患の鑑別について</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識障害・血糖異常を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候（意識障害・血糖異常）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・意識障害・血糖異常を主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第64-67講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>意識障害をきたす疾患の鑑別について（環境障害と中毒を含む）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識障害を呈する疾患について鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候（意識障害）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・意識障害を主訴とする傷病者の状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第68-71講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>スキルチェック④</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学修した疾患について、シナリオトレーニングの中で鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・傷病者の状態から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・傷病者の症候や状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第72-75講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>多数傷病者対応/MCLSについて（各論）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数傷病者対応における活動方針（CSCATTT）を理解し実践することができる。 ・多数傷病者の中から重症度・緊急度の高い傷病者をトリアージすることができる。 ・適切な手段でトリアージを行い、正確にトリアージタグを記載することができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第76-78講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>総合想定訓練 シナリオ作成</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ作成の要点を理解して作成ができる。 ・シナリオ作成を通して、適切な鑑別診断と臨床推論を理解することができる。 ・様々な状況や病態の傷病者に対して、場面に合わせた出題や状況設定ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（シナリオ作成）</p>
第79講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>総合想定訓練</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の傷病者に対して適切な鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候や受傷部位などから適切に重症度・緊急度を判断できる。 ・様々な状況の傷病者に対して状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p>
第80-83講	<p>【備考】 《予習》事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。 《復習》想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p>

	<p>第84-85講 総合想定訓練</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の傷病者に対して適切な鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・症候や受傷部位などから適切に重症度・緊急度のを判断できる。 ・様々な状況の傷病者に対して状況に合わせた処置や対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》 事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p> <p>《復習》 想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>第86講 国家試験問題問題演習/記述テスト</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験問題演習を通して、鑑別診断と臨床推論を行うことができる。 ・国家試験問題演習を通して重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断できる。 ・国家試験問題演習を通して症候や傷病者の状況に合わせた対応ができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》 事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p> <p>《復習》 想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p> <p>第87-90講 救急医療の初期対応について/ACLSの概要</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院内における急変時の初期対応について理解することができる。 ・チームダイナミクスを行い、チーム医療を行うことができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック）</p> <p>【備考】</p> <p>《予習》 事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。</p> <p>《復習》 想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>《予習》 事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間60分）</p> <p>《復習》 想定訓練で使用したシナリオの疾患や鑑別する上でのポイントについて、改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの関連ページを熟読する。（所要時間30分）</p>
<p>教科書</p>	<p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版補訂版JPTECガイドブック PEMECガイドブック2023</p>
<p>参考書</p>	<p>JRC 蘇生ガイドライン2020、標準多数傷病者対応MCLSテキスト、ACLSプロバイダーマニュアル 日本救急医学会ICLS指導者ガイドブック、救急救命士国家試験対策問題集</p>
<p>成績評価</p>	<p>前期及び後期の記述テストを合計60%以上の正答率を満たすこと、提出物をすべての提出していること、すべてのスキルチェックに合格していることを、成績評価の前提とする。</p> <p>最終評価： 知識・理解32%、思考・判断8%、関心・意欲8%、態度12%、技能・表現40%</p> <p>※詳細は別紙ルーブリック評価表に準ずる。 ※無断での欠席・遅刻・早退があった場合や、受講態度・服装等が不適切な場合は成績評価の対象としないことがある。 ※これまで履修した救急処置実習A- I, IIの技能を習得していることを前提とする。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>教員名：守岡 大吾 研究室：6号館2階研究室 e-mail：d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：上久保 敦 研究室：6号館2階研究室 e-mail：a_kamikubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：矢部真弓 研究室：6号館2階研究室 e-mail：m_yabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：福井 建皓 研究室：6号館2階研究室 e-mail：k_fukui@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p>
<p>備考</p>	<p>守岡大吾：医療機関での臨床経験を元に授業を行う。 上久保敦：医療機関での臨床経験を元に授業を行う。 矢部真弓：医療機関での臨床経験を元に授業を行う。 福井建皓：当該領域の大学での教育経験を有する。その経験をもとに講義を行う。</p>
	<p>事前課題の正答について授業冒頭で確認を行う。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-1、○-2 科目ナンバー：HE-3-EM11-RS-P-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	4	必修
担当教員			
上久保 敦、山下 歩、矢部 真弓			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：実習/講義（ブレンド型）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士として必要な傷病者の救命・病状悪化防止に係る処置の実習を効果的に行うために、救命救急センター臨床現場で実際の傷病者に対して、資格取得前研修を実施する。
授業計画	<p>第1～2回 病院実習に対する概要と心構え 病院実習に関する必要事項の伝達 【到達目標】 実習前の目標とやるべき事について整理をして実習に臨むこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学びたいことをレポートにまとめる。</p> <p>第3～4回 医師・看護師、その他医療スタッフの仕事と院内救命士の役割について(チーム医療) 【到達目標】 医師・看護師、その他医療スタッフの仕事と役割について実際に学んだことを復習して理解しておくこと。また院内で重要となる検査に関する知識について理解すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第5～6回 病院における救急患者への接遇要領と観察について 【到達目標】 病院における救急患者への接遇要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。院内の初療室及び病棟における患者に対する観察要領と手技について理解すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第7回 救急患者・家族に対するインフォームドコンセントの重要性と院内での治療について 【到達目標】 救急患者・家族に対するケアとインフォームドコンセントの重要性について経験したことを復習して理解しておくこと。救急患者に対しての院内での治療についての理解を深めること。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第8～90回 病院内における実習 【到達目標】 救急患者に対する観察・処置要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。 【備考】 予習：次回実習にむけて事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことを実習記録にまとめる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	(予習)シラバスに基づき予習を行う(45分) (復習)シラバスに基づき復習を行う(45分)
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 へるす出版
参考書	救急隊員標準テキスト (へるす出版) JPTECガイドブック (へるす出版) PEMECガイドブック (へるす出版)
成績評価	病院実習指導医による評価 (70%) 症例レポート (30%) ※施設および患者へ不利益を与えるもしくはそれに値する指導・指摘を受けた場合は、本実習を中止し再履修とする。 ※架空もしくは不正出席は重大な不正行為であるため発覚した場合は、本実習への参加を中止し再履修とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上久保 敦 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー: 講義終了後1時間 メールアドレス: a_kamikubo@meiji-u.ac.jp

	<p>担当教員名 : 山下 歩 研究室 : 6号館2階 講師室 オフィスアワー : 講義終了後1時間 メールアドレス : a_yamashita@meiji-u. ac. jp</p> <p>担当教員名 : 矢部 真弓 研究室 : 6号館2階 助教室 オフィスアワー : 講義終了後1時間 メールアドレス : m_yabe@meiji-u. ac. jp</p>
備考	<p>上久保 敦 : 消防署及び救命士養成専門学校教員としての経験に基づき授業を行う。 山下 歩 : 消防署及び救命士養成専門学校教員としての経験に基づき授業を行う。 矢部 真弓 : 医療機関職員としての経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5 科目コード : HE-4-EM13-RS-P-1</p>
	<p>アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習 : 実習内容について事前自主学習を行う。 復習 : 実習で学びたいことをレポートにまとめる。 提出されたレポートについて、実習指導者からの評価を記載し返却する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
坪倉 寛明、久保 敦士			
配当学科：救急救命学科	時間数：45時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	救急車同乗実習は、同乗実習による救急活動の見学及び処置の補助をとおり、次の事項を学習することを目的とする。 1) 修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身に着ける。 2) メディカルコントロールの重要性を認識する。 3) 傷病者に対する適切な態度を習得する。 4) 救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。
授業計画	<p>2コマ オリエンテーション・事前講義 「目標」実習にあたっての心得、マナー、学習内容を確実に修得する。 予習：事前に配布した「救急用自動車同乗実習手引」を熟読する。(90分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>2コマ 実習先消防署の概要説明 「目標」実習に不可欠な実習先の消防署の概要を説明できる。 予習：インターネット等を活用し、実習先の消防本部の消防年報等で消防本部の概要を調べる(90分) 復習：調べた内容を再度まとめる。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。各自実習先の消防署の概要を調べる。</p> <p>2コマ 現場接遇要領及び守秘義務について 「目標」現場活動に不可欠な傷病者対応及び守秘義務の重要性を理解する。 予習：救急活動実務ガイドブック p20～23を熟読すると共にインターネット等を活用し、実習先の個人情報保護条例を調べる(90分) 復習：調べた内容を再度確認する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。各自実習先の守秘義務について調べる。</p> <p>4コマ 学内救急車同乗実習 「目標」実際の救急車内での、感染防止、処置、安全管理が適切に実施できる。 予習：これまでのA1、A2及びA3実習の内容を提出したレポート等で確認する。(90分) 復習：教員に指導を受けた事項について整理する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。救急車に同乗する。</p> <p>2コマ 消防指令センター実習 「目標」119番通報の受信要領・口頭指導・他隊との連携等、消防指令センターの役割を理解する。 予習：新改訂救急搬送概論 p37～42及び改訂9版救急救命士標準テキスト p323～327を熟読する。(90分) 復習：疑問点等を整理する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。</p> <p>8コマ 消防署救急車同乗実習 「目標」指令から出場までの対応を初め、緊急走行、現場到着時の安全管理、救急現場での隊員の活動、傷病者、家族関係者との接遇、消防無線の運用、医療機関の選定、医師引継ぎ要領等、実体験をとおり理解する。 予習：新改訂救急処置スキルブック p176～187・316～322を熟読する。(90分) 復習：救急出場記録等を作成し、疑問点を整理する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。救急車に同乗する。</p> <p>2コマ CBRNE災害訓練見学 「目標」特殊災害(CBRNE)の対応を理解し、現場の安全管理知識を深める。 予習：インターネット等でCBRNEについて調べる。また救急救命士テキスト p243～244を熟読する。(90分) 復習：(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。</p> <p>1コマ まとめ 「目標」これまでに体験や学んだことを、実習班ごとにディスカッションし、知識の共有しまとめる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	救急用自動車同乗実習手引を熟読し、教科書、参考書を基に予習、復習を行う。

教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 改訂第5版救急隊員標準テキスト（へるす出版） 救急活動実務ガイドブック（荘道社）
参考書	JPTECガイドブック（へるす出版） PEMECガイドブック2017（へるす出版） 令和3年度消防白書「総務省消防庁」
成績評価	全講義コマ数4/5以上とする。 実習先担当者の評価（70%） レポート評価（30%） ・架空出席が発覚した場合は、実習先及びレポート評価に関わらず60/100点とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：坪倉 寛明 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：実習時に指示する 担当教員名：久保 敦士 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：a_kubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：実習時に指示する
備考	坪倉寛明：消防署で救急救命士歴21年 JPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験をもとに講義、実技を行う。 久保敦士：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。
	DPとの関連性◎-1 ○-3 ○-4 科目ナンバー：HE-4-EM14-RS-P-1
	課題等に対し、フィードバックが必要な場合は次回の講義時に行う。
	科目ナンバー：HE-4-EM14-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	自由選択
担当教員			
原 貴大、村上 龍			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習（座学/遠隔ブレ ンディッド）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士は地域行政に根ざした消防機関で活躍することが多く、ガラパゴス化することが多い。その為救急救命士を目指す学生が、先進的な取り組みを行っている海外の救急医療体制を学ぶことにより、国際的な視野を獲得し、その見識を広めることを本実習の目的とする。
授業計画	<p>第1-3講 渡航前オリエンテーション 【到達目標】海外機関への研修前に必要な知識について理解を深める（現地でのコミュニケーションを図るために必要な英語の学習を含む）。 【授業形態】アクティブラーニング有（ディスカッション等双方向型の授業進行） 【備考】 予習：各自で渡航先の社会情勢や海外渡航での注意点について予習を行う（所要時間：各コマ×60分）。 復習：講義中に浮かんだ疑問について学習する（所要時間：各コマ×60分）。 海外実習先での学習</p> <p>第4-14講 【到達目標】現地における救急医療体制やそれを巻き巻く環境（現地住民の生活状況や社会保障システムを含む）について理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有（ディスカッション等双方向型の授業進行及び現地研修先での実習を伴う活発な授業内容の理解） 【備考】 予習：現地での医療体制や社会保障とそれを巻き巻く環境について、現地滞在中の生活を通して学び、実習時間中の意義のある体験につなげる（所要時間：各コマ×60分）。 復習：実習中に浮かんだ疑問について学習する（所要時間：各コマ×60分）。 ※渡航先についてはオーストラリア、シンガポール、アメリカ合衆国等から社会情勢等を考慮して選定する。</p> <p>第15講 帰国後報告会 【到達目標】渡航先で学んだ事柄（救急医療体制や現地の環境を含む総合的な内容）について報告を行い、学生間での意見の交換を通して実習内容の理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有（ディスカッション等双方向型の授業進行） 【備考】 予習：渡航先で学習した事柄について報告会で報告を実施することができるようにまとめ、発表に先立って準備を行う（所要時間：60分）。 復習：実習中に浮かんだ疑問について学習する（所要時間：60分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	海外における救急医療体制を含む社会保障の仕組みや特徴を理解するためには、まずは、自らが居住する国の制度と枠組みを熟知しておく必要がある。 救急救命士テキスト第10版（へるす出版）：第I編・第1章～第2章をよく読み、本邦の医療体制および社会保障制度の特徴について理解しておくこと（所要時間120分）。
教科書	救急救命士テキスト第10版（へるす出版）
参考書	救急医療におけるメディカルコントロール（へるす出版）
成績評価	全ての講義に出席し、提出物をすべて提出していることを成績評価の前提とする。 報告会による発表(50%)、レポート(50%)にて評価する。

	架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 原 貴大 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後1時間</p> <p>担当教員名 : 村上 龍 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : r_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後1時間</p>
備考	<p>原 貴大 : 救急救命士として、アジア諸国で教育補助を行った経験に基づいて授業を行う。 村上 龍 : 医療機関での臨床経験に基づいて授業を行う。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3
	科目コード HE-9-EM15-ES-P-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
木村 隆彦、諫山 憲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習（ブレンディッド）	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急病態生理学分野、救急症候学分野、疾病救急医学分野、外傷救急医学分野に関して知識を深めることができる。 救急救命士国家試験過去問題を活用し、正答に至る根拠を述べるができる。 これらを修学するために、個人ワーク、グループワークを通して学ぶことができる。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション／救急救命学総合演習Ⅱの在り方 【到達目標】 本授業で目指すことを理解する。 リアクションペーパーの活用法を理解する。 グループワークの進行要領を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること</p> <p>第2講 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害 【到達目標】 ①高齢者疾患について根拠をもって説明できる。 ②在宅医療について理解を深め説明できる。 ③産婦人科疾患について根拠をもって説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること</p> <p>第3講 救急医学概論分野 【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること</p> <p>第4講 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害 【到達目標】 ①PCLSと観察について説明できる。 ②頭痛・運動麻痺・めまいをきたす疾患について理解をし説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること</p> <p>第5講 救急医学概論／救急症候・病態生理学分野 【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること</p> <p>第6講 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害 【到達目標】 ①一過性意識消失・失神・意識障害について理解し説明できる。 ②外傷のある内因性について理解し説明できる。 ③PCECについて説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>

第7講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 救急症候・病態生理学／疾病救急医学分野</p> <p>【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第8講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①血糖異常について理解し説明できる。 ②意識障害について理解し説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第9講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 外傷救急医学／環境障害・急性中毒学分野</p> <p>【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第10講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①意識障害について理解し説明できる。 ②環境障害と中毒について理解し説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第11講	<p>復習：試験の見直しを行うこと 救急医学概論分野</p> <p>【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第12講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 災害救急</p> <p>【到達目標】 ①災害について理解をし説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第13講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 救急医学概論／救急症候・病態生理学分野</p> <p>【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第14講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①心肺停止について理解を深め説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること</p>
第15講	<p>復習：授業で学習した内容をまとめること 救急医学概論／救急症候・病態生理学分野</p> <p>【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>

第16講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①腹痛について理解し根拠をもって説明できる。 ②吐血・下血について理解し根拠をもって説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>
第17講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 疾病救急医学分野</p> <p>【到達目標】 国家試験過去問を解き、正答にたどり着くための考え方を検討する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>
第18講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①胸痛について理解を深め説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>
第19講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること まとめ・中間試験Ⅱ</p> <p>【到達目標】 ①これまで履修した疾病救急医学分野の理解度を確認する。</p> <p>【備考】</p>
第20講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：試験の見直しを行うこと 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①呼吸困難について理解し根拠をもって説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>
第21講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急救命学全般</p> <p>【到達目標】 国家試験を模した問題（C・D問題相当）をグループで作成し、出題者の立場から国家試験を検討する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>
第22講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①腰背部痛について根拠をもち説明できる。 ②電撃・雷撃、縊頸・絞頸について理解し説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>
第23講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急救命学全般</p> <p>【到達目標】 国家試験を模した問題（C・D問題相当）を解き、国家試験問題の特徴を理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド）</p> <p>【備考】</p>
第24講	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①環境障害について理解し説明できる。 ②異物・溺水について説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p>

	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急救命学全般</p> <p>【到達目標】 これまで学んできた問題解答テクニックを整理し、グループでまとめる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害</p> <p>【到達目標】 ①小児質感について説明できる。 本演習では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に実践と解説で進行する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること 救急救命学総合演習Ⅱのまとめ①</p> <p>【到達目標】 問題解答テクニックのグループまとめを発表する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学習した内容をまとめること まとめ（救急病態生理・症候学・疾病救急医学・外傷救急医学・環境障害）</p> <p>【到達目標】 ①これまで履修した外傷救急医学分野の理解度を確認する。</p> <p>【備考】 国家試験問題の学習方法など質疑応答を確認 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：試験の見直しを行うこと 救急救命学総合演習Ⅱのまとめ②</p> <p>【到達目標】 ①これまで履修した救急病態生理学分野、救急症候学分野、疾病救急医学分野、外傷救急医学分野について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（ジグソー法、ケースメゾット）</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：試験の見直しを行うこと まとめ／期末試験</p> <p>【到達目標】 ①これまで履修した救急病態生理学分野、救急症候学分野、疾病救急医学分野、外傷救急医学分野をまとめると共に理解度を確認する。</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：試験の見直しを行うこと</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間30分） 復習：授業内容の見直しを行うこと。（所要時間30分）
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	5訂版 救急資器材管理マニュアル（東京法令出版） 5訂版 救急技術マニュアル（東京法令出版） PEMECガイドブック2025（へるす出版） 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版） JRC蘇生ガイドライン2015（医学書院） PSLSガイドブック2015（へるす出版） PCECガイドブック2016（へるす出版）
成績評価	中間テスト30%、期末テスト50%、態度10%、関心意欲10% 期末試験は60%以上の正答を必須とし、満たない場合は再試験の対象とする。 再試験においても60%に満たない場合は原則として成績評価の対象としない。 期末試験の受験要件は、大学の定めにより全講義数の3/5以上の出席である。 架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：木村隆彦 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業後1時間</p> <p>担当教員名：諫山憲司 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー：授業後1時間
備考	<p>①連絡のない欠席、遅刻、早退や、受講態度、不適切な身だしなみが認められ、教員の指示（指導）に従わない場合は成績評価の対象としないことがある。なお、これらに関する成績評価は授業参加意欲の項とし、学生本人の了承を得て減点することがある。</p> <p>②授業参加意欲は出席日数を評価する。出席は教員が指示した方法で集計する。出欠登録システムの入力とそれ以外の方法を組み合わせて授業参加と判断する場合がある。出欠確認要領についてはオリエンテーションで周知する。</p> <p>③授業中の無断退室は早退として扱う。</p> <p>④授業開始のチャイムが鳴り終わった後の入室は遅刻として扱う。</p>
	授業とディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5
	科目ナンバー HE-3-EM17-RS-S-0
	<p>木村隆彦：国内消防機関、海外防災・救急機関、海外医療系大学、海外医療機関での勤務経験に基づき授業を行う。</p> <p>諫山憲司：消防官としての勤務経験に基づき授業を行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
智原 栄一、宮坂 卓治			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 生活習慣病概論 生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 高血圧 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>3回目 脂質異常症 脂質異常症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>4回目 慢性腎臓病（CKD） 慢性腎臓病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>5回目 糖尿病 糖尿病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>6回目 メタボリック症候群 メタボリック症候群の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>7回目 高尿酸血症および期末試験 高尿酸血症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う） 単位取得にかかる試験を実施する。</p> <p>第8回 全体のまとめ 外傷などの急性疾患との相違点を整理する。生活習慣病のような慢性疾患が急性増悪するケースはどのような場合かを考え救急医療とどのように関係があるかを考える。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指すが無明な点は参考書での復習や教員に質問するように。講義で学修した内容をまとめて下さい（予習120分、復習120分）。
教科書	特に指定の教科書はない。 資料等はGoogle classroomに適宜アップする。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。評価方法（試験100%）。 私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	担当教員 智原 栄一、宮坂 卓治 研究室：6号館2階（智原）、7号館4階（宮坂） メールアドレス： e_chihara@meiji-u.ac.jp（智原）、 t_miyasaka@meiji-u.ac.jp（宮坂） オフィスアワー 火曜日16：30-17：30（智原）、火曜日16：30-17：30（宮坂）
備考	アクティブラーニング：授業内容に即した課題をレポートとして提出させるとともにグループごとに適宜ディスカッションを行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2 科目ナンバー：HE-3-HA2-ES-L-0

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
金川 陽亮、守岡 大吾、上久保 敦			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習/ブレンディッド型	Google Classroomを活用する。
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツ現場における救護活動は、病院前救護活動を行う上で重要な分野であり、救急救命士の活動とは切り離すことができないものである。本授業では、スポーツ救護活動を通して、マスコギャザリング災害への対策及び病院前救護について学修する。本授業の目的は以下の通りである。</p> <p>①病院前救護の医療体制を理解し説明ができる。 ②救護活動を行う医療従事者として、適切な態度で実習を遂行することができる。 ③スポーツボランティアを通して、多職種連携の中でコミュニケーション能力を培い、実践することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション / 病院前救護とは 【授業概要】 オリエンテーション ・シラバスとルーブリックを実習の進め方とともに説明する。 ・病院前救護についての概要を説明する。 【到達目標】 ①スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護活動の概要を理解できる。 ②スポーツ大会でのボランティア活動を通して、マスコギャザリングの概念を理解できる。 ③スポーツボランティアにおける病院前救護のシステム構築について議論ができる。 【授業形態】 ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：指定教科書の該当ページを熟読すること 復習：触れた内容について、教科書を読み直し内容を箇条書き等で整理、疑問点をまとめておくこと</p> <p>第2回 大会の整備指針と救護医療体制構築 / 大規模イベントのリスク 【授業概要】 ・救護医療体制に求められる役割とその内容について説明する。 ・大規模イベントにおける救急患者の増加と集団災害発生のリスクについて説明する。 【到達目標】 ①スポーツボランティアにおける救護医療体制に求められる役割とその内容についての概要を理解できる。 ②スポーツボランティアにおける大規模イベントでのリスクについて理解できる。 ③スポーツボランティアにおける病院前救護のシステム構築について議論ができる。 【授業形態】アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：指定教科書の該当ページを熟読すること 復習：触れた内容について、教科書を読み直し内容を箇条書き等で整理、疑問点をまとめておくこと</p> <p>第3回 救護・医療の拠点と医療体制 / 様々な視点からの安全管理 【授業概要】 ・救護及び医療の拠点と移動救護体制について説明する。 ・救護及び医療の視点から安全管理について説明する。 【到達目標】 ①救護及び医療の拠点と移動救護体制の概要を理解できる。 ②救護及び医療の視点から安全管理の概要を理解できる。 ③スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護のシステム構築について議論ができる。 【授業形態】 ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：指定教科書の該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に講義①と②の内容を加えて課題を提出すること</p> <p>第4回 救護活動・事前準備 【授業概要】 ・スポーツボランティア活動における準備を行う。 【到達目標】 ①スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護活動の概要を理解できる。 ②スポーツ大会でのボランティア活動を通して、マスコギャザリングの概念を理解できる。 ③スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護のシステム構築について議論ができる。 【授業形態】</p>

	<p>・臨地実習 【備考】 予習：ボランティア活動に係るマニュアルや要項を熟読すること、救急事案発生時に対応について整理しておくこと 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 救護活動・臨地実習</p> <p>第5-8回</p> <p>【授業概要】 ・スポーツ大会において救護活動を行う。</p> <p>【到達目標】 ①スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護活動の概要を理解できる。 ②スポーツ大会でのボランティア活動を通して、マスギャザリングの概念を理解できる。 ③スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護のシステム構築について議論ができる。</p> <p>【授業形態】 ・臨地実習</p> <p>【備考】 予習：ボランティア活動に係るマニュアルや要項を熟読すること、救急事案発生時に対応について整理しておくこと 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 救護活動・資器材撤収と記録</p> <p>第9回</p> <p>【授業概要】 ・スポーツ大会における救護活動で発生し対応した救護事案に対して救護記録を作成する。</p> <p>【到達目標】 ①スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護活動の概要を理解できる。 ②スポーツ大会でのボランティア活動を通して、マスギャザリングの概念を理解できる。 ③スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護のシステム構築について議論ができる。</p> <p>【授業形態】 ・臨地実習</p> <p>【備考】 予習：ボランティア活動に係るマニュアルや要項を熟読すること、救急事案発生時に対応について整理しておくこと 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 救護活動・事前準備</p> <p>第10回</p> <p>【授業概要】 ・スポーツボランティア活動における準備を行う。</p> <p>【到達目標】 ①スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護活動の概要を理解できる。 ②スポーツ大会でのボランティア活動を通して、マスギャザリングの概念を理解できる。 ③スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護のシステム構築について議論ができる。</p> <p>【授業形態】 ・臨地実習</p> <p>【備考】 予習：ボランティア活動に係るマニュアルや要項を熟読すること、救急事案発生時に対応について整理しておくこと 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 救護活動・資器材撤収と記録</p> <p>第11-14回</p> <p>【授業概要】 ・スポーツ大会において救護活動を行う。</p> <p>【到達目標】 ①スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護活動の概要を理解できる。 ②スポーツ大会でのボランティア活動を通して、マスギャザリングの概念を理解できる。 ③スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護のシステム構築について議論ができる。</p> <p>【授業形態】 ・臨地実習</p> <p>【備考】 予習：ボランティア活動に係るマニュアルや要項を熟読すること、救急事案発生時に対応について整理しておくこと 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 救護活動・資器材撤収と記録</p> <p>第15回</p> <p>【授業概要】 ・スポーツ大会における救護活動で発生し対応した救護事案に対して救護記録を作成する。</p> <p>【到達目標】 ①スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護活動の概要を理解できる。 ②スポーツ大会でのボランティア活動を通して、マスギャザリングの概念を理解できる。 ③スポーツ大会でのボランティア活動を通して、病院前救護のシステム構築について議論ができる。</p> <p>【授業形態】 ・臨地実習</p> <p>【備考】 予習：ボランティア活動に係るマニュアルや要項を熟読すること、救急事案発生時に対応について整理しておくこと 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等)について</p>	<p>【予習 (所要時間30分)】 ・スポーツ現場で発生することが予想される、外傷や内因性疾患、心肺停止などの救急事案に備え教科書及び参考書を熟読すること。 ・救護活動に係る大会救護マニュアルや要項を熟読すること。 ・大会ごとの救急事案発生時の対応について整理しておくこと。</p> <p>【復習 (所要時間30分)】 ・授業で学んだ内容を元に課題を提出すること。</p>

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版） ・改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模イベント医療・救護ガイドブック（へるす出版） ・マラソン・ロードレース救護・医療体制整備指針 フルマラソンから小規模レースまで—安全に運営するために…（真興交易医書出版部）
成績評価	<p>2回以上の救護活動参加とすべての課題を提出していることを成績評価の前提とする。 知識・理解16%、思考・判断18%、関心・意欲18%、態度16%、技能・表現32%</p> <p>※評価の詳細はオリエンテーション時に配布されるループリックを参照のこと。 ※実習に臨むにあたり、態度や身だしなみが不適切であると判断した場合には、実習参加を認めない場合がある。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 金川 陽亮 研究室 : 6号館 2階 助教研究室 メールアドレス : y_kanagawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員 : 上久保 敦 研究室 : 6号館 2階 個人研究室 メールアドレス : a_kamikubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員 : 守岡 大吾 研究室 : 6号館 2階 助教研究室 メールアドレス : d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	<p>金川 陽亮 : 医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 上久保 敦 : 消防機関での臨床経験に基づき授業を行う。 守岡 大吾 : 医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>【授業とディプロマポリシーとの関連】 ◎-5、○-2、○-3 科目ナンバー : HE-3-HA3-RS-P-0</p>
	<p>【アクティブラーニング : 有】 第1~3講の講義時間中、指導者と受講者、受講者と受講者間で講義内容の理解度、知識の習得に関する相互確認(対話方式)を実施するための時間を設ける。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、健康運動実践指導者の資格取得を目標とする。エアロビックダンスは、若い人を中心に子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめる健康づくり運動として人気である。エアロビックダンスの特性を理解した上で、エアロビックダンスの基本的な技術を習得し、リズムに乗って仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として実践を中心とした授業を展開する。また、グループ指導能力の修得を通し、人間性と教養を身に付け医療人に求められているコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。さらに、自身のからだを知り、健康に対して意識を高めることで健康維持と体力向上のための橋掛かりとなることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 エアロビックダンスとは [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解できる。 [授業形態] 講義と実習</p> <p>第2講 エアロビックダンスとは何か事前に調べ（予習）、本時内容をまとめる（復習）。 エアロビックダンスの効果と運動強度 [到達目標] リズムカルな全身運動の構成ポイントについて理解し、課題運動ができるようになる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第3講 ウォーミングアップとクールダウン [到達目標] ウォーミングアップにリズムカルな全身運動を取り入れ、エクササイズ後のクールダウン動作を習得できる。 [授業形態]実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第4講 エアロビックダンスの基本姿勢と動作 [到達目標] エアロビックダンスの基本姿勢やテンポ、動作を習得できる。 4カウントの規定ルーティーンができるようになる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第5講 ローインパクト① [到達目標] 基本姿勢でウォームアップの目的と内容（ステップ名）の説明を習得できる。 [授業形態]実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第6講 ローインパクト② [到達目標] メインエクササイズの目的、強度調整、プログラミングを習得できる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第7講 ローインパクト③ [到達目標] 筋コンデショニングの目的、内容を習得できる。 [授業形態]実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第8講 ハイローインパクト① [到達目標] 健康づくり運動の実際の目的、内容、プログラミングを習得できる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第9講 ハイローインパクト② [到達目標] グループワーク練習で規定の課題運動ができる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第10講 目的別のエアロビックダンス [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンのキューイング方法を習得できる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第11講 対象別エアロビックダンス [到達目標] グループワークでルーティーン練習ができる。</p>

	<p>第12講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの創作①</p> <p>[到達目標] グループ練習でコンビネーション作成ができる。</p> <p>第13講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの創作②</p> <p>[到達目標] エアロビックダンスにおけるフィットネスプログラムの実際を理解できる。</p> <p>第14講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの実際①</p> <p>[到達目標]実習のまとめ①。 実践指導ができるようになる。</p> <p>第15講 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 チームエアロビックダンスの実際②</p> <p>[到達目標]実習のまとめ②。 第1講～第13講を総括した実践指導ができるようになる。 [授業形態]実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	資料を集め、エアロビックダンスの自分のルールブックを作成する。 プログラム作成後は、指導練習を含めた練習を行うこと。 また、授業の予習（30分）、授業後の復習（30分）を行うこと。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川 増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装。 ② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎関心・意欲、○態度。
	③ HE-3-HA13-ES-P-0。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
西村 克美			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では基本的技術、指導技術を修得することを目標とし、ゴール競技の中から、「フットサル」、「バスケットボール」、「ゴルフ」を採択する。生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、それを楽しく実践できる手段の一つとして、スポーツ活動は有効である。この授業は、先ずルールの把握と、基本技術を習得し、その後は、主にゲーム形式を中心として展開し、その中で基礎体力の維持増進を図る方法を学ぶことを目的とする。仲間づくりを兼ね、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上をはかることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、フットサル①基本・基礎技術の練習 [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 実習</p> <p>第2講 フットサル②基本・基礎技術の練習（キック、ドリブル、ターン、パス等） [到達目標] 基礎的なボール動作を理解し、習得できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第3講 フットサル③簡易ゲーム（パスワーク、チーム練習） [到達目標] ルールを理解し、ゲームの中で基礎技術を発揮できるようになる。 [授業形態] 実習</p> <p>第4講 フットサル④ 応用技術とゲーム（チーム練習） [到達目標] 攻撃の戦術を理解し、ゲームの中で発揮できるようにする。 [授業形態] 実習</p> <p>第5講 フットサル⑤ リーグ戦（チーム戦術を考え実践） [到達目標] ルールについて理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第6講 バスケットボール①基本・基礎技術の練習（ドリブル、パス、シュート等） [到達目標] 基礎的なボール動作を理解し、習得できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第7講 バスケットボール②基本・基礎技術の練習（スローパス、チェストパス、ショルダーパス等） [到達目標] ルールについて理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第8講 バスケットボール③簡易ゲーム（パスワーク、チーム練習） [到達目標] 攻撃の戦術を理解し、ゲームの中で発揮できるようにする。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第9講 バスケットボール④応用技術とゲーム [到達目標] 戦術について理解し、実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第10講 バスケットボール⑤リーグ戦 [到達目標] ルールを理解し、ゲームの中で基礎技術を発揮できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第11講 ゴルフ①基本・基礎技術の練習（ハーフショットでボールを打つ） [到達目標] 基礎的な動作を理解し、習得できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第12講 ゴルフ②基本・基礎技術の練習（ボールを打つ練習方法） [到達目標] 基礎的な動作を理解し、実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第13講 ゴルフ③基本・基礎技術の練習（正しい体の動かし方） [到達目標] 練習方法を理解し、実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第14講 ゴルフ④ゴルフ練習（正しい体の動かし方:フルショットの練習） [到達目標] 正しい体の作り方や動かし方を習得できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第15講 ゴルフ⑤ゴルフ練習（ルールについて理解） [到達目標] ルールを理解し、実践できるようになる（実習のまとめ）。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各実技タイトルを事前学習（予習30分）し、実技で学習した内容をまとめておく（復習30分）。資料を集め、フットサルとバスケットボール、ゴルフの自分のルールブックを作成する。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
参考書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度

	10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 西村克美 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : オフィスアワー :
備考	① 服装は、運動に適した服装、体育館シューズ。 ② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3, 関心・意欲。 ④ 科目ナンバー：HE-3-HA14-ES-P-0。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともに スポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する知識と理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系① 「体力の概論・体力要素」 [到達目標] 体力の概念・体力要素についての理解ができる。 予習:体力の概念・体力の要素とはどういうものなのか調べてみる。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第2講 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系② 「トレーニングの原理・原則」 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解することができる。 予習:トレーニングの原理・原則を調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第3講 体力測定理論と方法 [到達目標] 体力測定の必要性和正確性のある測定方法を理解することができる。 予習:体力測定について事前に調べ、授業時の理解速度を高める努力をしておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第4講 体力測定結果の処理について [到達目標] 体力測定の結果処理、また科学的に理解し、活用度を高めることができる。 予習:体力テスト総合評価基準表・体力年齢評価表を調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第5講 運動プログラムの基本的な考え方・目標設定 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。 予習:体力要素別トレーニングについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第6講 ウォーミングアップとクーリングダウン 全身持久力について [到達目標] ウォーミングアップとクーリングダウンの必要性和処方を理解することができる。 予習:ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第7講 全身持久力トレーニング [到達目標] 呼吸機能・循環機能・末梢の筋機能の総合的な能力について理解することができる。 予習:全身持久力と健康の関連性について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第8講 筋持久力系のトレーニング [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを科学的に理解することができる。 予習:筋持久力トレーニングについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第9講 柔軟性・調整力を高めるトレーニング [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントが理解できる。 予習:柔軟性について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第10講 筋力トレーニング① (正しいトレーニングを実施するための負荷設定) [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を科学的に理解することができる。 予習:筋力トレーニング・負荷設定について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第11講 筋力トレーニング② (効果的に行うための順序) [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。 予習:筋力トレーニングの順序について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① (目的に応じたプログラム作成) [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①></p>

	<p>第13講 予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分) トレーニングプログラムを作成するための要点②(目的に応じたプログラム作成) [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②> 予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分) トレーニングプログラムを作成するための要点③(目的に応じたプログラム作成) [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③> 予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第14講 予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分) トレーニングプログラムを作成するための要点③(目的に応じたプログラム作成) [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③> 予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第15講 総括(定期試験) [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 予習:第1講～第14講をまとめて理解できる。(120分) 復習:定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照し全体を復習すること。(120分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に資料を配布する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験60%、授業時の小テスト20%、努力・意欲の度合い20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 体育館教員室 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー HE-3-HA22-ES-L-0 ②この授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-1(知識・理解) ○-2(思考・判断) ○-3(関心・意欲) ③アクティブラーニング(課題を主体的に解決する力(思考・判断)を育てる内容を実施。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する内容を運動・実践することにより学習することを目標とする。</p> <p>また、安全かつ効果的なトレーニングプログラム作成（目的に応じたプログラム作成）できるようにする。</p>		
授業計画	第1講	<p>安全なトレーニングのために。</p> <p>[到達目標] 安全にトレーニングを実施するための知識を深めながら実践学習ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第2講	<p>体力測定（新体力テスト）の実際①</p> <p>[到達目標] 体力測定の安全で正しい実施方法を理解するとともに、計測方法を実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第3講	<p>体力測定（新体力テスト・その他の体力テスト）の実際②</p> <p>[到達目標] 体力測定の安全で正しい実施方法を理解するとともに、計測方法を実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第4講	<p>ウォーミングアップとクーリングダウン</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的な運動効果を得るための正しい実施方法と考え方を実践を通して学習できる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第5講	<p>柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて</p> <p>[到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントの理解と実践学習ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第6講	<p>全身持久力（身体組成）を高めるトレーニング</p> <p>[到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニング分類の理解と実践学習ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第7講	<p>筋持久力トレーニングを高めるトレーニング</p> <p>[到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングの理解と実践ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第8講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング①</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第9講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング②</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第10講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング③</p>	

	<p>第11講</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと。(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) レジスタンス・エクササイズ トレーニング④</p> <p>第12講</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)①</p> <p>第13講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)②</p> <p>第14講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)③</p> <p>第15講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)④</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	自学自習の課題は、授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	プログラム作成テスト50%、授業時の努力・意欲の度合い50%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 体育館職員室 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー HE-3-HA23-ES-P-0 ②服装は運動に適した服装、体育館シューズを準備する。 ③水分補給は各自で準備し、体調管理に努める。 ④貴重品については自己管理を徹底する。 ⑤この授業のディプロマポリシーとの関係 ○-3 (関心・意欲) ○-4 (態度) ○-5 (技能・表現)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
諫山憲司、上久保敦、木村隆彦、坪倉寛明、久保敦士、原貴大、金川陽亮、千田いずみ、福田聖司、山下歩、守岡大吾、村上龍、福井建皓			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習/ブレンディッド	
添付ファイル			
【2024年度新刊】卒業研究の手引き.pdf		卒業論文の書き方などのルール。なお、提出期限等の日時は2024年度用。	

授業目標	3年次までに学んだ知識や技術を背景に、1つの研究テーマに取り組むことで医療人としての知見を広げるとともに、問題発見能力や問題解決能力、学術的アプローチおよびプレゼンテーション・ディスカッション能力を高める。 本授業は集合による講義（10講）と振り分けられたゼミにおいて担当教員が開講（20講）し、指導を行う2種（同時並行で進行）で展開する。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 【到達目標】 ①卒業研究の意義を理解する。 ②卒業論文作成の過程を理解する。 ③卒業研究 I の学修内容を理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有 【備考】 予習：卒業研究の手引きを熟読する。 シラバスを確認する。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>第2講 研究倫理について 【到達目標】日本学術振興会eラーニングシステムを活用し、「誠実な科学者の心得」を理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>第3講 研究デザインと研究計画 【到達目標】 ①研究を進めるための基礎知識を習得する ・調査方法 ・記録 ・情報管理 ②研究デザインと計画策定について理解する 【授業形態】アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>第4講 先行研究調査の方法 【到達目標】 論文・書籍検索の方法を理解し、実践できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>第5講 研究と論文執筆の実例 1 【到達目標】 ①研究者による実践例を通して研究と論文執筆の知識を習得する。 【授業形態】アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>第6講 研究と論文執筆の実例 2 【到達目標】 ①研究者による実践例を通して研究と論文執筆の知識を習得する。 【授業形態】アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>第7講 研究と論文執筆の実例 3 【到達目標】 ①研究者による実践例を通して研究と論文執筆の知識を習得する。 【授業形態】アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>第8講 研究と論文執筆の実例 4</p>

第9講	<p>【到達目標】 ①研究者による実践例を通して研究と論文執筆の知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>研究と論文執筆の実例 5</p>
第10講	<p>【到達目標】 ①研究者による実践例を通して研究と論文執筆の知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 【備考】 予習：授業で指示する課題を調べてまとめること。 復習：学習内容をまとめること。</p> <p>まとめ</p> <p>【到達目標】 これまでの授業内容を踏まえ、問題発見力や問題解決力、学術的アプローチおよびプレゼンテーション・ディスカッション力を理解し、説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 【授業時間外における学修】 予習：これまでの講義内容をまとめる。 復習：講義全体で学んだすべての内容についてまとめる。</p>
第11講	<p>研究及びレポート・論文執筆 1 (ゼミ単位)</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッション) 【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p>
第12講	<p>研究及びレポート・論文執筆 2 (ゼミ単位)</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッション) 【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p>
第13講	<p>研究及びレポート・論文執筆 3 (ゼミ単位)</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッション) 【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p>
第14講	<p>研究及びレポート・論文執筆 4 (ゼミ単位)</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッション) 【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p>
第15講	<p>研究及びレポート・論文執筆 5 (ゼミ単位)</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッション) 【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p>
第16講	<p>研究及びレポート・論文執筆 6 (ゼミ単位)</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッション) 【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p>
第17講	<p>研究及びレポート・論文執筆 7 (ゼミ単位)</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。</p>

	<p>【授業形態】アクティブラーニング有（プレゼンテーションとグループディスカッション）</p> <p>【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p> <p>研究及びレポート・論文執筆 17（ゼミ単位）</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有（プレゼンテーションとグループディスカッション）</p> <p>【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p> <p>研究及びレポート・論文執筆 18（ゼミ単位）</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有（プレゼンテーションとグループディスカッション）</p> <p>【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p> <p>研究及びレポート・論文執筆 19（ゼミ単位）</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有（プレゼンテーションとグループディスカッション）</p> <p>【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p> <p>研究及びレポート・論文執筆 20（ゼミ単位）</p> <p>【到達目標】 ①各自の研究テーマを検討し、研究計画等を立てると共に調査・研究を実践する。 ②ゼミ担当教員の指導の下でゼミ所属学生がディスカッションを行いながら研究を展開し、レポート・論文執筆を進める。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有（プレゼンテーションとグループディスカッション）</p> <p>【備考】 予習：自分のテーマについて各自で調べてまとめること 復習：グループディスカッションを通して研究の深化に取り組むこと</p>
第27講	
第28講	
第29講	
第30講	
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が取り組む卒業研究のテーマを熟考し、研究により得られる成果を思い描くこと。 ・インターネットや図書館を活用し、研究を進めるうえで必要となる先行研究等を精査すること ・先行研究調査により選出した論文を熟読し、論文執筆の知識と能力を高めること。 <p>（予習時間30分、復習時間30分）</p>
教科書	指定なし
参考書	指定なし
成績評価	<p>まとめレポート：（30%） 共通形式レポート（ゼミ内で行った卒研進捗、文献検索報告、論文執筆進捗の確認、研究計画等）の提出：（40%） 授業態度・参加意欲（授業内での発言の積極性）：（30%）</p> <p>・成績評価の要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。</p>
担当教員の基本情報	<p>メールアドレス：諫山憲司：k_isayama@meiji-u.ac.jp、上久保敦：a_kamikubo@meiji-u.ac.jp、木村隆彦：t_kimura@meiji-u.ac.jp、坪倉寛明：h_tsubokura@meiji-u.ac.jp、久保敦士：a_kubo@meiji-u.ac.jp、原貴大：t_hara@meiji-u.ac.jp、金川陽亮：y_kanagawa@meiji-u.ac.jp、千田いずみ：i_chida@meiji-u.ac.jp、福田聖司：si_fukuda@meiji-u.ac.jp、山下歩：a_yamashita@meiji-u.ac.jp、守岡大吾：d_morioka@meiji-u.ac.jp、村上龍：r_murakami@meiji-u.ac.jp、福井建皓：各ゼミ担当教員：</p> <p>オフィスアワー：授業終了後1時間</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1，○-2，○-3</p>
	科目ナンバー HE-4-GRI-RS-S-0
	<p>諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。上久保敦：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 木村隆彦：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。坪倉寛明：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 久保敦士：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。福田聖司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 山下歩：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。原貴大：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 金川陽亮：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。千田いずみ：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 守岡大吾：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。村上龍：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 福井建皓：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	Google Classroomを活用した（講義・演習）

講義科目名称： キャリア教育Ⅲ

授業コード： 2E401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	選択
担当教員			
和田 伸一			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	我が国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、高齢者、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 健康と公衆衛生 [到達目標] 健康とは何かを説明できる。 衛生・公衆衛生とは何かを説明できる。 衛生行政の組織について説明できる。 健康増進の取り組み（健康日本21）について説明できる。 国際保健について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（確認問題と解答・解説）</p> <p>第2回 医療を取り巻く環境① 衛生統計と人口統計 [到達目標] 主な保健指標について説明できる。 主な保健統計の種類を説明できる。 人口動態統計及び人口動態統計による我が国の現状について説明できる。 健康寿命について説明できる。 死因統計による我が国の現状について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第3回 医療を取り巻く環境② 疾病の予防と生活習慣病 [到達目標] 予防医学（一次予防、二次予防、三次予防）について説明できる。 国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査および患者調査による我が国の現状について説明できる。 生活習慣病について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第4回 医療を取り巻く環境③ 感染症 [到達目標] 我が国の公衆衛生上重要な感染症について説明できる。 感染症の区分と感染症サーベイランスについて説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第5回 医療供給体制 [到達目標] 保健医療従事者及びその資格に関する制度・法律について説明できる。 保健医療従事者の我が国の現状について説明できる。 医療に関する制度・法律について説明できる。 医療提供施設等の定義と現状について説明できる。 医療法と医療計画について説明できる。 在宅医療と地域包括ケア・地域医療構想について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第6回 様々な保健衛生① 食品衛生と環境衛生 [到達目標] 食品衛生に関する主な法律と衛生管理体制が説明できる。 我が国における食中毒の発生状況について説明できる。 環境衛生に関する主な法律と環境保全対策が説明できる。 我が国の環境衛生の現状を説明できる。 我が国の主な公害と対策について説明できる。 地球環境問題について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第7回 様々な保健衛生② 労働衛生と学校保健 [到達目標] 労働衛生に関わる主な法律と労働衛生の仕組みについて説明できる。 作業関連疾患（職業病）について説明できる。 我が国の労働災害の現状について説明できる。 学校保健に関わる主な法律と学校保健の仕組みについて説明できる。</p>

	我が国の学校保健の現状について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説） 中間試験（第1回～7回）・試験解説
第8回	
第9回	[授業形態] アクティブラーニング有（中間試験の解答と解説） 様々な保健衛生③ 地域保健と母子保健 [到達目標] 地域保健に関する法律と地域保健の仕組みについて説明できる。 保健所と市町村保健センターの役割について説明できる。 母子保健に関する法律と母子保健の仕組みについて説明できる。 我が国の母子保健の現状について説明できる。
第10回	[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説） 様々な保健衛生④ 地域保健と高齢者保健 [到達目標] 高齢者の保健福祉に関する法律と高齢者保健福祉の仕組みについて説明できる。 我が国の高齢者の健康と高齢者保健福祉の現状について説明できる。
第11回	[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説） 様々な保健衛生⑤ 地域保健と精神保健 [到達目標] 精神保健福祉に関する法律と精神保健福祉の仕組みについて説明できる。 我が国の精神保健福祉の現状について説明できる。 精神障害者の入院形態および現状について説明できる。
第12回	[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説） 社会保障と社会福祉① 社会保障と社会保険：医療保険制度 [到達目標] 社会保障とその理念について説明できる。 社会保障制度の特徴及び我が国の4つの社会保障制度について説明できる。 社会保障の現状について説明できる。 社会保険制度の特徴及び我が国の5つの社会保険制度について説明できる。 我が国の医療保険制度の特徴及び3つの医療保険制度について説明できる。 医療保険制度に基づく給付、保険医療機関、保険診療及び国民医療費の現状について説明できる。
第13回	[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説） 社会保障と社会福祉② 社会保険：介護保険と年金保険 [到達目標] 介護保険に関する法律と介護保険制度について説明できる。 介護サービスの種類と給付について説明できる。 介護に関わる主な職種とその役割について説明できる。 年金保険に関する法律と年金保険制度について説明できる。
第14回	[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説） 社会保障と社会福祉③ 社会福祉と生活保護 [到達目標] 社会福祉の特徴を説明できる。 社会福祉に関する法律と社会福祉の仕組みについて説明できる。 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉の現状と支援について説明できる。 公的扶助と生活保護制度および生活保護の現状について説明できる。
第15回	[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説） 期末試験（第9回～14回）・試験解説 [授業形態] アクティブラーニング有（期末試験の解答と解説）
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。（130分程度） 2. 講義の後に該当する教科書の部分および講義資料を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を解いて理解を深めること。（2, 3併せて130分程度） 4. わからないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。
教科書	救急救命士表運テキスト（改訂第10版）救急救命士標準テキスト編集委員（へるす出版）
参考書	シンプル公衆衛生学2024（南江堂） 分かりやすい公衆衛生学（第4版）（ヌーベルヒロカワ） 国民衛生の動向（厚生統計協会）
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は中間試験45%、期末試験45%、小テスト10%で行い、合計60点以上を合格とする。 出席が6割に満たない者は中間・期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階免疫・微生物学教室または1号館2階教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:35-13:20
備考	この科目とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2 科目ナンバー：HE-4-MM9-RS-L-1
	講義資料、確認問題、小テストはGoogle Classroom で配信する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
上久保 敦、村上 龍、糸井 恵、中西 健史			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・頭頸部および顔面損傷、眼科・耳鼻咽喉科・口腔外科領域の疾患の病態や観察処置の知識について理解する。 ・感覚器が集中する頭頸部領域に発生する疾患は多岐多様におよぶ。それらの特徴を理解するとともに、疾患に遭遇した際に救急救命士に認められている処置に準じた対応ができるようになることが本講義の目標である。
授業計画	<p>第1回 頭頸部の解剖・生理と顔面・頭部の外傷と疾患 【到達目標】 頭頸部の解剖・生理と顔面・頭部の外傷と疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第2回 鼻・副鼻腔の疾患 【到達目標】 鼻・副鼻腔疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第3回 口腔の疾患 【到達目標】 口腔の疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第4回 耳の解剖と疾患 【到達目標】 耳の解剖と疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第5回 咽喉頭・食道の疾患 【到達目標】 咽喉頭・食道の疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第6回 眼の解剖と疾患 【到達目標】 眼の解剖と疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>第7回 頭頸部の疾患と治療 【到達目標】 頭頸部の疾患と治療について理解する。特に教科書の内容をベースに、応用的な範囲まで網羅した内容の講義を実施する。 【授業形態】</p>

第8回	<p>アクティブラーニング有</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>前半の振り返り</p> <p>【到達目標】 第1回から第7回の講義内容の復習を行い、模擬問題から知識の習得を確認する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p>
第9回	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>筋・骨格系疾患各論</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患のの病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <p>座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。</p>
第10回	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>筋・骨格系疾患各論</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患のの病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <p>座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。</p>
第11回	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>筋・骨格系疾患各論</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患のの病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <p>座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。</p>
第12回	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>筋・骨格系疾患</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患のの病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <p>座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。</p>
第13回	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>筋・骨格系疾患</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患のの病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <p>座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。</p>
第14回	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>皮膚疾患の解剖から炎症</p> <p>【到達目標】 皮膚解剖および疾患や炎症について理解とその鑑別を習得する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <p>座学・講義中に問題提示を実施し、教員・受講者間の対話による授業展開を実施する機会を設ける。</p>
第15回	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p> <p>振り返り・期末試験（評価）</p> <p>【到達目標】 第1回から第6回の講義内容の総復習を行い、知識の習得を確認する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当項目を参照し予習を実施する(120分) 復習：講義で学習した内容に基づいて教科書を読み直し、学習した内容の定着を目指す(120分)
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	特になし。
成績評価	本科講義における全コマ数3/5以上の出席と欠席レポートの全提出が期末試験受験の要件。 評価割合(筆記試験90%、受講態度およびレポート提出状況10%) ※架空もしくは不正出席は重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。 ※最終講の本試験を欠席した場合の受講態度およびレポート提出状況10%は、無しとする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 上久保 敦 研究室 : 6号館 2階研究室 メールアドレス : a_kamikubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 村上 龍 研究室 : 6号館 2階研究室 メールアドレス : r_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間</p> <p>明治国際医療大学付属病院 担当教員名 : 糸井 恵(整形外科) メールアドレス : mitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後30分</p> <p>明治国際医療大学付属病院 担当教員名 : 中西 健史(皮膚科) メールアドレス : t_nakanishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後30分</p>
備考	上久保 敦：消防機関および医療機関での臨床経験に基づいて講義を行う。 村上 龍：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。
	【授業とディプロマポリシーとの関連】 ◎-1、○-2、○-3 科目コード HE-4-MM18-RS-L-1
	【アクティブラーニング：有】 授業中に学生・教員間及び学生・学生間の双方向の振り返り(対話形式)等のアクティブラーニングが実施される。 【試験(小テスト)に対するフィードバックの方法】 小テストについて、授業内にて正答の確認をおこなう。

講義科目名称： 環境障害と中毒

授業コード： 2E404

英文科目名称： Environmental disorders and addiction

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
平出 敦			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	環境障害と中毒について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態を解説し系統的な理解をはかる。環境障害や中毒の傷病者に対する観察・処置判断・について解説し、適切なプレホスピタルケアや搬送先の選定ができるような知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・中毒総論 【到達目標】 中毒の病態について理解する 【授業形態】 アクティブラーニング有り（ディスカッション） （予習） 救急救命士標準テキスト第10版p788-795を読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する。 （復習） 該当部分を熟読して定着をはかること。</p> <p>第2回 中毒各論 【到達目標】 中毒の詳細な分類、病態、観察・処置・判断について理解する 【授業形態】 アクティブラーニング有り（ディスカッション） （予習） 救急救命士標準テキスト第10版p796-807を読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する。 （復習） 該当部分を熟読して定着をはかること</p> <p>第3回 異物障害 【到達目標】 人体における異物の総論・各論(病態・観察・判断)について理解する 【授業形態】 アクティブラーニング有り（ディスカッション） （予習） 救急救命士標準テキスト第10版p808-811を読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する。 （復習） 該当部分を熟読して定着をはかること</p> <p>第4回 溺水障害 【到達目標】 人体における溺水の総論・各論(病態・観察・判断)について理解する 【授業形態】 アクティブラーニング有り（ディスカッション） （予習） 救急救命士標準テキスト第10版p812-814を読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する。 （復習） 該当部分を熟読して定着をはかること</p> <p>第5回 環境障害総論・熱中症 【到達目標】 環境障害の総論並びに熱中症における総論・各論(病態・観察・判断)について理解する 【授業形態】 アクティブラーニング有り（ディスカッション） （予習） 救急救命士標準テキスト第10版p815-820を読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する。 （復習） 該当部分を熟読して定着をはかること</p> <p>第6回 偶発性低体温症・放射線障害 【到達目標】 偶発性低体温症・放射線障害における総論・各論(病態・観察・判断)について理解する 【授業形態】 アクティブラーニング有り（ディスカッション） （予習） 救急救命士標準テキスト第10版p821-832を読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する。 （復習） 該当部分を熟読して定着をはかること</p> <p>第7回 その他の環境障害・本講のまとめ 【到達目標】</p>

	<p>環境障害における細部総論・各論(病態・観察・判断)について理解する 【授業形態】 アクティブラーニング有り (ディスカッション) (予習) 救急救命士標準テキスト第10版p833-839を読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する (復習) 該当部分を熟読して定着をはかること 評価、まとめ 各講義の理解度を定期試験にて確認する。</p>
第8回	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	(予習) 救急救命士テキスト第10版において、該当ページを読み、理解できた点と、理解できなかった点を整理する (120分)。 (復習) 該当部分を熟読して定着をはかること (120分)。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
参考書	それぞれトピックによって参考書や参考資料が異なることから授業中に適宜紹介する
成績評価	<p>期末試験 70% 授業課題 30% *注意事項 ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 平出 敦 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : @meiji-u.co.jp オフィスアワー : 授業後1時間</p>
備考	<p>平出 敦 : 救急診療の実務経験あり。同時に、救命救急センター長、地域メディカルコントロール協議会会長の経験あり。当該領域の教育経験あり。これらを基盤として、救急ケアの視点から環境障害と中毒について授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題について、授業内にて内容をフィードバックする ・Google classroomを活用した講義
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-1、○-2、○-3</p>
	<p>科目ナンバー : HE-1-MM2-RS-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
木村 隆彦、諫山 憲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義／ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士として傷病者の観察・処置などの基本を理解し、刻々と変化する病態に対し、解剖学的、生理学的に重症度・緊急度の判断が確実にできることを本授業の目的とする。		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション 資器材による観察 SpO2/カプノメータ/聴診器/血圧計</p> <p>[到達目標] 救急活動で使用する観察資器材について、呼吸系と循環系、その他に分類できる。 パルスオキシメータによる観察の適応、構造、方法、評価、注意点について説明できる。 カプノメータによる観察の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 聴診器による観察の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 血圧計による観察の適応、種類・原理、方法、評価、注意点について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 332～337を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う資器材による観察（パルスオキシメータ、カプノメータ、血圧）についてまとめる（所要時間40分）</p>	
	第2講	<p>救急救命士が行う処置（処置目的、気道確保、気道異物、口腔内吸引）</p> <p>[到達目標] 用手的気道確保法の種類を列挙し、それぞれの適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 経口（口咽頭）エアウェイおよび経鼻（鼻咽頭）エアウェイを用いた気道確保の適応、禁忌、器具の種類と構造、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 用手的気道異物除去法を列挙し、それぞれの適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 器具による気道異物除去法の適応、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 口腔内吸引の目的、適応、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 344～351を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う処置（処置目的、気道確保、気道異物、口腔内吸引）についてまとめる（所要時間40分）</p>	
	第3講	<p>救急救命士が行う処置（声門上気道デバイス、気管挿管）</p> <p>[到達目標] 声門上気道デバイスを用いた気道確保の目的およびそれぞれの種類の構造、適応、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 気管挿管の目的およびマッキントッシュ型喉頭鏡を用いた気管挿管の長所、短所、適応、禁忌、方法と手順、評価、合併症、注意点、気管挿管困難症例への対応について説明できる。 ビデオ硬性喉頭鏡を用いた気管挿管の長所、短所、適応、禁忌、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 351～367を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う処置（声門上気道デバイス、気管挿管）についてまとめる（所要時間40分）</p>	
	第4講	<p>救急救命士が行う処置（気管吸引、酸素投与、人工呼吸）</p> <p>[到達目標] 気管吸引の目的、適応、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 酸素投与の目的、適応、合併症、注意点、評価について説明できる。 酸素を供給する資器材の構造や注意点について説明できる。 酸素投与方法の種類をあげ、それぞれに用いる器具の原理・構造、方法と手順、評価、長所・短所、期待される酸素濃度について説明できる。 人工呼吸の目的、適応、各種人工呼吸法の方法と手順、評価、注意点・合併症について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 367～375を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う処置（気管吸引、酸素投与、人工呼吸）についてまとめる（所要時間40分）</p>	
	第5講	<p>救急蘇生法（成人・小児・乳児の救急蘇生法、自動式心マッサージ器）</p> <p>[到達目標] 救急蘇生法の概念について説明できる。 成人に対する一次救命処置について説明できる。 成人に対する二次救命処置と心停止アルゴリズムについて説明できる。</p>	

	<p>二次救命処置としての薬剤投与、器具を用いた気道確保、波形に適応した活動について説明できる。 小児の心停止とそれに対する救急蘇生法について説明できる。 小児に対する一次救命処置について説明できる。 小児に対する二次救命処置について説明できる。 医療機関での救命処置について説明できる。 医療機関での心拍再開後の治療について説明できる。 自動式心マッサージ器による胸骨圧迫の適応、合併症、注意点およびそれぞれの種類と特徴について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 372~383、419~428の該当項を読み疑問事項をメモしてくること（所要時間60分） 復習としては救急救命士の行う救急蘇生法（救急蘇生法の概要、救急蘇生法の実際）についてまとめる（所要時間40分） 救急救命士が行う処置（胸骨圧迫、電気ショック）</p>
第6講	<p>[到達目標] 胸骨圧迫の目的、適応、方法と手順、合併症、注意点、評価について説明できる。 半自動式除細動器および狭義のAEDを用いた電気ショックの目的、適応、器具の構造、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 372~383、419~428の該当項を読み疑問事項をメモしてくること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う処置（胸骨圧迫、自動式心マッサージ器、電気ショック）についてまとめる（所要時間40分）</p>
第7講	<p>在宅治療法継続中の傷病者の処置 [到達目標] 在宅療法概念について説明できる。 以下の在宅療法の概要と発生し得る問題点、および観察時の注意点と対処法について説明できる。 ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸療法と気管切開 ・在宅中心静脈栄養療法 ・成分栄養経管栄養法 ・在宅自己導尿療法・持続導尿 ・人工肛門 ・在宅注射療法（インスリン、麻薬） ・在宅人工透析療法（血液透析、腹膜透析） [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 429~435を読み疑問事項をメモしてくること（所要時間60分） 復習としては救急救命士の行う在宅治療法継続中の傷病者の処置と傷病者搬送についてまとめる（所要時間40分）</p>
第8講	<p>救急救命士が行う処置（静脈路確保と輸液、アドレナリン投与） [到達目標] 静脈路確保と輸液の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 心臓機能停止傷病者に対するアドレナリン投与の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 アナフィラキシー傷病者に対する自己注射用アドレナリン投与の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 383~392を読み疑問事項をメモしてくること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う処置（静脈路確保と輸液、アドレナリン投与、ブドウ糖投与）についてまとめる（所要時間40分）</p>
第9講	<p>資器材による観察（心電図） [到達目標] 心電図モニターによる観察の適応、原理・種類、方法、評価、注意点について説明できる。 心電図誘導の種類と特長について簡単に説明できる。 心電図伝送について簡単に説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 337~340を読み疑問事項をメモしてくること（所要時間60分） 復習としては救急救命士の行う資器材による観察（心電図、心電図誘導）についてまとめる（所要時間40分）</p>
第10講	<p>資器材による観察（血糖測定器）、救急救命士が行う処置（ブドウ糖投与） [到達目標] 血糖測定器による血糖測定の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 ブドウ糖溶液投与の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 341~343、392~394を読み疑問事項をメモしてくること（所要時間60分） 復習としては資器材による観察（血糖測定器）および救急救命士が行う処置（ブドウ糖投与）に</p>

	<p>第11講 ついてまとめる（所要時間40分） 資器材による観察（体温計）救急救命士が行う処置（体位管理、体温管理、止血） [到達目標] 体温計による観察の適応、種類・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 体位管理の目的およびそれぞれ体位の特徴、適応、手順、評価、注意点について説明できる。 体温管理（保温と冷却）の目的、適応、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 止血の目的および各種止血法の適応、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 340、341、394～402を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては資器材による観察（体温計）および救急救命士が行う処置（体位管理、体温管理、止血）についてまとめる（所要時間40分）</p> <p>第12講 救急救命士が行う処置（創傷処置、固定） [到達目標] 創傷処置の目的および各種創傷処置の適応、方法と手順、評価、合併症について説明できる。 固定の目的および各種固定の適応、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 402～415を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う処置（創傷処置、固定）についてまとめる（所要時間40分）</p> <p>第13講 救急救命士が行う処置（産婦人科領域の処置） [到達目標] 分娩介助の目的、適応、使用する資器材、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 子宮輪状マッサージの目的、適応、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 分娩直後の新生児への対応、評価法、注意点および新生児仮死に対する処置について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 415～418を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては救急救命士が行う処置（産婦人科領域の処置）についてまとめる（所要時間40分）</p> <p>第14講 傷病者搬送・救急処置各論総括 [到達目標] 傷病者搬送の原則と注意点について説明できる。 傷病者搬送におけるボディメカニクスについて説明できる。 体位変換の方法について説明できる。 徒手搬送の種類をあげ、それぞれの適応と方法について説明できる。 器具を用いた搬送の種類をあげ、それぞれの適応と方法について説明できる。 救急自動車への搬入と搬出の手順について説明できる。 ヘリコプターへの搬入と搬出時の手順、注意点について説明できる。 事故車両からの救出方法の種類をあげ、それぞれの適応、手順、注意点について説明できる。 第1講から第13講にかけて行った救急活動で救急救命士が行う処置、在宅療法継続中の処置、傷病者搬送等について目的ごとに分類し説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（ジグソー法、ケースメソッド） 使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価についてそれぞれ説明できる。 [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 332～451読み疑問事項をメモしてこること（所要時間60分） 復習としては救急救命士の行う観察の目的と意義についてまとめる（所要時間40分）</p> <p>第15講 まとめ・筆記試験 [到達目標] 第1講から第14講にかけて行った救急処置に関する理解度を確認する。 [授業形態] アクティブ・ラーニング無し [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 332～451読み、これまでの授業をまとめる（所要時間60分） 復習としては筆記試験の内容を自己採点し、誤答についてはテキストを見直すこと（所要時間40分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに改定第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間60分） 授業終了後は講義資料を参考に知識の定着を図ること。（所要時間40分） 課題に対するフィードバックは授業の中で口頭で行う。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト
参考書	JRC蘇生ガイドライン2020
成績評価	期末試験60%、関心意欲20%、態度20% 期末試験は60%以上の正答を必須とし、満たない場合は再試験の対象とする。 再試験においても60%に満たない場合は原則として成績評価の対象としない。 期末試験の受験要件は、大学の定めにより全講義数の3/5以上の出席である。 架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。
担当教員の基本情報	<p>木村隆彦：国内消防機関、海外防災・救急機関、海外医療系大学、海外医療機関での勤務経験に基づき授業を行う。 諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。</p> <p>担当教員名：木村隆彦 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義後1時間</p>

	担当教員名 : 諫山憲司 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	*連絡のない欠席、遅刻、早退や、受講態度、不適切な身だしなみが認められ、教員の指示（指導）に従わない場合は成績評価の対象としないことがある。なお、評価において本件を理由として減点する場合は、学生本人と面談のうえに関心意欲、態度の項で扱う。 *授業中の無断退室は早退として扱う。 *授業開始のチャイムが鳴り終わった後の入室は遅刻として扱う。 *授業参加は教員が指示した方法で集計する。出欠登録システムの入力とそれ以外の方法を組み合わせて授業参加と判断する場合がある。出欠確認についてはオリエンテーションで周知する。
	授業とディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5
	科目ナンバー HE-4-ME4-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
高階 謙一郎、竹上 徹郎、堀口 真仁、香村 安健、的場 裕恵、河野 智子			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	災害医学の概要を学び、救急救命士に求められる災害救援の具体例を学ぶ。 # 1：災害の概論を説明できる。 # 2：Mass CasualtyとDisasterの違いを説明できる。 # 3：3-Tについて説明できる。 # 4：中毒の概念を説明できる。 # 5：青酸中毒・農薬中毒の病態について説明できる。 # 6：個別の中毒に関する拮抗薬を列挙できる。 # 7：シミュレーションでの災害の基本的な対応ができる。
授業計画	第1講 災害医学 総論 I 【到達目標】 災害の定義と災害医療の目的の総論を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 災害の定義について予習しておく。 (復習) 自然災害と人為災害の違いを復習確認しておく。 第2講 災害医学 総論 II 【到達目標】 災害医療の具体的な事例による問題点を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 最近起こった災害の事例を調べておく。 (復習) 災害対応の問題点について復習確認しておく。 第3講 Triage 【到達目標】 災害医療では基本となる3TとTriageを理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) Triageの概念を予習しておく。 (復習) Triage方法の種類と判断方法を復習確認しておく。 第4講 深部静脈血栓症と呼吸器障害 【到達目標】 災害時に問題となる合併症である深部静脈血栓症と肺梗塞を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 循環系で静脈系と肺循環について予習しておく。 (復習) 肺梗塞の病因と徴候を確認復習しておく。 第5講 自然災害後の感染症 【到達目標】 災害後に問題視されている合併症である感染症を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 感染症の成り立ちについて予習しておく。 (復習) 災害後の感染症の成り立ちと特徴を復習確認しておく。 第6講 惨事ストレス 【到達目標】 災害を契機として現れる精神肉体的な影響に関連するストレスを理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 【備考】 (予習) ストレスの意味について予習しておく。 (復習) 惨事災害の対処方法について確認しておく。 第7講 たこつぼ心筋症 【到達目標】 災害後に特徴的な症状を示す心疾患を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 心筋障害の概念について予習しておく。 (復習) たこつぼ心筋症の対処方法について復習しておく。

	<p>第8講 災害医療とDMAT 【到達目標】 全国展開されるDMATの概念を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 災害救助法について予習しておく。 (復習) DMATの活動について復習しておく。</p> <p>第9講 災害医学特論 【到達目標】 災害医療で展開されているDMATの概要と日本政府が行っている国際緊急援助を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 国際緊急援助について予習しておく。 (復習) 国際緊急援助にかかわる国際機関の活動について復習確認しておく。</p> <p>第10講 自然災害特論 【到達目標】 日本における自然災害の概念を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 日本で起こりうる自然災害について予習しておく。 (復習) 自然災害について確認復習しておく。</p> <p>第11講 中毒総論 【到達目標】 一般的な「中毒」の概念と病態生理を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 中毒作用の意味について予習しておく。 (復習) 中毒全般の生体反応について確認復習しておく。</p> <p>第12講 中毒各論1 ガス 【到達目標】 青酸ガス・亜硫酸ガスなど致命的なガス中毒の病態を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) ガスによる中毒の事例について予習しておく。 (復習) ガス中毒の特徴について確認復習しておく。</p> <p>第13講 中毒各論2 ボツリヌス中毒 【到達目標】 ボツリヌス菌を中心として外来性中毒を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 細菌による中毒症状を予習しておく。 (復習) ボツリヌス中毒の諸症状を復習しておく。</p> <p>第14講 総復習 【到達目標】 第1講から第13講の内容を復習して、知識の習得を確認する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) この授業で修得した内容をまとめておく。 (復習) 間違えた問題についてテキストを基に見直しをする。</p> <p>第15講 筆記試験試験・まとめ 【到達目標】 救急救命士として災害に必要な知識を有し、実践できることを目標とする。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：これまで行った講義のまとめを行う。 復習：筆記試験の問題を再度確認する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	(予習) 救急救命士標準テキストや参考書を読み、予習すること (120分)。 (復習) シラバスのとおり、各講を復習すること。(120分)
教科書	改定第10版救急救命士標準テキスト へるす出版
参考書	災害医学 南山堂 「災害医療ガイドブック」国際災害研究会(編)医学書院 「トリアージその意義と実際」山本保博・鶴飼卓(監) 荘道社
成績評価	100%評価の筆記試験で評価の対象とする。 講義出席の3/5以上を期末試験の受験資格とする。 ・架空出席が発覚した場合は、期末試験の受講が無効となり、再試験のみの扱いとする。
担当教員の基本情報	担当教員名：高階謙一郎 オフィスアワー：授業終了後1時間 担当教員名：竹上徹郎 オフィスアワー：授業終了後1時間 担当教員名：堀口真仁 オフィスアワー：授業終了後1時間 担当教員名：香村安建

	オフィスアワー：授業終了後1時間 担当教員名：的場裕恵 オフィスアワー：授業終了後1時間 担当教員名：河野智子 オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3 科目ナンバー：HE-4-EM5-RS-L-1
	各講師:DMAT統括医師の知識と経験を基に授業を行う。
	課題等に対し、フィードバックが必要な場合は次回の講義時に行う。

講義科目名称： 救急処置実習 A-IV

授業コード： 2E407

英文科目名称： Ambulance and hospital service emergency medical technician training A-IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	4	必修
担当教員			
久保 敦士、原 貴大、坪倉 寛明、福井 建皓			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>救急救命処置要領を習得し、即戦力となる実践型教育を本講義の主眼とする。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士の資格取得を目標とし、基本的な解剖学に基づいた救急医療に関する知識と技術を身に付ける。 ・人の命の尊さ、大切さを理解している。 ・社会人として規律・礼儀を重んじた団体行動ができる。 ・救急救命士国家資格取得を見据えた知識・技術を習得している。 ・チームワークやコミュニケーションスキルを向上させることができる。 ・自己評価や他者評価を通して、自己学習の能力を高めることができる。
授業計画	<p>第1～4講 オリエンテーション・プレエントリーチェック</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的と方法を理解している。 ・胸骨圧迫およびBVM換気の心肺蘇生法、静脈路確保、薬剤投与、気管挿管、気道デバイスの処置を正しく行える。 ・観察、基礎の知識および技術の結果をもとに、自己の強みと弱みを把握できる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的と方法について ・救急救命士の基礎の知識及び技能について ・学生同士および教員からのフィードバックを受ける。 <p>第5～8講 CPA（心肺停止）想定①</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心肺停止症例の隊活動を理解している。 ・除細動など比較的基本的な蘇生行為を実践できる。 ・気管挿管など比較的高度な特定行為のマネジメントを行うことができる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPA（心肺停止）の原因と対応法について ・学生同士および教員からのフィードバックを受ける。 <p>第9～12講 CPA想定②</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心肺停止症例の隊活動を理解している。 ・除細動など比較的基本的な蘇生行為を実践できる。 ・気管挿管など比較的高度な特定行為のマネジメントを行うことができる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPA（心肺停止）の原因と対応法について ・学生同士および教員からのフィードバックを受ける。 <p>第13～16講 CPA想定③</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心肺停止症例の隊活動を理解している。 ・除細動など比較的基本的な蘇生行為を実践できる。 ・気管挿管など比較的高度な特定行為のマネジメントを行うことができる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPA（心肺停止）の原因と対応法について ・学生同士および教員からのフィードバックを受ける。 <p>第17～20講 CPA想定個人スキルチェック</p> <p>【到達目標】</p> <p>CPA症例に対応するための知識および技能を備えている。</p> <p>【実習内容】</p> <p>CPA（心肺停止）の原因と対応法を評価する。</p> <p>第21～24講 総合想定ラリー</p> <p>【到達目標】</p> <p>教員や学生が症例を作成し、さまざまな救急活動をロールプレイングする。</p> <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自らが作成した症例で、救急活動を行う。 ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。 <p>第25～28講 外傷想定①</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷の原因と対応法を学ぶ。 ・外傷に対する隊活動を理解している。 ・高度な判断を要する外傷に対する隊活動を実践できる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。 <p>第29～32講 外傷想定②</p> <p>【到達目標】</p>

第33～36講	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷の原因と対応法を学ぶ。 ・外傷に対する隊活動を理解している。 ・高度な判断を要する外傷に対する隊活動を実践できる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。 <p>分娩介助・多州傷病者災害</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩時の母体と胎児の安全を確保するための介助技術を習得する。 ・正常分娩のプロセスを理解できる ・多数傷病者対応能力を向上できる ・多数傷病者事故現場でのトリアージを実施できる。 ・緊急時の優先順位付けと迅速な判断力を養える。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩の各段階での役割を理解する。 ・模擬分娩を用いた実践的な介助方法を学習する。 ・分娩時の緊急事態への対応を理解する。 ・多数傷病者シミュレーションを通じたトリアージの実践する。 ・チームでの協力とコミュニケーションスキルを向上する。
第37～40講	<p>外傷想定③</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷の原因と対応法を学ぶ。 ・外傷に対する隊活動を理解している。 ・高度な判断を要する外傷に対する隊活動を実践できる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。
第41～44講	<p>外傷症例個人スキルチェック</p> <p>【到達目標】</p> <p>外傷症例に対応するための知識および技能を備えている。</p> <p>【実習内容】</p> <p>外傷症例の原因と対応法を評価する。</p>
第45講	<p>記述テスト</p> <p>【到達目標】</p> <p>国家試験相当の外傷・心肺停止症例問題について、実習で学んだ知識を活かし正答出来るようになる。</p> <p>【講義内容】</p> <p>第1～44講の実習で学んだ知識を問い、評価する。</p>
第46～49講	<p>リエントリーチェック・総合想定①</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸骨圧迫およびBVM換気の心肺蘇生法、観察、静脈路確保、薬剤投与、気管挿管、気道デバイスなどの処置を正しく行える。 ・CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例など、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士の基礎の知識及び技能について ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。
第50～53講	<p>総合想定②</p> <p>【到達目標】</p> <p>CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例など、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。</p> <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。
第54～57講	<p>総合想定③</p> <p>【到達目標】</p> <p>CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例など、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。</p> <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。
第58～61講	<p>緊急消防援助隊の組織と運営</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急消防援助隊の組織構造と運営プロセスを理解できる。 ・災害時の緊急消防援助隊の役割と責任を学べる。 ・現場での対応スキルを学ぶことができる。 ・緊急事態における初期対応の手順を把握できる。 ・緊急消防援助隊の基本的な救命処置技術を習得できる。 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の緊急消防援助隊の活動を観察する。 ・緊急消防援助隊員との対話を通じて、現場での経験や知識を学ぶ。 ・緊急消防援助隊の模擬災害現場での対応を見学する。 ・緊急時のコミュニケーションとチームワークの重要性を学ぶ。
第62～65講	<p>総合想定③</p> <p>【到達目標】</p> <p>CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例など、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。</p> <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。

	<p>第66～69講 隊スキルチェック 【到達目標】 CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。 【実習内容】 ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。</p> <p>第70～73講 総合想定④ 【到達目標】 総合想定症例に対応するための知識および技能を備えている。 【実習内容】 ・総合想定実習で学んだ技能を、チームとして評価する。</p> <p>第74～77講 総合想定⑤ 【到達目標】 CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例など、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。 【実習内容】 ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。</p> <p>第78～81講 総合想定⑥ 【到達目標】 CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例など、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。 【実習内容】 ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。</p> <p>第82～85講 総合想定⑧ 【到達目標】 CPA、内因性疾患、外因性疾患、小児疾患、産婦人科疾患、特殊事例症例など、多様な症例に対する隊活動を理解し、それらに対する隊活動を実践できる。 【実習内容】 ・様々な症例の原因と対応法について ・救急活動後は、学生同士および教員からのフィードバックを受ける。</p> <p>第86～89講 個人スキルチェック 【到達目標】 総合想定症例に対応するための知識および技能を備えている。 【実習内容】 ・総合想定実習で学んだ技能を、個人として評価する。</p> <p>90講 記述テスト 【到達目標】 国家試験相当の症例問題について、実習で学んだ知識を活かし正答出来るようになる。 【実習内容】 第46～85講の実習で学んだ知識を問い、評価する。講の実習で学んだ知識を問い、評価する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに教科書の指定ページを読み、自習すること。 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当領域を熟読し、自分が理解できていることと、理解できていないことを整理する。（60分）。 （復習）実習後には、出された課題の小テストを提出する。小テストに解答し、誤答について学習することで定着をはかる。（60分）。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック PEMECガイドブック2023
参考書	改訂第5版 救急技術マニュアル 改訂第5版 救急隊員標準テキスト 救急蘇生法の指針2020 新訂版 救急処置スキルブック（上・下巻） 第2版 救急救命士のための想定訓練シナリオ集
成績評価	以下の3項目を成績評価の前提条件とする。 ・記述テストで60%以上の正答率を満たすこと。 ・提出物をすべて提出していること ・全てのスキルチェックに合格していること 最終評価： 知識・理解32%、思考・判断8%、関心・意欲8%、態度12%、技能・表現40%*詳細はルーブリックに示す。 *成績評価は原則、全ての授業に参加していることを条件とする。 *不正行為や不適切な態度・行為と認められた場合、成績評価の対象とならないことを注意する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 久保 敦士 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス:a_kubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 原 貴大 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス:t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名: 福井 建皓 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : @meiji-u.ac.jp</p>

	<p>オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 坪倉 寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	<p>【授業とディプロマポリシーとの関連】◎-5、○-2、○-4</p> <p>【科目コード】HE-4-EM12-RS-P-1</p>
	<p>久保敦士: 実務経験あり。消防組織の救急救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに救急医療について実践型教育を行う。</p> <p>原貴大: 実務経験あり。当該領域の大学・での教育経験、病院救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに救急医療について実践型教育を行う。</p> <p>坪倉 寛明: 実務経験あり。消防組織の救急救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに救急医療について実践型教育を行う。</p> <p>福井 建皓: 当該領域の大学・での教育経験を有する。その実務経験をもとに救急医療について実践型教育を行う。</p>
	<p>【授業形態】アクティブラーニング有:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定実習毎(ロールプレイ形式: 救急救命士の業務に関する事例や状況において、登場人物の役割を演じる。演じた後は、自分の考えや学びを述べる)の救急活動直後、学生同士および教員におけるフィードバックおよびディスカッション(救急救命士に関するテーマや問題について、グループで話し合い、内容や結果をまとめる)を即時に行う。 ・小テストについては、実習において解説を行い、知識の定着を図る。
	<p>Google classroomを活用した実習</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
福田 聖司、守岡大吾、福井建皓			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	<p>救急救命士国家試験の受験に向けて、国家試験出題基準であるブループリントに沿った内容について学修する。 本授業の目標は以下の通りである。</p> <p>①傷病者情報と症候から鑑別診断と臨床推論を交え、疾患を予測することができる。 ②傷病者情報を元に緊急度・重症度を判断することができる。 ③国家試験の受験に向けた総合的な判断力を養い、適切な臨床推論を遂行することができる。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション/国家試験問題 問題分析・演習1</p> <p>【到達目標】</p> <p>①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p> <p>第2講 国家試験問題 問題分析・演習2</p> <p>【到達目標】</p> <p>①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p> <p>第3講 国家試験問題 問題分析・演習3</p> <p>【到達目標】</p> <p>①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p> <p>第4講 国家試験問題 問題分析・演習4</p> <p>【到達目標】</p> <p>①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習5</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第5講	
第6講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習6</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第7講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習7</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第8講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習8</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第9講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習9</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>

第10講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習10</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第11講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習11</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第12講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習12</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第13講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習13</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p>
第14講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題分析・演習14</p> <p>【到達目標】 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>

第15講	<p>前期まとめ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期まとめ(前期末試験)の実施 ①国家試験問題の分析・演習を通して、出題される各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験に出題される問題の特徴と傾向を把握することができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>
第16講	<p>国家試験問題 問題演習1</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>
第17講	<p>国家試験問題 解説・関連分野復習1</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>
第18講	<p>国家試験問題 問題演習2</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>
第19講	<p>国家試験問題 解説・関連分野復習2</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>
第20講	<p>国家試験問題 問題演習3</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>

	<p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 解説・関連分野復習3</p>
第2 1 講	<p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 解説・関連分野復習3</p>
第2 2 講	<p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題演習4</p>
第2 3 講	<p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 解説・関連分野復習4</p>
第2 4 講	<p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題演習5</p>
第2 5 講	<p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 解説・関連分野復習5</p>

	<p>③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題演習6</p> <p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p>
第26講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題演習6</p> <p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p>
第27講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 解説・関連分野復習6</p> <p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p>
第28講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 問題演習7</p> <p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p>
第29講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 国家試験問題 解説・関連分野復習7</p> <p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p>
第30講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること 総復習・まとめ</p> <p>【到達目標】 ①国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ②各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ③国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ④総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p>

	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・国家試験模試の解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に授業資料および教科書の該当範囲を熟読すること</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読をすること。（所要時間30分） 復習：授業で使用した模擬試験問題や講義の内容を元に誤答分析を行う。（所要時間30分）
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	救急救命士国家試験対策問題集 ～これだけやれば大丈夫！～（文光堂）
成績評価	前期末試験50%、後期授業内試験50% ※前期末試験の得点が60%未満であった場合、指定課題を提出しなければならない。 指定課題が提出されなかった場合、後期試験結果に関わらず単位未認定とする。 ※前期及び後期の総合得点が60%未満であった場合は、再試験とする。 ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：福田 聖司 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：si_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：守岡 大吾 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：福井 建皓 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：k_fukui@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5 科目ナンバー：HE-4-EM18-RS-S-0</p> <p>福田聖司：消防機関での臨床経験をもとに授業を行う。 守岡大吾：医療機関での臨床経験をもとに授業を行う。 福井建皓：当該領域の大学での教育経験を有する。その経験をもとに講義を行う。</p> <p>Googleクラスルーム使用：有（資料配布）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
久保 敦士、原 貴大			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>救急救命士としての専門性を高め、国家試験に合格するための必要な知識と技能を学ぶとともに救急現場での対応や処置、病院での連携や報告、法律や倫理などについて理解を深める。また、就職活動に向けて必要な能力、方法および技術の向上を目的に学修する。</p> <p>本授業の目標</p> <p>①救急救命士の社会貢献と社会的責任について理解している。</p> <p>②症例を作成し、国家試験の症例問題に対応できる。</p> <p>③救急救命士としての専門性と臨床推論の能力を高め、疾患の予測ができる。</p> <p>④症候から推測される疾患や所見を理解し言語化し、病態について説明ができる。</p> <p>④各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。</p> <p>④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>⑥症例に基づいたディスカッションを行うことで、理論と実践の統合を図ることができる。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション・救急救命士の社会貢献および社会的責任#1</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的や内容を理解している。 ・救急救命士の社会貢献および社会的責任について理解している <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的や内容について ・救急救命士とは何か、どのような資格や能力が必要か、どのような業務をするかについて <p>(予習)</p> <p>救急救命士の社会貢献と社会的責任に関することをインターネットや書籍で調べる。自分の長期目標や短期目標などを考える。</p> <p>(復習)</p> <p>講義で学んだことや自己分析の方法や結果をまとめる。</p> <p>第2講 救急救命士のメンタルヘルス</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士のメンタルヘルスとして、自己理解、自己肯定感、自己効力感および自己カウンセリングについて理解する。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士のメンタルヘルスとして、自己理解、自己肯定感、自己効力感および自己カウンセリングなどについて ・自己カウンセリングの実践演習を行い、教員や他の学生からのフィードバックを受ける。 <p>(予習)</p> <p>自己カウンセリングの目的や種類、書き方のポイントや注意点についてインターネットや書籍で調べる。自分の強みや弱み、長期目標や短期目標などを考える。</p> <p>(復習)</p> <p>講義で学んだ自己分析の方法や結果をまとめる。</p> <p>第3講 救急救命士のチームワークおよびコミュニケーションの重要性#1</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院での救急救命士の役割を説明できる。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士のチームワークとコミュニケーションの問題についてグループワークやロールプレイで解決策を考える。 ・グループディスカッションの基本を理解し、自分の役割や立場に応じた対応ができる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士のチームワークとコミュニケーションの問題について ・グループディスカッションの基本を理解し、自分の役割や立場について ・グループで与えられたテーマについて討議し、ロールプレイを行う。教員や他の学生からのフィードバックを受ける。 <p>(予習)</p> <p>救急救命士のチームワークとコミュニケーションの問題、グループディスカッションの目的や種類、流れやポイント、評価基準などについてインターネットや書籍で調べる。自分の意見や考えをまとめる。</p> <p>(復習)</p> <p>講義で行ったグループディスカッションを振り返る。自分の発言や態度、他の学生の発言や態度について感想や反省を振り返る。</p> <p>第4講 救急救命士の職場環境と役割の概要</p> <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院での救急救命士の業務内容や職場環境、チーム医療やコミュニケーションの重要性などについて <p>(予習)</p> <p>病院での救急救命士の業務内容や職場環境、チーム医療やコミュニケーションの重要性などについてインターネットや書籍で調べる。</p> <p>(復習)</p> <p>講義で学んだ病院での救急救命士の役割を復習する。</p>

第5講	<p>救急救命士の社会貢献および社会的責任 #1</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献と社会的責任に関する自分の考えを発表できる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献および社会的責任に関わるなかでの自己理解について 自他カウンセリングの実践演習を行う。学生同士の役割を交代しながら、インタビューを行う。 <p>(予習)</p> <p>救急救命士の社会貢献と社会的責任についてインターネットや書籍で調べる。自分の強みや弱みを整理する。</p> <p>(復習)</p> <p>自分の発言や態度、他の学生の発言や態度について感想や反省を振り返る。</p>
第6講	<p>救急救命士の社会貢献および社会的責任 #2</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献と社会的責任に関する自分の考えを発表できる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献および社会的責任に関わるなかでの自己理解について 自他カウンセリングの実践演習を行う。学生同士の役割を交代しながら、インタビューを行う。 <p>(予習)</p> <p>救急救命士の社会貢献と社会的責任についてインターネットや書籍で調べる。自分の強みや弱みを整理する。</p> <p>(復習)</p> <p>自分の発言や態度、他の学生の発言や態度について感想や反省を振り返る。</p>
第7講	<p>救急救命士の社会貢献および社会的責任 #3</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献と社会的責任に関する自分の考えを発表できる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献および社会的責任に関わりの中での自己理解について 自他カウンセリングの実践演習を行う。学生同士の役割を交代しながら、インタビューを行う。 <p>(予習)</p> <p>救急救命士の社会貢献と社会的責任についてインターネットや書籍で調べる。自分の強みや弱みを整理する。</p> <p>(復習)</p> <p>自分の発言や態度、他の学生の発言や態度について感想や反省を振り返る。</p>
第8講	<p>救急救命士の社会貢献および社会的責任 #4</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献および社会的責任を理解し、自分の考えを言語化することができる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献および社会的責任について <p>(予習)</p> <p>考えを言語化する目的や種類、書き方のポイントや注意点、文章構成の方法などについてインターネットや書籍で調べる。自分の考えや意見をまとめる。</p> <p>(復習)</p> <p>講義で学んだ言語化の方法を復習する。自分の考えや意見を整理する。</p>
第9講	<p>救急救命士の社会貢献および社会的責任 #5</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献および社会責任とは何かについて説明できる。 救急救命士の社会貢献および社会的責任の具体的な事例について理解している。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士として就職した先輩の体験談を聞く。救急救命士としての仕事のやりがいや苦勞、就職活動のアドバイスなどについて質問する。 <p>(予習)</p> <p>救急救命士として就職した先輩の体験談を聞くために、自分が知りたいことや聞きたいことを考える。自分の就職活動の進捗や課題などを整理する。</p> <p>(復習)</p> <p>講義で聞いた先輩の体験談を振り返る。先輩からのアドバイスや情報をまとめる。自分の就職活動の進捗や課題などを記振り返る。</p>
第10講	<p>救急救命士の社会貢献および社会的責任 #7</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献および社会責任とは何かについて説明できる。 救急救命士の社会貢献および社会的責任の具体的な事例について理解している。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士として就職した先輩の体験談を聞く。救急救命士としての仕事のやりがいや苦勞、就職活動のアドバイスなどについて質問する。 <p>(予習)</p> <p>救急救命士として就職した先輩の体験談を聞くために、自分が知りたいことや聞きたいことを考える。自分の就職活動の進捗や課題などを整理する。</p> <p>(復習)</p> <p>講義で聞いた先輩の体験談を振り返る。先輩からのアドバイスや情報をまとめる。自分の就職活動の進捗や課題などを記振り返る。</p>
第11講	<p>救急救命士の社会貢献に関わる教養</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献を認識し、自分で考えを答えることができる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の社会貢献に関わるなかでの自己学習について 実際の試験形式に基づいた練習問題に関するグループディスカッション、学習の進捗に応じた個別の指導とアドバイス <p>(予習)</p> <p>救急救命士の社会貢献と社会的責任についてインターネットや書籍で調べる。自分の強みや弱みを整理する。</p>

第12講	<p>(復習) 講義で学んだ内容を振り返り、自分の強みおよび弱みをまとめる。 救急救命士のチームワークおよびコミュニケーションの重要性#2</p> <p>【到達目標】 ・救急救命士のチームワークとコミュニケーションの問題についてグループワークやロールプレイで解決策を考える。 ・グループディスカッションの基本を理解し、自分の役割や立場に応じた対応ができる。</p> <p>【講義内容】 ・救急救命士のチームワークとコミュニケーションの問題について ・グループディスカッションの基本を理解し、自分の役割や立場について ・グループで与えられたテーマについて討議し、ロールプレイを行う。教員や他の学生からのフィードバックを受ける。</p> <p>(予習) 救急救命士のチームワークとコミュニケーションの問題、グループディスカッションの目的や種類、流れやポイント、評価基準などについてインターネットや書籍で調べる。自分の意見や考えをまとめる。</p>
第13講	<p>(復習) 講義で行ったグループディスカッションを振り返る。自分の発言や態度、他の学生の発言や態度について感想や反省を振り返る。 救急症例：総合的な問題</p> <p>【到達目標】 救急現場での評価や処置の手順を言語化できる。</p> <p>【講義内容】 救急現場での症例を学生自身で作成する。救急救命士としての対応や処置、病院への搬送や引き継ぎなどを考える。</p> <p>(予習) 救急現場での症例作成の方法やポイントについてインターネットやテキストで調べる。自分が遭遇した場合の救急現場での症例や興味のある症例を考える。</p>
第14講	<p>(復習) 講義で作成した症例を見直す。教員や他の学生からのフィードバックを振り返る。 国家試験の症例問題作成1</p> <p>【到達目標】 国家試験の症例問題に対応できる。</p> <p>【講義内容】 国家試験の症例問題を学生自身で作成する。救急救命士としての知識や技能を問う問題を考える。</p> <p>(予習) 国家試験の症例問題の目的や種類、作成のポイントや注意点についてインターネットや書籍で調べる。自分が作成したい症例問題のテーマや難易度を考える。</p>
第15講	<p>(復習) 講義で作成した症例問題を見直す。教員や他の学生からのフィードバックを振り返る。 国家試験の症例問題作成2</p> <p>【到達目標】 国家試験の症例問題に対応できる。</p> <p>【講義内容】 国家試験の症例問題を学生自身で作成する。救急救命士としての知識や技能を問う問題を考える。</p> <p>(予習) 国家試験の症例問題の目的や種類、作成のポイントや注意点についてインターネットや書籍で調べる。自分が作成したい症例問題のテーマや難易度を考える。</p>
第16講	<p>(復習) 講義で作成した症例問題を見直す。教員や他の学生からのフィードバックを振り返る。 国内外の救急医療事情①</p> <p>【到達目標】 「救命の為の10プログラム」を元に国内外の救急医療事情を理解する。</p> <p>【講義内容】 「救命の為の10プログラム」を学び、本邦における改善点を検討する。</p> <p>(予習) 「救命の為の10プログラム」を熟読し、疑問点をまとめる。</p>
第17講	<p>授業中の検討事項について、発表準備を行う。 国内外の救急医療事情①</p> <p>【到達目標】 「救命の為の10プログラム」を元に国内外の救急医療事情を理解する。</p> <p>【講義内容】 「救命の為の10プログラム」から1プログラムを選び、本邦における改善点を発表する。</p> <p>(予習) 「救命の為の10プログラム」を元に、発表準備を行う。</p>
第18講	<p>授業中のフィードバックを元に考えを整理する。 国家試験対策：救急救命士国家試験とは？～国家試験に向けた勉強法～</p> <p>【到達目標】 ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。</p>

第19講	<p>国家試験対策：救急医療体制</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。</p>
第20講	<p>国家試験対策：人体の構造と機能</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。</p>
第21講	<p>国家試験対策：観察総論①</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。</p>
第22講	<p>国家試験対策：観察総論②</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。</p>
第23講	<p>国家試験対策：救急救命処置</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。</p>
第24講	<p>国家試験対策：呼吸不全</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。</p>
第25講	<p>国家試験対策：心不全</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。 <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p>

	<p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。 国家試験対策：ショック</p> <p>【到達目標】 ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。 国家試験対策：重症脳障害</p> <p>【到達目標】 ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。 国家試験対策：意識障害</p> <p>【到達目標】 ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。 国家試験対策：外傷</p> <p>【到達目標】 ①学生主導のディスカッションを通じて、臨床推論の深化できる。 ②国家試験の問題演習を通して、各疾患や外傷の定義や概念を説明できる。 ③各疾患の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度について説明できる。 ④国家試験の問題演習を通して、傷病者に対する必要な処置や病院選定について説明できる。 ⑤総合的な問題演習を通して、国家試験の合格基準を達成しうる知識を身につけることができる。</p> <p>(予習) 救急救命士標準テキストの指定範囲を熟読し、疑問点をまとめる。</p> <p>(復習) 授業中のディスカッションを元に、疑問点を整理する。 国家試験対策まとめ・授業内試験</p> <p>【到達目標】 ①本科目で学んだことについて整理する。 ②救急救命士国家試験合格レベルの知識を身につける。</p> <p>(予習) 本講義の全範囲を振り返る。</p> <p>(復習) なし</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読、読解および要約し、理解できた点と、理解できなかった点を整理する。（所要時間30分） 復習：授業で使用した模擬試験問題の内容を元に誤答分析を行う。（所要時間30分）
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	それぞれトピックによって参考書や参考資料が異なることから授業中に適宜紹介する。
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・受講姿勢、好奇心および参加度（50%）：講義への準備、遅刻・早退の有無、講義中の態度などを総合的に評価する。講義での発言や質問、グループワークやディスカッションへの積極的な参加、課題の提出状況などを総合的に評価する。 ・筆記試験（50%）：期末に行う筆記試験で、講義で学んだ内容の理解度や応用力を評価する。 <p>*注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：久保敦士 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：a_kubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：9：00-17：30</p> <p>担当教員名：原 貴大 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：9：00-17：30</p>

備考	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2、○-5 科目ナンバー：HE-4-EM19-RS-S-0
	久保敦士：実務経験あり。消防組織の救急救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに救急医療について講義を行う。 原貴大：実務経験あり。当該領域の大学・での教育経験、病院救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもちに救急医療について講義を行う。
	<p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニング有：</p> <ul style="list-style-type: none"> - プレゼンテーション：救急救命士に関する自分の意見や考えを発表する。発表後には、他の学生および教員からの質問やコメントに答える。 - ディスカッション：救急救命士に関するテーマや問題について、グループで話し合う。話し合いの内容や結果をまとめて、全体に共有する。 - ロールプレイ：救急救命士の業務に関する事例や状況において、登場人物の役割を演じる。演じた後には、自分の考えや学びを述べる。 - リアクションペーパー：講義に関する内容や、講義で行った活動の内容に対して、自分の感想や考察を書く。リアクションペーパーの内容を確認し、できるだけ早く答える。全体で共通認識を持つ必要であれば、個人が特定されないことを前提に、全体に共有する。
	Google classroomを活用した演習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療に携わる大学生として、スポーツにおけるパフォーマンスを科学的に分析し説明するための知見および技術を習得することを授業目標とする。		
授業計画	第1回	スポーツバイオメカニクスとは 【到達目標】 ・しなやかな動作の説明できる。 ・スキルについて説明できる。 ・反射と随意運動の説明できる。 ・ベクトルの計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	動きを数値化する並進運動：速度，加速度，移動距離 【到達目標】 ・立位，歩行，走行の説明できる。 ・速度，加速度，移動距離の計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	並進運動の力学：ニュートンの運動方程式，力積，着地時の衝撃吸収 【到達目標】 ・テコの原理について説明できる。 ・ニュートンの法則の説明ができる。 ・力積の計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	回転運動の力学：角速度，角加速度，角変位，ハンマー投げ 【到達目標】 ・角速度，角加速度，角変位の計算ができる。 ・関節トルク，慣性モーメント，（遠心力）の説明ができる。 ・変化球の正体（マグヌス力）の説明ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	流体力学：風をとらえる（抵抗，揚力），水のねばりけ（粘性），摩擦 【到達目標】 ・風をとらえる抵抗と揚力の説明ができる。 ・水のねばりけ粘性の説明ができる。 ・摩擦の説明ができる。 【授業形態】 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	効果的な筋力トレーニングについて 【到達目標】 ・筋腱複合体の説明ができる。 ・効率的なトレーニングの説明できる。 【授業形態】 ・対面形式で行う。日時は別途指定する。 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	試験及びまとめ 【到達目標】 ・全体的な概要を説明することができる。 【授業形態】 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	総括 【到達目標】 ・講義全体を振り返り，スポーツバイオメカニクスを総合的に判断し説明することができる。 【授業形態】 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義の項目に対して参考書を読み予習（約130分程度）すること。講義の後，配布プリントや参考書を用い復習（約130分程度）すること		
教科書	特に指定しない。		
参考書	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 金子 公有 杏林書院 スポーツ動作の科学—バイオメカニクスで読み解く 深代 千之 東京大学出版会		
成績評価	試験（100%）により評価する。		

担当教員の基本情報	担当教員名 : 赤澤 淳 研究室 : 5号館3階研究室 オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい。
備考	DPとの関連「◎-1, ○-3」 科目コード「HE-3-HA1-ES-L-0」
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴(20~50分程度)と課題(30~80分程度)で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、「健康運動実践指導者資格取得」を目標とする。生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、健康運動指導に必要な知識と有酸素運動の特性を理解した上で、水中運動の基本的な技術を習得し、仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として、実践を中心とした授業を展開する。すなわち、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。また、他者の健康管理と健康指導に従事しようとする医療人に求められている、自分のからだの仕組みを知り自身の健康に対する意識を常に高める習慣づくりとは何かを体得する。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 講義と実習 水中運動とは何か事前に調べ（予習）、本時内容をまとめる（復習）。</p> <p>第2講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動① [到達目標] 水の特性（浮力・水抵抗・水圧・水温）について解説できるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第3講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動② [到達目標] 水中運動の基本姿勢やテンポ、動作を習得し、リズムカルに動けるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第4講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動③ [到達目標] 前歩き・横歩き・後ろ歩き・回旋歩きを習得し教示できるようにする。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第5講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動① [到達目標] 水中レジスタンス運動の特性・目的・内容について理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第6講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動② [到達目標] 課題とした基本姿勢・動作確認に習熟し、指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第7講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動③ [到達目標] 運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解し、解説できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第8講 健康づくり運動の実際 水中運動および水中レジスタンス運動 [到達目標] 水中運動・水中レジスタンス運動のグループワークを習熟し、水の抵抗を利用した筋の強化運動のグループワークを指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第9講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導① [到達目標] 「規定の課題運動」を、グループワークにて指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第10講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導② [到達目標] グループワーク指導で、キューイング法とステップ動作指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第11講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導③ [到達目標] グループワーク指導で、課題ステップ動作を実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第12講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導④ [到達目標] 運動プログラム作成・実践指導：プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実演できる能力を身につける。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p> <p>第13講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑤ [到達目標] 対象者の健康状態に即した運動プログラム作成・実践指導を、プールに於いて実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>

	<p>実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑥ [到達目標] 課題運動の内容が説明でき、実践指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑦ [到達目標]（実習のまとめ）。 第1講～第14講を 総括した 実践指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各実技タイトルを事前学習（予習30分）し、実技で学習した内容をまとめておく（復習30分）。資料を集め、水中運動の要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス: m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 授業前後、木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、体育館シューズ。プールで実施する時は、水着の準備をする。
	② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3 関心・意欲，○-4態度。
	④ 科目ナンバー：HE-3-HA15-ES-P-0。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ全般に関する認識を深め、各世代におけるスポーツ技術向上への手順や方法を身につけ、将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることを目標とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツとは：概念とその歴史について</p> <p>[到達目標] 「スポーツ」を正しく理解して指導に当たる重要性を認識することができる。 予習：シラバスを通して第1講～第15講までの内容を把握する。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	2回目	<p>運動と健康</p> <p>[到達目標] 健康と運動実践、必要とされる指導者のあるべき姿を理解することができる。 予習：それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	3回目	<p>スポーツプログラマーの役割と、フィットネス・エクササイズ・体力等の基本的な理念について</p> <p>[到達目標] スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解できる。 予習：「スポーツプログラマー」の在り方を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	4回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（1）</p> <p>[到達目標] 体力とは？体力の分類と各トレーニング実施上の留意事項を理解することができる。 予習：「体力」区分とトレーニング法を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	5回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（2）</p> <p>[到達目標] マシントレーニング、ヘルスエクササイズの目的や方法を理解することができる。 予習：マシントレーニングとはどういうものか事前に調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	6回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（1）</p> <p>[到達目標] 体調のチェックの重要性・意義が理解できる。 予習：体調チェックの具体的な内容を十分理解しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	7回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（2）</p> <p>[到達目標] 準備・整理運動の重要性とその効果や内容を理解することができる。 予習：準備・整理運動について調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	8回目	<p>フィットネス・プログラムの実際（1）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜子供1＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	9回目	<p>フィットネスプログラムの実際（2）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜子供2＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	10回目	<p>フィットネスプログラムの実際（3）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜中年＞＜高齢者1＞ 予習：中・高齢者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	11回目	<p>フィットネスプログラムの実際（4）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜高齢者2＞＜女性1＞ 予習：女性のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	12回目	<p>フィットネスプログラムの実際（5）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜女性2＞＜障がい者＞ 予習：障がい者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	

	13回目	スポーツ相談の実際 [到達目標] スポーツ相談の意義・留意点等を理解することができる。 予習:スポーツ相談の留意事項を調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)
	14回目	体力測定と評価 [到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知ることができる。 予習:体力測定結果の処理方法について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)
	第15講	総括(定期試験) 到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 予習:第1講～第14講をまとめて理解しておく。(120分) 復習:定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照し全体を復習する(120分)
授業時間外の学習 (準備学習等)について	テキストを中心として、「授業の内容等」に関連の深い以下の分野の本を読むこと ・発育発達学 ・運動生理学 ・身体運動学	
教科書	毎時プリント配布。	
参考書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	
成績評価	出席状況や受講態度、試験により、総合的に評価する。 定期試験60%、授業時の小テスト20%、努力・意欲の度合い20%で総合評価する。	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 オフィスアワー : 講義終了後 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。	
備考	①科目ナンバー HS-9-HA24 ②この授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-1(知識・理解) ○-2(思考・判断) ③アクティブラーニング(課題を主体的に解決する力(思考・判断)を育てる内容を実施。	

講義科目名称： スポーツと保健栄養学

授業コード： 2E412

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択
担当教員			
桑原 彩			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	スポーツとの「出会い」の時期となるジュニア期は、その後のスポーツライフスタイルや大人になってからの生活習慣を左右する大切な時期となる。それだけにジュニアスポーツ指導員に求められる役割や理解しておくべき知識や事柄は多岐にわたる。 本授業では、テキストを用いて「スポーツ好き」の子ども達を増やし、将来アスリートとなるための土台づくりを行うために、指導の基本となる知識を学んでいく。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標] 子どもたちの運動・スポーツ実施状況、体力・運動能力の現状と課題、発育発達に応じた適切な運動・スポーツ活動の重要性について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第2講	概論1 スポーツ指導者とは [到達目標] スポーツの意義と価値についてその役割と、ジュニアスポーツ指導員に求められる資質について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第3講	指導者の心構えと視点 [到達目標] 指導者のコミュニケーションスキル、ジュニア期のコーチングについて理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第4講	アスリートの発掘と育成 [到達目標] トップアスリートの育成指導実践について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第5講	トレーニング論1 [到達目標] 体力の概念について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第6講	トレーニング論2 [到達目標] トレーニングの原理と原則、処方について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第7講	スポーツ指導者に必要な医学的知識1 [到達目標] スポーツと健康について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第8講	スポーツ指導者に必要な医学的知識2 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気(内科)について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第9講	スポーツ指導者に必要な医学的知識3 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気(外科)について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第10講	スポーツ指導者に必要な医学的知識4 [到達目標] スポーツ活動中に多いケガや病気の救急処置について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第11講	指導計画と安全管理 [到達目標] スポーツ指導計画の重要性と立案について実践理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第12講	ジュニア期のスポーツ [到達目標] 発育発達期の身体的特徴と心理的特徴について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第13講	発育発達期のプログラム [到達目標] 発育発達に応じた指導について理解できる。 アクティブラーニングの有無：有	
	第14講	地域のスポーツ振興と行政のかかわり [到達目標]	

	我が国のスポーツ行政のねらいとしくみについて理解できる。 アクティブラーニングの有無：有 検定試験について [到達目標] 公認ジュニアスポーツ指導員専門科目検定試験の実践経験ができる。 アクティブラーニングの有無：有
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義のタイトルを事前学習(予習70分)するとともに、受講後に学習したことを配布したプリントをもとにまとめる(復習70分)。
教科書	特定の教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
参考書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
成績評価	出席状況、小テスト、授業態度で総合評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名： 池本 敬博 研究室： 体育館健康スポーツ学ユニット メールアドレス： iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 授業の前後
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連； ◎-1 ○-2
	HE-4-HA-ES-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅱ」では、「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ」で学んだ内容を基に実際にどのように指導すればよいのかを実技を通して学んでいく。</p> <p>併せて、指導に際しての事前準備、指導計画の立案、指導実践、指導内容について学び、自分自身の指導の評価と改善、応用実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>また、総まとめとして、実際の指導現場（ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等）で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験する（体験実習）。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、授業（実習）の進め方について [到達目標] 授業（実習）のすすめ方を理解する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第2講 発達段階に応じた運動遊びについて（1） [到達目標] 幼少期における遊びについて理解できる。 けん玉、めんこ使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第3講 発達段階に応じた運動遊びについて（2） [到達目標] 発達段階に応じた運動遊びが理解できる。 木ゴマ、タオル、風船使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第4講 発達段階に応じた運動遊びについて（3） [到達目標] 発達段階に応じたスポーツの選択ができる。 おにごっこ、ソフトテニスボール使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第5講 スポーツ指導における運動遊びの活用について [到達目標] スポーツ指導における運動遊びの活用場面、活用方法について理解できる。 マット運動、跳び箱、バッティング系。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第6講 アイスブレイクの必要性について [到達目標] アイスブレイクの必要性について理解できる。 ペアでのじゃんけん系 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第7講 スポーツの必要性について（1） [到達目標] スポーツの指導現場で使える具体例を体験することができる。 ソフトハンドボール、ミニハードル使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第8講 スポーツの必要性について（2） [到達目標] スポーツの指導現場で使える具体例を体験することができる。 卓球、バドミントン使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第9講 指導プログラムの作成について [到達目標] 指導プログラムの作成手順、留意点を理解し指導プログラムを作成できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第10講 プログラムの指導実践について [到達目標] 指導実践を行う際の留意点（ねらい、観察、働きかけ）を理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第11講 指導内容の評価方法について [到達目標] 指導内容の振り返り手順について理解し説明できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第12講 ジュニアスポーツ指導体験実習（1） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。 アクティブラーニングの有無：あり</p>

	<p>第13講 スポーツ実践 (1) [到達目標] ジュニア期に必要とされるスポーツ実践ができる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第14講 スポーツ実践 (2) [到達目標] ジュニア期に必要とされるスポーツ実践ができる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第15講 まとめ [到達目標] 第2講から第14講までの内容を理解し、資格取得に必要な知識を確認できる。。 アクティブラーニングの有無：あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義のタイトルに関して事前学習（予習45分）するとともに、受講後に学習したことを配布したプリントをもとにまとめる（復習45分）。
教科書	特定の教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
参考書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
成績評価	出席状況及び取り組み姿勢等で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館 健康スポーツ学ユニット メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業の前後
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連；◎-1、○-2
	HE-4-HA-ES-S-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
木村隆彦（主）、上久保敦、諫山憲司、坪倉寛明、久保敦士、原貴大、千田いずみ、福田聖司、山下歩、守岡大吾、村上龍、矢部真弓、金川陽亮、福井建皓			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習／ブレンディッド型	
添付ファイル			
【2024年度新刊】卒業研究の手引き.pdf		卒業研究を進めるための決まり事です。	

授業目標	卒業研究Ⅰで担当教員から承認を得た研究課題について、論文を作成することができる。 ゼミ単位で各担当教員指導の下、調査・研究・論文作成を行うことができる。
授業計画	ゼミ ゼミ単位での各担当教員指導の下、論文を作成する。 【到達目標】 卒業研究Ⅰで立案した研究課題についての論文を完成させることができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（ゼミ形式） 【備考】 各担当教員が2単位(60時間)に相当する時間数の論文指導を行う。 6月7日までに論文を提出すること。 【ゼミ担当者】 A：坪倉寛明 B：原貴大 C：諫山憲司 D：上久保敦 E：福田聖司 F：木村隆彦 G：久保敦士 H：山下歩
授業時間外の学習 (準備学習等)について	卒業研究Ⅰ立案した研究計画を再度精査し、論文作成の計画を立て、実践する。 予習：授業で必要となる事項をあらかじめ調査すること（30分） 復習：授業で得た知見に基づき、論文執筆を進めること（30分）
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	理科系の作文技術（中松新書）
成績評価	ループリックを用いて総合評価を行う。 卒業研究に取り組む態度：20%、論文構成：15%、文献検索と引用要領：15%、考察展開：20%、表現の方法：15%、独創性・新規性：15%
担当教員の基本情報	<p>単位責任教員名：木村隆彦 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：上久保敦 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：a_kamikubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：諫山憲司 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：坪倉寛明 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：久保敦士 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：a_kubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：原貴大 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：福田聖司 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：s_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：山下歩 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：a_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>教員名：千田いずみ</p>

	<p>研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：i_chida@meiji-u.ac.jp</p> <p>教員名：守岡大吾 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：d_morioka@meiji-u.ac.jp</p> <p>教員名：村上龍 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：r_murakami@meiji-u.ac.jp</p> <p>教員名：矢部真弓 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：m_yabe@meiji-u.ac.jp</p> <p>教員名：金川陽亮 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：y_kanagawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>教員名：福井建皓 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：</p>
備考	課題のフィードバック：各ゼミの中で論文の進捗に合わせ、担当教員が口頭で行う。
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2, ○-3</p>
	<p>木村隆彦：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 上久保敦：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 坪倉寛明：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 久保敦士：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 原貴大：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 福田聖司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 山下歩：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 千田いずみ：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 守岡大吾：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 村上龍：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 矢部真弓：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 金川陽亮：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 福井建皓：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>科目ナンバー HE-4-GR2-RS-S-0</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	2	選択
担当教員			
和田 伸一			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この学科は公務員試験を考えている学生が大半であろう。よって、社会科学の知識を取得させることにより、公務員試験の合格を目指すことに主眼が置かれる。		
授業計画	第1講	民主政治の基本原理 [到達目標] 民主主義を理解し、説明できる。	
	第2講	基本的人権 [到達目標] 基本的人権の内容を理解し、説明できる。	
	第3講	比較政治制度 [到達目標] 各国の政治形態を理解し、説明できる。	
	第4講	平和主義 [到達目標] 平和について理解し、説明できる。	
	第5講	国会 [到達目標] 国会について理解し、説明できる。	
	第6講	内閣 [到達目標] 内閣について理解し、説明できる。	
	第7講	裁判所 [到達目標] 裁判所について理解し、説明できる。	
	第8講	地方自治 [到達目標] 地方自治について理解し、説明できる。	
	第9講	政党政治 [到達目標] 政党政治について理解し、説明できる。	
	第10講	選挙制度 [到達目標] 選挙について理解し、説明できる。	
	第11講	マスコミ [到達目標] 国民の政治参加について、マスコミについて理解し、説明できる。	
	第12講	政治思想 [到達目標] ホッブス、ロック、ルソーについて理解し、説明できる。	
	第13講	国際政治 1 [到達目標] 国際連盟と国際連合について理解し、説明できる。	
	第14講	国際政治 2 [到達目標] 国際連盟と国際連合について理解し、説明できる。	
	第15講	国際政治 3 [到達目標] 冷戦から冷戦終結について理解し、説明できる。	
	第16講	資本主義経済 [到達目標] 資本主義経済とは何かを理解し、説明できる。	
	第17講	資本主義と社会主義 [到達目標] 資本主義と社会主義の違いは何か理解し、説明できる。	
	第18講	国民所得と経済成長 [到達目標] 国民所得とは何か理解し、説明できる。	
	第19講	戦後の日本経済 1 [到達目標] 日本経済を歴史的に理解し、説明できる。	
	第20講	戦後の日本経済 2 [到達目標] 日本経済を歴史的に理解し、説明できる。	
	第21講	通貨と金融のはたらき [到達目標] お金について理解し、説明できる。	
	第22講	租税 [到達目標] 税金について理解し、説明できる。	
	第23講	財政のはたらき [到達目標] 国の財政について理解し、説明できる。	
	第24講	労働問題	

	<p>第25講 社会保障 1 [到達目標] 労働問題と労働運動について理解し、説明できる。</p> <p>第26講 社会保障 2 [到達目標] 社会保障の歴史について理解し、説明できる。</p> <p>第27講 現代日本社会について [到達目標] 現代の社会保障の問題について理解し、説明できる。</p> <p>第28講 これからの日本社会について [到達目標] 日本社会をめぐる問題について理解し、説明できる。</p> <p>第29講 日本を取り巻く世界のゆくえ [到達目標] グローバル世界の中で、台頭する中国・北朝鮮・東アジアは、世界が注目する場となり、世界のゆくえを揺るがす状況を考える。</p> <p>第30講 まとめ（評価含む） [到達目標] 社会科学の基礎を理解し、説明できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習：各授業で指定される範囲の予習を行う。（45分程度）</p> <p>復習：授業で行った範囲の問題演習を行う。（45分程度）</p>
教科書	<p>指定なし。</p> <p>適宜、授業プリントを使用。</p>
参考書	特になし
成績評価	レポート（20%）、試験（80%）による総合評価
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 和田 伸一</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス : wdashinichi@ezweb.ne.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
竹市 麻奈美			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである「手話言語」を学ぶことを中心に、聴覚障がい者の文化や生活の様子、福祉制度や課題等について理解を深める。 ・手話言語について必要性を理解し、簡単な日常会話程度の手話技能を段階的に習得する。 		
授業計画	第1講	ガイダンス／【講義】聴覚障害の基礎知識①／【実技】①あいさつ [到達目標] 聴覚障がい者とのコミュニケーション方法について理解する／基本あいさつの表現を習得する [備考]	
	第2講	【実技】②名前・指文字 [到達目標] 自分の名前やいろいろな名前の表現を習得する [備考]	
	第3講	【実技】③数 [到達目標] 時刻・年齢・日にち等に関わる数字の表現を習得する [備考]	
	第4講	【実技】④家族 [到達目標] 家族に関わる表現を習得する [備考]	
	第5講	【実技】⑤外出 [到達目標] 場所・移動手段等に関わる表現を習得する [備考]	
	第6講	【実技】⑥趣味 [到達目標] 趣味に関わる表現を習得する／気持ち（好き・嫌い・得意・苦手）の表現を習得する [備考]	
	第7講	【講義】手話の基礎知識／【実技】⑦学校 [到達目標] 日本の手話の歴史について理解する／学校に関わる表現を習得する [備考]	
	第8講	【実技】⑧1日 [到達目標] 1日の過ごし方に関わる表現を習得する [備考]	
	第9講	【実技】①～⑧まとめ [到達目標] 今まで学んだ疑問詞を使って会話ができる [備考]	
	第10講	【講義】聴覚障がい者の生活（ろう講師） [到達目標] きこえない人の日常生活における課題とその対応方法について理解を深める [備考]	
	第11講	【講義】聴覚障害の基礎知識②／【実技】⑨体調・病気 [到達目標] 聞こえのサポート、福祉制度における支援を理解する／体調・病気に関わる表現を習得する [備考]	
	第12講	【実技】⑩SNS・インターネット [到達目標] SNS・インターネットに関わる表現を習得する [備考]	
	第13講	【実技】⑪災害 [到達目標] 災害に関する手話を習得し 聴覚障がい者と防災について考える [備考]	
	第14講	【実技】①～⑪まとめ [到達目標] 今まで学んだことを活用して自己紹介ができる／疑問詞を使ってたずね合うことができる [備考]	
	第15講	聴覚障がい者とのフリーディスカッション	

	<p>[到達目標] 今まで学んだ手話表現を会話の中で実践し 自分の意見を伝えたり相手の話を理解したりすることができる [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	学んだ手話表現については 必ず復習して次回の授業に備える
教科書	授業テーマに応じたスライドを使用
参考書	関連書籍をその都度紹介
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び毎回の振り返りレポート 30% ・授業内実技課題 50% ・指定課題のレポート提出 20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 竹市麻奈美 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
深田 實江子			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護の本質と看護活動の実際を学ぶ 看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概要と概念構造について学習し「看護学」に対する基礎的知識を得る</p> <p>【到達目標】 看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概念と、看護援助の本質について理解できる 医療専門職としての看護の役割と看護活動の実際が理解できる 医療専門職との協働の仕方について考察を深めることができる</p>
授業計画	<p>1回目 導入／オリエンテーション [到達目標] ・救急救命学科にあつて看護学概論を学ぶ意義がわかる ・DVD「九死に一生」の視聴を通して、医療チームとしての医師・看護師・救急救命士等の役割を理解する [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>2回目 看護の本質 [到達目標] ・マーガレット・ミードの論文の読み合わせとディスカッションに参加することができる ・看護とは何か、看護の本質について考えることができる [授業形態] 講義形式+読み合わせ+ディスカッション</p> <p>3回目 看護の変遷（日本の看護・アメリカの看護） [到達目標] ・看護の歴史的発展過程と社会背景との関連がわかる ・看護を歴史・教育・制度の側面から理解することができる [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>4回目 変化している看護 [到達目標] ・疾患中心からヘルスプロモーションへ、施設内看護から地域基盤の看護へと変化する看護と、継続の必要性が分かる ・ノーマライゼーションの理念を理解することができる [授業形態] 講義形式</p> <p>5回目 看護実践の概念 [到達目標] ・F. ナイチンゲールと、V. ヘンダーソンについて知り、看護実践の概念が理解できる ・看護実践における看護技術の特徴を理解する ・看護技術における安全性・安楽性・自立支援を理解する [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>6回目 看護の機能と役割 [到達目標] ・F. ナイチンゲールと、V. ヘンダーソンについて知り、看護実践の概念が理解できる ・看護実践における看護技術の特徴を理解する ・看護技術における安全性・安楽性・自立支援を理解する [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>7回目 看護実践を支えるもの [到達目標] ・看護にかかわる制度・行政・労働環境の概要を理解する ・看護の教育・技能・組織など専門職としての要件の概要を理解する [授業形態] 講義形式</p> <p>8回目 チーム医療と看護 [到達目標] ・チーム医療の目的・意義を検討し、看護職の役割を理解する ・多職種専門職者の中でパートナーシップの関係を構築し活動を展開する連携・協同の意義を理解する [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>9回目 国際社会と健康 [到達目標] ・世界的なAIDS/HIV拡大の現状と看護の役割（スタンダードプリコーション成立）の関連を知ることができる ・わが国のAIDS医療体制（薬害エイズ、保障、サポート体制など）性感染症（B型肝炎含む）の現状がわかる ・エイズ・性感染症を予防するための予防教育の必要性が理解できる ・看護の活動範囲の広がりについて理解できる [授業形態] 講義形式（パワーポイント）+グループワーク</p> <p>10回目 看護の対象①</p>

	<p>[到達目標] ・映画「折り梅」観賞を通して、看護の対象である個人・家族関係・社会資源について考えることができる [授業形態] 映像視聴+グループワーク</p> <p>11回目 看護の対象②</p> <p>[到達目標] ・映画「折り梅」観賞を通して、看護の対象である個人・家族関係・社会資源について考えることができる [授業形態] 映像視聴+グループワーク</p> <p>12回目 個人・家族・地域</p> <p>[到達目標] ・総合体としての人間についての理解ができる ・健康とウェルネス、健康の概念について理解することができる ・家族とその機能について知り、家庭の価値について理解することができる ・地域を基盤に展開される看護について学ぶことができる [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>13回目 看護実践の心理・社会的理解</p> <p>[到達目標] ・自己と他者（看護ケアの質は看護する者の質や人間性に大きく左右される）について学ぶことができる ・ストレス/コーピング・ストレスマネジメント・ソーシャルサポートについて理解できる ・医療の現場におけるスピリチュアリティ、看護師の死生観について考えることができる [授業形態] 講義形式+ディスカッション</p> <p>14回目 看護における倫理・法律/医療安全</p> <p>[到達目標] ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる ・保健師助産師看護師法について理解し、看護における役割を考えることができる ・看護の責任と医療安全について考えることができる [授業形態] 講義形式</p> <p>15回目 まとめ（評価含む）</p> <p>[到達目標] ・講義全体のまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる [授業形態] 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で課題を提示するので、期限を守って必ずレポートを提出すること なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	「看護学原論 改訂第3版」南江堂
参考書	1) 「対訳 看護覚え書」うぶすな書院 2) 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社 3) 「新版・看護の本質」現代社
成績評価	1) 授業への出席が全体の3/5以上であること 2) 筆記試験70%，授業への参加度10%，レポート提出の内容20%を踏まえて評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 實江子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後に相談すること
備考	①京大病院の循環器内科勤務と市中病院の訪問看護ステーション勤務。その実務経験と25年間の看護教育経験をもとに看護学概論の授業を行う ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎- , ○- , ○- 」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド：ビデオ配信）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本授業は、東洋医学的観点から人体を観察する手法と、その理論を学びます。そして、各自の専門領域において東洋医学的素養の涵養を本授業のねらいとします。
授業計画	<p>1回目 東洋医学の不思議を知ろう！ 【到達目標】東洋医学の特徴を説明できる。 【備考】※課題1：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>2回目 自分の体質を東洋医学的にチェックしよう！ 【到達目標】東洋医学的体質の概要を説明できる。 【備考】※課題2：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>3回目 基本理論：陰陽五行と気血津液論 【到達目標】陰陽五行と気血津液論の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題3：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>4回目 東洋医学的人体論①：肝・胆 【到達目標】肝・胆の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題4：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>5回目 東洋医学的人体論②：心・小腸 【到達目標】心・小腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題5：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>6回目 東洋医学的人体論③：脾・胃 【到達目標】脾・胃の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題6：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>7回目 東洋医学的人体論④：肺・大腸 【到達目標】肺・大腸の経脈の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題7：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>8回目 東洋医学的人体論⑤：腎・膀胱 【到達目標】腎・膀胱の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題8：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>9回目 歴史上の人物に見る病気の話と鍼灸療法① 【到達目標】歴史上の人物に見る病気と鍼灸療法の関連を説明できる。 【備考】※課題9：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>10回目 歴史上の人物に見る病気の話と鍼灸療法② 【到達目標】歴史上の人物に見る病気と鍼灸療法の関連を説明できる。 【備考】※課題10：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>11回目 弁証論治 【到達目標】弁証論治の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題11：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>12回目 東洋医学の活用例－認知症を例に－ 【到達目標】認知症を例とした東洋医学からの視点を説明できる。 【備考】※課題12：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>13回目 東洋医学の活用例－疲労を例に－ 【到達目標】疲労を例とした東洋医学からの視点を説明できる。 【備考】※課題13：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>14回目 薬膳 【到達目標】薬膳の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題14：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>15回目 本授業のまとめ ※アクティブ・ラーニング（学びの振り返りと表出）</p>

	<p>【到達目標】 この授業の目的から、各自の専門領域を東洋医学的視点で見直すことができる。</p> <p>【備考】 ※課題15：テーマや字数などはGoogle ClassroomにUpします（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、Google ClassroomにUpします。 ・週1時間の授業時間外学習が必要となります。
教科書	平馬直樹（総監修）『基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書』ナツメ社
参考書	「新版 東洋医学概論」公益社団法人東洋療法学校協会編（医道の日本社）
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の提出締切日：期日までにGoogle Classroomへ提出してください（厳守）。 2. 課題点：①+②=100点 ※期日を過ぎると点数はありません。 ①「課題1～14」：5点×14課題=70点（提出点） ②「課題15」：30点（配点基準は、ルーブリックを参照：後日） 3. 60点以上が合格点です（単位認定）。 4. 教員からの各課題へのコメントは、全体or個別でGoogle ClassroomにUpします。
担当教員の基本情報	<p>教員名：河井正隆</p> <p>連絡先：m_kawai@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー(3号館別室)：水曜日 16:30～18:00</p>
備考	<p>実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1，○-3
	<p>授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。</p> <p>その場合は、Google Classroomでお伝えします。</p>
	科目ナンバー：HE-0-ME6-RS-L-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
平出 敦			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	人体の構造と機能に関する知識をさらに深め、病態のメカニズムや、ひいては救急活動に結びつけて考えることができることを目指す。救急救命士に求められる専門基礎分野の素養や基本概念として自身の中に定着できる。学生同士のコミュニケーションを通じてお互いにチェックし合い、定着を促進して確実なものにできる。
授業計画	<p>1 講 オリエンテーションと人体を構成する要素 人体を構成する要素として、細胞、組織、器官の組み立てをのべる。 体液とその調整のメカニズムを説明 (P56-62)。</p> <p>2 講 人体の構造 体表からみる人体の構造を学びなおす。 からだを動かしながら体表からの解剖学的指標や動きの要点をのべる。(P63-76)</p> <p>3 講 神経系1 神経系におけるニューロンの基本事項をのべる。 中枢神経系、末梢神経系の区分による部位別役割の概要を説明する (P77-86)。</p> <p>4 講 神経系2 神経系における伝導路の概要を説明する。 神経系による生体の調節機能のメカニズムをのべる (P77-91)。</p> <p>5 講 感覚器系 感覚器系の基本構造を復習し、神経系と合わせて、その役割を説明する (P92-96)。 視覚や聴覚の障害、めまいなど救急活動に結び付く内容について発展させる。</p> <p>6 講 呼吸器系 呼吸器系の基本的な構造の要点を救急活動をイメージしながら説明する。 換気や酸素化のメカニズムを説明する。(P97-107)</p> <p>7 講 循環器系 循環器系の構造の概要を説明する。 心臓のポンプ機能の調整について、メカニズムの点からのべる。(P108-118)</p> <p>8 講 消化器系 消化器系の機能を担う臓器の基本的な構造をのべる。 肝臓、膵臓を中心に、消化器系の機能を概説できる (P119-128)。</p> <p>9 講 泌尿器、生殖系 泌尿器、生殖系の構造のポイントを説明でき、救急疾患との結びつきをのべる。 内分泌系との連携を説明する。(P129-138)</p> <p>10 講 内分泌系 内分泌系の特徴をのべる。 ホルモンの種類を説明でき、生体の機能における役割をイメージできる。(P139-142)</p> <p>11 講 血液 血液に関する基本的な正常値をのべる。 免疫機能と感染について概要を説明する。(P143-151)</p> <p>12 講 筋・骨格系 筋・骨格系の基本構造と主な構造をのべる。 腰痛などの筋骨格系のトラブルをイメージしながら構造機能の概要を説明する。(P152-154)</p> <p>13 講 皮膚系 皮膚系の基本的な構造をのべる。 皮膚系のバリアーとしての役割以外のはたらきを説明する (P155-158)</p> <p>14 講 生命の維持 生命の維持についてエネルギー代謝の視点から説明する。 ホメオスタシスの概念をのべる。(P155-158)</p> <p>15 講 評価、まとめ 各講義の理解度を定期試験にて確認する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>【予習】各授業日までに、教科書の該当範囲を読んで、自分が理解できていることと、理解できていないことを整理する。(60分)</p> <p>【復習】授業の要点を踏まえて自己学習に努めること。(60分)</p>
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能1 (医学書院) ・改定第3版 人体の正常構造と機能(日本医事新報社) ・図解入門メディカルサイエンスシリーズ よくわかる生理学の基本としくみ(秀和システム)
成績評価	<p>期末試験70%</p> <p>授業課題等30%</p> <p>*注意事項</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 平出 敦 研究室 : 6号館2階 教授室 メールアドレス : @meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 曜日9:00-17:30
備考	平出 敦：救急診療の実務経験あり。同時に、救命救急センター長、地域メディカルコントロール協議会会長の経験あり。当該領域の教育経験あり。これらを基盤として、救急ケアの視点から人体の構造機能について授業を行う。
	【授業とディプロマポリシーとの関連】 ◎-1、○-2、○-3 【科目コード】 HE-2-MM3-ES-L-0
	【授業形態】 アクティブラーニング有 ・ディスカッション：救急救命士に関するテーマや問題について、教員やグループで話し合う。話し合いの内容や結果をまとめて、全体に共有する。クリッカー相当使用。 ・Google classroomを活用した実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間（30時間）	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要]</p> <p>病理学は解剖学や生理学などの「正常な人体の構造や機能」を学んだ上で「病気の原因やその成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり「基礎医学と臨床医学の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり「病気を治すあるいは上手に付き合っていく」ためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。</p> <p>この講義では「病気の原因には何があるのか」「何がどうなって身体に影響をおよぼすのか」「臓器や組織そして細胞がどのように変化するのか」について学びます。</p> <p>講義の前には「予習課題」を出しますので、教科書を見て作成し講義前日の23:00までにGoogleclassroomに提出してください。</p> <p>講義では、はじめに前回講義の復習として「小テスト」を行います。この「小テスト」で満点を取ることが目標です。そのために、その日の講義内容を理解しているかどうかを確認する「確認問題」を講義時間の最後に行います。また、その「確認問題」の解説を書いた「解説ノート」を作成してください。これは次回の「小テスト」対策や「定期試験」対策、ひいてはいずれ来る「国家試験対策」の練習になります。</p> <p>「リアクションペーパー」をGoogleformで毎回取ります。質問やわからなかったことを書いてもらおうとメリーや次回の講義でお答えします。これを疑問解消に利用して自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>臨床医学を理解していくために必要な「病気の原因やその成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 疾患①（病理学と病理診断）</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>「疾患」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考]</p> <p>①予習：救急救命士標準テキストの「疾患」のところ・サイオ出版病理学の「病理学と病理診断」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。</p> <p>②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。</p> <p>③救急救命士標準テキスト「疾患」の「到達目標」をまとめておく。</p> <p>第2回 疾患②と先天異常</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>「細胞傷害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考]</p> <p>①予習：救急救命士標準テキスト「疾患」のところ・サイオ出版病理学の「先天異常」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。</p> <p>②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。</p> <p>③救急救命士標準テキスト「疾患」の「到達目標」をまとめておく。</p> <p>第3回 細胞傷害①</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>「細胞傷害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考]</p> <p>①予習：救急救命士標準テキスト「細胞傷害」のところ・サイオ出版病理学の「細胞傷害」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。</p> <p>②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。</p> <p>③救急救命士標準テキスト「細胞傷害」の「到達目標」をまとめておく。</p> <p>第4回 細胞傷害②</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>「細胞傷害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考]</p> <p>①予習：救急救命士標準テキスト「細胞傷害」のところ・サイオ出版病理学の「細胞傷害」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。</p> <p>②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。</p> <p>③救急救命士標準テキスト「細胞傷害」の「到達目標」をまとめておく。</p> <p>第5回 炎症</p>

	<p>[到達目標・学習目標] 「炎症」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「炎症」のところ・サイオ出版病理学の「炎症」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「炎症」の「到達目標」をまとめておく。</p>
第6回	<p>免疫異常とアレルギー</p> <p>[到達目標・学習目標] 「免疫異常とアレルギー」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：サイオ出版病理学の「免疫異常とアレルギー」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③「免疫異常とアレルギー」の「今日のまとめ」をしておく。</p>
第7回	<p>損傷と治癒</p> <p>[到達目標・学習目標] 「損傷と治癒」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「損傷と治癒」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「損傷と治癒」の「到達目標」をまとめておく。</p>
第8回	<p>中間試験と試験振り返り</p> <p>[到達目標・学習目標] 講義前半の範囲の試験を行う。合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） 「わからなかったところ、質問など」をGoogleformのリアクションペーパーで回収する。質問についてはメリーで回答する。</p> <p>[備考] 復習：試験後の振り返りで「何点だったか！」だけではなく「わからなかった問題・間違えた問題」の正しい答えを理解しておくことが大切。</p>
第9回	<p>循環障害①</p> <p>[到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「循環障害」のところ・サイオ出版病理学の「循環障害」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「循環障害」の「到達目標」をまとめておく。</p>
第10回	<p>循環障害②</p> <p>[到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「循環障害」のところ・サイオ出版病理学の「循環障害」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「循環障害」の「到達目標」をまとめておく。</p>
第11回	<p>循環障害③</p> <p>[到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「循環障害」のところ・サイオ出版病理学の「循環障害」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「循環障害」の「到達目標」をまとめておく。</p>
第12回	<p>腫瘍①</p>

	<p>[到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「腫瘍」のところ・サイオ出版病理学の「腫瘍」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「腫瘍」の「到達目標」をまとめておく。</p> <p>第13回 腫瘍②</p> <p>[到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「腫瘍」のところ・サイオ出版病理学の「腫瘍」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「腫瘍」の「到達目標」をまとめておく。</p> <p>第14回 死</p> <p>[到達目標・学習目標] 「死」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：救急救命士標準テキスト「死」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③救急救命士標準テキスト「死」の「到達目標」をまとめておく。</p> <p>第15回 期末試験と試験振り返り</p> <p>[到達目標・学習目標] 講義後半の範囲の試験を行う。合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） 「わからなかったところ、質問など」をGoogleformのリアクションペーパーで回収する。質問についてはメリーで回答する。</p> <p>[備考] 復習：試験後の振り返りで「何点だったか!」だけではなく「わからなかった問題・間違えた問題」の正しい答えを理解しておくことが大切。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習（30分） ①次の講義範囲の教科書を読み「予習課題」を作成しグーグルクラスルームに提出する。 復習（30分） ①「確認問題」を利用し「解説ノート」を作っておく。 ②教科書や配布資料を参考に救急救命士標準テキストの「到達目標」をまとめておく。</p> <p>わからないことは、「リアクションペーパーに記入する」「メリーやメールで質問する」「教員に直に質問する」などして、必ず解消してください。</p>
教科書	<p>「新訂版クイックマスター病理学 第2版」堤 寛著（サイオ出版） 「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会（へるす出版）</p>
参考書	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 第6版」大橋 健一他著（医学書院） 「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹著（品文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著（医歯薬出版） 「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著（医歯薬出版）</p>
成績評価	<p>定期試験（中間、期末）90%、その他（予習課題、確認問題、小テスト、リアクションペーパー）10%の割合で評価します。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>①各学科の資格に関する実務経験の有無：実務経験あり。 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査、外来採血業務に従事する。その実務経験をもとに「病理学」について授業をすすめる。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2 ③科目ナンバー：HE-2-MM4-RS-L-1 授業の進行状態により、若干変更する可能性あり。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	感染症の原因となる病原微生物の特徴、感染症の成立・発症のメカニズムを学ぶ。そのうえで、主な感染症の原因微生物・特徴・感染経路、感染症患者への対応や感染防止対策を学ぶ。さらに、生体に侵入する病原微生物や異物に対する生体防御システムを学び、免疫応答としての炎症反応やアレルギー反応を理解する。		
授業計画	第1回	病原微生物と感染症、病原微生物の種類と特徴 [到達目標] ・感染症成立の要因について理解する。 ・病原微生物の種類とそれぞれの特徴について理解する。 ・発症に関わる病原体側因子について理解する。 ・感染経路および感染症の分類について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第2回	生体防御システム [到達目標] ・生体防御系の全体像、自然免疫と獲得免疫の仕組みについて理解する。 ・感染症における免疫応答、急性炎症反応について理解する。 ・アレルギーと自己免疫疾患について理解する。 ・免疫不全について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第3回	感染の予防と対策 1 [到達目標] ・感受性体対策、感染源対策、感染経路対策について理解する。 ・標準予防策、感染経路別予防策について理解する。 ・消毒法・滅菌法の種類と特徴および問題点について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第4回	感染の予防と対策 2 [到達目標] ・感染症法、予防接種法および関連する他の法律について理解する。 ・感染症治療における化学療法剤の分類・特徴・作用機序および副作用について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第5回	感染症 1 [到達目標] ・主な呼吸器感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な消化器感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第6回	感染症 2 [到達目標] ・主な全身感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な神経系感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な眼感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な尿路・性感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第7回	感染症 3 [到達目標] ・主な皮膚・軟部組織感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・ウイルス性肝炎・レトロウイルス感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	試験	第1回目～7回目講義内容 対面で行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（130分程度） 2. 講義の後に講義資料及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を見直して理解を深めること。（2. 3併せて130分程度） 4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。		
教科書	「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」藤本秀士編著、目野郁子、小島夫美子著（南山堂） 救急救命士標準テキスト（改訂第10版）救急救命士標準テキスト編集委員会（へるす出版）		

参考書	「シンプル微生物学」東 匡伸、小熊惠二 編 (南江堂) 「Simple Step 感染症」平山 謙二監修 (海馬書房) 「戸田細菌学」吉田・柳 編 (南江堂) 『シンプル免疫学』中島泉ほか (南江堂) 『もっとよくわかる！免疫学』河本宏 (羊土社) 『メディカル免疫学』A. ロアット (西村書店) 『免疫生物学』笹月健彦 訳 (南江堂) 『マンガでわかる免疫学』河本宏 (ビーコムプラス)
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は期末試験の得点 (90点) と確認問題 (10点 ※全て提出で10点) で行い、60点以上を合格とする。 但し、出席が6割 (5回) に満たない者は期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日12:35-13:20
備考	この科目とディプローマポリシーとの関連：◎-1、○-2 科目ナンバー：HE-2-MM5-RS-L-1
	講義動画、講義資料、確認問題はGoogle Classroom で配信する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
石原 安信			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	薬物療法学(=薬物治療学)総論と、各臓器の疾患で臨床応用されている薬物を中心に、薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について講義します。 薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。各臓器の生理・疾患を説した後で、薬物がなぜ疾患を治療できるのか解説していきます。 授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。
授業計画	<p>第1講 1. 医薬品の基礎 A. 薬物総論</p> <p>第2講 1. 医薬品の基礎 B. 薬物の有害作用</p> <p>第3講 2. 重要な医薬品 A. 救急救命処置に用いられる薬剤 アドレナリン、乳酸リンゲル液、ブドウ糖</p> <p>第4講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 経口糖尿病薬、インスリン</p> <p>第5講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 亜硝酸薬、勃起不全治療薬（シルデナフィルなど）</p> <p>第6講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 降圧薬、昇圧薬、利尿薬</p> <p>第7講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 抗凝固薬、抗血小板薬（アスピリンなど）</p> <p>第8講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 向精神薬、抗てんかん薬、睡眠薬</p> <p>第9講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 鎮痛薬、ステロイド</p> <p>第10講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 気管支拡張薬、感冒薬</p> <p>第11講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 抗菌薬、抗ウイルス薬</p> <p>第12講 2. 重要な医薬品 B. 注意を要する常用薬 輸液製剤、血液製剤</p> <p>第13講 3. 検査 A. 検査の種類 3つの検査と緊急検査</p> <p>第14講 3. 検査 B. 緊急検査</p> <p>第15講 まとめ（評価含む）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	次回の講義範囲の教科書を読んで予習しておくこと。また各回の講義終了とともに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	特になし
成績評価	期末試験、授業態度により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：石原 安信 研究室： メールアドレス：

	オフィスアワー:随時
備考	分からないことか`あれは`、講義中て`も終了後て`も構わないので`、積極的に質問して欲しい。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
村上 龍			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（座学/遠隔ブレ ンディッド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>・全講義終了時点で、脳神経系、循環器系、筋骨格系、代謝系及び血液・免疫系など医療人において重要である基本的な知識を説明できる様になることが目標である。特に本科目では以下の3項目を授業目標とする。</p> <p>①循環器系の基本的な解剖学とそれらで生じる疾患について具体的に説明できる。 ②呼吸器系の基本的な解剖学とそれらで生じる疾患について具体的に説明できる。 ③脳神経系の基本的な解剖学とそれらで生じる疾患について具体的に説明できる。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション・循環器系の障害 [到達目標] ①本科目の概観の説明 ②医学に関する基本的な知識の確認 ③循環器系の障害（特にショック等重症例に関する事項）の理解とその鑑別方法の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第2講 循環器系の障害② [到達目標] ①循環器系の障害（特にショック等重症例に関する事項）の理解とその鑑別方法の習得 ②医学に関する基本的な知識の確認 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第3講 心不全① [到達目標] ①循環器系の障害（特にショックや心不全に関する事項）の理解とその鑑別方法の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第4講 心不全② [到達目標] ①循環器系の障害（特にショックや心不全に関する事項）の理解とその鑑別方法の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第5講 心肺停止① [到達目標] ①心不全の病態の理解とその鑑別の習得 ②心肺停止に関する基本的な知識の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第6講 心肺停止② [到達目標] ①心不全の病態の理解とその鑑別の習得 ②心肺停止の機序の理解と鑑別方法、処置に関する知識の習得 授業形態：スライドを使用した講義。確認小テストあり。</p> <p>第7講 呼吸不全① [到達目標] ①呼吸不全に関する基本的な知識の習得 ②呼吸器系に関する解剖学の知識の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第8講 呼吸不全② [到達目標] ①心肺停止と絡めた呼吸不全の病態の理解とその鑑別の習得 ②呼吸不全の治療と薬剤に関する知識の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第9講 重症脳障害① [到達目標] ①脳神経系の解剖学に関する知識の習得 ②重症脳障害の基本的な機序に関する知識の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第10講 重症脳障害② [到達目標] ①重症脳障害の基本的な機序と病態に関する知識の習得 ②重症脳障害の治療や薬剤に関する知識、症状の鑑別に関する知識の習得 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第11講 今までの知識の振り返り [到達目標] 第1～10講までに学んだ諸知識に関する確認講義を実施する。 本講義では復習に重きを置き、不足している部分の知識の補完を兼ねて行われる。 ①循環器系に関する知識の復習 ②呼吸器系に関する知識の復習</p>

	<p>③脳神経系に関する知識の復習 授業形態：スライドを使用した講義。 循環器系に関する疾患の理解 [到達目標] ①循環器系に由来する諸疾患について基礎～応用レベルの知識を学習する。 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第13講 呼吸器系に関する疾患の理解 [到達目標] ①呼吸器系に由来する諸疾患について基礎～応用レベルの知識を学習する。 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第14講 脳神経系に関する疾患の理解 [到達目標] ①脳神経系に由来する諸疾患について基礎～応用レベルの知識を学習する。 授業形態：スライドを使用した講義。</p> <p>第15講 筆記試験（期末試験） [到達目標] ①筆記試験を実施し、第1～14講で学習した知識について確認を行う。 授業形態：筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）「第Ⅲ編 第3章 救急病態生理学」の頁と、その関連頁（例：呼吸困難について学ぶには、肺その他胸腔内臓器や循環に関する知識も押さえておかなければならない。）を熟読すること。</p> <p>※各講義の受講にあたり、予習と復習を実施すること。 ・予習：改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当頁を熟読すること（120分間）。 ・復習：講義で学んだ内容を振り返り、改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当頁を読み直すこと（120分間）。</p>
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	特になし（必要であれば、講義内でプリント等資料を配布することがあります。）。
成績評価	平常点（授業中の質問への回答回数などに対する評価）10%、期末試験（筆記試験）90% 架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：村上 龍 研究室：6号館2階助教室 メールアドレス：r_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業後1時間</p>
備考	<p>村上龍：医療機関等での実務経験及び高等教育機関での教育経験に基づき指導を行う。</p> <p>・救急救命士国家試験問題に関連する医学分野（救急病態生理学）について、改訂第10版 救急救命士標準テキストに記載の内容を中心に講義を展開する。 ・改訂第10版 救急救命士標準テキスト「救急病態生理学」とその関連分野に関する知識を定着させる。 ・本講義では、医学を学ぶ者として具備すべき基礎知識をはじめ、救急医学領域における病態生理学についてポイントを押さえながら学ぶ。講義の内容は教科書に記載の事項を軸に、必要に応じてスライドの投影や資料の配布を交えながら、関連分野の深堀りを行う。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3</p>
	<p>【アクティブラーニング：有】 第1～15講の講義時間中、教員と受講者間、受講者と受講者間で講義内容の理解度に関する相互確認（対話方式）を実施するための時間を設ける。 Google Classroomを使用した講義</p> <p>【小テストのフィードバック】 講義時間中の随所実施される小テストについては、当該講義中にフィードバックを実施する。</p>
	科目ナンバー：HE-2-MM10-RS-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
守岡 大吾			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディッド型	Google Classroomを活用する。
添付ファイル			

授業目標	<p>症候学とは症候を研究する臨床医学の一分野であり、救急症候学では救急医療に関係の深い症候について学修する。 本授業の目標は以下の通りである。</p> <p>①傷病者情報と症候から鑑別診断と臨床推論を交え、疾患の予測して区別することができる。 ②症候から推測される疾患や所見を理解し、病態について説明することができる。 ③傷病者情報を元に緊急度・重症度を判断して、根拠を説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/症候学と鑑別</p> <p>【到達目標】</p> <p>①胸痛の定義を説明できる。 ②胸痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③胸痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 ④胸痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>第2回 胸痛の鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】</p> <p>①胸痛の定義を説明できる。 ②胸痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③胸痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 ④胸痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>第3回 胸痛の鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】</p> <p>①胸痛の定義を説明できる。 ②胸痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③胸痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 ④胸痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>第4回 胸痛の鑑別と疾患③</p> <p>【到達目標】</p> <p>①胸痛の定義を説明できる。 ②胸痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③胸痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 ④胸痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>【備考】</p>

第5回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>腹痛の鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】 ①腹痛の定義を説明できる。 ②腹痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③腹痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い腹痛について説明できる。 ④腹痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】</p>
第6回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>腹痛の鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】 ①腹痛の定義を説明できる。 ②腹痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③腹痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い腹痛について説明できる。 ④腹痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】</p>
第7回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>呼吸困難の鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】 ①呼吸困難の定義を説明できる。 ②呼吸困難の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③呼吸困難の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い呼吸困難について説明できる。 ④呼吸困難の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】</p>
第8回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>呼吸困難の鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】 ①呼吸困難の定義を説明できる。 ②呼吸困難の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③呼吸困難の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い呼吸困難について説明できる。 ④呼吸困難の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】</p>
第9回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>腰背部痛の鑑別と疾患</p> <p>【到達目標】 ①腰背部痛の定義を説明できる。 ②腰背部痛の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③腰背部痛の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い呼吸困難について説明できる。 ④腰背部痛の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】</p>
第10回	<p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p> <p>動悸の鑑別と疾患①</p> <p>【到達目標】 ①動悸の定義を説明できる。 ②動悸の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③動悸の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い動悸について説明できる。</p>

	<p>④動悸の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 動悸の鑑別と疾患②</p> <p>【到達目標】 ①動悸の定義を説明できる。 ②動悸の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③動悸の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い動悸について説明できる。 ④動悸の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p>
第11回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 吐下血の鑑別と疾患</p> <p>【到達目標】 ①吐下血の定義を説明できる。 ②吐下血の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③吐下血の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い吐下血について説明できる。 ④吐下血の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p>
第12回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 咯血の鑑別と疾患</p> <p>【到達目標】 ①咯血の定義を説明できる。 ②咯血の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③咯血の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い咯血について説明できる。 ④咯血の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p>
第13回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 国家試験問題演習①</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p>
第14回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること 国家試験問題演習②/筆記試験</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p>
第15回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読すること(所要時間120分) 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること(所要時間120分)
教科書	改訂第救急救命士標準テキスト第10版（へるす出版） PEMECガイドブック2023（へるす出版）
参考書	特記事項なし
成績評価	提出物をすべての提出していることを成績評価の前提とする。 ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。 最終評価：記述試験70%、小テスト20%、課題評価10%
担当教員の基本情報	担当教員名：守岡大吾 研究室：6号館2階助教室 オフィスアワー：授業終了後1時間 メールアドレス:d_morioka@meiji-u.ac.jp
備考	医療機関での臨床経験に基づいて授業を行う。
	事前学習課題について、授業内にて内容をフィードバックする。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3 科目ナンバー：HE-2-MM11-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
福井 建皓、原 貴大			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（ブレンディット型）	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系、循環器系、呼吸器系について救急救命士として重要な解剖生理を理解すること。 ・神経系疾患、循環器系疾患、呼吸器系疾患のうち救急救命士として重要な病態生理を理解すること。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション・神経系の解剖生理①</p> <p>【到達目標】 中枢神経から筋肉までの神経系の働きを理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P77-96. 151-154を熟読する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第2講 神経系の解剖生理②</p> <p>【到達目標】 中枢神経から筋肉までの神経系の働きを理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P77-96. 151-154を熟読する。 レポートを作成する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第3講 神経系疾患①</p> <p>【到達目標】 脳梗塞などの脳血管疾患について理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいたディスカッション） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P546-552を熟読し、ミニテストに解答する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第4講 神経系疾患②</p> <p>【到達目標】 脳出血などの脳血管疾患について理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P552-554を熟読し、ミニテストに解答する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第5講 神経系疾患③</p> <p>【到達目標】 末梢神経疾患などについて理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P554-557を熟読し、ミニテストに解答しレポートを作成する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第6講 呼吸器の解剖生理</p> <p>【到達目標】 人体が酸素を活用する生理的機序について理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいたディスカッション） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P97-107を熟読する。 レポートを作成する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第7講 呼吸器系疾患①</p> <p>【到達目標】 COPD・気管支喘息などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P558-563を熟読し、ミニテストに解答する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第8講 呼吸器系疾患②</p> <p>【到達目標】 ARDS・肺結核・間質性肺炎などの病態について理解すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P563-566を熟読し、ミニテストに解答する（所要時間90分） （復習） 小テストに解答し、誤答について学習する（所要時間40分）</p> <p>第9講 呼吸器系疾患③</p> <p>【到達目標】 COVID-19感染症の病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習） 救急救命士標準テキスト第10版P558-563を熟読し、ミニテストに解答するレポートを作成する（所要時間90分）</p>

第10講	(復習) 小テストに解答し、誤答について学習する (所要時間40分) 循環器の解剖生理 【到達目標】 体表解剖及び血圧維持のメカニズムを理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (事前課題に基づいたディスカッション) 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版P69-71. 108-118を熟読する。レポートを作成する。(所要時間90分)
第11講	(復習) 小テストに解答し、誤答について学習する (所要時間40分) 循環器系疾患① 【到達目標】 虚血性心疾患の病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストに基づいた解説) 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版P569-572を熟読し、ミニテストに解答する (所要時間90分)
第12講	(復習) 小テストに解答し、誤答について学習する (所要時間40分) 循環器系疾患② 【到達目標】 不整脈・心電図異常について病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストに基づいた解説) 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版P558-563を熟読し、ミニテストに解答する (所要時間90分)
第13講	(復習) 小テストに解答し、誤答について学習する (所要時間40分) 循環器系疾患③ 【到達目標】 急性大動脈解離・心タンポナーデなどの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストに基づいた解説) 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版P582-584を熟読し、ミニテストに解答する (所要時間90分)
第14講	(復習) 小テストに解答し、誤答について学習する (所要時間40分) 循環器系疾患④ 【到達目標】 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストに基づいた解説) 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版P558-563を熟読し、ミニテストに解答する (所要時間90分)
第15講	まとめ・授業内テスト 【到達目標】 高血圧の病態を理解すること。第1講～14講までの分野を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (活動に対するフィードバック) 【備考】 (予習) 第1～14講までの学習内容をまとめること (所要時間90分) (復習) なし
授業時間外の学習 (準備学習等) について	各授業日までに教科書の指定ページを読み、自習すること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト
参考書	なし
成績評価	以下の2項目を成績評価の前提条件とする。 ・筆記テストで60%以上の正答率を満たすこと。 ・レポート (3題) をすべて提出していること 最終評価：レポート30%、関心・意欲20%、筆記試験50%。 架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。 また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 原 貴大 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間 担当教員名 : 福井 建皓 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : k_fukui@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後1時間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1, ○-4 科目ナンバー HE-2-MM14-RS-L-1
	福井建皓：救急救命士養成課程での教育経験に基づき授業を行う。 原貴大：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
原 貴大			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	消化系、泌尿・生殖系、代謝・内分泌・栄養系疾患について解剖生理的な知識を基盤として、救急救命士として重要な病態を解剖生理を理解すること。		
授業計画	第1講	オリエンテーション・消化器系の解剖生理 【到達目標】 食物が血糖として細胞でエネルギーに活用されるまでの生理的機序を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP119-128を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第2講	消化器系疾患① 【到達目標】 食道疾患などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいたディスカッション） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP587-592を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第3講	消化器系疾患② 【到達目標】 急性膵炎などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいたディスカッション） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP590-596を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第4講	消化器系疾患③ 【到達目標】 イレウス・腸閉塞などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP592-593を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第5講	消化器系疾患④ 【到達目標】 急性腹膜炎などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP97-107を熟読し、ミニテストに解答すること。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第6講	消化器系疾患⑤ 【到達目標】 急性肝炎などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP558-563を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第7講	体表解剖 【到達目標】 体表解剖について理解すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（グループワーク） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP68-72を熟読し、体表解剖図を作図すること。 （復習）授業中に生じた疑問点をまとめ、学習する。	
	第8講	泌尿器系の解剖生理 【到達目標】 泌尿器系の解剖生理及び人体のホメオスタシスを理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP129-138を熟読し、ミニテストに解答し、レポートを作成すること。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第9講	泌尿器・生殖器系疾患 【到達目標】 腎不全などの病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP597-602を熟読し、小テストに解答すること。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	
	第10講	生殖器系疾患②・代謝異常① 【到達目標】 生殖器系疾患・糖尿病の病態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP603-611を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。	

第11講	代謝異常② 【到達目標】糖尿病について病態を理解すること 【授業形態】アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP605-611を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。
第12講	代謝異常③ 【到達目標】体液異常などの病態を理解すること 【授業形態】アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP612-613を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。
第13講	内分泌系疾患 【到達目標】甲状腺機能低下症などの病態を理解すること 【授業形態】アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP614-615を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。
第14講	栄養系疾患 【到達目標】ビタミン欠乏などの病態を理解すること 【授業形態】アクティブラーニング有（ミニテストに基づいた解説） 【備考】 （予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストP615-616を熟読し、ミニテストに解答する。 （復習）小テストに解答し、誤答について学習する。
第15講	まとめ・授業内テスト 【到達目標】第1～14講までの分野を習得すること 【授業形態】アクティブラーニング有（質疑応答） 【備考】 （予習）第1～14講までの学習内容をまとめること。 （復習）誤答について学習すること。
授業時間外の学習 （準備学習等）について	シラバスに則って学習すること（各講の予復習はそれぞれ120分）
教科書	『改訂第10版救急救命士標準テキスト』監修厚生省救急救命士教育研究会（へるす出版）
参考書	指定無し
成績評価	最終評価：レポート20%、関心・意欲30%、筆記試験50% *筆記テストについては持ち込み可（A4用紙1枚、両面利用可能。手書き・印字は問わない。） 架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。 また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	担当教員名：原貴大 研究室：6号館2階講師室 メールアドレス：t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	提出されたレポートに関しては、評価およびコメントを記載し返却する。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、◎-3 HE-2-MM15-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
福田 聖司、岩田 譲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	外傷学について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態を各外傷部位ごとに解説し、系統的な理解をする。 防ぎえた外傷死を減らすための観察・処置・判断について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 受傷機転① 疫学と外傷システム（担当 福田）</p> <p>【到達目標】</p> <p>①死亡統計における外傷死亡の位置づけ、受傷者の年齢分布について説明できる。 ②外傷による死亡時期を3つに分け、それぞれについて説明できる。 ③「防ぎ得た外傷死」「ロードアンドゴー」「トラウマバイパス」について説明できる。 ④高リスク受傷機転の概念と具体例について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。</p> <p>第2回 受傷機転② 外傷の病態生理（担当 岩田）</p> <p>【到達目標】</p> <p>①外傷に伴う生体の反応について説明できる。 ②「外傷死の三徴」について説明できる。 ③外傷に伴うショックの成因について説明できる。 ④外傷傷病者に対する輸液の基本的な考え方について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。</p> <p>第3回 外傷の現場活動（担当 福田）</p> <p>【到達目標】</p> <p>①状況評価および初期評価の目的・評価項目・行うべき処置について説明できる。 ②全身観察の目的・評価項目・行うべき処置について説明できる。 ③ロードアンドゴー適応の判断について説明できる。 ④傷病者の緊急度・重症度に応じて適切な搬送手段と搬送先医療機関を選定できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。</p> <p>第4回 胸部外傷①（担当 岩田）</p> <p>【到達目標】</p> <p>①胸部外傷と呼吸・循環不全の関連について説明できる。 ②心臓・大血管の主な損傷について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。</p> <p>第5回 胸部外傷②（担当 岩田）</p> <p>【到達目標】</p> <p>①胸部外傷と呼吸・循環不全の関連について説明できる。 ②心臓・大血管の主な損傷について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。</p>

	<p>④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。 腹部外傷（担当 岩田）</p> <p>【到達目標】 ①腹部外傷の出血と消化管損傷の病態について説明できる。 ②実質臓器損傷・管腔臓器損傷・血管損傷・後腹膜臓器損傷・腹壁損傷について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。 頭部外傷（担当 岩田）</p>
第6回	<p>【到達目標】 ①頭部外傷に特徴的な外力の作用機序と一次性脳損傷と二次性脳損傷について説明できる。 ②頭部外傷の続発症・後遺症について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。 顔面・頸部外傷（担当 岩田）</p>
第7回	<p>【到達目標】 ①顔面・頸部外傷における出血と気道閉塞の原因について説明できる。 ②主な顔面骨骨折、眼、鼻、耳、口唇・口腔・歯牙、頸部の損傷について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。 脊椎・脊髄外傷（担当 福田）</p>
第8回	<p>【到達目標】 ①主な受傷機転と損傷形態について説明できる。 ②脊髄損傷と脊椎損傷の特徴について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。 骨盤外傷（担当 福田）</p>
第9回	<p>【到達目標】 ①受傷機転と骨盤骨折の形態について説明できる。 ②骨盤骨折に伴う臓器損傷、それに伴う病態について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。 四肢外傷（担当 福田）</p>
第10回	<p>【到達目標】 ①骨折の主な合併症と脱臼、筋肉・腱損傷、捻挫、血管・神経損傷の病態について説明できる。</p>

	<p>②各種損傷（切断、コンパートメント症候群、クラッシュ症候群など）について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出する。 小児・高齢者・妊婦の外傷（担当 福田）</p> <p>【到達目標】 ①小児に特徴的な外傷を説明できる ②高齢者に特徴的な外傷を説明できる ③妊婦に特徴的な外傷を説明できる</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること。 国家試験問題 問題演習①（担当 福田）</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること。 国家試験問題 問題演習②（担当 福田）</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること。 外傷救急医学のまとめ</p> <p>【到達目標】 ①これまでの授業範囲の問題演習を行い、各設問が正当となる理由について説明ができる。 ②問題演習を通して緊急度・重症度の判断ができる。 ③問題演習を通して傷病者の状態に応じた基本的な処置や病院選定について説明ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること。</p>
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読すること（所要時間120分） 復習：授業で学んだ内容を元に課題を提出すること（所要時間120分）
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版）
参考書	なし
成績評価	授業内の記述試験にて60%以上の正答率を満たすこと、提出物をすべての提出していることを成績評価の前提とする。 最終評価：記述試験80%、小テスト20% ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。

<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 福田 聖司 研究室 : 6号館 2階研究室 メールアドレス : si_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 岩田 謙司 研究室 : 非常勤講師 メールアドレス : 非常勤講師のため必要があれば教員福田に連絡 オフィスアワー : 授業終了後30分程度 ※対応可能時間は日によって変動があります。</p>
<p>備考</p>	<p>福田聖司 : 消防署での臨床経験を元に授業を行う。 岩田謙司 : 京都中部総合医療センター医師としての臨床経験を元に授業を行う。</p>
	<p>岩田医師調整の上で授業日程が決定するため、シラバス記載の講数及び内容がリンクしない場合もある。 事前学習課題について、授業内にて内容をフィードバックする。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3 科目コード HE-2-MM19-RS-L-1</p>
	<p>Googleクラスルーム使用 : 有 (資料配布、授業動画の配信、授業内アンケート)</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
久保 敦士、矢部 真弓			
配当学科：救急救命学科	時間数：45時間	授業形態：実習（プレندیット型）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、救急救命士の業務に関連する病院内の診療や病棟の実際を体験することを目的とする。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての役割や責任を理解している。 ・救急搬送された患者の病院内での流れや診療各科の特徴を把握している。 ・画像所見の読影方法、血液検査の概要、心電図波形の見方を学ぶ。 ・病棟での看護や医療の実践を体験できる。 ・実習中に得た知識や経験を言語化しレポートにまとめることができる。 ・自己評価やフィードバックを行うことができる。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・病院実習の目的やスケジュール、注意事項を理解している。</p> <p> 【講義内容】</p> <p> ・病院実習の目的やスケジュール、注意事項について</p> <p>第2講 病院実習の概要・心構え・守秘義務</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・病院実習に臨む心構えや守秘義務について学ぶ。</p> <p> 【講義内容】</p> <p> ・病院実習に臨む心構えや守秘義務について</p> <p>第3～8講 資料および動画などによる事前学習、記述テスト</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・病院の概要について理解している。</p> <p> ・診療科について理解している。</p> <p> 【講義内容】</p> <p> ・病院の概要について</p> <p> ・診療科について</p> <p>第9講 病院救命士とは</p> <p> 【到達目標】</p> <p> 病院救命士の役割や責任、資格や法律、病院内での連携やコミュニケーションについて学ぶ。</p> <p> 【講義内容】</p> <p> 病院救命士の役割や責任、資格や法律、病院内での連携やコミュニケーションについて</p> <p>第10講 病院内での流れ、画像所見、血液検査、心電図波形</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・救急搬送された患者の病院内での流れを学ぶ。</p> <p> ・レントゲン、CT、MRIなどの画像診断の原理や種類、読影のポイントや注意点について学ぶ。</p> <p> ・血液検査の種類や目的、正常値や異常値の意味、血液検査の結果の読み方について学ぶ。</p> <p> ・心電図の原理や装着方法、波形の解釈や異常の判定について学ぶ。</p> <p> 【実習内容】</p> <p> ・救急搬送された患者の病院内での流れについて</p> <p> ・画像所見の読影方法について</p> <p> ・血液検査の概要について</p> <p> ・心電図波形について</p> <p>第11～14講 診療各科実習：外来・放射線科・リハビリテーション科・臨床検査科</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・患者の病院内での外来受診の流れを学ぶ。</p> <p> ・レントゲン、CT、MRIなどの画像診断の原理や種類、読影のポイントや注意点について学ぶ。</p> <p> ・血液検査の種類や目的、正常値や異常値の意味、血液検査の結果の読み方について学ぶ。</p> <p> （予習・復習）</p> <p> 事前学習として救急救命士標準テキストで該当領域関連を熟読し、病院実習で何を学び、習得するか各自到達目標を立てる。実習後に理解を深めるために、振り返りを行う。</p> <p> ・リハビリテーション科を見学し、特徴や業務内容を理解し、患者対応について学ぶ。</p> <p> 【実習内容】</p> <p> ・外来について</p> <p> ・放射線科について</p> <p> ・臨床検査について</p> <p> ・リハビリテーション科について</p> <p>第15～18講 病棟実習：病棟対応、入院患者の栄養管理</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・病棟での看護や医療の実践を体験できる。</p> <p> ・病棟の構造や運営、看護師や医師の役割や業務内容を学ぶ。</p> <p> ・患者のバイタルサイン測定などを学ぶ。</p> <p> 【実習内容】</p> <p> 病棟について</p> <p> （予習・復習）</p> <p> 事前学習として救急救命士標準テキストで該当領域関連を熟読し、病院実習で何を学び、習得す</p>

	<p>るか各自到達目標を立てる。実習後に理解を深めるために、振り返りを行う。</p> <p>第19～23講 課題レポート、評価、まとめ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを言語化し、課題レポートにまとめ、医療機関での職域の理解を深めることができる。 ・実習を通じて得た知識を活かし、国家試験相当の問題を解くことができる。 <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中に得た知識や経験をレポートにまとめる。 ・レポートでは、実習の目的や内容、感想や反省、学びや課題などを記述する。 ・テストでは、国家試験相当に関する問題を解く。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>【予習】</p> <p>事前にGoogle classroom上にアップロードされる動画や資料などや救急救命士テキストを活用して、実習内容についての理解を深め、実習の目的と期待される成果について明確にする。それらをもとに、実習中に聞きたい疑問や確認したいポイントをリストアップしておく。当該領域をテキストで熟読する。救急救命士の業務に関連する病院内の診療や病棟の知識や技術を予め学び、自分が理解できていることと、理解できていないことを整理する。(60分)</p> <p>【復習】</p> <p>実施した実習について、何が学べたか、どのような点が理解できなかったかを振り返る。実習で使用したテキストや医学的見地から、さらなる情報を収集し、理解を深める。それらを収集した情報をもとに、実習の経験をレポートにまとめ、自身の学びを可視化する。事前にGoogle classroom上にアップロードされた課題レポートを提出する。各コマの振り返りを班および各自で行う。実習で学んだ内容を班および各自で復習し、理解を深める。(60分)</p>
教科書	救急救命士標準テキスト
参考書	それぞれトピックによって参考書や参考資料が異なることから授業中に適宜紹介する
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心・実習姿勢 (20%) ・病院実習指導者による評価 (50%) ・各科の実習レポート (20%) ・試験 (10%) <p>*ルーブリック票は別途示す。</p> <p>・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 久保敦士 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : a_kubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 9:00-17:30</p> <p>担当教員名 : 矢部真弓 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : m_yabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 9:00-17:30</p>
備考	<p>久保敦士：実務経験あり。消防組織の救急救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに医療機関について講義を行う。</p> <p>矢部真弓：実務経験あり。病院救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに医療機関について講義を行う。</p>
	DPとの関連◎-1 ○-2 ○-4 科目ナンバー：HE-2-MM22-RS-P-0
	<p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング有：実習、反転授業（動画やテキストを活用して事前学習） ・課題等に対し、フィードバックが必要な場合は指導担当者及び教員が即時に行う。 ・Google classroomを活用した実習
	<p>【注意事項】</p> <p>以下のような不正行為や不適切な態度・行為は、厳しく処罰される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院実習中は、時間厳守や服装や身だしなみに気をつける。病院の規則やマナーを守る。 ・病院実習中は、患者やスタッフに敬意を持って接する。守秘義務や倫理観を忘れない。 <p>不正行為や不適切な態度・行為が発覚した場合、以下の措置がとられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好奇心・実習姿勢、課題レポートおよびテストの評価は、0%とする。 ・成績評価は、教員の総合的な判断によって決定される。不正行為や不適切な態度・行為があった場合は、成績評価の対象とならない。 ・重大な不正行為とみなした場合は、救急救命士の資格取得の妨げとなる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
上久保 敦、金川 陽亮			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面／ブレン ディット）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士の資格取得及び資格取得後に救急業務を適切に遂行するための基本的知識を修得することを目的として、わが国の救急医療体制の整備状況、災害医療体制、救急活動の流れ、救急事故種別に応じた対応要領、救急活動の現況、迅速な傷病者搬送と受け入れ体制に係わる関係法令、救急医療情報システム等について体系的に講義を行う。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・救急救命士が病院前救護で果たすべき役割</p> <p>[到達目標] 救急救命士が病院前救護で果たすべき役割の概要について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間120分） 復習としては病院前救護において果たすべき役割についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第2回	<p>医療関係職種としての責任と役割</p> <p>[到達目標] 医療関係職種としての責任を列挙しそれぞれについて説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間120分） 復習としては医療関係職種としての責任についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第3回	<p>ストレスマネジメント（精神的ストレスとケア）</p> <p>[到達目標] 救急活動でのストレスについて説明できる。 救急活動でのストレスへの反応について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間120分） 復習としては急性ストレス障害・心的外傷後ストレス障害についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第4回	<p>コミュニケーションⅠ（傷病者への接遇と高齢者および小児とのコミュニケーション）</p> <p>[到達目標] 対象に応じたコミュニケーションと接遇（傷病者への接遇、高齢者および小児）について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間120分） 復習としてはコミュニケーションの種類についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第5回	<p>コミュニケーションⅡ（インフォームドコンセントと家族・医師とのコミュニケーション）</p> <p>[到達目標] 対象に応じたコミュニケーション（家族・医師）について説明できる。 救急活動でのインフォームドコンセントについて説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間120分） 復習としてはインフォームドコンセントについてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第6回	<p>感染Ⅰ（救急活動における感染防御）</p> <p>[到達目標] 感染予防策と感染防御について説明できる。</p>	

第7回	<p>救急活動での感染防御について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては標準予防策についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 感染Ⅱ（感染事故後の対応および医療事故と医療過誤） [到達目標] 清潔・不潔の区分ができる。 洗浄と消毒について説明できる。 感染事故と事故後の対応について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては滅菌・消毒の違いについてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 安全管理（リスクマネジメント） [到達目標] 安全管理と事故対応について列挙しそれぞれの要点を説明できる。 リスクマネジメントについて説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としてはインシデント・アクシデントの違いとハインリッヒの法則についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第8回	<p>中間振り返り・試験対策 [到達目標] 救急医学各論（第1講～第8講の復習、第10講～第14講の予習指導）の要点をまとめ説明できる [授業形態] アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては試験内容についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 生涯教育（救急救命士の養成課程と教育）</p>
第9回	<p>[到達目標] 救急救命士の養成課程の種類を列挙しそれぞれの要点を説明できる。 救急救命士の生涯目的と手段について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては救急救命士養成課程についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 法律Ⅰ（救急救命士法）</p>
第10回	<p>[到達目標] 救急救命士法・消防法について、それぞれの概要を説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては救急救命士法についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 法律Ⅱ（救急救命士の業務に関連する法令） [到達目標] 法令の基本について説明できる。 救急救命士の業務に関連する法令を列挙し、それぞれの概要を説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては政令・省令・条例・規則についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第11回	<p>病院実習Ⅰ 救急救命士が行う病院実習 [到達目標] 救急救命士が行う病院実習について説明できる。 [授業形態]</p>
第12回	<p>病院実習Ⅰ 救急救命士が行う病院実習 [到達目標] 救急救命士が行う病院実習について説明できる。 [授業形態]</p>

	<p>アクティブラーニング有 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては救急救命士が行う病院実習についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 病院実習Ⅱ（各施設の実態と心構え） [到達目標] 救急救命士が行う病院実習の実態と心構えについて説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては救急救命士が行う病院実習についてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 総まとめ・筆記試験 [到達目標] 救急医学各論（第1講～第14講）の要点をまとめ説明できる [授業形態] 対面にて記述試験</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては試験内容についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては各講テーマについてレポートで提出（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認しレポートを提出すること。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	救急隊員標準テキスト（へるす出版）
成績評価	本科講義における全コマ数3/5以上の出席と欠席レポートの全提出が期末試験受験の要件。 評価割合（筆記試験90%、平常点10%） ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。 ※最終講の本試験を欠席した場合の平常点は0点とする。
担当教員の基本情報	<p>教員名：上久保 敦 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：a_kamikubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後1時間</p> <p>教員名：金川 陽亮 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：y_kanagawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後1時間</p>
備考	<p>【この授業とディプロマポリシーとの関連】 ◎-1, ○-2, ○-3</p> <p>HE-2-EM2-RS-L-1</p>
	上久保 敦：消防機関および医療機関での臨床経験に基づいて講義を行う。 金川 陽亮：医療機関での臨床経験に基づいて講義を行う。
	アクティブラーニング有

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
諫山 憲司、木村 隆彦			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士として傷病者の観察・処置などの基本を理解し、決定的な処置までの病態悪化を防ぎ救命を狙いとするなか、傷病者の変化する病態に対し解剖学的、生理学的に緊急度・重症度の判断が確実にでき、必要な処置と優先度が低い処置（時間を要する処置など）との判別ができることを本授業の目標とする。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス（オリエンテーション） 救急処置の概論について 救急処置の重要性・必要性 【到達目標】 救急処置の重要性・必要性を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：シラバスをよく読み、授業目的、授業内容、到達目標、授業形態などを確認する。 参考書・インターネット等を活用し、救急処置について調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第2回 観察総論（観察の目的と意義、バイタルサインと観察の方法について） 【到達目標】 バイタルサインの概念を説明し、具体的な項目を列挙できる。 問診の意義、方法、聴取すべき事項について説明できる。 問診以外の基本的観察方法を列挙し、それぞれについて説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p300～303までを読み疑問事項をメモしてくる。 復習：救急救命士の行う観察の目的と意義、バイタルサインと観察の方法についてまとめる。</p> <p>第3回 現場活動の基本（状況評価・初期評価） 【到達目標】 状況評価の要素を列挙し、それぞれについて説明できる。 初期評価で観察すべき事項を列挙できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト第10版p246～248を読み疑問事項をメモしてくる。 復習：救急救命士の現場活動における状況評価についてまとめる。</p> <p>第4回 現場活動の基本（全身観察～車内活動） 【到達目標】 全身観察から車内活動にかけて実施すべき事項を列挙できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト第9版p248～250を読み疑問事項をメモしてくる。 復習：救急救命士の現場活動における全身観察・継続観察・詳細観察・重点観察・車内活動についてまとめる。</p> <p>第5回 全身状態の観察（外見、気道・呼吸に関する観察） 【到達目標】 外見、気道・呼吸に関して観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。 異常な呼吸パターンを列挙し、それぞれの概念と代表的な原因疾患について説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p304～307までを読み疑問事項をメモしてくる。 復習：救急救命士の行う全身状態の観察（外見の観察、気道・呼吸に関する観察）についてまとめる。</p> <p>第6回 全身状態の観察（循環に関する観察） 【到達目標】 循環に関して観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。 体表面で触知できる動脈の部位と触知方法について説明できる。 脈拍を触知できる動脈の部位によって収縮期血圧を推定することができる。 脈拍の性状と様式の特徴と推定される代表的な疾患について説明できる。 神経系に関して観察すべき基本事項を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p307～310を読み疑問事項をメモしてくる。</p>

第7回	<p>復習：救急救命士の全身状態の観察についてまとめる。 全身状態の観察（意識状態に関する観察）/神経所見の観察</p> <p>【到達目標】 ・全身状態の観察 JCS を用いた意識レベルの評価について説明できる。 GCS を用いた意識レベルの評価について説明できる。 ・神経所見の観察 運動麻痺の種類と観察方法について説明できる。 正常反射と病的反射の違いについて説明できる。 運動失調の観察方法について説明できる。 感覚障害の種類と観察方法について説明できる。 髄膜刺激症候の概要について説明できる。 脳卒中スケールの概要について説明できる。 神経学的異常の観察方法について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック）</p> <p>【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p310～311, 322～326を読み疑問事項をメモしてくる。</p>
第8回	<p>復習：救急救命士の全身状態の観察（意識状態に関する観察）についてまとめる。 局所の観察（皮膚・頭部・顔面）</p> <p>【到達目標】 皮膚に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べるができる。 頭部・顔面に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を、皮下気腫、視覚、聴覚についての観察方法を含めて述べるができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック）</p> <p>【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p312～316を読み疑問事項をメモしてくる。</p>
第9回	<p>復習：救急救命士の局所の観察（頭部・顔面）についてまとめる。 局所の観察（頭部・眼・耳・背部）</p> <p>【到達目標】 頭部・眼・耳・背部に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べるができる。 また、皮下気腫、視覚、聴覚についての観察方法と、それから判断される病態または疾患を述べることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック）</p> <p>【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p316～317を読み疑問事項をメモしてくる。</p>
第10回	<p>復習：救急救命士の局所の観察（頭部・眼・耳・背部）についてまとめる。 局所の観察（胸部）</p> <p>【到達目標】 胸部に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べるができる。 また、呼吸音や心音を聞き分け、それから判断される病態または疾患を述べるができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック）</p> <p>【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p316～317を読み疑問事項をメモしてくる。</p>
第11回	<p>復習：救急救命士の局所の観察（胸部・背部）についてまとめる。 局所の観察（腹部、鼠径部）</p> <p>【到達目標】 腹部・鼠径部に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べるができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック）</p> <p>【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p317～319を読み疑問事項をメモしてくる。</p>
第12回	<p>復習：救急救命士の局所の観察（腹部、鼠径部・会陰部・骨盤）についてまとめる。 局所の観察（骨盤・会陰部・四肢、手指・足趾・爪、各種病態の観察アルゴリズム）</p> <p>【到達目標】 骨盤・会陰部に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べるができる。 四肢に関する観察項目をあげ、それぞれについて観察方法、主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べるができる。 手指・足趾・爪に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を、爪床圧迫テストについては観察方法を含めて述べるができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック）</p> <p>【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p319～321を読み疑問事項をメモしてくる。</p>
第13回	<p>復習：救急救命士の局所の観察（四肢、手指・足趾・爪、各種病態の観察アルゴリズム）についてまとめる。 緊急度・重症度判断（判断基準と分類）</p> <p>【到達目標】 緊急度と重症度の概念、判断、目的について説明できる。 緊急度・重症度の判断における一般的な手順について説明できる。 緊急度・重症度判断基準の重症以上と判断する基準を列挙できる。 緊急度・重症度判断で注意すべき傷病者の背景を列挙できる。 オーバーリアージとアンダーリアージについてそれぞれ説明できる。</p> <p>【授業形態】</p>

	<p>アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版p328～331を読み疑問事項をメモしてくる。 復習：判断の基準（緊急度・重症度判断の基準）についてまとめる。 まとめ・試験 【到達目標】 第1回から13回の内容を踏まえて初期評価と全身観察・重点観察の結果から、緊急度・重症度を判断し、適切な医療機関を選定できる。 救急処置の目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価についてそれぞれ説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版の本授業の全該当頁を熟読し、第1回から13回の講義内容をまとめる。 復習：講義全体で学んだすべての内容、救急救命士の行う観察の目的と意義についてまとめる。 総合的なまとめ 第1回から14回の内容を踏まえ総合的なまとめとして本授業を振り返る。 【授業形態】 アクティブラーニング有（リアクションペーパー活用とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習：救急救命士テキスト10版の本授業の全該当頁を熟読し、第1回から14回の講義内容をまとめる。 復習：講義全体で学んだすべての内容についてまとめる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに第10版救急救命士標準テキストの指定された頁を熟読し、自習すること。（予習・復習 各120分）
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	改訂第5版救急隊員標準テキスト（へるす出版） 改定第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版）
成績評価	<p>筆記試験：50%、リアクションペーパー：20%、授業態度：10%、授業参加姿勢：10%、まとめレポート：10% 合計100点とする。</p> <p>授業への出席と積極的な授業参加姿勢およびリアクションペーパーの内容を中心に、筆記試験、授業中の発言・発表内容などを加味して総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：諫山憲司 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：木村隆彦 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p>
備考	<p>諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 木村隆彦：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。</p> <p>授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2、○-5</p> <p>科目ナンバー：「HE-2-EM3-RS-L-1」</p> <p>Google Classroomを活用した（講義・演習）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
坪倉 寛明			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士の資格取得及び資格取得後に、救急業務を適切に遂行するための基本的知識を修得することを目的とする。救急業務の歴史をはじめ、救急活動の流れ、救急事故種別に応じた対応要領、救急活動の現況、迅速な傷病者搬送と受け入れ体制に係わる関係法令、救急医療体制の整備状況、救急医療情報システム、救急救命士制度・救急隊員の資格及び教育体制、救急処置範囲拡大の背景、傷病者との接遇要領、救急活動上のトラブル及び訴訟対応等について体系的に理解する。
授業計画	<p>第1講 救急業務高度化の背景及び救急救命士制度・MC体制について (到達目標) 救急処置範囲拡大の経緯及び救急救命士の業務について概要を整理し理解する。 (予習) 「救急救命士標準テキスト」P218～P231を読んでおくこと。 (復習) 救急処置範囲拡大の経緯及び救急救命士の業務について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第2講 救急業務の現況と実施体制及び応急手当普及啓発の必要性について。 (到達目標) 救急業務の現況について概要を整理し理解する。 (予習) 参考書「令和4年版消防白書(救急編)」を読んでおくこと。 (復習) 救急業務の現況について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第3講 119番の受信及び救急活動に係わる無線情報システムについて。 (到達目標) 119番の受信及び救急活動に係わる無線情報システムについて整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P42～P47を読んでおくこと。 (復習) 救急活動の情報システムについて概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第4講 救急隊員の責務及び救急活動の基本行動と救急事故種別について。 (到達目標) 救急隊員の責務及び救急活動の基本行動と救急事故種別について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」p12～p18を読んでおくこと。 (復習) 救急活動の基本行動について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第5講 出場から傷病者接触・医師引き継ぎ・帰署までの救急活動要領について。 (到達目標) 出場から傷病者接触・医師引き継ぎ・帰署までの救急活動要領について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」p20～p35を読んでおくこと。 (復習) 出場指令受信から帰署までの活動について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第6講 救急現場における傷病者及び家族・関係者との接遇要領について。 (到達目標) 救急現場における傷病者及び家族・関係者との接遇要領について整理し理解する。 (予習) 「救急救命士標準テキスト」P2532～P259を読んでおくこと。 (復習) 救急活動と接遇要領について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第7講 救急現場の安全管理対策及び事故発生時の対応について。 (到達目標) 救急現場の安全管理対策及び事故発生時の対応について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P140～P150救急救命士標準テキスト改訂10版」を読んでおくこと。 (復習) 安全管理の事前対策及び事故時の対応について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第8講 救急活動の妨害行為、不搬送、現場到着の遅れ等のトラブル対応について。 (到達目標) 妨害行為、不搬送、現場到着の遅れ等のトラブル対応について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P151～P154を読んでおくこと。 (復習) 救急活動に伴う各種トラブル対応要領について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第9講 救急活動と国家賠償責任、救急活動記録票の意義及び救急活動に関する各種照会等について。 (到達目標) 救急活動と国家賠償責任、救急活動記録票の意義及び救急活動に関する各種照会等について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P154～P166を読んでおくこと。 (復習) 救急活動に伴う訴訟及び照会への対応について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第10講 交通事故、労災事故、一般負傷事故における救急活動上の着眼点について。 (到達目標)</p>

	<p>第11講 交通事故、労災事故、一般負傷事故における救急活動上の着眼点について理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P90～P121を読んでおくこと。 (復習) 交通事故、労災事故、一般負傷事故における活動要領について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>運動競技事故、急病事故、ガス中毒事故における救急活動上の着眼点について。 (到達目標) 運動競技事故、急病事故、ガス中毒事故における救急活動上の着眼点について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P90～P121を読んでおくこと。 (復習) 運動競技事故、急病事故、ガス中毒事故における活動要領について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第12講 加害事故、水難事故、感染のおそれがある事故における救急活動上の着眼点について。 (到達目標) 加害事故、水難事故、感染のおそれがある事故における救急活動上の着眼点について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P90～P121を読んでおくこと。 (復習) 加害事故、水難事故、感染のおそれがある事故における活動要領について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第13講 多数傷病者発生現場における救急活動について。 (到達目標) 多数傷病者発生現場における救急活動について整理し理解する。 (予習) 「救急活動実務ガイドブック」P129～P137を読んでおくこと。 (復習) 多数傷病者発生現場の対応について概要を整理する。 (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第14講 これまでの授業を総括し、救急救命士の社会的ニーズについて。 (到達目標) 第1講話～第13講話までの授業を総括し、救急救命士の社会的ニーズについて説明する。 (予習) 救急業務の現状、救急活動の基本的事項及び救急活動体制・救急法制について確認しておくこと。 (復習) 救急業務の現状と課題に関する理解を深める。 (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第15講 筆記試験試験 (到達目標) 第1講から第14講の内容を復習して、知識の習得を確認する。 (授業形態) アクティブラーニング無 【備考】 (予習) この授業で修得した内容をまとめておく。 (復習) 筆記試験で間違えた問題を整理し理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	教科書・参考書を参考に各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習120分)し、講義で学習した内容をまとめる。(復習120分)。
教科書	「救急活動実務ガイドブック」(荘道社) 改訂10版「救急救命士標準テキスト」(へるす出版) 改訂5版「救急隊員標準テキスト」(へるす出版)
参考書	インターネット 令和5年版消防白書(総務省消防庁) 令和5年版救急救助の現況(総務省消防庁)
成績評価	期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上とする。 期末試験筆記試験で60%以上を評価の対象とする。 ・架空出席が発覚した場合は、期末試験の受講が無効となり、再試験のみの扱いとする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp
備考	坪倉寛明 消防士として現場経験37年、内救急救命士歴21年とJPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験及び知識をもとに講義、実技を行う。 本科目は、より迅速、確実な行動がとれるよう随時、学生が主体となったグループディスカッションを行いながら進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1 ○-2 科目ナンバー: HE-2-EM6-RS-L-0
	課題等に対し、フィードバックが必要な場合は次回の講義時に行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
原 貴大、坪倉 寛明、木村 隆彦、山下 歩			
配当学科：救急救命学科	時間数：45時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士としてあるべき倫理観を習得すること。 救急救命士が行う、外傷救急事案に対する救急救命処置を理解すること。 柔道整復師が行う、包帯固定法の基礎を習得すること。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション・三角巾の取り扱い 【到達目標】 三角巾を用いた応急手当を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいた演習の実施） 【備考】 （予習）救急技術マニュアルP148-153. 165-169およびその関連部分を読み、三角巾の基本操作を予習すること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること</p> <p>第2講 応急処置の復習 【到達目標】 三角巾を用いた圧迫止血法、被覆法を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいたディスカッション） 【備考】 （予習）事前講義動画を視聴し、救急技術マニュアルP165-169. 153-162およびその関連部分を読み、三角巾による圧迫止血法、被覆法について予習すること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第3講 骨折固定法 【到達目標】 救急救命士が行う骨折固定法を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）事前講義動画を視聴し、救急技術マニュアルP191-198およびその関連部分を読み、骨折固定法について予習すること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第4講 全身固定法 【到達目標】 救急救命士が行う骨折固定法を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）事前講義動画を視聴し、全身固定法について予習すること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第5講 総合想定訓練 【到達目標】 様々な環境下での外傷傷病者対応を行い、自身の課題を見つけること 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）課題レポートを作成し、その内容について疑問点をまとめること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第6講 スキルチェック（前期） 【到達目標】 第1講～5講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（活動に対するフィードバック） 【備考】 （予習）第1～5講までのスキルを班で確認すること。 （復習）授業中のフィードバックに対して自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第7講 基礎包帯法① 【到達目標】 基本包帯法を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）参考書の指定箇所を読み、質問事項をまとめること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第8講 基礎包帯法② 【到達目標】 特定の部位に使用する包帯法を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）参考書の指定箇所を読み、質問事項をまとめること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第9講 固定材料を用いた固定法 【到達目標】 クランメル副子などの固定材料を用いた固定法を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）参考書の指定箇所を読み、質問事項をまとめること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第10講 テーピング法 【到達目標】 スポーツなどで使用するテーピング法を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック）</p>

	<p>【備考】 (予習) 参考書の指定箇所を読み、質問事項をまとめること。 (復習) 授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第11講 スキルチェック (後期)</p> <p>【到達目標】 第7講～10講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (活動に対するフィードバック)</p> <p>【備考】 (予習) 第7～10講までのスキルを班で確認すること。 (復習) 授業中のフィードバックに対して自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第12講 記述テスト</p> <p>【到達目標】 十分な解剖生理の知識に基づいて救急処置を行うことができること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (テストに対するフィードバック)</p> <p>【備考】 (予習) 教科書の指定範囲を調べ、まとめること。 (復習) テスト結果について自身で振り返りを行い、学習を深めること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	シラバスに則って予習・復習を行うこと。(各講、予習復習合わせて90分)
教科書	改訂第5版 救急技術マニュアル(東京法令出版) 改訂第10版 救急救命士標準テキスト
参考書	改訂第2版JPTECガイドブック
成績評価	<p>以下の3項目を成績評価の前提条件とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述テストで60%以上の正答率を満たすこと。 ・提出物をすべて提出していること ・全てのスキルチェックに合格していること <p>最終評価：知識・理解32%、思考・判断8%、関心・意欲8%、態度12%、技能・表現40%*詳細はルーブリックに示す。</p> <p>*記述テスト及びスキルチェックの受験にあたっては原則、全ての授業に参加していることを条件とし、無断での欠席・遅刻・早退が合った場合や、受講態度・服装などが不適切な場合は成績評価の対象としないことがある。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 原 貴大 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス:t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後1時間</p> <p>担当教員名 : 木村隆彦 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後1時間</p> <p>担当教員名 : 坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後1時間</p> <p>担当教員名 : 山下 歩 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス:調整中 オフィスアワー : 授業後1時間</p> <p>担当教員名 : 宮坂卓治 研究室: 柔道整備学科棟4階 メールアドレス: t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 火曜日午前11:00～12:00</p> <p>担当教員名 : 沖 和久 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 宗友 宏行 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : オフィスアワー : 調整中</p> <p>担当教員名 : 吉元 拓也 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : オフィスアワー : 調整中</p> <p>担当教員名 : 村迫 萌生 研究室 : 8号館4F 講師室 メールアドレス : m_murasako@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 児玉 香菜絵 研究室 : 8号館4F講師室 メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後</p>

備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1, ○-4 【科目コード】HE-9-EM15-ES-P-0
	事前課題について講義内でディスカッションを行う。 小テストについて、解答後に正答を提示する。 提出されたレポートについて、評価及びコメントを記載して返却する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	必修
担当教員			
村上 龍、矢部 真弓、上村 雅也、花山 昇			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：講義・実習/ブレンド型	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、救急救命士の資格取得を目標とし、基本的な解剖学に基づいた救急処置法を身に付けるとともに、人の命の尊さ、大切さを理解し、救急救命処置要領を習得し、即戦力となる実践型教育を本授業の主眼とする。本科目の目標は以下の通りである。</p> <p>①集団行動における礼儀礼節や規律、指揮命令系統の重要性を理解し、社会人として規範となる行動を遂行することができる。 ②救急救命士国家資格取得を見据え、一般的な救急隊活動(外傷・CPA)の要点を理解して、実践することができる。 ③シミュレーションを始めとした実践型教育を行う中で適切な運営を行い、互いの活動を吟味して、評価することができる。</p>
授業計画	<p>第1～4講 オリエンテーション/1年次の復習</p> <p>【到達目標】 ①心肺蘇生法・包括的除細動の手技の適応を説明できる。 ②心肺蘇生法・包括的除細動の手技を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で心肺蘇生法・包括的除細動の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p> <p>第5～8講 搬送手順/声門上気道デバイスを用いた気道確保①</p> <p>【到達目標】 ①搬送手順/声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を説明できる。 ②搬送手順/声門上気道デバイスを用いた気道確保を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で搬送手順/声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p> <p>第9～12講 声門上気道デバイスを用いた気道確保②</p> <p>【到達目標】 ①声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を説明できる。 ②声門上気道デバイスを用いた気道確保を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p> <p>第13～16講 声門上気道デバイスを用いた気道確保③</p> <p>【到達目標】 ①声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を説明できる。 ②声門上気道デバイスを用いた気道確保を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p> <p>第17～19講 スキルチェック</p> <p>【到達目標】 ①声門上気道デバイスを用いた気道確保を正しい手順で実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>

第20～23講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 気管挿管/気管吸引①</p> <p>【到達目標】 ①気管挿管/気管吸引の適応を説明できる。 ②気管挿管/気管吸引を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で気管挿管/気管吸引の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>
第24～27講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 気管挿管/気管吸引②</p> <p>【到達目標】 ①気管挿管/気管吸引の適応を説明できる。 ②気管挿管/気管吸引を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で気管挿管/気管吸引の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>
第28～30講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 スキルチェック</p> <p>【到達目標】 ①気管挿管を正しい手順で実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>
第31～34講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 静脈路確保と輸液/アドレナリン投与①</p> <p>【到達目標】 ①静脈路確保と輸液/アドレナリン投与の適応を説明できる。 ②静脈路確保と輸液/アドレナリン投与を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で静脈路確保と輸液/アドレナリン投与の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>
第35～38講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 静脈路確保と輸液/アドレナリン投与②</p> <p>【到達目標】 ①静脈路確保と輸液/アドレナリン投与の適応を説明できる。 ②静脈路確保と輸液/アドレナリン投与を正しい手順で実施できる。 ③活動の中で静脈路確保と輸液/アドレナリン投与の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>
第39～41講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 静脈路確保と輸液/アドレナリン投与②・筆記試験</p> <p>【到達目標】 ①気管挿管を正しい手順で実施できる。 ②気管挿管の実施に必要な知識を習得できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>
第42～45	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 スキルチェック</p> <p>【到達目標】 ①静脈路確保と輸液/アドレナリン投与を正しい手順で実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答</p>
第46～49講	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 オリエンテーション/前期の復習</p> <p>【到達目標】 ①気管挿管プロトコールの適応を説明できる。 ②静脈路確保と輸液/アドレナリン投与の適応を説明できる。 ③声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を説明できる。 ④JPTECの概念について説明できる。</p>

第50～53講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 JPTECの概念/JPTECに準じた外傷対応①</p> <p>【到達目標】 ①JPTECに準じた外傷対応の概要を説明できる。 ②JPTECに準じた外傷対応を正しい手順で実施できる。 ③活動の中でJPTECに準じた外傷対応の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 JPTECに準じた外傷対応②</p>
第54～57講	<p>【到達目標】 ①JPTECに準じた外傷対応の概要を説明できる。 ②JPTECに準じた外傷対応を正しい手順で実施できる。 ③活動の中でJPTECに準じた外傷対応の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 JPTECに準じた外傷対応（中間試験）</p>
第58～61講	<p>【到達目標】 隊活動によるJPTECの手技の学習進度確認を実施する。 本講は中間試験を兼ね、隊活動中の個々の手技についてスキルチェックを実施する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 JPTECに準じた外傷対応③</p>
第62～65講	<p>【到達目標】 ①JPTECに準じた外傷対応の概要を説明できる。 ②JPTECに準じた外傷対応を正しい手順で実施できる。 ③活動の中でJPTECに準じた外傷対応の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 JPTECに準じた外傷対応④</p>
第66～69講	<p>【到達目標】 ①JPTECに準じた外傷対応の概要を説明できる。 ②JPTECに準じた外傷対応を正しい手順で実施できる。 ③活動の中でJPTECに準じた外傷対応の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 JPTECに準じた外傷対応④</p>
第70～73講	<p>【到達目標】 ①JPTECに準じた外傷対応の概要を説明できる。 ②JPTECに準じた外傷対応を正しい手順で実施できる。 ③活動の中でJPTECに準じた外傷対応の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 スキルチェック</p>
第74講	<p>【到達目標】 ①JPTECに準じた外傷対応を正しい手順で実施できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・グループディスカッション ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 筆記試験</p>
第75講～78講	<p>【到達目標】 ①JPTECに準じた外傷対応の概要を説明できる。</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。 静脈路確保と輸液/クラッシュ症候群</p>

	<p>②JPTECに準じた外傷対応を正しい手順で実施できる。</p> <p>③活動の中でJPTECに準じた外傷対応の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。</p> <p>復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p> <p>総合想定訓練①</p> <p>【到達目標】</p> <p>①救急救命処置の総合的な適応の判断が実施できる。</p> <p>②活動の中で複数の救急救命処置の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。</p> <p>復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p> <p>総合想定訓練②</p> <p>【到達目標】</p> <p>①救急救命処置の総合的な適応の判断が実施できる。</p> <p>②活動の中で複数の救急救命処置の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。</p> <p>復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p> <p>総合想定訓練③</p> <p>【到達目標】</p> <p>①救急救命処置の総合的な適応の判断が実施できる。</p> <p>②活動の中で複数の救急救命処置の適応を判断し、処置を実施、評価ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。</p> <p>復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施する。</p>
第79～82講	
第83～86講	
第87～90講	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(45分間)。 復習：授業で学んだ内容を基に教科書の該当範囲を読み直し、復習を実施すること(45分間)。
教科書	・改訂10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版) ・改定第2版補訂版 JPTECガイドブック(へるす出版)
参考書	特になし。
成績評価	<p>前期及び後期の記述テストにて合計60%以上の正答率を満たすこと、提出物をすべての提出していること、すべてのスキルチェックに合格していることを、成績評価の前提とする。</p> <p>最終評価：知識・理解32%、思考・判断8%、関心・意欲8%、態度12%、技能・表現40%</p> <p>架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。</p> <p>※詳細は別紙ルーブリック評価表に準ずる。</p> <p>※無断での欠席・遅刻・早退があった場合や、受講態度・服装等が不適切な場合は成績評価の対象としないことがある。</p> <p>※これまで履修したA実習の技能を習得していることを前提とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：村上 龍 研究室：6号館2階助教室 メールアドレス：r_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：矢部 真弓 研究室：6号館2階助教室 メールアドレス：m_yabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：上村 雅也 研究室：非常勤のため研究室なし オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：花山 昇 研究室：非常勤のため研究室なし オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>村上 龍：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p> <p>矢部 真弓：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p> <p>上村 雅也：消防機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p> <p>花山 昇：消防機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>【アクティブラーニング：有】</p> <p>実技実習及びそれに付随する簡潔な講義形式の授業進行の際に、学生間、教員・学生間の対話形式により授業進捗の確認を兼ねた対話型アクティブラーニングの時間を設ける。</p> <p>Google Classroomを使用した実習</p>

	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1, ○-2
	科目ナンバー : HE-2-EM10-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	2	選択
担当教員			
久保 敦士 、 千田 いずみ			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習（遠隔：オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医学概論のうち、特に救急救命処置に関して知識を深める。 ・救急救命処置の適応、手順、注意点ならびに合併症に関して説明ができる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/パルスオキシメーター・カプノメータの適応とその注意点</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①パルスオキシメーター・カプノメータの適応を理解している。 ②パルスオキシメーター・カプノメータの手順が説明できる。 ③パルスオキシメーター・カプノメータの注意点・合併症を説明できる。 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション/パルスオキシメーター・カプノメータについて ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>第2回 聴診器/血圧計の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①聴診器/血圧計の適応を理解している。 ②聴診器/血圧計の手順が説明できる。 ③聴診器/血圧計の注意点・合併症を説明できる。 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴診器/血圧計について ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>第3回 心電図モニター/体温計の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①心電図モニター/体温計の適応を理解している。 ②心電図モニター/体温計の手順が説明できる。 ③心電図モニター/体温計の注意点・合併症を説明できる。 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心電図モニター/体温計について ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>第4回 血糖測定器の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①血糖測定器の適応を理解している。 ②血糖測定器の手順が説明できる。 ③血糖測定器の注意点・合併症を説明できる。 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血糖測定器について ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>第5回 処置の目的と意義/気道確保の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①処置の目的と意義/気道確保の適応を理解している。 ②処置の目的と意義/気道確保の手順が説明できる。 ③処置の目的と意義/気道確保の注意点・合併症を説明できる。 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処置の目的と意義/気道確保について ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>第6回 気道異物除去/口腔内の吸引の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①気道異物除去/口腔内の吸引の適応を理解している。 ②気道異物除去/口腔内の吸引の手順が説明できる。 ③気道異物除去/口腔内の吸引の注意点・合併症を説明できる。 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気道異物除去/口腔内の吸引について ・小テストの解説 ・質疑応答 <p>第7回 声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①声門上気道デバイスを用いた気道確保の適応を理解している。 ②声門上気道デバイスを用いた気道確保の手順が説明できる。 ③声門上気道デバイスを用いた気道確保の注意点・合併症を説明できる。 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声門上気道デバイスを用いた気道確保について ・小テストの解説

第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 気管挿管/気管吸引の適応とその注意点 【到達目標】 ①気管挿管/気管吸引の適応を理解している。 ②気管挿管/気管吸引の手順が説明できる。 ③気管挿管/気管吸引の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・気管挿管/気管吸引について ・小テストの解説 ・質疑応答
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> 酸素投与/人工呼吸の適応とその注意点 【到達目標】 ①酸素投与/人工呼吸の適応を理解している。 ②酸素投与/人工呼吸の手順が説明できる。 ③酸素投与/人工呼吸の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・酸素投与/人工呼吸について ・小テストの解説 ・質疑応答
第 1 0 回	<ul style="list-style-type: none"> 胸骨圧迫/自動式心マッサージ器の使用の適応とその注意点 【到達目標】 ①胸骨圧迫/自動式心マッサージ器の使用の適応を理解している。 ②胸骨圧迫/自動式心マッサージ器の使用の手順が説明できる。 ③胸骨圧迫/自動式心マッサージ器の使用の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・胸骨圧迫/自動式心マッサージ器について ・小テストの解説 ・質疑応答
第 1 1 回	<ul style="list-style-type: none"> 電気ショックの適応とその注意点 【到達目標】 ①電気ショックの適応を理解している。 ②電気ショックの手順が説明できる。 ③電気ショックの注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・電気ショックについて ・小テストの解説 ・質疑応答
第 1 2 回	<ul style="list-style-type: none"> 静脈路確保と輸液の適応とその注意点 【到達目標】 ①静脈路確保と輸液の適応を理解している。 ②静脈路確保と輸液の手順が説明できる。 ③静脈路確保と輸液の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・静脈路確保と輸液について ・小テストの解説 ・質疑応答
第 1 3 回	<ul style="list-style-type: none"> アドレナリン投与の適応とその注意点 【到達目標】 ①アドレナリン投与の適応を理解している。 ②アドレナリン投与の手順が説明できる。 ③アドレナリン投与の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・アドレナリンについて ・小テストの解説 ・質疑応答
第 1 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 ～ 1 3 回までのまとめ 【到達目標】 ①第 1 ～ 1 3 回までの救急救命処置の適応を理解している。 ②第 1 ～ 1 3 回までの救急救命処置の手順が説明できる。 ③第 1 ～ 1 3 回までの救急救命処置の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・第 1 ～ 1 3 回までの理解度確認 ・小テストの解説 ・質疑応答
第 1 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 中間試験 【到達目標】 ①これまで履修した救急救命処置の適応を理解している。 ②これまで履修した救急救命処置の手順が説明できる。 ③これまで履修した救急救命処置の注意点・合併症を説明できる。 【授業形態】 ・対面によるテスト
第 1 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 体位管理の適応とその注意点 【到達目標】 ①体位管理の適応を理解している。 ②体位管理の手順が説明できる。 ③体位管理の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・体位管理について ・小テストの解説 ・質疑応答
第 1 7 回	<ul style="list-style-type: none"> 体温管理の適応とその注意点

	<p>【到達目標】 ①体温管理の適応を理解している。 ②体温管理の手順が説明できる。 ③体温管理の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・体温管理について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第18回	<p>止血の適応とその注意点 【到達目標】 ①止血の適応を理解している。 ②止血の手順が説明できる。 ③止血の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・止血について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第19回	<p>創傷処置の適応とその注意点 【到達目標】 ①創傷処置の適応を理解している。 ②創傷処置の手順が説明できる。 ③創傷処置の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・創傷処置について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第20回	<p>固定の適応とその注意点 【到達目標】 ①固定の適応を理解している。 ②固定の手順が説明できる。 ③固定の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・固定について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第21回	<p>産婦人科領域の処置①の適応とその注意点 【到達目標】 ①産婦人科領域の処置①の適応を理解している。 ②産婦人科領域の処置①の手順が説明できる。 ③産婦人科領域の処置①の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・産婦人科領域の処置①について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第22回	<p>産婦人科領域の処置②の適応とその注意点 【到達目標】 ①産婦人科領域の処置②の適応を理解している。 ②産婦人科領域の処置②の手順が説明できる。 ③産婦人科領域の処置②の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・産婦人科領域の処置②について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第23回	<p>救急蘇生法の概要/救急蘇生法①（成人）の適応とその注意点 【到達目標】 ①救急蘇生法の概要/救急蘇生法（成人）の適応を理解している。 ②救急蘇生法の概要/救急蘇生法（成人）の手順が説明できる。 ③救急蘇生法の概要/救急蘇生法（成人）の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・救急蘇生法の概要/救急蘇生法①（成人）について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第24回	<p>救急蘇生法②（小児）の適応とその注意点 【到達目標】 ①救急蘇生法（小児）の適応を理解している。 ②救急蘇生法（小児）の手順が説明できる。 ③救急蘇生法（小児）の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・救急蘇生法②（小児）について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第25回	<p>救急蘇生法③（医療機関内）の適応とその注意点 【到達目標】 ①救急蘇生法（医療機関内）の適応を理解している。 ②救急蘇生法（医療機関内）の手順が説明できる。 ③救急蘇生法（医療機関内）の注意点・合併症を説明できる。 【授業概要】 ・救急蘇生法③（医療機関内）について ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第26回	<p>在宅医療（療養）の適応とその注意点</p>

	<p>【到達目標】 ①在宅医療（療養）の適応を理解している。 ②在宅医療（療養）の手順が説明できる。 ③在宅医療（療養）の注意点・合併症を説明できる。</p> <p>【授業概要】 ・在宅医療（療養）について ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>第27回 在宅療法①（在宅中心静脈栄養療法等）の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】 ①在宅療法（在宅中心静脈栄養療法等）の適応を理解している。 ②在宅療法（在宅中心静脈栄養療法等）の手順が説明できる。 ③在宅療法（在宅中心静脈栄養療法等）の注意点・合併症を説明できる。</p> <p>【授業概要】 ・在宅療法①（在宅中心静脈栄養療法等）について ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>第28回 在宅療法②（人工肛門等）の適応とその注意点</p> <p>【到達目標】 ①在宅療法（人工肛門等）の適応を理解している。 ②在宅療法（人工肛門等）の手順が説明できる。 ③在宅療法（人工肛門等）の注意点・合併症を説明できる。</p> <p>【授業概要】 ・在宅療法②（人工肛門等）について ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>第29回 第16～28回までのまとめ</p> <p>【到達目標】 ①第16～28回までの救急救命処置の適応を理解している。 ②第16～28回までの救急救命処置の手順が説明できる。 ③第16～28回までの救急救命処置の注意点・合併症を説明できる。</p> <p>【授業概要】 ・第16～28回までの理解度確認 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>第30回 まとめ・期末試験</p> <p>【到達目標】 ①これまで履修した救急救命処置の適応を理解している。 ②これまで履修した救急救命処置の手順が説明できる。 ③これまで履修した救急救命処置の注意点・合併症を説明できる。</p> <p>【授業概要】 ・対面によるテスト</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（30分） 復習：授業内小テストの見直しを行うこと。（30分）
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	5訂版 救急資器材管理マニュアル（東京法令出版） 5訂版 救急技術マニュアル（東京法令出版）
成績評価	小テスト20%、中間テスト40%、期末試験40%。 ※小テスト ・各講義の動画視聴後の小テスト回答をもって、出席扱いとする。 ・小テストはウェブ上で実施するもの（Google forms）とし、Google Classroomからアクセスする。 ・小テストは何度でも受験でき、各々の小テストの最高点を評価として用いる。 *注：小テスト回答の締め切り日時を過ぎた場合、「出席」と認められない。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：久保 敦士 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：a_kubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：平日9:00-17:30</p> <p>担当教員名：千田 いずみ 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：i_chida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：平日9:00-17:30</p> <p>千田：当該領域の大学での教育経験を有する、その実務経験をもとに救急救命処置について講義を行う。 久保：実務経験あり。消防組織の救急救命士としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに救急救命処置について講義を行う。</p>
備考	授業とディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5 科目ナンバー HE-2-EM16-ES-S-0
	・小テストについて、授業内において正答の確認および解説を行う。 ※中間テスト、期末テストは対面での実施とする。
	【授業形態】 アクティブラーニング無 ・Google classroomを活用した演習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	健康とは心身共に健やかで活気に満ちた状態であり、複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を身に付け、自分で健康づくりの施策ができるようその概要について論じる。この授業は、健康の三原則（栄養・運動・休養）について学び、健康と栄養のかかわりを理解し、健康に関連する生活習慣病を予防するための身体活動の質と量を、講義の中で実践する体力測定から評価する。そこからさらに発展させ、健康づくりと運動プログラミングの要点を修得する。また、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を本時の中で目指すことを目標とする。		
授業計画	第1講	健康づくりの施策概論（健康と生活習慣病とその予防、メディカルチェック） [到達目標] 健康と生活習慣病とその予防、メディカルチェックについて理解できる [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：健康と生活習慣について考える 復習：健康と生活習慣について説明できるように、学んだことを理解しておく	
	第2講	健康と飲酒・喫煙 [到達目標] お酒と健康的な付き合い方。喫煙は「百害あって一利なし」を科学的に理解できる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：健康と飲酒・喫煙の影響について考える 復習：健康と飲酒・喫煙について学んだことを理解しておく	
	第3講	健康の概念、我が国の現状と健康づくり [到達目標] 健康の概念、我が国の現状と健康づくりについて具体的に説明できる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：健康とは何か考えてくる 復習：健康と体力の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す	
	第4講	健康づくりと運動プログラム [到達目標] 目標設定、運動のプログラミング（運動処方）ができる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：健康づくりとは何か考えてくる 復習：健康づくりで学んだ内容を日々の生活習慣に取り入れ実践する	
	第5講	「肥満とやせの評価」 [到達目標] あなたの判定について関心を持つことができる。 [授業形態] 講義 予習：BMI とその他の体脂肪量測定方法について調べておく 復習：肥満とやせの評価で学んだことを理解しておく	
	第6講	体力の特性 [到達目標] 「行動体力」と「防衛体力」を兼ね備えた基礎体力について考えることができる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：体力とは何か考えてくる 復習：体力について学んだことを理解しておく	
	第7講	体力測定と体力の評価 [到達目標] 体力測定と体力の評価について学んだことを理解できる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：新体力テストの測定方法とその評価について調べておく 復習：新体力測定と体力の評価について学んだことを復習しておく	
	第8講	健康づくりと運動プログラム（運動プログラムの基本的考え方、身体活動指針・指針の具体例） [到達目標] 健康増進のための運動効果、身体活動指針・指針の具体例について理解できる [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：今まで行ってきたトレーニング内容を振り返り、気をつけていたことをまとめておく 復習：トレーニング効果について復習しておく	
	第9講	体力の加齢変化 [到達目標] 体力の発育・発達と、加齢による体力の衰えについて解析できる。 [授業形態] 講義 予習：体力があるとはどのようなことか、またどのような方法で測定できるか考える 復習：自分の体力をさまざまな観点から評価してみる	
	第10講	フィットネスと健康管理（フィットネスと体調、体調チェックの意義と方法） [到達目標] フィットネスと体調について関心を持つことができる [授業形態] 講義（ディスカッションをする） 予習：体調チェックの意義と方法について考えてくる 復習：体調チェックの意義と方法について具体的に説明できるように学習した内容を見直す	
	第11講	運動と健康 [到達目標] 運動と健康の関係について具体的に説明できる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：運動は健康に良いといわれているが、科学的な根拠を考えておく	

	<p>第12講 復習：健康と運動の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す スポーツに関する医科学的知識「栄養（食事）・運動・休養」のバランス [到達目標] 栄養・運動・休養、この順番の重要性について学習した内容を理解できる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：栄養・運動・休養について考えておく 復習：栄養・運動・休養のバランスについて学習した内容を復習しておく</p> <p>第13講 スポーツに関する医科学的知識（フィットネスと健康管理） [到達目標] 体調チェックの意義と方法について理解できる。 [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：体調チェックについて調べておく 復習：体調チェックについて学んだことを復習しておく</p> <p>第14講 健康づくりと運動プログラム（トレーニングの原理、健康増進のための運動効果） [到達目標] 健康増進のための運動効果、身体活動指針・指針の具体例について理解できる [授業形態] 講義（グループワークをする） 予習：健康のための運動について調べておく 復習：身体活動指針について復習すること</p> <p>第15講 総括（定期試験） [到達目標] 講義のまとめ（定期試験） [授業形態] 講義 予習：第1講～第14講をまとめておく 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の内容を事前学習（予習30分）し、講義で学習した内容をまとめておく（復習30分）。 自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1 知識・理解，○-2 思考・判断。
	③ 科目ナンバー：HE-2-HA4-ES-L-0。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>○人から信頼される心優しい医療人を目指すと共に自己の健康づくりと体力づくりを学ぶことができる。</p> <p>○コーディネーション・アジリティ・筋力・持久力トレーニングを学ぶことができる。</p> <p>○集団スポーツゲームにてコミュニケーション能力を学ぶことができる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 体育館に運動・スポーツに適した服装に着替えて室内シューズで集合してください。 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎コーディネーション・アジリティ・筋力アップ・持久力アップのためのトレーニングを体験理解できる。 オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 コーディネーショントレーニング1 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎ボール1を使用しコーディネーショントレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>3回目 コーディネーショントレーニング2 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎ボール2を使用したコーディネーショントレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>4回目 アジリティトレーニング 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる ◎ラダーとミニコーンを使用したアジリティトレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>5回目 筋力アップ運動1 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎自重とメディシンボールを使用した筋力アップ運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>6回目 筋力アップ運動2 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎マットを使用した筋力アップ運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>7回目 持久力アップ運動 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎ミニハードルを使用した持久力アップ運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>8回目 体力測定1 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎体力測定(握力・上体おこし)を通して、新スポーツテストの実施方法を体験理解できる。 個人の体力評価をグループワーク①で体験できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>9回目 体力測定2 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎体力測定(復横跳び・立幅跳び)を通して、新スポーツテストの実施方法を体験理解できる。 個人の体力評価をグループワーク②で体験できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>10回目 体力測定3 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎シャトルランニングの計測体験を理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>11回目 スポーツ競技1 到達目標 ◎卓球シングルスで生涯における健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p>

	12回目	スポーツ競技2 到達目標 ◎卓球ダブルスゲームで生涯における健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
	13回目	集団競技1 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲーム①で楽しい集団スポーツを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
	14回目	集団競技2 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲーム②で楽しい集団スポーツを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
	15回目	集団競技3 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲーム③で楽しい集団スポーツを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
成績評価	出席状況と授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス、コミュニケーション、服装・シューズなどを加味して総合評価する。	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業の前後	
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部運藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。	
	この授業のディプロマポリシーは◎-3 ○-4	
	HE-2-HA1-RS-P-1	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
齋藤 秀俊、木村 隆彦、村上 龍、矢部 真弓			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習（座学/遠隔ブレンディッド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習は3部構成で展開する。座学は大学教場、臨地実習は保津川（大堰川）を使う予定である。本実習を通して以下の事柄を達成することを目標とする。</p> <p>①市民向け救助技法と救助機関向けの救助技法の違いについて具体的に説明できる。 ②河川の環境において正しい技法を用いた自己確保の説明と実施ができる。 ③動水圧環境（河川の流れなどの中）と静水圧環境（湖など流れのない状況）における水難事故の発生機序の違いについて具体的に説明できる。</p>		
授業計画	<p>第1-2講 講義 河川に関する基礎知識・水難事故に関する基礎知識 専門的知見を有する講師による講義を行う。 [到達目標] 身近な存在である河川を理解する。自然の豊かさばかりではなく、河川に潜む危険については、流水工学、河川工学の観点を含めて理解する。 水難事故から生還するための知見を高め、嘘や思い込み、迷信にとらわれない「真の水難」の理解を求め、市民が命を守るための考え方を理解するとともに、水難事故に対する正しい教養を得る。 【授業形態】座学 アクティブラーニング有</p> <p>第3講 講義内容に対する筆記試験 [到達目標] 身近な存在である河川を理解する。自然の豊かさばかりではなく、河川に潜む危険については、流水工学、河川工学の観点を含めて理解する。 水難事故から生還するための知見を高め、嘘や思い込み、迷信にとらわれない「真の水難」の理解を求め、市民が命を守るための考え方を理解するとともに、水難事故に対する正しい教養を得る。</p> <p>第4-7講 第1-2講で学習した内容について筆記試験を実施し、学習内容の確認と定着を図る。 実技1 亀岡市千代川 川の駅亀岡水辺公園周辺（予定） 緩流域を活用した実習とする [到達目標] 河川ウエイディングにより、河川に潜む危険を理解する。 河川における基本泳法能力を高める。 河川で発生する水難事故を理解し、溺水回避要領を習得する。 河川での水難事故を想定し、自己保全、市民による救助、救助機関による救助を習得する。 【授業形態】実技実習（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第8-11講 実技2 亀岡市千代川 川の駅亀岡水辺公園周辺（予定） 緩流域を活用した実習とするが、実習項目によっては、やや急流域を活用する。 [到達目標] 急流域に入り、動水圧の中での身のこなし要領を学ぶ。 救命胴衣を正しく装着でき、他者に着せることができる。 河川流を洪水流に見立て、1人から10人での冠水路歩行要領を理解し、実施のための指揮をとることができる。 河川流を活用して安全な流下（流される）要領を理解し、実践する。 緩流域で流下中の要救助者に対する救助活動を理解し、実践する。 【授業形態】実技実習（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第12-15講 実技3 亀岡市保津町 保津川水辺公園周辺及び大堰川・保津川一帯（予定） 急流域を活用した実習とする。 [到達目標] 急流域で流下中の要救助者に対する救助活動を理解し、実践する。 高所からの入水、安全泳法を習得するとともに、ボート操船技術を学ぶことを目的に、ラフティングを実施する。保津川一帯を嵐山まで流下しながら所要所でボートから下船し、水の安全に繋がる技術と溺水回避に繋がる行動を学ぶ。 【授業形態】実技実習（実技実習後フィードバックあり）</p>		
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習：各実習時間に望むにあたって、救急救命士標準テキストを用いて、水難事故に関連する頁を予習すること（各コマあたり30分）。</p> <p>復習：各実習時間において学んだ内容をレポートにまとめ、復習を実施する（各コマあたり30分）。</p>		
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）（座学）		
参考書	特になし。		
成績評価	<p>筆記試験40%、実地試験50%、平常点（授業中の質問に対する回答回数等を評価する）10% 架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。</p>		
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：齋藤 秀俊 研究室：非常勤のため無し オフィスアワー：実習終了後随時</p>		

	<p>担当教員名 : 木村 隆彦 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 実習終了後随時 メールアドレス : t_kimura@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 村上 龍 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 実習終了後随時 メールアドレス : r_murakami@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 矢部 真弓 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 実習終了後随時 メールアドレス : m_yabe@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>斎藤秀俊：水難事故研究と実務経験に基づき授業を行う。 木村隆彦：消防署での臨床経験と水難事故研究の経験に基づき授業を行う。 安倍 淳：水難事故研究と実務経験に基づき授業を行う。 村上 龍：救急救命教育での経験に基づき授業を行う。 矢部真弓：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>本実習は3部構成で展開する。座学は大学教場、臨地実習は保津川（大堰川）を使う予定であるが、河川は気象の影響を受けやすいことから、安全な環境を優先して実習場所を判断する。</p> <p>1. 河川における水難救助活動：消防や警察、自衛隊や海上保安などが行う水難救助のうち、河川救助で実施される救助活動要領を学ぶ。特に安全管理の考え方と河川の特異性を十分に理解し、実践的実習を行う。なお、自己保全と市民向け救助、救助機関向け救助を系統だてて学び、水難のチェーンオブサバイバルの重要性を理解する。</p> <p>2. 洪水時行動要領：緩流域を使用し、水災害のうち洪水から命を守るための知識技術を学ぶ。将来、災害現場に出動する職種に就いた際に活かされる現場行動の基礎を身につける。川の流れを洪水流に見立てた水災害時避難行動において、1人から10人単位に分けた安全な歩行要領を理解し、防災訓練等で活用できる技能を習得する。</p> <p>3. 動水圧を学ぶ：急流域を使用し、動水圧がある中で水難救助技術を学ぶ。ここでは徹底した安全管理の下で実習が行われる。また、近年の河川レジャーで認知度が高いラフティングを経験し、レジャー中の水難事故発生機序を理解したうえで、現場への進入が難しい河川での救急救助体制を整理する。</p>
	<p>【アクティブラーニング：有】 講義及び実技の中で学生・教員間及び学生・学生間の対話形式による学習進捗の確認を実施する時間を設ける。 Google Classroomを使用した実習</p> <p>フィードバックについて：提出のあったレポート・課題について、フィードバックを実施する。 開講コマ割りについて：座学・実習のコマ割りについては感染症その他の事象によって急遽変更される場合がある。コマ割りが変更される場合はその旨事前に周知を実施する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
金川 陽亮、原 貴大、木村 隆彦、諫山 憲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：実習(ブレンディッド型)	
添付ファイル			

授業目標	<p>山岳及び雪上における救助活動では、常の救助活動と異なる気候の変化、険しい地形、長時間活動への対応など、活動面や安全管理面などにおいて困難な活動を強いられることが予想される。本授業では、病院前救急医療における山岳医療と雪上での救助技術について学修する。本授業の目的は以下の通りである。</p> <p>①山岳医療について理解を深めること ②寒冷環境下で発生しやすい救急疾患を理解すること ③傾斜面での救急救命処置について理解すること ④寒冷環境下における救急救命士としてのノンテクニカルスキルを習得すること</p>
授業計画	<p>第1-2講 オリエンテーション 【到達目標】 山岳医療の課題について理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (リアクションペーパー) 【備考】 (予習) 山岳医療の特色、ドクターヘリの特徴について調べ、疑問点をメモすること。 (復習) 授業で取り上げた話題のうち、興味のあるものについてレポートを作成すること。</p> <p>第3-4講 ロープワークの復習 【到達目標】 基本結索など、都市型救助実習で学んだロープワークを復習すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (教員によるフィードバック) 【備考】 (予習) 基本結索を調べ、疑問点をメモすること。 (復習) 授業内でのフィードバック内容について、自身で学習すること。</p> <p>第5-8講 山岳における移動訓練 【到達目標】 山岳での移動方法を体験すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (学生間でのフィードバック) 【備考】 (予習) 登山における注意点を調べ、装備を整えること。 (復習) 授業内でのフィードバック内容について学習すること。</p> <p>第9-10講 寒冷環境下での応急処置 【到達目標】 寒冷環境下における応急処置を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (学生間でのフィードバック) 【備考】 (予習) 寒冷環境下における救急疾患の特徴を調べ、要点をメモすること。 (復習) 授業内でのフィードバック内容について、自身で学習すること。</p> <p>第11-12講 スキー滑走基本技術 I 【到達目標】 旋回、制動、静止を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック) (予習) カービングスキー中の制動・静止の特性と特徴を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで滑走中の制動・静止について体験したことを整理し、疑問点をメモしておく。</p> <p>第13-14講 スキー滑走基本技術 II 【到達目標】 ターン (大回り、小回り) を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック) (予習) カービングスキー中のターンの特性と特徴を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで滑走中のターンについて体験したことを整理し、疑問点をメモしておく。</p> <p>第15-16講 スキー滑走基本技術 III 【到達目標】 長距離滑走の技術を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック) (予習) カービングスキーで滑走することによる身体的ストレスの特性と特徴を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで長距離滑走について体験したことを整理し、疑問点をメモしておく。</p> <p>第17-18講 スキー滑走基本技術 IV 【到達目標】 長距離滑走の技術を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック) (予習) カービングスキーで滑走することによる身体的ストレスの特性と特徴を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで長距離滑走について体験したことを整理し、疑問点をメモしておく。</p> <p>第19-20講 雪上での骨折に対する処置 【到達目標】 RICE処置を理解し、傾斜面での処置の困難を体験する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (学生間でのフィードバック) (予習) RICE処置について事前に調べ、疑問点をメモしておく。</p>

	<p>(復習) 授業内でのフィードバック内容について、自身で学習すること。</p> <p>第21-22講 雪上における全身固定 【到達目標】 雪上および傾斜面での全身固定を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック) (予習) 平地で行うバックボード固定やKEDでの全身固定などについて事前に調べ、疑問点をメモしておく。</p> <p>第23-24講 (復習) 授業内でのフィードバック内容について、自身で学習すること。 雪上ロープレスキュー基礎 【到達目標】 雪上のロープレスキューの基本操作を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック) (予習) アキヤボートについて調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) 授業内でのフィードバック内容について、自身で学習すること。</p> <p>第25-26講 傾斜面での傷病者搬送方法 【到達目標】 雪上であり傾斜面で足場の滑る中での傷病者への接遇や処置を体験する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック) (予習) 傾斜面での処置について考えられる限り考察し、疑問点をメモしておく。 (復習) 授業内でのフィードバック内容について、自身で学習すること。</p> <p>第27-28講 スキーパトロール活動について 【到達目標】 スキーパトロール活動の実態を理解すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (質疑応答) (予習) スキーパトロールについて事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) 見学内容を振り返り、要点をメモすること</p> <p>第29-30講 雪上移動訓練 【到達目標】 安全に雪上に移動する方法を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技に対するフィードバック) (予習) 雪上移動の安全管理について調べて、疑問点をメモしておく。 (復習) 指導内容の要点をメモすること</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	【予習 (各講所要時間90分)】 ・シラバス記載の開講内容に応じて予習を行うこと。 【復習 (各講所要時間90分)】 ・授業で学んだ内容を整理し、疑問点ををまとめること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版) 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック (へるす出版)
参考書	必要に応じて指定または配布をする。
成績評価	提出物をすべて提出していることを成績評価の前提とする。 最終評価：知識・理解20%、思考・判断10%、関心・意欲30%、態度20%、技能・表現20% *詳細はルーブリックに示す。
担当教員の基本情報	担当教員名：金川 陽亮 研究室：6号館2階助教研究室 メールアドレス：y_kanagawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業後1時間 担当教員名：原 貴大 研究室：6号館2階講師研究室 メールアドレス：t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業後1時間 担当教員名：木村 隆彦 研究室：6号館2階個人研究室 メールアドレス：t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業後1時間 担当教員名：諫山 憲司 研究室：6号館2階個人研究室 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業後1時間
備考	金川陽亮：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 原 貴大：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 木村隆彦：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 諫山憲司：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4 【科目コード】HE-2-HA8-RS-P-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	陸上競技は「走る・跳ぶ・投げる」が基礎となっている運動です。 短距離種目、跳躍種目、投てき種目の知識と技術を体験習得して計測につなげる。		
授業計画	1	ガイダンス [到達目標] 健康スポーツ実習Ⅲの狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。 予習：シラバスに目を通しておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	2	ウォーミングアップ・短距離走 [到達目標] ウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョグからの短距離走の基本(スタート・中間疾走)を理解させる。 予習：ウォーミングアップについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	3	短距離走計測 [到達目標] 100m走の計測、 予習：短距離走について調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	4	跳躍1 [到達目標] 色々な跳躍動作を説明し実践・体験させる。 予習：立幅跳び、走り幅跳び、各種バウンディングについて、調べておく。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	5	跳躍計測 [到達目標] 立ち幅跳び、走り幅跳びの計測。 予習：走り幅跳びについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	6	ハードル走 [到達目標] フレキハードル使用でハードルの基本を体験理解する。 予習：ハードル競技について調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	7	投てき競技 砲丸投げ [到達目標] 砲丸投げの基本について男子2kg女子1kgのメディシンボールを使用して砲丸投げを体験理解する。 予習：砲丸投げについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	8	投てき競技 砲丸投げ(計測) [到達目標] 男子2kg女子1kgのメディシンボールを使用して砲丸投げの計測を体験理解する。 予習：砲丸投げの計測方法について調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	9	投てき競技 円盤投げ [到達目標] ひも型メディシンを使用して円盤投げの立ち投げと回転投げを体験理解する。 予習：円盤投げについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	10	投てき競技 円盤投げ(計測) [到達目標] ひも型メディシンを使用して立ち投げの計測を体験理解する。 予習：円盤投げの計測方法について調べておく。	

	<p>11 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり 投てき競技 やり投げ [到達目標] ターボジャブを使用してやり投げの基本を体験理解する。 予習:やり投げについて調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>12 投てき競技 やり投げ(計測) [到達目標] ターボジャブを使用して計測を体験理解する。 予習:やり投げの計測方法について調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>13 投てき競技 ハンマー投げ [到達目標] メデイションハンマーを使用してハンマー投げを体験理解する。 予習:ハンマー投げについて調べておく。 復習: 授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>14 投てき競技 ハンマー投げ(計測) [到達目標] 男女4kgのハンマーを使用してスウィング投げ計測を体験理解する。 予習:ハンマー投げの計測方法について調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>15 陸上競技全般の理解 [到達目標] 走る・跳ぶ・投げる陸上競技全般の相互理解ができる。 予習:陸上競技全般について調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	予習としてタイトルの種目のルールや規則を熟知する事(70分)。復習として授業で習得したこと、ポイント を書いておく。(70分) 授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	出席状況50% 授業の取り組み姿勢30% 実技の評価20% 以上を総合評価します。
担当教員の基本情 報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	◎-4、○-5 HE-2-HA9-ES-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
小川 豊清			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。 4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。 5. 審判規定が理解できる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・柔道衣採寸 学習の取り組み方や方針が理解できる。 ※柔道衣がないので、スポーツウェアを持参してください。 1) 柔道の概要（歴史や理念）が理解できる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。 3) 柔道衣の採寸。</p> <p>第2回 柔道衣の着方・柔道の概要・礼法・受け身・立技・固技 1) 柔道衣を正しく着ることができる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。 3) 後受け身ができる。 4) 立技（大外刈）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 5) 固技（袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第3回 礼法・受け身・立技・固技 1) 横受け身ができる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。 3) 立技（背負投）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 4) 固技（縦四方固）の理解ができる。</p> <p>第4回 礼法・受け身・立技・固技 1) 前回り受け身ができる。 2) 立技（一本背負投）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（上四方固）の理解ができる。</p> <p>第5回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（大腰）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（逆袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第6回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（体落）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（肩袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第7回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（払腰）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第8回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（膝車）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第9回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（支釣込足）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第10回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（大内刈）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第11回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（小内刈）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技・関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第12回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（手技・腰技・足技）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p> <p>第13回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（手技・腰技・足技）に対する投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p>

	<p>第14回 理解度チェック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 礼法（立礼、座礼）ができる。 2) 受け身ができる。 3) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 4) 固技の掛け方ができる。 <p>第15回 まとめ、理解度チェック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 礼法（立礼、座礼）ができる。 2) 受け身ができる。 3) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 4) 固技の掛け方ができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し（予習30分）、実技で学修した内容をまとめてください（復習30分）。
教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著（史資料出版協会）
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は3回まで可とする）。実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	HE-2-HA12-ES-P-0

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、体育・スポーツの基礎的概念について解説し、体育科学・スポーツ科学の基礎的知識を学びながら、体育・スポーツについて、その基礎的概念や科学的な知識をより深く体系的に理解するための能力を育成する。また、それに従い体育・スポーツの目標論を検討しながら、スポーツ原理について体系的に学習し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 「原理」の概念 本授業内容の方向付け [到達目標] 「原理」の基礎概念について理解できる。 予習：身近にあふれている「原理」と名の付く言葉を集めてくる (120分) 復習：「原理」について学んだことを復習しておく (120分)</p> <p>第2講 体育とスポーツ (1) [到達目標] 体育とスポーツの違いについて理解できる。 予習：体育とは何か。またスポーツとは何か考えておく (120分) 復習：体育とスポーツの違いについて学習内容を復習しておく (120分)</p> <p>第3講 体育とスポーツ (2) [到達目標] 体育・スポーツにおける哲学的解釈を理解できる。 予習：体育・スポーツにおける「哲学」とは何かを考えてくる (120分) 復習：原理の哲学的解釈について復習しておく (120分)</p> <p>第4講 身体教育の歴史を「原理」的に解析 [到達目標] 体育原理とスポーツ原理を対比できる。 予習：「体育原理」と「スポーツ原理」の違いを明確にしてくる (120分) 復習：本時で学んだ両者の違いを対比表でまとめてくる (120分)</p> <p>第5講 スポーツ科学 [到達目標] スポーツ科学を原理的に分析できる。 予習：スポーツ科学の現状を調べてくる (120分) 復習：スポーツ科学発展の歴史について、古代から近代までの年表を作成する (120分)</p> <p>第6講 スポーツの概念とその歴史 [到達目標] 遊びから競技への発展過程を原理的に解釈できる。 予習：現在の各種スポーツが、競技種目として完成されるまでの経緯を調べてくる (120分) 復習：各種スポーツ競技が完成されていった過程を時系列に並べ、一覧表を作成する (120分)</p> <p>第7講 文化としてのスポーツ [到達目標] 「伝統的な競技」から「競技スポーツ」への発展について考えることができる。 予習：古代から近代までの伝統的競技が、競技スポーツに発展した事例を調べる (120分) 復習：古代からの伝統競技と近代スポーツ競技の完成経緯がわかる年表を作成する (120分)</p> <p>第8講 オリンピック (1) オリンピックの歴史 [到達目標] 古代オリンピックと近代オリンピックを対比できる。 予習：古代オリンピックと近代オリンピックの歴史を調べてくる (120分) 復習：オリンピックの歴史年表を作成する (120分)</p> <p>第9講 オリンピック (2) [到達目標] オリンピックと経済の関係について「原理」の側面から分析できる。 予習：オリンピックにおける経済効果が注目され始めた時代背景を調べてくる (120分) 復習：古代と現代でオリンピック大会の在り方がどのように変わっていったか時系列にまとめる (120分)</p> <p>第10講 ドーピングの哲学 [到達目標] ドーピングの哲学について「原理」の立場から分析できる。 予習：なぜドーピングに走るのか、その背景を事例ごとに時系列にまとめてくる (120分) 復習：ドーピングすることに追い込まれた選手の心理的背景を一覧表にして整理する (120分)</p> <p>第11講 スポーツマンシップとフェアプレイ [到達目標] スポーツマンシップとフェアプレイを「原理的」に分析できる。 予習：スポーツマンシップとフェアプレイについて、話題になった事例を集めてくる (120分) 復習：スポーツマンシップが無くなると、競技はどうなるのかまとめる (120分)</p> <p>第12講 コーチング、スポーツ指導者におけるスポーツ原理とは [到達目標] スポーツにおける指導者の在り方について考えることができる。 予習：「いいコーチ」と「わるいコーチ」の、実際にあった事例を集めてくる (120分) 復習：コーチングの原理的解釈について理解したことをまとめる (120分)</p> <p>第13講 「女性とスポーツ」の原理 [到達目標] 近代科学と女性のスポーツ活動について解析できる。 予習：女性が参加しやすくなったスポーツ社会背景を科学的な視点から調べてくる (120分) 復習：科学の発展と女性のスポーツ活動の活性化を対比してまとめておく (120分)</p> <p>第14講 スポーツと障害者 [到達目標] 障害者スポーツを私たちはどのように捉えるべきかについて考えることができる。 予習：障害者スポーツやパラリンピックの変遷や現状を調べる (120分)</p>

	<p>第15講 復習：障害者スポーツ種目を調べその種目が持つスポーツ観や社会観をまとめる(120分) 総括（定期試験） [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 予習：第1講～第14講をまとめておく(120分) 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照し全体を復習すること(120分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。</p>
教科書	<p>授業時に資料を配布する。</p>
参考書	<p>授業時に随時指定する。</p>
成績評価	<p>定期試験 60%、授業時の小テスト 20%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。</p>
備考	<p>①科目ナンバー HE-2-HA16-ES-L-0 ②この授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-1(知識・理解) ○-2(思考・判断) ③アクティブラーニング(課題を主体的に解決する力(思考・判断)を育てる内容を実施。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義(遠隔:オンデマンド授業)	
添付ファイル			

授業目標	本授業では、スポーツと社会との関係について、健康論、社会科学等の視点・論点から講義し、スポーツの社会的意義について学習する。また、スポーツと社会との関わりについて具体的な事例をあげ、スポーツ、社会、健康等の観点から考察していく。さらに、現代社会における、諸問題を理解し、ライフスタイルに適した運動・スポーツの必要性を理解し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上も目指すことを目標とする。		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション、スポーツの歴史と概念</p> <p>[到達目標] 概念、歴史、スポーツについて理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：身近にあふれているスポーツとつく言葉を集めてみる。またスポーツの歴史について考える</p> <p>復習：スポーツの歴史・概念について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第2講	<p>現代社会の特徴から見たスポーツの意義と価値</p> <p>[到達目標] スポーツの必要性について理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：なぜ現代社会ではスポーツの必要性が問われているのか考える</p> <p>復習：スポーツの意義と価値について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第3講	<p>現場・環境に応じたコーチング（スポーツ組織のマネジメント）</p> <p>[到達目標] スポーツ組織のマネジメントについて考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ組織のマネジメントとは何か考えてくる</p> <p>復習：スポーツ組織のマネジメントについて具体的に説明できるように学習した内容を見直す</p>	
	第4講	<p>総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義</p> <p>[到達目標] 地域スポーツクラブの必要性について解析できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：なぜ現代社会では地域スポーツクラブの必要性が問われているのか考える</p> <p>復習：地域スポーツクラブの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第5講	<p>コーチングを理解（スポーツのインテグリティ）</p> <p>[到達目標] スポーツのインテグリティについて考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツのインテグリティとは何か考えてくる</p> <p>復習：スポーツのインテグリティについて学習した内容を見直す</p>	
	第6講	<p>社会の中のスポーツ</p> <p>[到達目標] スポーツの産業化、地域生活とスポーツのあり方について解析できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：地域生活とスポーツの関係について考える</p> <p>復習：スポーツの産業化、地域生活とスポーツの関係について学習した内容を見直す</p>	
	第7講	<p>コーチングを理解（スポーツの価値を守るスポーツ権）</p> <p>[到達目標] スポーツの価値を守るスポーツ権について考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツの価値を守るスポーツ権の必要性が問われているのか考える</p> <p>復習：スポーツの価値を守るスポーツ権について学んだことを理解しておく</p>	
	第8講	<p>コーチングを理解（スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任）</p> <p>[到達目標] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理と責任について理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ事故における危機管理体制の大切さを考える</p> <p>復習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理体制について学んだことを理解しておく</p>	
	第9講	<p>コーチングを理解（スポーツ仲裁）</p> <p>[到達目標] スポーツ仲裁について解析できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ仲裁について考える</p> <p>復習：スポーツ仲裁について学習内容を理解しておく</p>	
	第10講	<p>コーチングを理解（スポーツ倫理）</p> <p>[到達目標] スポーツ倫理について考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：スポーツ倫理について考える</p> <p>復習：スポーツ倫理について学習内容を理解しておく</p>	
	第11講	<p>暴力・ハラスメントの根絶</p> <p>[到達目標] 暴力・ハラスメントの根絶について理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>予習：暴力・ハラスメントの根絶とは何か考えておく</p> <p>復習：暴力・ハラスメントの根絶について学習内容を見直す</p>	
	第12講	<p>オリンピックと経済</p>	

	<p>[到達目標] オリンピックと経済の関係について解析できる。 [授業形態] 講義 予習：オリンピックと経済の関係について考えておく 復習：オリンピックと経済の関係について学んだ内容を理解しておく</p> <p>第13講 スポーツの自治（ガバナンス）</p> <p>[到達目標] スポーツの自治について理解できる。 [授業形態] 講義 予習：スポーツガバナンスについて調べておく 復習：スポーツガバナンスについて学習内容を理解しておく</p> <p>第14講 スポーツと法</p> <p>[到達目標] スポーツと法について理解できる。 [授業形態] 講義 予習：スポーツと法について調べておく 復習：スポーツと法について学習内容を理解しておく</p> <p>第15講 総括（定期試験）</p> <p>[到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 [授業形態] 講義 予習：第1講～第14講をまとめておく 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	前学習（予習30分）し、講義で学習した内容をまとめておく（復習30分）。 自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1 知識・理解，○-3 関心・意欲。
	③ 科目ナンバー：HE-2-HA17-ES-L-0。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	講義（遠隔、オンデマンド方式）	
添付ファイル			
シラバス2024_スポーツ心理学_救急2024.xlsx			

授業目標	<p>授業概要】 スポーツ心理学では、グループワークなどのアクティブラーニング手法を用いて、コーチングの基本である次のことについて理解を深めます。</p> <p>①「より良い人間関係の構築」するのに必要な知識やスキル ②自分自身を知り客観的に見つめることのできる知識やスキル ③スポーツが個人の人格形成に及ぼす効果 ④個人の性格や環境などがスポーツの選択やパフォーマンスに影響すること ⑤スポーツへの動機づけの具体的な方法に関すること ⑥コーチング評価の原理・原則から具体的な方法論に関すること。</p> <p>毎回授業の終わりに課題・小テスト（Googleフォーム）を実施します。課題・小テストには、授業開始時に設定したその日の個人の授業到達目標、その到達率と気づきを記入してもらいます。</p> <p>【授業目標】 授業内容を十分に理解し、実践知識として臨床・教育・スポーツなどのコーチング現場で、有効活用できることを目標とします。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、スポーツ、コーチング、心理学、スポーツ心理学とは 【到達目標】 1) スポーツ心理学について概説できる。 2) スポーツの心理的効果について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。 【備考】（予習項目） スポーツ、心理。 教科書（リファレンスブック）第1章 1（p.2～4）を熟読。</p> <p>第2講 対他者力を磨こう！-1：コミュニケーション・リーダーシップ・プレゼンテーションスキル 【到達目標】 16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。 【備考】（予習項目） コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 1～3（p.33～45）を熟読。</p> <p>第3講 対他者力を磨こう！-2：チームビルディング 【到達目標】 18) チームビルディングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。 【備考】（予習項目） ファシリテーションスキル、チームビルディング。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 4～5（p.45～55）を熟読。</p> <p>第4講 対自己力を磨こう！：コーチの学び、セルフマネジメント 【到達目標】 13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。 24) ストレスマネジメントについて説明できる。 【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。 【備考】（予習項目） コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法。教科書（リファレンスブック）第1章 5.（p.56～70）を熟読。</p> <p>第5講 レビュー-1：対他者力・対自己力を磨こう 【到達目標】 16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 18) チームビルディングについて説明できる。 23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。 24) ストレスマネジメントについて説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。 【備考】（予習項目）</p>

第6講	<p>教科書（リファレンスブック）第2章 4. 1～5（p.33～70）と、資料（H0）をを熟読。 心のトレーニング-1：行動としてのスポーツ、動機づけ</p> <p>【到達目標】</p> <p>6) 内発的動機づけと外発的動機づけの違いが説明できる。 7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 19) バーンアウトについて説明できる。 20) 運動の参加継続について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 行動としてのスポーツ、動機づけ。教科書（リファレンスブック）第2章 4. 1～2（p.203～211）を熟読。</p>
第7講	<p>心のトレーニング-2：運動感覚、運動学習、フィードバック、心理サポート・集中力</p> <p>【到達目標】</p> <p>10-1) モデリング（観察学習）や言語的指導について説明できる。 10-2) 効率的なフィードバックの与え方について説明できる 11) 運動学習の制御について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習、フィードバック。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 7～10（p.217～225）を熟読。</p>
第8講	<p>心のトレーニング-3：目標達成ツール等</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 33) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） マンダラート、マインドマップ。 Web等で調べておくこと。</p>
第9講	<p>レビュー-3：動機づけ、フィードバック、目標達成ツール</p> <p>【到達目標】</p> <p>7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 10-1) モデリング（観察学習）や言語的指導について説明できる。 10-2) 効率的なフィードバックの与え方について説明できる 11) 運動学習の制御について説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 33) わかりやすい発表ができる。32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習、動機づけ、目標達成ツール。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 1～2（p.203～211）7～10（p.217～225）を熟読。</p>
第10講	<p>心のトレーニング-4：イメージトレーニング、あがり・プレッシャー・スランプ</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴について説明できる。 14-2) 情動（緊張・不安）の状態が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 11～12（p.225～231）を熟読。</p>
第11講	<p>心のトレーニング-5：性格/自己概念、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 性格・自己概念、心理的コンディショニング。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 13～14（p.231～236）を熟読。</p>
第12講	<p>レビュー-4：イメージトレーニング、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴について説明できる。 14-2) 情動（緊張・不安）の状態が説明できる。</p>

	<p>15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。</p> <p>29) させる理論・実際・課題が説明できる。</p> <p>31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。</p> <p>32) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】 (予習項目) イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク、心理的コンディショニング。 教科書(リファレンスブック)第1章 4. 11~14 (p. 225~236)、ハンドアウトを熟読。マンダラート、マインドマップについては、Web等で調べておくこと。</p> <p>第13講 スポーツ・運動における行動変容-1</p> <p>【到達目標】 20) 運動の参加継続について説明できる。</p> <p>21-1) セルフエフィカシーについて説明できる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】 (予習項目) セルフエフィカシー、行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第14講 スポーツ・運動における行動変容-2</p> <p>20) 運動の参加継続について説明できる。</p> <p>21-2) 行動変容について説明できる</p> <p>21-3) 行動変容ステージが説明できる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】 (予習項目) 行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第15講 レビュー-5：行動変容と、これまでの授業内容の総合的な復習(質問に答えて)と練習問題</p> <p>【到達目標】 21-1) セルフエフィカシーについて説明できる。</p> <p>21-2) 行動変容について説明できる</p> <p>21-3) 行動変容ステージが説明できる。</p> <p>31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。 授業内容で理解のできなかった項目、疑問点を抜き出しておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書(リファレンスブック)は、各講義項目の該当ページを前もって熟読する(予習35分)。理解できない箇所(事柄)があれば、参考書を熟読するか、課題・小テストのコメント(フリートーク)に記入する。次回の授業でフィードバックします。 ・講義資料(ハンドアウト)は、講義ノートと共に必ず整理してください。授業の復習は、必ず確実にしてください。不明な点があれば次回の講義で発言するか、コメント(フリートーク)に記入してください(記憶に焼き付けられようように)。(復習35分)。 ・ハンドアウトやオンデマンドコンテンツは、ClassRoom(Googleドライブ)にアップする。ハンドアウト等は紙での(印刷物)配布は行いません。
教科書	「Reference Book」(リファレンスブック)公益財団法人日本スポーツ協会(JSP0) [この本はJSP0のスポーツライセンス関連科目で共通のテキストとして使用されます。]
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「勝負脳の鍛え方」林 成之著(講談社現代新書)(902円) 2) 「スラムダンク勝利学」辻 秀一著(集英社インターナショナル)(1000円+税) 3) 「まんがでわかる ドラッカーのリーダーシップ論」藤屋伸二(監修)(宝島社)(917円+税)
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> ①出席：毎回の課題・小テストの解答・提出を出席とします。出席、遅刻・早退の取扱は「学生便覧」に準じます。 ②評価：100点法により行います。 ③合格点：評価点が60点以上を合格とします。 ④評価点の算出・内訳：課題・小テスト 80%、 その他(課題等の提出状況、遅れた場合は減点) 20% ⑤アセスメントとフィードバック： アセスメント；課題・小テスト結果、提出状況等 フィードバック課題・小テスト結果公表(個別)、コメントの質疑応答(動画・Melly等)による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 齊藤 昌久</p> <p>研究室 : 8号館4階 齊藤(スポーツ運動科学)研究室</p> <p>メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 月・火・木曜日 16:30~17:30</p>
備考	<p>授業とディプロマ・ポリシーとの関係：◎-1. 知識・理解、○-2. 思考・判断と5. 技能・表現</p> <p>科目ナンバー：「HE-2-HA-18-ES-L-0」</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
林 知也			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ・運動時の循環，呼吸，神経，筋，およびエネルギー代謝などの生体諸機能の変化および反応について，運動生理学的な視点から学習する。トレーニングによる身体機能の変化について，運動生理学的観点から考察できるようにする。		
授業計画	第1回	運動と骨格筋・神経系（1） 到達目標：筋線維の構造，筋収縮のしくみ，興奮収縮連関，高エネルギーリン酸化合物，運動強度・時間とエネルギー源について説明できる。 備考：教科書（第1章）ならびに配布資料を熟読すること。	
	第2回	運動と骨格筋・神経系（2） 到達目標：骨格筋でのATP産生，高強度運動時のATP産生，乳酸の産生，骨格筋線維の種類，筋線維組成とその変化について説明できる。 備考：教科書（第2章）ならびに配布資料を熟読すること。	
	第3回	運動と骨格筋・神経系（3） 到達目標：静止膜電位と活動電位，筋細胞膜の興奮，運動単位，サイズの原理，筋の収縮様式，筋力トレーニングの効果について説明できる。 備考：教科書（第3章，第4章）ならびに配布資料を熟読すること。	
	第4回	運動と循環 到達目標：運動時の心拍出量変化，運動時の血圧変化，トレーニングによる循環機能の変化，スポーツ心臓について説明できる。 備考：教科書（第5章）ならびに配布資料を熟読すること。	
	第5回	運動と呼吸 到達目標：ガス交換，血液によるガスの運搬，呼吸商，最大酸素摂取量，酸素借，EPOC，換気性作業閾値，トレーニングによる呼吸機能の変化について説明できる。 備考：教科書（第6章）ならびに配布資料を熟読すること。	
	第6回	運動とホルモン 到達目標：ホルモンの種類，分泌の調節，身体活動に関与するホルモンの作用，運動時の代謝調節について説明できる。 備考：教科書（第7章）ならびに配布資料を熟読すること。	
	第7回	まとめ1 到達目標：第1～6回までの学習範囲について理解した上で，運動時の生理学的変化を説明できる。 備考：事前に提示された課題に対して，説明ができるようにすること。 授業内容：事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。	
	第8回	まとめ2 各講義の内容を期末試験にて確認する。 到達目標：第1～6回までの学習範囲について，運動時の生理学的変化を説明でき，その知識を応用できる。 備考：事前に提示された課題に対して，説明ができるようにすること。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して，事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習120分） 各講義後，配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし，それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習120分）		
教科書	『入門運動生理学 第4版』勝田 茂 編著，和田正信，松永 智 著（杏林書院）		
参考書	特に指定しない。 ※運動生理学，スポーツ生理学関連の本		
成績評価	期末試験の結果（100%）にて評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名：林 知也 研究室：8号館4階 林（知）教授室 オフィスアワー：月曜日16:30-17:30		
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1，○-3 科目ナンバー：「HE-2-HA19-ES-L-0」 Classroomの活用：動画の閲覧，授業資料の配布 アクティブラーニングの有無：なし		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「スポーツ医学 基礎」では、グッドコーチに求められる医・科学的知識（トレーニング科学、スポーツ医・科学）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p> <p>【授業目標】 スポーツ医・科学的知識の習得を目標とする。具体的には、スポーツ外傷と障害の予防、救急処置、アンチ・ドーピング、アスリートの健康管理、スポーツによる精神障害と対策、およびトレーニングの基本的考え方・理論体系（スポーツパフォーマンス構造論）である。</p>
授業計画	<p>1回目 （担当：吉田行宏）ガイダンス、スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康、アスリートの健康管理 【到達目標】 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を理解する。 2. スポーツと健康について理解し説明できる。 3. アスリートの健康管理について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP262-269までを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：アスリートの内科的障害と対策 【到達目標】 アスリートの内科的障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP269-276までを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：女性アスリートの障害と対策、スポーツにおける精神障害と対策 【到達目標】 女性アスリートの障害とその対策について理解し説明できる。 スポーツにおける精神障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP276-282までを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：外傷、障害の予防 【到達目標】 スポーツで起こる外傷・障害とその予防について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP282-292までを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：コンディショニングの手法 【到達目標】 コンディショニングの手法について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP292-297までを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：救急処置(救急蘇生法)、救急処置(外科的応急処置) 【到達目標】 救急蘇生法について理解し説明できる。</p>

7回目	<p>外科的応急処置について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP297-310までを熟読しておくこと。 (担当：齊藤昌久) スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツパフォーマンス構造論 【到達目標】 1) 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解・説明ができ、活用できる。 2) 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら設定することができる。 3) 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせるトレーニング方法を設定することができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論。リファレンスブック：p. 132-139。</p>
8回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツトレーニングの基本設計図 【到達目標】 ・目標設定(SMART)が説明できる。 ・SWOT分析が説明でき、AWOT分析表を書くことができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) リファレンスブック熟読：p. 132-139。SWOT、SMARTをWEBで調べて情報を得ておく。</p>
9回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康 【到達目標】 21-01) 体力が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。 21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。 21-01) 体力が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。 21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) 健康の定義、WHOが示す身体活動のガイドライン、生活習慣病他。リファレンスブック熟読：p. 262-265。</p>
10回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：アスリートの健康管理 【到達目標】 21-01) 運動が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。 ・スポーツへの「オーバートレーニング」「睡眠」の関わりについて説明できる。 21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) 健康の定義、WHOが示す身体活動のガイドライン、生活習慣病他。教科書熟読：p. 262-265。</p>
11回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：スポーツによる精神障害と対策 【到達目標】 ・スポーツによる精神障害が説明できる。 ・主な精神障害の一般的疾患について説明できる。 ・スポーツによる主な精神障害の一般的疾患とその対策が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。 【備考】(予習項目) オーバートレーニング症候群、精神障害の一般的疾患。教科書熟読：p. 278-282。</p>
12回目	<p>(担当：齊藤昌久) グッドコーチに求められる医科学的知識：スキルトレーニング-1 【到達目標】 15) 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることが説明できる。 16) 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などの方法が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 ・スキルトレーニングの特性・方法について説明できる。 ・必要な課題を自ら発見できる 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式)。フィードバックは、授業終了後の課題・小テストから、次の授業等(双方向授業、アクティブラーニング)で行う。ゲストスピーカーが担当する場合がある。</p>

	<p>【備考】（予習項目） スキルとスポーツ技術・技能、スキルトレーニングの時期・手段・方法。教科書（リファレンスブック）熟読：p.192-196。 （担当：齊藤昌久）グッドコーチに求められる医科学的知識：スキルトレーニング-2</p> <p>【到達目標】 21) コーチング対象者に必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法を選択し、トレーニングを計画し、説明できる。 ・スキル向上のメカニズムが説明できる。 ・「錯視」について説明できる 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。ゲストスピーカーが担当する場合がある。</p> <p>【備考】（予習項目） スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p.196-197。 （担当：吉田行宏）アンチ・ドーピング①：アンチドーピングとはスポーツ指導者の役割</p> <p>【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。</p> <p>【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p> <p>15回目 （担当：吉田行宏）アンチ・ドーピング②：アンチドーピングとはスポーツ指導者の役割</p> <p>【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>【備考】 アンチ・ドーピングに関わる専門家をゲストスピーカーとし、その現状について授業を行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	なし
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。</p> <p>①合格点：各回の講義終了後に実施する小テストを集計して評価し、全講義回数(15回)の合計点が満点の6割以上を合格とする。</p> <p>②評価点が9割以上を秀、8割以上を優、7割以上を良、6割以上を可とする。</p> <p>③アセスメントとフィードバック： アセスメント：小テスト結果 フィードバック：小テスト結果の発表、メリーを用いた質疑応答を行う。</p> <p>※成績評価における注意事項 ①課題提出の締め切り日時を過ぎた場合は「出席」にはならず、その単元の小テストの点数は0点となります。 ②提出物の内容によっては出席扱いにならず、小テストの点数も0点となります。 例「氏名のみで内容が無いまま提出」、「他人の内容をコピー提出」、「課題と明らかに異なる内容で提出」、「自分の意見ではなくAIを使用している」など。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 16:30-17:30</p> <p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月・火・木曜日 16:30～17:30</p>
備考	<p>実務経験： 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴20年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。</p> <p>齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、非常勤講師として「スポーツ健康科学」の実技・講義、専任で生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室に在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。</p>
	<p>アクティブラーニング： 小テスト結果及びその内容のフィードバックは、必要に応じて全体もしくは個別に対して行う。 メリーを用いた質疑への返答は原則的にオフィスアワー時間に行う。</p>
	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係；◎-5. 技能・表現、○-1. 知識・理解 科目ナンバー：「SS-2-HA11-ES-L-0」</p>
	授業動画及び課題等はGoogle Classroomに公開します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「スポーツ医学応用」では以下の内容を学修する。 ①公認スポーツ指導者養成講習会共通科目：現場・環境に応じたコーチングー1. コーチング環境の特徴、3. スポーツ組織のマネジメント、4. 障がい者とスポーツ ②公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際ー3) 女性のフィットネスプログラム、4) 障がい者のフィットネスプログラム ③JATAC-AT：発育発達論 なお、この科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するために必要な科目である。</p> <p>【授業目標】 その目的は、ジュニアや中高年、女性、障がい者のスポーツを円滑かつ効果的に実践するために、必要な知識を学修することである。 また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、コーチング環境の特徴：.ジュニア期のコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を理解する。 2. ジュニア期のコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP322-324までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>2回目 コーチング環境の特徴：年齢区分からみたコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 年齢区分からみたコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP324-326までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>3回目 コーチング環境の特徴：トレーニングの至適年齢、遺伝の影響、運動部活動でのコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 1. トレーニングの至適年齢について理解し説明できる。 2. 遺伝の影響について理解し説明できる。 3. 運動部活動でのコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP326-331までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>4回目 コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点1（担当：吉田行宏） [到達目標] 運動と老化(老化循環促進説、加齢変化、運動が心身に及ぼす影響)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP331-333までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>5回目 コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点2（担当：吉田行宏） [到達目標] 運動プログラム(運動プログラムの目標設定、中高年者に適した運動方法)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンス</p>

6 回目	<p>ブックP333-336までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。 コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点3 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 運動プログラム(有疾患者に対する留意点、運動プログラムの一例、指導の際の注意点)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP336-338までを熟読しておくこと。</p>
7 回目	<p>JATAC-AT：発育発達論を含む。 コーチング環境の特徴：性別の考慮1 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 性別の考慮(月経の基礎知識、女性アスリート三主徴、コンディションに影響を与える月経随伴症状、月経随伴症状への対策法、妊娠・出産から競技復帰まで～マタニティ期のスポーツ)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP338-342までを熟読しておくこと。</p>
8 回目	<p>公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際-3) 女性のフィットネスプログラムを含む。 コーチング環境の特徴：性別の考慮2 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 性別の考慮(女性アスリートのフィジカルトレーニング、性別の考慮/性的マイノリティ(LGBT)に対するコーチングの留意点、多様な文化的背景を考慮したコーチング)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP342-354までを熟読しておくこと。</p>
9 回目	<p>公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際-3) 女性のフィットネスプログラムを含む。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ-1：障がいの理解とスポーツ (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がいの理解とスポーツ</p> <p>[到達目標] ・障がいの概要(定義や種別)とその特性を理解し、説明できる。 ・障がいに応じたコーチング上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮することにより誰でもスポーツが親しめることの理解を深め、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する(Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p>
10 回目	<p>テキスト(リファレンスブック)を熟読のこと;p. 385-388。 ハンドアウト(配付資料)があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください(質問の解答が遅れることもあります)。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ-2：障がい者にとってのスポーツ(現状と課題)(ゲストスピーカーを予定) (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がいの理解とスポーツ(ゲストスピーカーを予定)</p> <p>[到達目標] ・障がいの概要(定義や種別)とその特性を理解し、説明できる。 ・障がいに応じたコーチング上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮することにより誰でもスポーツが親しめることの理解を深め、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する(Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p>
11 回目	<p>テキスト(リファレンスブック)を熟読のこと;p. 385-388。 ハンドアウト(配付資料)があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください(質問の解答が遅れることもあります)。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ-3：障がい者にとってのスポーツ(現状と課題)(ゲストスピーカーを予定) (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がいの理解とスポーツ(ゲストスピーカーを予定)</p> <p>[到達目標] ・障がいの概要(定義や種別)とその特性を理解し、説明できる。 ・障がいに応じたコーチング上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮することにより誰でもスポーツが親しめることの理解を深め、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する(Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信され</p>

	<p>たときに自動的にします。</p> <p>テキスト（リファレンスブック）を熟読のこと；p. 385-388。 ハンドアウト（配付資料）があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。</p> <p>1 2回目 （担当：齊藤昌久）4. 障がい者とスポーツ-4：障がい者のフィットネスプログラム-1（ゲストスピーカーを予定） [到達目標] ・障がい（身体、知的、精神）分類、障がい分類別のスポーツコーチンの留意点の理解を深め、コーチングに活かすことができる。 ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する（Googleフォーム）。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>1 3回目 テキスト（リファレンスブック）を再度熟読のこと；p. 385-390。 ハンドアウト（配付資料）も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。 （担当：齊藤昌久）4. 障がい者とスポーツ-5：障がい者のフィットネスプログラム-2（ゲストスピーカーを予定） [到達目標] ・障がい（身体、知的、精神）分類、障がい分類別のスポーツコーチンの留意点の理解を深め、コーチングに活かすことができる。 ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する（Googleフォーム）。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>1 4回目 テキスト（リファレンスブック）を再度熟読のこと；p. 385-390。 ハンドアウト（配付資料）も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。 （担当：齊藤昌久）4. 障がい者とスポーツ-6：レビュー（スポーツプログラム：医科学支援） [到達目標] ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。 ・障がい者のスポーツ指導者の育成や(公財)日本障がい者スポーツ協会のビジョンを理解し、コーチングに活かすことができる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する（Googleフォーム）。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>15回目 テキスト（リファレンスブック）を熟読のこと；p. 390-393。 ハンドアウト（配付資料）も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください（質問の解答が遅れることもあります）。 （担当：吉田行宏）スポーツ現場におけるトレーナー活動 [到達目標] スポーツにおいてアスリートを支えるトレーナーの活動内容について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にインターネット等でトレーナーに関する情報を収集しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習35分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習35分）。 ・試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合があります。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	なし
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。</p> <p>①合格点：各回の講義終了後に実施する小テストを集計して評価し、全講義回数(15回)の合計点が満点の6割以上を合格とする。</p> <p>②評価点が9割以上を秀、8割以上を優、7割以上を良、6割以上を可とする。</p> <p>③アセスメントとフィードバック： アセスメント；小テスト結果 フィードバック；小テスト結果の発表、メリーを用いた質疑応答を行う。</p> <p>※成績評価における注意事項 ①課題提出の締め切り日時を過ぎた場合は「出席」にはならず、その単元の小テストの点数は0点となります。 ②提出物の内容によっては出席扱いにならず、小テストの点数も0点となります。 例「氏名のみで内容が無いまま提出」、「他人の内容をコピペし提出」、「課題と明らかに異なる内容で提</p>

	出」、「自分の意見ではなくAIを使用している」など。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (要Mellyでの事前連絡)</p> <p>担当教員名 : 齊藤 昌久 研究室 : 8号館4階 齊藤 (スポーツ運動科学) 研究室 メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月・火・木曜日 16:30~17:30</p>
備考	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係 ; ◎-1. 知識・理解 ○-2. 思考・判断 科目ナンバー : 「HE-2-HA21-ES-L0」</p>
	<p>実務経験 ; 吉田行宏 : 資格 (はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員)、鍼灸臨床歴20年、教員歴12年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 齊藤昌久 : 前任校 (大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ~2021年3月まで) では、非常勤講師として「スポーツ健康科学」の実技・講義、専任で生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。</p>
	<p>アクティブラーニング ; 小テスト結果及びその内容のフィードバックは、必要に応じて全体もしくは個別に対して行う。 メリーを用いた質疑への返答は原則的にオフィスアワー時間に行う。</p>
	授業動画及び課題等はGoogle Classroomに公開します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
勝見 泰和、岡田 成賛、桂 敏樹、伊藤 和憲、上久保 敦、宮坂 卓治			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義(オンデマンド)	
添付ファイル			

授業目標	本学の「建学の精神」「教学の理念」「沿革」「教育目標」を理解し、明治国際医療大学の学生として求められる学修態度と姿勢を明確にする。また、現代医療の課題を踏まえて看護学部、鍼灸学部、保健医療学部の教育概要を理解し、明治国際医療大学の求める医療人像について理解を深める。また、救急救命士が、知るべき研究内容や専門領域における基礎知識や特徴などを教授し、医療人となるための動機付けを行なう。
授業計画	<p>第1回 本学の歩みと目指す医療人について（勝見学長） 【到達目標】 本学の教育として建学の精神および教学の理念を理解する。</p> <p>第2回 大学教育について（岡田学部長） 【到達目標】 新たな教育体制と教育法の活用について理解する。</p> <p>第3回 鍼灸学科の紹介動画（伊藤学部長） 【到達目標】 教育概要と目指す医療人像を理解する。 多職種連携について理解を深める。</p> <p>第4回 柔道整復学科の紹介動画（宮坂学科長） 【到達目標】 教育概要と目指す医療人像を理解する。 多職種連携について理解を深める。</p> <p>第5回 救急救命学科の紹介動画（上久保学科長） 【到達目標】 教育概要と目指す医療人像を理解する。 多職種連携について理解を深める。</p> <p>第6回 看護学科の紹介動画（桂学部長） 【到達目標】 教育概要と目指す医療人像を理解する。 多職種連携について理解を深める。</p> <p>第7回 各学科に係る内容の動画（各学部・学科の長） 【到達目標】 チーム医療が求められている状況下において、各目指す医療職および資格の詳細を理解し、チーム医療に対応できる有資格者となれるよう理解を深める。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項を書き留めること（所要時間120分） 復習としては、各講テーマについてレポートで提出（所要時間120分）
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	提出レポート内容および提出期限等を総合的に評価する（レポート80%、レポート提出状況20%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：上久保 敦 研究室：6号館 2階研究室 メールアドレス：a_kamikubo@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：伊藤 和憲 研究室：病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス：k_itoh@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：桂 敏樹 研究室：10号館 研究室 メールアドレス：t_katsura@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：宮坂 卓治 研究室：8号館 研究室 メールアドレス：t_miyasaka@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：勝見 泰和 研究室：1号館2階 メールアドレス：katsumi@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：岡田 成賛 研究室：1号館2階 メールアドレス：s_okada@meiji-u.ac.jp</p>

備考	上久保 敦：元) 消防官で現場経験を有する。現在、大阪府監察医事務所に非常勤として検視解剖業務に携わる。また各種イベント救護にも携わる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3, ○-2 科目コード HE-1-MS1-RS-L-0

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
諫山 憲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）/ブレン ディッド	
添付ファイル			

授業目標	生命倫理とは、生物学と医学の発展から生じた種々の倫理的な問題を探求する学問である。医学・医療的な臨床倫理を学ぶ前に、生命倫理学の歴史的背景と普遍的な生物の生命を理解し、さらに現代・近未来社会が抱える社会的な生命倫理観を学ぶ必要がある。 現代社会における生命に関しての倫理的諸問題を理解し、命の尊さなど基本的な倫理観を身に着けることを目標とする。具体的には、脳死、臓器移植、尊厳死・安楽死、人生の最終段階における医療など、人の生命に関わる倫理的諸問題について、宗教・哲学・死生学・法学・医学などの幅広い観点から学習する。
授業計画	<p>第1回 ○授業ガイダンス ○生命科学の発展と生命倫理 【到達目標】 ・オリエンテーション ・生命科学の発展と生命倫理の歴史的背景を理解する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：シラバスをよく読み、授業目的、授業内容、到達目標、授業形態などを確認する。 参考書・インターネット等を活用し、生命倫理について調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第2回 ○自己決定権とインフォームド・コンセント ○医療と法 【到達目標】 ・自己決定権とインフォームド・コンセント、医療と法について理解する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、自己決定権とインフォームド・コンセント、医療と法を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第3回 ○出生をめぐる生命倫理 ①生殖補助医療と代理懐胎 ②出生前診断と人工妊娠中絶 【到達目標】 ・出生をめぐる生命倫理として、生殖補助医療と代理懐胎、出生前診断と人工妊娠中絶について理解する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、生殖補助医療と代理懐胎、出生前診断と人工妊娠中絶を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第4回 ○出生をめぐる生命倫理 ③遺伝子技術 ④新生児医療・小児医療 【到達目標】 ・出生をめぐる生命倫理として、遺伝子技術、新生児医療・小児医療について理解する。 授業形態：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、遺伝子技術、新生児医療・小児医療を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第5回 ○医療をめぐる生命倫理 ①生体臓器移植と臓器売買 ②医療資源の配分問題 【到達目標】 ・医療をめぐる生命倫理として、生体臓器移植と臓器売買、医療資源の配分問題について理解する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、生体臓器移植と臓器売買、医療資源の配分問題を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p> <p>第6回 ○死をめぐる生命倫理 ①脳死・臓器移植 ②尊厳死・安楽死 【到達目標】 ・死をめぐる生命倫理として、脳死・臓器移植、尊厳死・安楽死について理解する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、脳死・臓器移植、尊厳死・安楽死を調べる。 復習：講義全体で学習した内容をまとめる。</p> <p>第7回 ○死をめぐる生命倫理 ③高齢者医療 ④近未来の生命倫理（不老不死・冷凍保存） 【到達目標】 ・死をめぐる生命倫理として、高齢者医療、近未来の生命倫理について理解する。 【授業形態】：アクティブラーニング有 予習：参考書・インターネット等を活用し、高齢者医療、近未来の生命倫理を調べる。</p>

	<p>第8回</p> <p>復習：これまでで学習した内容をまとめる。 ○生老病死、まとめ・ディスカッション</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生老病死について理解する。 ・第1回～第7回の講義で学んだことについてまとめ、さらに学んだ内容についてディスカッションを行い、理解を深める。 <p>【授業形態】：アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う）</p> <p>予習：参考書・インターネット等を活用し、生老病死を調べる。 復習：講義で学習した内容をまとめる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習：授業で提示された課題について自身で調べ、考察する。（120分）</p> <p>復習：授業で学習した内容についてレポートにまとめる。（120分）</p>
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	適宜配布
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー：40% ・授業内での質疑応答：10% ・議論（授業中の発言・発表内容）：10点 ・課題の提出状況：20% ・授業参加姿勢：20% <p>授業への出席と積極的な授業参加姿勢およびリアクションペーパーの内容を中心に、授業中の発言・発表内容、課題提出などを加味して総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：諫山憲司</p> <p>研究室：6号館2階 研究室</p> <p>メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：授業終了後1時間</p>
備考	諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-3、○-5</p> <p>科目ナンバー：「HE-1-ME1-RS-L-0」</p>
	授業終了後半にリアクションペーパーの記入を行い、口頭でフィードバックする。
	Google Classroomを活用した（講義）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
山本 岳			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	信頼される医療従事者になるためには、人間を知ることが必要です。それを学ぶ手段の1つとして、心理学という分野が存在します。また最近では、社会状況の複雑化等により、ますますメンタルケアが必要であることが指摘されています。 そのことから本講義では、心理学の基礎を学びながら、医療従事者として今後出会うであろう患者へのメンタルケアの重要性を理解してもらうことを目的として講義を実施します。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション(授業方針、評価方法)、心理学とは何か。基礎心理学①(知覚とは) [到達目標]心理学はどのようなもので、どんな分野があるのか理解するとともに、基礎心理学(知覚・認知)の概要を理解する。 (キーワード：心理学、心理測定、知覚心理学・認知心理学)</p> <p>第2講 基礎心理学②(学習、適応とは) [到達目標]基礎心理学(学習、記憶)の概要を理解する。 (キーワード：(学習心理学、反射、学習、条件づけ、記憶))</p> <p>第3講 健康心理学(心理的ストレスの概要) [到達目標]心理的ストレスの概念と概要を理解する。 (キーワード：健康心理学、適応、ストレッサー、ストレス反応、コーピング)</p> <p>第4講 発達心理学(子どもから大人までのこころの発達と教育) [到達目標]子どもから大人までのこころの発達の概要を理解する。 (キーワード：発達心理学)</p> <p>第5講 臨床心理学(心理技法と精神症状)① [到達目標]臨床現場で出会う可能性のあるこころの病気や障がいの概要を理解する。 (キーワード：臨床心理学 精神症状)</p> <p>第6講 臨床心理学(心理技法と精神症状)② [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理アセスメント)</p> <p>第7講 臨床心理学(心理技法と精神症状)③ [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理療法)</p> <p>第8講 まとめ(評価含む) [到達目標]第1講から第7講までのまとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布資料を使い事前学習や事後学習をすることをお勧めします。 また余力のある受講者は、授業計画にある各キーワードを調べておくことも良い学習に繋がると思います。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。
教科書	特にありません。講義の進み具合で適宜資料を配布します。
参考書	1. 心理学概論(向井希宏・水野邦夫 編, ナカニシヤ出版) 2. 心理学 [第3版] (和田万紀 編 弘文堂)
成績評価	1. 心理学全般の知識(50点):定期試験(持込不可)を行います。試験範囲は全講義内容から問題を提示します。 2. 平常点(50点):出席カードを毎回提出してもらいます。 ①心理学とは何かを理解し、それを活用できる。 ②受講者という集団の一人として、そして医療従事者の卵として、他者を尊重・共感し、他者の話を傾聴できる。 ③授業に積極的に参加し、自ら質問や発言をする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 岳 (非常勤講師) 研究室 : 6号館非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー: 授業終了後
備考	講義は基本的にPower Pointを使用します。受講者は各自で適宜配布する資料にメモを取って受講するようにしてください。講義は講師と学生の双方向の関わりにより進めます。そのことから、講義をただ聞くという受け身の姿勢ではなく、積極的に講義に参加する学生に受講してもらいたいと思います。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎- , ○-

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
池田 正樹			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	1) 新たな他者と接する状況で、良好な関係を構築する技術・理論を理解・使用できる 2) レポートやメールなど、場面に合わせて基本的な文章作成が行える 3) 対人関係上生じる可能性のある問題点を学び、それらに対して自分なりに理解・対応できる
授業計画	<p>第1講 主な対人交流場面の整理と生じる問題の理解 [到達目標] 本講義の目的を理解できる。</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第2講 メールを使ったコミュニケーション [到達目標] メールによるやり取りの基本的事柄を理解できる。また、自分自身でメール文章を作成できる様になる。</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第3講 身近な精神疾患について [到達目標] 身近に接する可能性のある精神疾患について、理解する</p> <p>[備考] オンデマンド講義 特に無し</p> <p>第4講 行動から見た会話1 [到達目標] 行動の強化について理解する</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第5講 行動から見た会話2 [到達目標] 行動の弱化・消去について理解する</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第6講 行動から見た会話3 [到達目標] 三項随伴性とその連鎖から会話の構造を理解する</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第7講 話の聞き方 [到達目標] 基本的な傾聴の方法について理解する</p> <p>[備考] 第5・6講の復習を簡単に行なっておいてください。</p> <p>第8講 文章の書き方の基本 [到達目標] 基本的な長文の構成を理解し、自分で記述できる様になる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第9講 レポートの書き方の基本 [到達目標] レポートの構造と記載内容の意味を理解し、自分でレポートを書くことができる様になる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第10講 アサーショントレーニング1 [到達目標] アサーションの基本を学ぶ</p>

	<p>第11講</p> <p>[備考] 特に無し アサーショントレーニング2 [到達目標] アサーティブな自己表現の方法を学ぶ</p> <p>第12講</p> <p>[備考] 特になし しんどくなりすぎない受け取り方 [到達目標] 自分のものの見方の癖を知る</p> <p>第13講</p> <p>[備考] 特になし プレゼンテーションの基礎を学ぶ [到達目標] プレゼンテーションの基本的な構造を学び、実際に作成できる。</p> <p>第14講</p> <p>[備考] オンデマンド形式 アンガーマネジメント1 [到達目標] 怒りが生じるメカニズムについて理解する</p> <p>第15講</p> <p>[備考] 特に無し アンガーマネジメント2 [到達目標] 自分なりに怒りの制御を行える様になる</p> <p>[備考] 特に無し</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	連続ものの内容もあるため、適時復習を行なってください。
教科書	適時紹介します。
参考書	適時紹介します。
成績評価	<p>①評価方法 : レポート70%、平常点30%</p> <p>②評価基準 : レポートは講義の内容を一つ、もしくは複数選んで書いてもらいます。自分なりにそのテーマを今後どの様に役立てていくかなどについて、論述してください。論述においては、講義中に説明したレポートの書き方やパラグラフライティングの方法を参考としてください。</p> <p>平常点は受講態度、出席の有無で判定します。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 池田正樹</p> <p>研究室 : 1号館2階こころの相談室・8号館4階講師室</p> <p>メールアドレス : ms_ikeda@tch.meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業開始終了前後</p>
備考	<p>対面：講義形式とグループワーク形式を適時切り替える予定です。</p> <p>オンデマンド：講義＋課題の構成で行う予定です。</p>
	基本的なマナーや文章作成スキルのほか、心理学の知見から会話や日々の生活の中で体験する精神的不調などについてお話ししようと思っています。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
山本 直子			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	説明的文章や文学的文章を正しく読み解き、理解するための基礎的な事項を身につけることができる。また、読解した内容や解釈したことを、文章で説明し、まとめることができる。さらに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、他者に伝える力や理解力、論理的思考力などを培い、コミュニケーション能力を身につけることができる。
授業計画	<p>第1講 インTRODクシヨン [到達目標] 新聞を題材に、構成や文体を理解し、内容が読み取れるようになる。 [備考]</p> <p>第2講 論説文の読解① [到達目標] 文章表現や構造を理解したうえで、文章の意図や主題、書き手の考えを考察し、まとめることができる。 [備考]</p> <p>第3講 論説文の読解② [到達目標] 前時のまとめをグループワークを通して深め、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第4講 小論文を書く [到達目標] 小論文の書き方の基本を習得し、論理的に書くことができる。 [備考]</p> <p>第5講 小説の読解① [到達目標] 小説を題材に、内容を読み取り、テーマを設定することができる。 [備考]</p> <p>第6講 小説の読解② [到達目標] 前時で設定したテーマに関連する資料や文献を参考に、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第7講 プレゼンテーション [到達目標] 前時でまとめたことをスライドやPPを用いて、発表することができる。 [備考]</p> <p>第8講 まとめ（評価含む） [到達目標] 授業を振り返り、読解への理解を深め、思考力や表現力などを向上させる実践力を身につけることができる。 [備考] 第8講の後半で試験を実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	次回使用する教材や準備物を授業中に提示または配付しますので、準備をしておいてください。事前学習が済んでいるものとして授業を進めます。
教科書	特に購入していただくものではありません。
参考書	特になし。
成績評価	①評価方法 : 試験評点60%、平常点40% ②評価基準 : 試験は授業の理解度や実践力（小論文1題）に関する問題を出題し、判定します。平常点は受講態度、出席状況、課題の取組、提出などで判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 直子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業前及び授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド：ビデオ配信）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本授業では、歴史的・哲学的に伝統医学を学んでいきます。そして、皆さんの医療・医学に関する見識を深めることが、本授業の目的です。
授業計画	<p>1回目 健康維持増進と伝統医学① 【到達目標】健康維持増進と伝統医学の関連を考察できる。 【備考】※課題1：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>2回目 健康維持増進と伝統医学② 【到達目標】健康維持増進と伝統医学の関連を考察できる。 【備考】※課題2：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>3回目 伝統医学の話① 【到達目標】概論的な視点で考察できる。 【備考】※課題3：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>4回目 伝統医学の話② 【到達目標】近代西洋医学と伝統医学との関連で考察できる。 【備考】※課題4：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>5回目 伝統医学の話③ 【到達目標】統合医療を中心に考察できる。 【備考】※課題5：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>6回目 伝統医学の話④ 【到達目標】統合医療を中心に考察できる。 【備考】※課題6：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>7回目 ICD-11 【到達目標】ICD-11と伝統医学の関係を考察することができる。 【備考】※課題7：今回の授業の「感想」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>8回目 本授業の振り返りとまとめ ※アクティブ・ラーニング（学ぶの振り返りと表出） 【到達目標】本授業で学んだ内容を踏まえ、適切なレポートを作成できる。 【備考】※課題8：本授業の「まとめ課題：レポート」（Google Classroomに提示）を提出する（期日までにGoogle Classroomへ）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、GoogleClassroomへUPします。 ・本授業における時間外学習は、週4時間となります。
教科書	プリントを配布（GoogleClassroomへUp）
参考書	津谷喜一郎・長澤道行著『医療にみる伝統と近代』明石書店、2018年
成績評価	<p>1. 課題の提出締切日：期日までにGoogle Classroomへ提出してください（厳守）。</p> <p>2. 課題点：①+②=100点 ※期日を過ぎると点数はありません。 ①「課題1～7」：10点×7課題=70点（提出点） ②「課題8」：30点（配点基準は、Google ClassroomにUpするルーブリックを参照：後日）</p> <p>3. 60点以上が合格点です（単位認定）。</p> <p>4. 教員からの各課題へのコメントは、全体or個別でGoogle ClassroomにUpします。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：河井 正隆 研究室：学修支援センター別室（3号館） メールアドレス：m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日、午後4時30分～午後6時</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-3
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、Google Classroomでお伝えします。
	授業では、ノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。
	科目ナンバー：HE-0-MS6-RS-L-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
上久保 敦、智原 栄一、福田 聖司、山下 歩、金川 陽亮			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（ブレンディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	初年次教育の一環として次の5項目を目標とする。 1) 学生間、学生-教員間のコミュニケーションを密接にする。 2) 医療という未知の世界に関心を持ち、大学で主体的に学ぶ意欲を高める。 3) 大学専門教育を受けるための「読み」「書き」「考える」能力を鍛え基本的な学修作法を身につける。 4) 現代医学を学ぶためにも必要となる基本的な数的処理能力の復習を行う。 5) 医療専門職として救急救命士になるための心構えを養う。
授業計画	<p>第1講 救急救命学科の教育方針について 【授業概要】 救急救命学科の教育方針について概説する。 【到達目標】 救急救命士を目指すために何が必要であるかを理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う) 【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容についてレポートにまとめる。</p> <p>第2講 救急救命士になるために必要な大学教育について 【授業概要】 医学教育と社会教育の重要性について概説する。 【到達目標】 医学基礎知識の重要性と社会性を意識させる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う) 【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容についてレポートにまとめる。</p> <p>第3講 大学での学びを深める① 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。 【到達目標】 救急救命士教育および社会的情報から基礎知識を身につけ理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う) 【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容についてレポートにまとめる。</p> <p>第4講 大学での学びを深める② 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。 【到達目標】 救急救命士教育および社会的情報から基礎知識を身につけ理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う) 【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容についてレポートにまとめる。</p> <p>第5講 大学での学びを深める③ 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。 【到達目標】 救急救命士教育および社会的情報から基礎知識を身につけ理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う) 【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容についてレポートにまとめる。</p> <p>第6講 大学での学びを深める④ 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p>

	<p>【到達目標】 救急救命士教育および社会的情報から基礎知識を身に着け理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容についてレポートにまとめる。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ①</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力を問題演習を通して学びなおす。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ②</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力を問題演習を通して学びなおす。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ③</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力を問題演習を通して学びなおす。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ④</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力を問題演習を通して学びなおす。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ⑤</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力を問題演習を通して学びなおす。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ⑥</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力を問題演習を通して学びなおす。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ⑦</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力を問題演習を通して学びなおす。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。 社会人に必要な数的処理能力を学ぶ⑧</p> <p>【授業概要】 中学校卒業レベルで一般公務員試験にも必須とされる数的処理能力についてここまで問題演習を通して学習した内容の確認テストを行う。</p> <p>【備考】 (予習) 講義内容について事前自主学習を行う。 (復習) 講義で学習した内容・演習問題について復習を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと(所要時間120分) 復習としては各講テーマについてレポートで提出(所要時間120分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認しレポートを提出すること。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	本科講義における全コマ数3/5以上の出席と欠席レポートの全提出が期末試験受験の要件。 評価割合(レポート評価70%、受講態度およびレポート提出状況を含む平常点30%)

	<p>※架空もしくは不正出席は重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。</p> <p>※期限までに定められたレポート提出が無い場合は、追試験（筆記試験）のみで評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 上久保 敦、智原栄一 研究室 : 6号館 2階研究室 メールアドレス : a_kamikubo@meiji-u.ac.jp (上久保)、e_chihara@meiji-u.ac.jp (智原) オフィスアワー : 講義終了後1時間まで (上久保) 火曜日16:30-17:30 (智原)</p>
備考	<p>【ディプロマポリシーとの関連】◎-4, ○-3, ○-5 科目コード : HE-0-MS7-RS-S-0</p>
	<p>上久保 敦 : 元) 消防官で現場経験を有する。現在、大阪府監察医事務所に非常勤として検視解剖業務に携わる。また、各種イベント救護にも携わる。ここでは、経験を活かした社会人教育を行う 智原栄一 : 麻酔科医師として臨床従事する一方で医療系大学院で研究指導を行う。中学・高校 数学教員免許有。</p>
	<p>【課題に対するフィードバックの方法】 提出レポートについて、評価およびコメントを記載して返却する。</p>
	<p>アクティブラーニング有</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
近藤 隆久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士になるために必要な知識の獲得以前に、就職活動に必要な技能、たとえば、一般社会常識や論理的思考力などの習得を目指す。また、今後において文章を読んだり書いたりという作業は必要になることは必至であるため、文献などを通じてそうした内容の強化に努めたい。さらに、志望動機や自己のPRポイントを自覚し、表現化することによって、今後の活動に向けてのモチベーションを高めることにつながるような活動を行う。その他、こうした「軸」と連動させる形で実践形式を通じて、発言力や質問力、コミュニケーション力を培えるよう、さまざまなアプローチから社会生活に役立つ事柄を身につけさせることを試みたい。総じて、社会に出る前段階において、今後困らない力、すなわち「人間力」を鍛えることにフォーカスし、充実した生活を送ることができるよう、そのサポートを主眼とした授業展開を目指す。なお、量は質になるとする考え方の下、課題はほぼ毎回出題し、自身の課題解決に努めさせたい。
授業計画	<p>第1講 キャリアデザインについて考える [1] [到達目標]「キャリアデザイン」という言葉の意味を正確に理解できるようになり、今後の自身の未来に生かすためにどのようにすることが得策かを正確にインプットしておくことができる。</p> <p>第2講 キャリアデザインについて考える [2] [到達目標]キャリアデザインについて、さまざまな視点から考察できるようになり、柔軟な発想でもって対応することができる。</p> <p>第3講 「なぜ勉強しなくてはならないのか」…これまでの「学び」を振り返って—輝かしい未来に繋げるために [到達目標] これまでの「学び」について振り返り、そもそもなぜ人間は勉強しなければならないのか、身近な問いを深く掘り下げて考えられるようになる。</p> <p>第4講 社会に出て行こうとするみなさんへ 「人はなぜ働かなくてはならないのか」—さまざまな視点からの考察 [到達目標] 社会に出てからの「働く」ということについて、ラディカルに考えられるようになる。</p> <p>第5講 「働く」ことの基礎知識・エントリーシート作成入門 [1] [到達目標] 自己客観視することによって、現在の自分を知り、それとともに救急救命士として活躍する姿を明確に描けるようになる。</p> <p>第6講 「働く」ことの基礎知識・エントリーシート作成入門 [2] [到達目標] 救急救命士を目指すに当たって、これまでの自身の経験や能力を把握し、目指す職員像を描き出すことができる。</p> <p>第7講 一般的な本や学術書を「正しく」読むということについて考える [到達目標]今後生活していく上で、文章を読むということは避けては通れない。したがって、どのように文章と向き合うことが効率的、かつ効果的であるかについて考えられるようになる。</p> <p>第8講 文章を「正しく」書くということについて考える [到達目標]相手に伝わりやすい文章とはどのようなものか。論理的、かつスムーズな文章表現となるよう、コツやテクニックを身につけられるようになる。</p> <p>第9講 「主体的」に生きるとはどのようなことか…実践的トレーニングを交えて考える [1] [到達目標]社会に出てから、職場であるいはその他社会生活を営む上で、自身の意見を述べるということは避けては通れない事柄の一つである。よって、そのような場で適切な行動が取れるよう、実践的トレーニングを通じて力を養うことができる。</p> <p>第10講 「主体的」に生きるとはどのようなことか…実践的トレーニングを交えて考える [2-1] [到達目標]グループワークを通じて、互いに意見交換を行いながら個々の自己成長に繋げることができる。さらには、そうした共同作業を通じて仕上げたものを、周りに説得力を持って発表することができる。</p> <p>第11講 「主体的」に生きるとはどのようなことか…実践的トレーニングを交えて考える [2-2] [到達目標]グループワークを通じて、互いに意見交換を行いながら個々の自己成長に繋げることができる。さらには、そうした共同作業を通じて仕上げたものを、周りに説得力を持って発表することができる。</p> <p>第12講 コミュニケーション能力を磨くためにどうすればよいか [到達目標]コミュニケーションスキルをアップさせるためにはどのような試みが必要となるだろうか。こうした内容について論理的に考え、かつ実践的に行動できるよう、さまざまな視点から考察を図る。</p> <p>第13講 コメント力を高める試みとして何が有効か [到達目標]世の中に出て、起こった事象などに対してコメントを述べることは多く求められると予測される。社会に出てから磨くのでは、おそらく出遅れになってしまうため、感受性豊かなこの時期に少しでもスキルアップが図れるよう、論理と実践を交えてトレーニングを試みる。</p> <p>第14講 質問力を上げるために、今の段階でどのようなトレーニングを積んでおくべきか [到達目標]コメント力と並んで、相手にあるいは大勢に質問する能力は、社会に出て大きく要求されるものと推測される。社会人として「いいと思う」や「別に」などというお粗末な回答にならないよう、そのトレーニングを図る。</p> <p>第15講 これまでの振り返り (評価含む) [到達目標]今までの講義内容を踏まえた出題、およびテーマに対して自身の考えを記述で述べる</p>

	もの
授業時間外の学習 (準備学習等)について	その都度指示するものとする
教科書	都度こちらで用意した教材を配布予定
参考書	授業中指示するもの
成績評価	最終講義で行われる定期テストを主軸とし、その他、提出物が多くあるのでそれも加味する。 また、授業中の私語や不必要なスマートフォンの使用は評価に大きく関わるものとする。 なお、課題はほぼ毎回出題しますので、受講を希望する方はご承知おき下さい。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 近藤 隆久 研究室 : 6号館1階非常勤講師 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	上記のスケジュールは、進捗状況や場面の变化により一部変更となることがある。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ（レポート作成） レポート作成等	
授業時間外の学習（準備学習等）について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	なし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：前中 一晃（非常勤講師）	
	研究室	：6号館1階非常勤講師室	
	メールアドレス	：mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp	
	オフィスアワー	：授業終了後	
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1，○-2・4		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド：ビデオ配信）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この授業では、大学での学びに対する真摯な態度やスキルを、さまざまな側面から考えていきます。そして、最終的にはあなた自身が、自立した学習者に成長するきっかけ（契機）をつかむことが、この授業の目標です。
授業計画	<p>1回目 大学ってどんなところ！？ 【到達目標】大学で求められる力や態度を判断できる。</p> <p>※課題1：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>2回目 学習スタイルとやり抜く力 【到達目標】自らの学習スタイルを知り、今後の学習方法を省察できる。</p> <p>※課題2：「やり抜く力」のアンケートに回答してください（期日までにGoogle formsへ）。</p> <p>3回目 考えるってどういうこと？ 【到達目標】学びのスキルや思考方法（批判的思考）を活用できる。</p> <p>※課題3：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>4回目 プロフェッショナルとコミュニケーションを考える 【到達目標】プロとしてのコミュニケーションの概要を説明できる。</p> <p>※課題4：ビデオの中で示される【課題①】【課題②】の2つを考えてください（各課題を200字程度で）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>5回目 ディプロマ・ポリシーとICEルーブリック 【到達目標】ディプロマ・ポリシーとICEルーブリックの作成を通して、自らの学びを考察できる。</p> <p>※課題5：あなた自身の「ICEルーブリック」を書いて提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>6回目 1. 図式化に挑戦！ 2. NOLの紹介 【到達目標】選択した科目の重要ポイントを図式化により整理できる。</p> <p>※課題6：あなたが描く「図式化」の成果物を提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>※課題7：NOLを読んで、あなた自身の「感想」を教えてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）</p> <p>7回目 短期記憶の実験 【到達目標】短期記憶の実験をとおして、自身の記憶の傾向性を認識する。</p> <p>※課題8：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>8回目 レポートの書き方 ※アクティブ・ラーニング（学びの振り返りと表出） 【到達目標】本授業で学んだ内容を踏まえ、適切なレポートを作成できる。</p> <p>※課題9：本授業を受講した上で、「今までの学びを振り返り、これからの4年間を展望してください（400字）」をレポートしてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 課題は、Google ClassroomへUPします。</p> <p>2. 本授業における時間外学習は、週4時間となります。</p>
教科書	授業テーマに応じた資料をGoogle ClassroomにUpします。
参考書	必要に応じて、授業テーマに即した図書などをGoogle Classroomで紹介します。
成績評価	<p>1. 課題の提出締切日：期日までにGoogle Classroomへ提出してください（厳守）。</p> <p>2. 課題点：①+②=100点 ※期日を過ぎると点数はありません。</p> <p>①「課題1～8」：10点×8課題=80点（提出点）</p> <p>②「課題9」：20点（配点基準は、Google ClassroomにUpするルーブリックを参照：後日）</p> <p>3. 60点以上が合格点です（単位認定）。</p> <p>4. 教員からの各課題へのコメントは、基本的には全体または個別で行います（Google ClassroomにUp）。</p>
担当教員の基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員名 : 河井正隆 ・研究室 : 学修支援センター別室（3号館内） ・メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp ・オフィスアワー : 水曜日、午後4時30分～午後6時

備考	<p>1. 本授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-2、○-3</p> <p>2. 本授業では、スマートフォンやノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。</p> <p>3. 授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、Google Classroomやメリーでお伝えします。</p> <p>4. 科目ナンバー：HE-0-MS14-RS-L-0</p>
	<p>実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療には物理学の知見が多く取り入れられている。本講義では、医学を深く学ぶ上で必要となる物理学の基礎知識を身に着けることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	単位と移動の基礎 到達目標： ・単位を説明できる。速度，加速度，移動距離を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	ニュートンの法則 到達目標： ・三角関数が理解できる。 ・ベクトルを計算できる。 ・ニュートンの法則を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	浮力 到達目標： ・密度を計算できる。 ・浮力を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	放物運動 到達目標： ・自由落下，投げ上げの速度，移動距離が計算できる。 ・放物運動を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	抵抗 到達目標： ・モノに働く抵抗を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	円運動と万有引力 到達目標： ・円運動，万有引力が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	電気の基本 到達目標： ・電気の基本が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	電気の特性 到達目標： ・電気の特性が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	波の基本特性 到達目標： ・縦波，横波，振幅，周期，周波数を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	音における波の特性 到達目標： ・音の波の特性を説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ・耳からの伝わり方を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第11回	光における波の特性 到達目標： ・光の波の特性を説明できる ・サングラスの偏光を説明できる ・ヒトの映像の見え方を説明できる 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第12回	光の特殊な性質 到達目標： ・光の量子性について説明できる。 ・量子コンピュータの概要が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第13回	いろいろエネルギー 到達目標：	

	<p>・エネルギー保存の法則を説明できる。 ・モノのエネルギーが説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。 試験及びまとめ 到達目標：全体的な概要の説明ができる。 授業形態： 対面形式で行う。日時は別途指定する。 確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>総括 到達目標：講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し説明することができる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	種々の物理の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習(130分)と講義内容の復習(130分)を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	改訂版 センター試験 物理基礎の点数が面白いほどとれる本。 鈴木誠治(著) ISBN-10: 404600777X 2022-2023年合格目標 公務員試験 本気で合格! 過去問解きまくり! 【7】自然科学I ISBN-10 : 4844907298
成績評価	1回の試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 〇赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい。
備考	この講義とディプロマポリシーとの関連「◎-1」 科目コード: HE-1-NS1-ES-L-0
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴(20~50分程度)と課題(30~80分程度)で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
千葉 章大			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔・オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な生物学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・「生物の原則」である細胞、分子、遺伝子の働きを説明できる。 ・DNAからRNAそしてタンパク質へと進む遺伝情報の伝達の仕組みを理解する。 ・物質代謝、自己複製の仕組みを理解する。 ・解剖学・生理学等を理解するのに必要な、「ヒトに関する基本」（ヒトの組織や器官の構造と働き、健康を維持するシステム、病気の原因）に関する基礎的な内容を説明できる。
授業計画	<p>第1回 生物とは何か、生物としてのヒト 【到達目標】： ・生物の条件を説明できる。 ・生物としてのヒトの特徴を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第2回 細胞、細胞小器官 【到達目標】：細胞と細胞小器官の構造と機能を説明できる 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第3回 生物を構成する物質 【到達目標】： ・生物を構成する元素と分子にはどのようなものがあるかを説明できる。 ・生物を構成する元素と分子の基本的な性質を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第4回 栄養と代謝 【到達目標】： ・ヒトが必要とする栄養にはどのようなものがあるかを説明できる。 ・基礎的な代謝の流れを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第5回 遺伝とDNA、遺伝情報の発現 【到達目標】： ・遺伝の仕組みについて説明ができる。 ・DNAからRNA、タンパク質への遺伝情報の伝達の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第6回 細胞の増殖、生殖、発生、分化 【到達目標】：基礎的な自己複製の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第7回 ヒトの生殖、発生、分化 【到達目標】：ヒトの自己複製の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>中間試験 中間試験 対面形式で行う。 日時は別途指定する。</p> <p>第8回 動物の組織 【到達目標】：動物組織の基礎的な構造や特徴について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第9回 動物の器官Ⅰ（消化器系・循環器系） 【到達目標】：動物の器官（消化器系・循環器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第10回 動物の器官Ⅱ（呼吸器系・排出系・感覚器系） 【到達目標】：動物の器官（呼吸器系・排出系・感覚器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第11回 ホルモンと生体調節 【到達目標】：ヒトの各内分泌器官から分泌されるホルモンとその作用について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。</p>

	<p>(正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第12回 神経系 【到達目標】：動物の神経系の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第13回 免疫・微生物 【到達目標】： ・生体防御システムの基礎的な機能について説明できる。 ・病原微生物と感染症との関係について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第14回 がんと老化 【到達目標】： ・がん発生の仕組みについて説明できる。 ・細胞や個体の老化のプロセスについて説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第15回 バイオテクノロジーと医療・総括 【到達目標】： ・遺伝子組換え技術や再生医療などの基礎的な仕組みや意義を説明できる。 ・本講義を通じて学んだことを述べるができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>期末試験 期末試験 対面形式で行う。 日時は別途指定する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習45分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習45分)。
教科書	「医療・看護系のための生物学」 田村 隆明 著 (裳華房) ISBN978-4-7853-5233-2
参考書	「キャンベル生物学」 Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece著 池内昌彦、伊藤元己、箸本春樹、道上達男 監訳 (丸善出版) ISBN978-4-621-30276-7
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 中間試験(試験86%、課題14%)、期末試験(試験86%、課題14%)それぞれ6割以上を合格とし、中間試験(50%)と期末試験(50%)により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」①◎、②○、③○ 科目ナンバー: HE-1-NS2-RS-L-0
	講義の動画は該当週の月曜日9:25までに公開する。 動画視聴(40~50分程度)と課題(40~50分)で講義を行う。 講義内容に対する質問は、原則Mellyで行なってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 課題の解答は提出期限後にGoogleclassroom上に掲示する。
	出欠は課題の期限内での提出をもって行います。 課題への取り組みが不十分とみなされる場合には、課題点が付与されないことがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔・オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素、分子およびそれらの性質を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。 ・その他、生化学や生理学などを理解するために必要な化学の法則を説明できる。		
授業計画	第1回	元素記号・周期律・化学の基礎 【到達目標】 ：おもな元素記号を記述できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第2回	原子の構造、電子配置と原子軌道 【到達目標】 ：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第3回	イオン結合 【到達目標】 ：主要なイオン性物質の組成式を作ることができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第4回	分子の間に働く力、共有結合、金属結合 【到達目標】 ：分子軌道により共有結合を説明できる。 それぞれの化学結合の特徴を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第5回	原子量・分子量・式量 【到達目標】 ：原子量、分子量と式量を計算できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第6回	物質量 【到達目標】 ：粒子の数、質量、体積と物質量の関係を理解し算出できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第7回	溶液・コロイド 【到達目標】 ： ・溶液、コロイドの特徴について説明できる。 ・溶液の濃度、希釈、作成について計算できる。 【授業形態】 ：	
	第8回	化学反応式 【到達目標】 ：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第9回	酸と塩基 【到達目標】 ：酸と塩基の性質を説明できる。 水素イオン指数pHを説明、計算できる。 中和反応を説明、計算できる 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第10回	酸化還元反応 【到達目標】 ：酸化・還元反応の性質を説明できる。 電池・電気分解を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第11回	熱化学 【到達目標】 ：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第12回	酵素反応と酸塩基平衡 【到達目標】 ：酵素反応のしくみを説明できる。 化学平衡と緩衝液について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。	

	<p>(正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第13回 有機化合物 【到達目標】：炭化水素と有機化合物の名称や分類について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第14回 生体を構成する物質 【到達目標】：糖質、脂質、タンパク質、核酸について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第15回 無機化合物・高分子化合物 【到達目標】：身近な化合物の性質を理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>期末試験 期末試験 対面式で行う。日時は別途指定する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習120分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習120分)
教科書	「生理学・生化学につながる ていねいな化学」 白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太著(羊土社) ISBN978-4-7581-2100-2
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修(Gakken) ISBN978-4-05-303852-4 「ブラウナー一般化学 I、II」 T. H. Brown 他著、荻野和子監訳(丸善出版) ISBN978-4-621-30010-7, -30011-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験(72%)と課題(28%)により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-4、○-1 科目ナンバー: HE-1-NS3-ES-L-0
	講義の動画は該当週の月曜日9:25までに公開する。 動画視聴(40~50分程度)と課題(40~50分)で講義を行う。 講義内容に対する質問は、原則Mellyで行なってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 課題の解答は提出期限後にGoogleclassroom上に掲示する。
	出欠は課題の期限内での提出をもって行います。 課題への取り組みが不十分とみなされる場合には、課題点が付与されないことがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とします。また、デジタルデータを正確に取り扱い、コンピュータを用いてデータの記録と解析を達成できることを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習 [到達目標] キーボードショートカットを用いた操作を修得する 関数を使った計算を復習し、棒グラフを正確に作成することができる 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する [備考] 課題あり</p> <p>第2回 さまざまなグラフ① 度数分布 [到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 関数を利用してさまざまなデータの度数を算出できる [備考] 課題あり</p> <p>第3回 さまざまなグラフ② ヒストグラム [到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる [備考] 課題あり</p> <p>第4回 さまざまなグラフ③ 散布図 [到達目標] 散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる [備考] 課題あり</p> <p>第5回 関数の応用と図表の読み取り [到達目標] 資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる [備考] 課題あり</p> <p>第6回 復習と演習 [到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など必要に応じたグラフを選択し作成することができる [備考] 課題あり</p> <p>第7回 デジタルデータの取り扱いと工夫 [到達目標] 実験などで得られる実データの安全な取り扱い方と記録の意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 大規模なデータを取り扱うためのデータハンドリングについて知る [備考] 課題あり</p> <p>第8回 データの収集および解析の実践 [到達目標] データに対して適した解析方法を選択し、正確に処理できる グラフ等を用いてデータを視覚的表現できる データを読み解き結果を言葉で表現することによって、レポート等を作成できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておきましょう（120分程度）。 ・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるように準備しておいて下さい。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めましょう（120分程度）。 ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておい

	て下さい。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は試験90%、課題10%とします。 試験は選択式および記述式の問題により、データ処理能力および他者に対して説明する能力の到達度を総合的に評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : 〇-1, ◎-5 「科目ナンバー」 : HE-1-NS4-ES-L-0 講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します (別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。 アクティブラーニング形式の授業は実施しません。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語を習得することが大切である。この講義では、日本人が特に苦手とするリスニングとスピーキングに重点を置き、英語の基礎的な会話をパターンプラクティスで習得するとともに、映画やアニメのシナリオを通して実用的な英語に触れることを目指す。		
授業計画	第1講	オリエンテーション、リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第2講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第3講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第4講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第5講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第6講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第7講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第8講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第9講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第10講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第11講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第12講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第13講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第14講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第15講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティス	

	で練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習することはありません。各講義内での課題をクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題ですから、積極的にリスニングや英会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。 基本的にパワーポイントを使った授業になります。 必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	英和辞典もしくは電子辞書(高校で使用していたものでよい)
成績評価	テストは行わず、「講義への参加度合い、積極性、各講義課題提出等」の各講義で評価します。 そのため、10分を越える遅刻・早退・中座については減点対象とします。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	ディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語を習得することが大切である。この講義では、日本人が特に苦手とするリスニングとスピーキングに重点を置き、英語の基礎的な会話をパターンプラクティスで習得するとともに、映画やアニメのシナリオを通して実用的な英語に触れることを目指す。		
授業計画	第1講	オリエンテーション、リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第2講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第3講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第4講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第5講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第6講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第7講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第8講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第9講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第10講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第11講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第12講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第13講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第14講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第15講	リスニング動画視聴、日常英会話練習、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①リスニング動画を視聴し注意点を把握する。②短い英会話をパターンプラクティス	

	で練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習することはありません。各講義内での課題をクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題ですから、積極的にリスニングや英会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。 基本的にパワーポイントを使った授業になります。 必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	英和辞典もしくは電子辞書(高校で使用していたものでよい)
成績評価	テストは行わず、「講義への参加度合い、積極性、各講義課題提出等」の各講義で評価します。 そのため、10分を越える遅刻・早退・中座については減点対象とします。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	ディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語を習得することが大切である。この講義では、日本人が特に苦手とするリスニングとスピーキングに重点を置き、医療現場における様々なシチュエーションの会話をパターンプラクティスで習得するとともに、映画やアニメのシナリオを通して実用的な英語に触れることを目指す。また、今後必要となる可能性のある医療用語についても学ぶ。		
授業計画	第1講	オリエンテーション、診療予約の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①診療予約の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第2講	受付業務(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①受付業務(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第3講	受付業務(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①受付業務(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第4講	道案内の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①道案内の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第5講	院内案内の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①院内案内の表現を学習する②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第6講	身長・体重測定と採血の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身長・体重測定と採血の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第7講	血圧・脈拍測定の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①血圧・脈拍の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第8講	体温測定・身体チェック(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①体温測定・身体チェック(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第9講	身体チェック(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身体チェック(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第10講	症状を診て薬を出す指示(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第11講	症状を診て薬を出す指示(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第12講	症状を診て薬を出す指示(3)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(3)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習	

	<p>し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第13講 症状を診て薬を出す指示(4)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(4)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第14講 問診(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①問診(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第15講 問診(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①問診(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。基本的にパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	英和辞書もしくは電子辞書(高校で使用していたものでよい)
成績評価	テストは行わず、「講義への参加度合い、積極性、各講義課題提出等」の各講義で評価します。そのため、10分を越える遅刻・早退・中座については減点対象とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
矢放 昭文			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標は初級中国語の基礎を身につけることである。中国語は発音が難しい。だが音声表示（ピンイン）の仕組みを理解し、継続して練習を重ねると身につくはず！練習方法は；①シャドーイングの反復、ライティングと意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行で繰り返すことである。また②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（ライティング）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ教材の運用練習をすることも効果が高い。</p> <p>学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる中国語教材の表現練習を採り入れ、中国語の知識をゆたかにすることも授業目標の一つである。</p> <p>なお「継続は力なり」という言葉をいつも自分に言い聞かせるとういでしょう！</p>
授業計画	<p>第1講 中国語の音声（ピンイン）の仕組みを理解しよう [到達目標]①中国語の音声の仕組みを「中国語音節表」（p. 74-75）に基づいて学ぶ。 教科書に基づいて授業の進め方を説明し、相互に確認する。また次回授業の準備（p11-16）を予習する。</p> <p>[備考] 補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>第2講 第1課「自己紹介」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標] 発音：単母音・声調・軽声・子音を学習する。さらに、ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 17-18「ドリル」を完成し、p. 19-22を予習する。</p> <p>第3講 第2課「どうなさいましたか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標] 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。つぎに前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。また、発音：複母音・声調表記と「新出語句」（p. 20）の発音練習・書取を行う。</p> <p>[備考] さらに、次回授業の準備：p. 23-24「ドリル」を完成し、p. 25-28を予習する。</p> <p>第4講 第3課「この薬はどう飲みますか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標] 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：鼻母音と「新出語句」（p. 26）の発音・書取を行う。</p> <p>第5講 第3課「この薬はどう飲みますか」の復習。 [到達目標] 「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 29-30「ドリル」を完成し、p. 31-35を予習する。</p> <p>第6講 第4課「病室はどこですか」の学習。 [到達目標] 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」（p. 33）の練習・書取を行う。</p> <p>第7講 第4課「病室はどこですか」の復習。 [到達目標] 「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 36-37「ドリル」を完成し、p. 38-41を予習する。</p> <p>第8講 第5課「具合はいかがですか」の学習。 [到達目標] 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句（p. 38）」「補足語句（p. 40）」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>第9講 第5課「具合はいかがですか」の復習。 [到達目標] 「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p. 42-43「ドリル」を完成し、p. 44-46を予習する。</p> <p>第10講 第6課「心配ありません」の学習。 [到達目標] 「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句（p. 44）」「補足語句（p. 46）」と「表現」の練習・書取を</p>

	<p>第11講 行う。 第6課「心配いりません」の復習。 [到達目標]会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。</p> <p>第12講 [備考] 次回の授業：p. 47-48「ドリル」を完成し、p. 49-51を予習する。 第7課「退院おめでとう」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。また、前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認、補正する。</p> <p>第13講 [備考] さらに、発音：「新出語句 (p. 50)」「補足語句 (p. 51)」と「表現」の練習・書取を行う。 第7課「退院おめでとう」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。さらに「チャレンジ (p. 54)」をグループワークで行う。</p> <p>第14講 [備考] また、次回授業の準備：p. 52-53のドリルを完成する。 第1課～第7課の総復習と「自己紹介」の練習を行う。 [到達目標]第1課～第7課のまとめ (p. 55-60)を総括する。</p> <p>第15講 [備考] 「自己紹介文」について発音・音読練習をおこなう。 第1課～第7課で身につけた中国語をつかい「自己発表」を行う。 [到達目標] 自信をもって「自己紹介」できることが目標である。</p> <p>[備考] 評価と今後の学習のための助言を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>① 予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くと効果は高い。日本語の発音と異なるの中国語音の微妙な違い、イントネーション (声調) に注意してシャドーイングを繰り返すと効果があります。</p> <p>② またシャドーイングと同時に書写 (ライティング) を習慣として行うと定着度は高いはずですが。「ドリル」を完成することも、頭に定着させるためには大切です。</p> <p>③ ピンイン、単語、例文などを音読しながら書写することにより定着度を高めることも出来ます。自分で時間の配分を考えながら実行することを習慣にすること、も高い効果を期待できます。「習慣」は人生を変えます!</p>
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価：2100円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%)。なお平常点には小テスト (複数回) の成績も算入する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢放 昭文 (ヤハナシ アキフミ) 大阪外国語大学大学院外国語学研究科東アジア語学 (中国語専攻) 修了 大阪大学大学院人文学研究科招聘研究員 文学修士、京都産業大学名誉教授</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後に随時受け付ける。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
荻野 豊			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	フランス語の基本的な文法を学び、フランス語の語彙の拡大に努めるとともに、旅行などに必要な日常会話を練習する。また、フランスの歴史・文化に触れ国際的な視野をもった人格の形成をめざす。
授業計画	<p>第1講 冠詞と名詞 【到達目標】 (文法) 冠詞の役割と種類を理解する (会話) あいさつをする (トピック) シャンゼリゼ</p> <p>第2講 形容詞 【到達目標】 (文法) 形容詞と名詞の結びつきを理解する (会話) お礼をする</p> <p>第3講 人称代名詞 【到達目標】 (文法) 人称代名詞の種類を理解する (会話) お詫びをする (トピック) モンマルトル</p> <p>第4講 所有形容詞 【到達目標】 (文法) 所有形容詞の種類を理解する (会話) 返事をする</p> <p>第5講 直接目的語・間接目的語 【到達目標】 (文法) 直接目的語・間接目的語の違いを理解する (会話) 気持ちを表す (トピック) ムーランルージュ</p> <p>第6講 動詞(1) 「～する」 【到達目標】 (文法) 動詞の活用を理解する (小テスト) 第1講から第5講までの内容の理解度を確認する</p> <p>第7講 動詞(2) 「～である」「～を持つ」 【到達目標】 (文法) 動詞の活用を理解する (会話) 自分のことを伝える</p> <p>第8講 否定文 【到達目標】 (文法) 否定文のつくり方を理解する (会話) たずねる (トピック) シテ・ユニヴェルシテール</p> <p>第9講 疑問文 【到達目標】 (文法) 疑問文のつくり方を理解する (会話) 時間をきく</p> <p>第10講 疑問詞 【到達目標】 (文法) 疑問詞の種類・用法を理解する (会話) いくらかをきく (トピック) クロワッサン通り</p> <p>第11講 過去 【到達目標】 (文法) 過去の表現を理解する (小テスト) 第6講から第10講までの内容の理解度を確認する</p> <p>第12講 単純未来 【到達目標】 (文法) 単純未来の表現を理解する (会話) 予定を伝える</p> <p>第13講 受動態 【到達目標】 (文法) 受動態のつくり方を理解する (会話) 希望を伝える (トピック) ポルト・ディタリ</p> <p>第14講 代名動詞 【到達目標】 (文法) 代名動詞の意味と用法を理解する。第1講から第14講までの要点をまとめる</p> <p>第15講 まとめ(評価含む) 【到達目標】 動詞の活用など文法事項の総復習、および場面ごとの会話の実践、最後にフランス語およびフランスに関する自由レポートの作成。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>繰り返しテキストを音読し、暗唱する。また授業内容を確認するために課題を課す。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する。これらの成果を確認するため小テストを行う。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。</p>
教科書	なし ※講義ごとに資料をClassRoomに掲載したり、配布する。

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調 佳智雄『超入門 フランス語』大学書林 2013 ・ 中野久夫『はじめてのフランス語』明日香出版社 2014 ・ 中条省平『世界一簡単なフランス語の本』幻冬舎新書 2018
成績評価	出席回数・小テスト・期末テストなどから総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 荻野 豊 研究室 : 非常勤講師控室 メールアドレス : og-yutaka@hotmail.co.jp オフィスアワー : 授業の前後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを利用した課題の遂行を通じ、様々なアプリケーションの使い分けに加えてデータサイエンスの基盤となるデータ整理のスキル獲得を目的とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るに当たり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のシステムおよびメール等の学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCの基本操作、学内システムへのアクセス法</p> <p>[到達目標] 本学でのコンピュータ利用方法を知る コンピュータからメールが送受信できる 学修支援システムとmellyを利用できる 大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する</p> <p>[備考] 入学時ガイダンスでの配布物（パスワードが記載された用紙）を必ず持参すること</p>	
	第2講	<p>基本操作の修得</p> <p>[到達目標] 電子レポートを提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる USBフラッシュメモリ等の外部デバイスの利用に対する注意点を理解する</p> <p>[備考] 必要に応じてUSBメモリーを持参すること（任意）</p>	
	第3講	<p>表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる キーボードショートカットを活用できる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第4講	<p>表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方</p> <p>[到達目標] グラフの特徴を理解し、活用することができる 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる データに対して適切なグラフを作成することができる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第5講	<p>表計算③：さまざまな関数の利用</p> <p>[到達目標] 引数の概念を理解する “条件分け”の関数を適用することができる “抽出”の関数を適用することができる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第6講	<p>表計算④：復習と演習</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第7講	<p>表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考] 表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>	
	第8講	<p>情報倫理とネットセキュリティ</p> <p>[到達目標] ITリテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる ネットのビジネスマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策について知識を修得する</p> <p>[備考] 講義時間内に情報倫理に関するwebテストを実施 NOA出版の教科書にて事前に学修しておくこと</p>	
	第9講	<p>文書表現の実践：文章表現の実践とルーブリックによる自己評価</p>	

	<p>[到達目標] Word等の文書作成ソフトを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第10講 ビジュアル表現の実践：プレゼンテーションの実践とルーブリックによる自己評価</p> <p>[到達目標] PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第11講 デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践</p> <p>[到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第12講 デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践</p> <p>[到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第13講 記録とデータ</p> <p>[到達目標] 記録の必要性を理解する データの種類を理解する cloud環境で利用できる仕組みを活用してポートフォリオ作成を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第14講 データベースとその意義</p> <p>[到達目標] データベースとは何かを説明できる 情報を活用するためのデータ取得について考える プログラミングとは何かを知る スクリプトを用いてデジタル処理の動作を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第15講 機械学習の基本</p> <p>[到達目標] 機械学習とは何かを説明できる 社会の中で機械学習がどのように活用されているかを知る [備考] 課題あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(30分程度)。必要に応じて復習を行い、コンピュータスキルの獲得に努めて下さい(30分程度)。第10講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック」(noa出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題40%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ○-3, ◎-4 「科目ナンバー」: HE-1-LI9-RS-S-0 講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します(別途指示)。課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 医療システムから出力されるデジタルデータの取り扱いを想定し、実際に取得したデータを使って表計算ソフトを利用した四則演算・データ解析・統計学の手法を活用したデータ処理を実践することで、データを正しく判断できる力を養います。また、医療情報の新しい展開として期待されるウェアラブルデバイスなどIoTの現状について、医療情報収集における課題やセキュリティ対策などを踏まえて調査し、今後のデータ活用のあり方を考えます。</p> <p>【到達目標】 ・医療情報システムから出力されるデータを正しく把握するための統計学の基礎知識を修得する。 ・医療システムについて理解し、診療情報を含めた医療情報の流れなどの仕組みと医療情報のあり方および医療データの利活用について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1講 統計学の概念 [到達目標] 基本的な統計用語について説明できる 仮説検定の概念を理解する 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる [備考] 課題あり</p> <p>第2講 統計手法の理解 [到達目標] パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 対応の有無について理解し、判別することができる 適切な統計手法を選択できる [備考] 課題あり</p> <p>第3講 グラフを使った多様な表現方法とデータ処理 [到達目標] グラフで表現できる事項を理解する データの可視化において必要となる「正しいグラフの選択」ができる データ処理上の誤りを指摘することができる 複合グラフの読み取りができる [備考] 課題あり</p> <p>第4講 実務における統計 [到達目標] 推計統計と記述統計の違いを理解する 統計が必要となる場面を想定し、どのような技術を身につける必要があるのか考察する データをグラフや表で表現することができる データに即した統計的表現を選択することができる [備考] 課題あり</p> <p>第5講 統計処理の実践 [到達目標] 統計用語について説明できる グラフと表および数値の読み方と使い方が適切に行える データに即した統計手法を選択することができる 独力でデータの統計処理を実施できる [備考]</p> <p>第6講 統計領域の理解度テストをする 医療情報システムとデータベース [到達目標] 医療システムの仕組みを理解する 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] レポートあり</p> <p>第7講 IoT技術と医療の新しい展開 [到達目標] 医療用デバイスの意義と問題点について、情報を集めることができる 多岐にわたるデバイスから得られるデータがどのように収集され、活用されているのかを理解する IoTが医療や社会にもたらす変化について考察する [備考] レポートあり</p>

	<p>第8講 医療の産業化とAIの活用</p> <p>[到達目標] 新しい時代の医療とデータの関係について考察する 医療データの社会的な活用状況について調査し、AIの関わりについて知る</p> <p>[備考] レポートあり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめましょう。(120分程度) ・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躓き解消に努めるとともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにして下さい。(120分程度) ・講義をやむを得ず欠席した場合は必ず欠席した講義内容を確認し、演習問題にチャレンジして下さい。 ・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めましょう。
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	評価割合は試験60%、課題40%とします。 試験は選択式の問題を解答し、統計学的な判断力を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報</p> <p>担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ○-1, ◎-5 「科目ナンバー」 : HE-1-LI10-ES-L-0 講義資料および課題は授業専用のHPにて提供します(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
木村 隆彦、智原 栄一			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（ブレンディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者に必要不可欠な医学概論について知識の深化を図ることができる。 ・医療の歴史・医療の概念・医の倫理・科学的思考の基礎について理解することができる。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション／科学的アプローチと科学的思考 【到達目標】 医学概論で学ぶことの意義、医学の定義と使命について理解する。科学的アプローチと科学的思考では実践例を示し、医療人に求められる業務の質について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第2講 基礎学力確認試験① 【到達目標】 救急救命学及び医学統計を習得するために必要な、数学、生物、物理、化学、解剖生理の基礎知識の習熟度を確保するための試験を実施する。なお、試験解説はオンデマンドで配信する。 【授業形態】 筆記試験及びオンデマンドによる解説 アクティブラーニング無 【備考】 予習：前期に開講された授業および補講で学んだ、数学、生物、物理、化学、解剖生理の分野を振り返り、定着を図ること（所要時間50分） 復習：オンデマンド講義を視聴した後、自身の習熟度に合わせた向上策を講じること（所要時間50分）</p> <p>第3講 医学の歴史 【到達目標】 医学の歴史について古代から現代にいたる変遷を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第4講 心肺蘇生法の歴史 【到達目標】 医学の歴史・心肺蘇生法の歴史について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第5講 医療に関係する機関・職種／日本医学の歴史 【到達目標】 医療に関係する機関・職種について理解する。 また、日本医学の歴史を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第6講 生命倫理と医の倫理 【到達目標】 生命倫理と医の倫理について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第7講 基礎学力確認試験② 【到達目標】 救急救命学及び医学統計を習得するために必要な、数学、生物、物理、化学、解剖生理の基礎知識の習熟度を確保するための試験を実施する。なお、試験解説はオンデマンドで配信する。 【授業形態】 筆記試験及びオンデマンドによる解説 アクティブラーニング無 【備考】 予習：前期に開講された授業および補講で学んだ、数学、生物、物理、化学、解剖生理の分野を振り返り、定着を図ること（所要時間50分） 復習：オンデマンド講義を視聴した後、自身の習熟度に合わせた向上策を講じること（所要時間50分）</p> <p>第8講 まとめ・期末筆記試験 【到達目標】 これまでの内容を復習して、期末筆記試験を行い、理解度を確保する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）に	<p>次回の講義内容について予習（50分）を行い、講義終了後に講義内容の復習（50分）を行うこと。 事前学習の内容について、授業内に口頭でフィードバックする。</p>

ついて	
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト
参考書	指定なし
成績評価	<p>期末試験：40%，基礎学力試験①：20%，基礎学力試験②：20%，関心意欲・態度：20%とする。 期末試験は60%以上の正答を必須とし、満たない場合は再試験の対象とする。 再試験においても60%に満たない場合は原則として成績評価の対象としない。 期末試験の受験要件は、大学の定めにより全講義数の3/5以上の出席である。 架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとする。</p>
担当教員の基本情報	<p>木村：国内消防機関、海外防災機関、海外医療系大学、海外医療機関での勤務経験に基づき授業を行う。 智原：麻酔科医師として臨床と医療系大学での研究指導経験に基づき授業を行う。中学・高校の数学教員免除を有する。</p> <p>担当者：木村 隆彦 研究室：6号館2階研究室 E-mail：t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後1時間</p> <p>担当者：智原栄一 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：e_chihara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜-木曜 16:30-17:30</p>
備考	<p>①連絡のない欠席、遅刻、早退や、受講態度、不適切な身だしなみが認められ、教員の指示（指導）に従わない場合は成績評価の対象としないことがある。また、これら事項を成績評価の減点対象とする際は、学生本人との面談を経て授業参加意欲の項を減点する。 *授業参加意欲は出席日数を評価する。出席は教員が指示した方法で集計する。出欠登録システムの入力とそれ以外の方法を組み合わせて授業参加と判断する場合がある。出欠確認要領についてはオリエンテーションで周知する。 授業中の無断退室は早退として扱う。 授業開始のチャイムが鳴り終わった後の入室は遅刻として扱う。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1，○-2，○-4</p>
	<p>科目ナンバー HE-1-ME2-RS-L-0</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
諫山 憲司			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士に必要な、傷病者への問診・情報収集の方法について学ぶ。救急救命処置を実施する際に行うインフォームドコンセントについても理解する事を目的とする。 また、病院や連携機関とのブラインドコミュニケーション方法を学ぶことで、実際の救急現場で傷病者対応や病院連絡を円滑に行えることを目的としている。そして、傷病者への第一印象が重要であるため非言語的コミュニケーションについて理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p> 【授業概要】</p> <p> ・オリエンテーション</p> <p> ・医療コミュニケーション学の授業方針・概略の説明を行う。</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・医療コミュニケーションの目的・構造が説明できる。</p> <p> 【授業形態】</p> <p> アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p> 【備考】</p> <p> 予習：傷病者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べる。</p> <p> 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。</p> <p>第2回 接遇とコミュニケーションの種類</p> <p> 【授業概要】</p> <p> ・傷病者に対する接遇の概要とコミュニケーションの種類を行う。</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・接遇の必要性が説明できる。</p> <p> ・コミュニケーションの方法について、それぞれ説明できる。</p> <p> 【授業形態】</p> <p> アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p> 【備考】</p> <p> 予習：傷病者とのコミュニケーションの1つである「接遇」について参考文献を見て調べる。</p> <p> 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。</p> <p>第3回 成人傷病者とのコミュニケーション</p> <p> 【授業概要】</p> <p> ・成人傷病者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・成人とのコミュニケーションが実施できる。</p> <p> ・SAMPLER, OPQRSTについてそれぞれ説明できる。</p> <p> 【授業形態】</p> <p> アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p> 【備考】</p> <p> 予習：成人傷病者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べる。</p> <p> 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。</p> <p>第4回 高齢傷病者とのコミュニケーション</p> <p> 【授業概要】</p> <p> ・高齢傷病者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・高齢傷病者とのコミュニケーションが実施できる。</p> <p> ・加齢による身体の変化について説明できる。</p> <p> 【授業形態】</p> <p> アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p> 【備考】</p> <p> 予習：高齢傷病者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べる。</p> <p> 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。</p> <p>第5回 小児傷病者とのコミュニケーション</p> <p> 【授業概要】</p> <p> ・小児傷病者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・小児傷病者とのコミュニケーションが実施できる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の病態・知的内容について説明できる。 <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：小児傷病者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べる。 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。 家族・関係者とのコミュニケーション</p> <p>【授業概要】 ・傷病者の家族・関係者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p>【到達目標】 ・傷病者の家族・関係者とのコミュニケーションが実施できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：傷病者の家族・関係者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べる。 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。 医師とのコミュニケーション・病院連絡要領</p> <p>【授業概要】 ・医師とのコミュニケーションおよび、その際の情報伝達に関して説明する。 ・病院連絡要領について説明する。</p> <p>【到達目標】 ・医師とのコミュニケーションが実施できる ・MISTが説明できる。 ・ブラインドコミュニケーションについて説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：医師とのコミュニケーション・病院連絡要領について参考文献を見て調べる。 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。</p> <p>まとめ</p> <p>【授業概要】 ・第1～7回で学習した内容の総復習を行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 復習：医療コミュニケーション学で学んだ内容についてレポート作成を行う。</p>
第6回	
第7回	
第8回	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：授業で提示された課題について自身で調べ、考察する。(120分) 復習：授業で学習した内容についてレポートにまとめる。(120分)
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	適宜配布
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー：30% ・授業内での質疑応答：10% ・議論(授業中の発言・発表内容)：20% ・課題の提出状況：30% ・授業参加姿勢：10% <p>授業への出席と積極的な授業参加姿勢およびリアクションペーパーの内容を中心に、授業中の発言・発表内容、仮題提出などを加味して総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	担当教員名：諫山憲司 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-2、○-4
	科目ナンバー：「HE-1-ME3-RS-L-0」
	授業終了後半にリアクションペーパーの記入を行い、口頭でフィードバックする。
	Google Classroomを活用した(講義・演習)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
林 知也、渡邊 康晴			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「人体の構造と機能 I」は、人体をその構造や機能を基にいくつかの器官系に分けて形態学的・機能学的に理解しようというものである。救急救命士にとって人の命を守るためにも、医学領域としてはじめに身につけないといけない最も重要な医学基礎である。本教科では、人のカラダを器官系に分けて逐次解説し、得られた知識を基に分解された人体を自ら再び一個の人体として再構築する能力を養いその構造と機能を理解し、説明できることを最終目的とする。従って、各講義においては、各自が講義テーマにある器官系の構造と機能を説明できるようにすることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 人体を構成する各部の名称、体表からみた構造の特徴と名称、身体を動かす骨格筋や内臓臓器を動かす心筋と平滑筋の構造としくみ、身体の機能を調節する末梢神経系の構造の特徴と働き、神経系を統括する中枢神経系の構造の特徴と働き、換気とガス交換を行う呼吸器系の構造の特徴としくみ、ガスや栄養素を全身に運搬する循環器系の構造的特徴としくみ等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>1回目 体表解剖：渡邊担当 体表解剖 [授業概要] 人体各部と体表からみた構造と名称について [到達目標] 人体各部と体表からみた構造と名称、人体の位置、方向、運動について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p63-76）を熟読し、学修用ノートの穴埋めを完成させておくこと。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p> <p>2回目 筋・骨格系（運動器）：渡邊担当 運動器系 [授業概要] 骨格筋、平滑筋、心筋の構造、全身の主な骨格筋と筋収縮について [到達目標] 骨格筋、平滑筋、心筋の構造および全身の主な骨格筋と筋収縮、骨の構造、全身の主な骨と関節について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p151-158）を熟読し、学修用ノートの穴埋めを完成させておくこと。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p> <p>3回目 神経系（1）中枢神経系：渡邊担当 神経系（1）中枢神経系 [授業概要] 神経系の成り立ちから中枢神経（脳：大脳、間脳、小脳、脳幹、延髄と脊髄）の構造について [到達目標] 神経系の成り立ちから中枢神経（脳：大脳、間脳、小脳、脳幹、延髄と脊髄）、脳脊髄液、脳脊髄膜について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p77-84）を熟読し、学修用ノートの穴埋めを完成させておくこと。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p> <p>4回目 神経系（2）末梢神経系：渡邊担当 神経系（2）末梢神経系 [授業概要] 脳神経（12対）から脊髄神経（31対）の構造と伝道路、反射、自律神経について [到達目標] 脳神経（12対）から脊髄神経（31対）の構造と伝道路、反射、自律神経について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p84-91）を熟読し、学修用ノートの穴埋めを完成させておくこと。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p> <p>5回目 呼吸器系：渡邊担当 呼吸器系 [授業概要] 呼吸器（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺）の構造と呼吸筋について [到達目標] 呼吸器（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺）の構造と呼吸筋について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p97-107）を熟読し、学修用ノートの穴埋めを完成させておくこと。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p> <p>6回目 循環器系（1）：渡邊担当 循環器系（1） [授業概要] 循環器系（心臓）の構造について [到達目標] 循環器系の構成と役割、心臓の構造について説明できる</p>

7回目	<p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p108-118) を熟読し、学修用ノートの穴埋めを完成させておくこと。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p> <p>循環器系 (2) : 渡邊担当</p> <p>循環器系 (2) [授業概要] 動脈、静脈、毛細血管、リンパ管の構造と人体における主な血管の名称について [到達目標] 動脈、静脈、毛細血管、リンパ管の構造と人体における主な血管の名称について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p108-118) を熟読し、学修用ノートの穴埋めを完成させておくこと。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
8回目	<p>細胞・体液 : 林担当</p> <p>細胞・体液 [授業概要] 細胞の構造と機能、体液、物質移動について [到達目標] 細胞膜と細胞内小器官の機能、体液の区分と特徴、各物質移動の特徴について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p. 56-62) を熟読すること。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
9回目	<p>神経系 (1) : 林担当</p> <p>神経系 (1) [授業概要] 神経の基礎、反射について [到達目標] 静止膜電位、活動電位、興奮の伝導、シナプス伝達、反射の概要といくつかの反射の特徴について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p. 77-79, 90-91) を熟読すること。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
10回目	<p>神経系 (2) : 林担当</p> <p>神経系 (2) [授業概要] 自律神経の機能、中枢神経系の機能について [到達目標] 自律神経の特徴と機能、大脳、間脳、小脳、脳幹の機能について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p. 80-82, 87-90) を熟読すること。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
11回目	<p>呼吸器系 (1) : 林担当</p> <p>呼吸器系 (1) [授業概要] 換気と呼吸気量について [到達目標] 内呼吸と外呼吸、換気のしくみ、呼吸気量について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p. 98, 102-105) を熟読すること。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
12回目	<p>呼吸器系 (2) : 林担当</p> <p>呼吸器系 (2) [授業概要] 換気と呼吸気量について [到達目標] ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調節について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p. 98, 102-105) を熟読すること。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
13回目	<p>循環器系 (1) : 林担当</p> <p>循環器系 (1) [授業概要] 心臓の機能について [到達目標] 心臓の興奮とその伝播、心電図、心周期、心音、スターリングの心臓の法則、心拍出量について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p. 112-115) を熟読すること。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
14回目	<p>循環器系 (2) : 林担当</p> <p>循環器系 (2) [授業概要] 脈管系の機能と循環調節について [到達目標] 血管の機能的分類、血圧、リンパ系、神経系と内分泌系による循環調節について説明できる</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p. 115-118) を熟読すること。 授業後にGoogle formでの小テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
15回目	<p>まとめ 各講義の理解度を定期試験にて確認する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) に	授業時間外の学習として講義前までに該当する教科書、および授業時に配付された資料やGoogle Classroomでアクセスできる資料等を用いて予習を行う。(120分)

<p>(準備手冊等)について</p>	<p>ノックアウトできる資料等を用いて小テストを行う(120分)。 授業直後にGoogle Classroom上にアップされる小テストで講義内容の確認問題を解いておく。 授業後には配布したプリントやノートを見直し、不備な所を教科書、参考書をもとに訂正あるいは補充して復習し、知識の定着をはかる。(120分)。</p>
<p>教科書</p>	<p>救急救命士標準テキスト 救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 2020年、19,800円(税込)</p>
<p>参考書</p>	<p>・「カラダの地図帳 新版」 佐藤達夫監修 講談社 2013、4,400円(税込) ・「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 第3版」 岡田隆夫 編集 メジカルビュー社 2022、6,050円(税込)</p> <p>(さらに深く勉強したい人のために)</p> <p>・「カラー人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで」 F.H. マティーニ、M.J. ティモンズ、M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳、西村書店、8,580円(税込) ・「標準生理学 第9版」 本間研一監修 医学書院 2019、13,200円(税込)</p>
<p>成績評価</p>	<p>【定期試験】評価割合：90% 第1回目から14回目までの講義内容に関連したヒトのからだの構造や機能についての理解度を定期試験によって評価する。 【小テスト】評価割合：10% 各講義ごとに小テストを行う。小テストはウェブ上で実施するもの(Google form)とし、Google Classroomからアクセスする。小テストは何度でも受験でき、各々の小テストの最高点を評価として用いる。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日放課後16:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 渡邊康晴 研究室 : 附属病院1階MRセンター (6号館1階事務所にいることが多い) メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : Mellyでの質問等を推奨 質問推奨時間 平日の9:00-19:00</p>
<p>備考</p>	<p>① 林：実務経験あり。大学医学部の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに人体の機能について講義を行う。 渡邊：実務経験あり。当該領域の大学・専門学校での教育経験、鍼灸師としての臨床経験を有する。その実務経験をもとに人体の構造について講義を行う。</p> <p>② 小テストに対するフィードバック：Google form上で行い何度でも繰り返し行うことでフィードバックをかける。</p> <p>③ この授業とディプロマポリシーとの関係：1. 知識・理解◎-1、2. 思考・判断○-2</p> <p>④ 科目ナンバー：「HE-1-MM1-RS-L-1」</p>
<p></p>	<p>この講義ではアクティブラーニングを行わない。</p>
<p></p>	<p>授業資料および小テストについては、Google Classroomにアップする。 適宜、アクセスして利用すること。</p>
<p></p>	<p></p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
平出 敦			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「人体の構造と機能Ⅱ」は、人体の構造と機能をいくつかの器官系に分けて理解しようというものである。救急救命士だけではなく、医療系の学生として人の命を守るためにも、医学領域としてはじめに身につけないといけない最も重要な基本的知識であり、医療人としての基本的な素養に結びつく内容である。しかし、医学の歴史は長く、長年の間に蓄積した内容を学ぶことは容易ではない。そこで、まず授業前にテキストを概括して、理解できる点と、できない点を明確にするとともに、授業中は、学生同士のディスカッションを通じて自分たちで考え、理解を深めることをめざす。</p> <p>【到達目標】 生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化器系の構造と働き、体液の恒常性維持に必要な尿生成と排泄を行うための構造としくみ、種の保存に必要な生殖器系の構造としくみ、身体内外の環境の変化の情報を受け取るための感覚器系の構造と働き、生体機能を調節するためのホルモンを産生・分泌する内分泌系の構造と各ホルモンの働き、ガスや栄養素を運搬する血液の働きと生体を防御する免疫系の働き、摂取した栄養を代謝して生命活動を営むしくみ、産熱と放熱のバランスをとる体温調節のしくみ等を説明できる。</p>
授業計画	<p>1回目 消化器系（1） [授業概要] 口腔から肛門までの消化管の構造について [到達目標] 口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸（虫垂を含む）、結腸、直腸）肛門の消化管の構造について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p119-126）を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。授業後に、該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>2回目 消化器系（2） [授業概要] 肝臓、胆嚢、胆道系、膵臓、腹膜と腸間膜の構造について [到達目標] 肝臓、胆嚢、胆道系、膵臓、腹膜と腸間膜について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p126-128）を読み、を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>3回目 泌尿器系 [授業概要] 泌尿器系の腎臓から外尿道口までの尿路の構造について [到達目標] 腎臓の構造、ネフロン（糸球体、ボウマン嚢、尿細管）、尿管、膀胱、尿道について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p129-131）を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>4回目 生殖器系 [授業概要] 男性生殖器と女性生殖器の構造について [到達目標] 男性生殖器（精巣、精管、精嚢、前立腺、尿道球腺、尿道、陰茎）、女性生殖器（卵巣、卵管、子宮、膣、陰核などの外生殖器）について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p132-138）を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>5回目 感覚器系 [授業概要] 感覚器の種類と構造について（視覚器、聴覚器、平衡感覚器、皮膚感覚器） [到達目標] 視覚器、聴覚器、平衡感覚器、皮膚感覚器について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p92-96、p155-158）を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>6回目 消化器系（1） [授業概要] 咀嚼と嚥下、胃での消化について [到達目標] 咀嚼と嚥下の特徴、胃の蠕動運動と胃液の特徴、各消化酵素の働きについて説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p.121-123）を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>7回目 消化器系（2）</p>

	<p>8回目</p> <p>[授業概要] 小腸での消化と吸収、大腸での吸収、肝臓、膵臓の機能について [到達目標] 胆汁の働き、小腸の吸収の特徴、大腸での吸収の特徴、排便反射の特徴、肝臓の機能、胆のうの機能、膵臓の機能、について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.124-128) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>泌尿器系 [授業概要] 尿の生成、排尿、酸塩基平衡について [到達目標] ネフロンの特徴、濾過・再吸収・分泌の特徴、排尿反射、酸塩基平衡の調節のしくみ、酸塩基平衡の破綻について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.129-131) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>9回目</p> <p>生殖器系 [授業概要] 男性生殖器と女性生殖器の機能について [到達目標] 精巣の働き、性周期の特徴について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.132-137) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>10回目</p> <p>内分泌系 (1) [授業概要] 内分泌器官、ホルモンの総論、視床下部・下垂体からのホルモンについて [到達目標] 内分泌器官、ホルモンの定義、ホルモンの分類、負のフィードバック、視床下部ホルモン・下垂体前葉ホルモン・下垂体後葉ホルモンの働きについて説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.139-140) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>11回目</p> <p>内分泌系 (2) [授業概要] 甲状腺・副甲状腺・副腎・膵臓・性腺からのホルモンについて [到達目標] 甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、膵臓ランゲルハンス島からのホルモン、精巣からのホルモン、卵巣からのホルモンの作用について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.140-142) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>12回目</p> <p>血液・免疫系 (1) [授業概要] 血球、血漿、血液型について [到達目標] 血液の働き、血球の種類と働き、血漿成分の特徴、血液型の特徴について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.143-147) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>13回目</p> <p>血液・免疫系 (2) [授業概要] 止血と凝固、免疫系について [到達目標] 血小板による止血、血液凝固反応、線維素溶解現象、免疫に関わる細胞の働き、液性免疫、細胞性免疫について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.147-150) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>14回目</p> <p>生命の維持 [授業概要] 栄養・代謝と体温調節について [到達目標] 各栄養素の特徴、エネルギー代謝、体温調節のしくみについて説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲 (p.159-162) を読み、理解できた点、できなかった点を明らかにする。 授業後に該当範囲を熟読して理解を深めること。</p> <p>15回目</p> <p>まとめ 各講義の理解度を定期試験にて確認する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	授業時間外の学習として講義前までに該当する標準テキストの範囲を読んでおくこと。プレテストも受験すること。これらの事前勉強で、理解できたこと (読み取れたこと)、よく理解できなかったこと、もしくは疑問に思ったことを授業の1日前までに入力すること (120分)。授業直後には、プレテストと同じ問題をやってみて定着をはかる。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト
参考書	あくまで救急救命士標準テキストがバイブルである。もし、参考にするのであれば、下記のような看護士のテキストがメカニズムと合わせて理解する点では、役にたつ。 なるほど、なっとく解剖生理学 改訂2版 和久田典子、和久田陽、 南山堂

	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学 林正健二 メディカ出版
成績評価	<p>【定期試験】評価割合：70% 第1回目から14回目までの授業内容に関連したヒトのからだの構造や機能についての理解度を定期試験によって評価する。</p> <p>【授業外学習課題】評価割合：30% 授業外学習の実績を回答率、完成度の点から評価する。</p> <p>*注意事項 ・期末試験の受験要件は、全講義コマ数3/5以上の出席が必須条件となる。 ・架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなる。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 平出 敦 研究室 : 6号館2階 教授室 メールアドレス : @meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 曜日 9:00-17:30</p>
備考	<p>平出 敦：救急診療の実務経験あり。同時に、救命救急センター長、地域メディカルコントロール協議会会長の経験あり。当該領域の教育経験あり。これらを基盤として、救急ケアの視点から人体の構造機能について授業を行う。</p> <p>ディプロマポリシーとの関係：1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2 科目ナンバー：HE-1-MM2-RS-L-1</p>
	<p>【授業形態】 ・アクティブラーニング有：大人数講義でクリッカー相当を用いて、教員の用意した選択肢に答える ・Google classroomを活用した実習</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
辻村 敦			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	生化学講義では人体を構成する物質の構造とその代謝（合成や分解）を学びます。体を構成するそれぞれの物質の化学的な特徴を理解することにより、糖尿病や脂質代謝異常、肥満などの生活習慣病などの疾患の発症機序を理解し、患者に寄り添うための知識の習得に繋がります。さらに、生化学の学習を通して自分の食生活を省みて健康を考える機会を提供します。ダイエットや筋トレ、スポーツのパフォーマンス向上のヒントも紹介していきます。
授業計画	<p>第1講 序論：生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ。 [到達目標] 生化学の基礎を理解。原子や分子の構造、酵素や基質について説明できる。 [授業形態] 講義プリントを配布し、パワーポイントを利用して説明を行う。毎回、前回の復習とその日のまとめ問題を提示し、全員で理解度を確認する。 [備考] 人体を構成する生体物質を理解する。生命活動維持のに重要な必須成分と酵素の働き、細胞の構造を理解。</p> <p>第2講 炭水化物と代謝 [到達目標] 炭水化物の構造と生体内での消化、吸収、エネルギー産生について説明できる。 [備考] 代表的な炭水化物の構造を体系的に理解する。エネルギーを取り出す過程（解糖系、TCA回路、電子伝達系）を理解する。</p> <p>第3講 脂質と脂質代謝 [到達目標] 脂質の化学構造、性質と代謝について説明できる。 [備考] 脂質の生体内での消化、吸収を理解。脂質からのエネルギーの取り出し、脂質から作られる生体物質を理解する。</p> <p>第4講 核酸(ヌクレオチド)の代謝 [到達目標] 遺伝を司る核酸の構造と機能、生合成について説明できる。 [備考] 核酸(RNAやDNA)の構造を理解し、染色体の複製、遺伝子の転写、翻訳について学ぶ。血中尿酸濃度の上昇による痛風を知る。</p> <p>第5講 タンパク質・アミノ酸 [到達目標] 身体を作るタンパク質、その構成要素であるアミノ酸の構造を知り、遺伝子設計図に基づく合成の過程を説明できる。さらに、タンパク質が機能を獲得する過程を説明できる。 [備考] タンパク質とアミノ酸の構造と性質、必須アミノ酸、翻訳後修飾、突然変異について学ぶ。</p> <p>第6講 ビタミン、ミネラル、ホルモンの役割 [到達目標] ビタミンの生理機能と生化学、欠乏症との関係を説明できる。ホルモンの作用機序を生体内恒常性の維持として理解できる。 [備考] ビタミンの生体内での役割と欠乏症。ホルモンの分類と作用機序、疾患との関連を学ぶ。</p> <p>第7講 遺伝子組み換え技術 [到達目標] 遺伝子操作する技術と、身近な応用例を知る。 [備考] 医療や品種改良における遺伝子操作の例、犯罪捜査や親子鑑定に利用される個人識別技術を知る。</p> <p>第8講 まとめ（評価含む） [到達目標] 生体物質の構造と代謝を関連づけて説明できる。 [備考] 全講義の総括を行い、試験を行う。講義内容の理解度を測る問題だけではなく、自分の考えを記述する問題もあるため、普段から生化学を学ぶ意義について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	分かりやすい図を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。各講義のタイトルに関連する項目を、参考書や高校教科書などで事前学習すること（1時間）。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること。講義後は必ずプリント内容の確認を行い、不確実な部分は質問するなどして次回までに解決すること（1時間）。講義後Classroomから簡単な復習問題を配信します。期限までの提出のみ平常点に加点します。
教科書	特になし （講義時間ごとにプリントを配布します。重要項目のマーキングや追加の情報を記入して、自分自身のプリントを完成させてください）

参考書	『栄養科学イラストレイテッド生化学』 藺田 勝/編 (羊土社) 『マンカでわかる生化学』 武村 政春他(オーム社) 『イラストレイテッド生化学』 石崎 泰樹他 (翻訳) 原書5版(丸善出版)
成績評価	講義内容に関連した知識を筆記試験 (定期試験、小テスト) にて把握し、その理解度を評価する。 授業時間中の質問に対する回答、演習への積極的な取り組み状況の評価する。 評価割合: (定期試験 60%、小テスト20%、平常点20%)とし総合評価60%以上を合格とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 辻村敦 研究室 : 京都府立医科大学・基礎老化学 メールアドレス : a_tsujimura@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 質問等は、講義前後または、メール、Classroomの限定コメントでお願いします。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
上久保 敦、矢部 真弓、金川 陽亮			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面／遠隔ブレンディット）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士の資格取得及び資格取得後の救急業務を適切に遂行するための基本的知識を修得することを目的とする。本講義では医学を学ぶ者が心得ておくべき基礎知識をはじめ、わが国における救急医療体制の整備状況、災害医療体制、救急活動の流れ、救急事故種別に応じた対応要領、救急活動の現況、迅速な傷病者搬送と受け入れ体制に係わる関係法令、救急医療情報システム等について理解する。		
授業計画	第1講	<p>救急医療体制</p> <p>[到達目標] わが国における救急医療施設および救急自動車による救急搬送の発祥から現在について概要を説明できる。 ドクターヘリおよびドクターカーによる救急医療の実態と運用方法や現況についてそれぞれ説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としてはわが国における病院前医療体制についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第2講	<p>救急業務の沿革</p> <p>[到達目標] わが国の救急医療体制の沿革について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としてはわが国の救急医療体制の沿革についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第3講	<p>救急医療を構成する体制</p> <p>[到達目標] 救急医療を構成する体制について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては救急医療を構成する体制についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第4講	<p>119番受信（口頭指導含む）と通信・出動指令、医療機関選定と搬送</p> <p>[到達目標] 119番受信と通信体制について説明できる。 口頭指導の種類と方法についてそれぞれ説明できる。 医療機関選定と搬送について説明できる。 通信体制について説明できる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分） 復習としては119番受信と通信体制についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第5講	<p>現場活動（活動の流れ・状況評価・初期評価・全身観察等）</p> <p>[到達目標] 現場活動の流れを理解し説明できる。 状況評価を理解し説明できる。 初期評価を理解し説明できる。 全身観察は根拠も理解し説明できる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。</p>	

第6講	<p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分）</p> <p>復習としては救急活動の記録についてまとめること（所要時間120分）</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>病院前救護体制</p> <p>[到達目標] 応急救護体制の概要について説明できる。 応急処置と救急救命処置の違いについて説明できる。</p>
第7講	<p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分）</p> <p>復習としては救護体制の概要についてまとめること（所要時間120分）</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>救急受け入れ体制</p> <p>[到達目標] 救急告知病院病院制度と救急医療機関の役割と要件について説明できる。</p>
第8講	<p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分）</p> <p>復習としては救急告知病院病院制度と救急医療機関の役割と要件についてまとめること（所要時間120分）</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>医療機関選定と搬送・救急医療情報システム</p> <p>[到達目標] 医療機関選定の手順を理解し、説明できる。 緊急度・重症度を理解し説明できる。 医療機関の内容、選定に根拠を持って説明できる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。</p>
第9講	<p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分）</p> <p>復習としては救急医療情報センターと救急相談センターの役割についてまとめること（所要時間120分）</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>救急活動記録（ウツタイン様式を含む）と他機関との連携</p> <p>[到達目標] 救急救命処置記録について説明できる。 ウツタイン様式について説明できる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。</p>
第10講	<p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分）</p> <p>復習としては救急告示病院制度と周産期・精神科・小児の救急医療体制についてまとめること（所要時間120分）</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>メディカルコントロール体制</p> <p>[到達目標] メディカルコントロールの概念について説明ができる。</p>
第11講	<p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分）</p> <p>復習としてはメディカルコントロールについてまとめること（所要時間120分）</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>災害の定義</p> <p>[到達目標] 代表的な自然災害や人為災害、特殊災害の例をそれぞれあげ、災害の定義について説明できる。</p>
	<p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを読み疑問事項をメモしてこること（所要時間120分）</p> <p>復習としては大規模災害についてまとめること（所要時間120分）</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>

	<p>第12講 災害医療体制・多数傷病者対応</p> <p>[到達目標] 災害医療に関する法律についてそれぞれ説明できる。 災害拠点病院・DMAT・緊急消防援助隊の役割と内容についてそれぞれ説明できる。 災害時の経時的医療ニーズの推移について説明できる。 災害対応における他機関との連携について説明できる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間120分） 復習としては大規模災害についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>第13講 トリアージ</p> <p>[到達目標] 多数傷病者発生時の具体的対応について説明できる。 CSCATTのそれぞれの内容と意味を説明できる。 トリアージの種類と方法について説明・実施できる。 トリアージタグの内容・記載方法について説明できる。 ゾーニングが実施できる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間120分） 復習としては多数傷病者対応・特殊災害についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>第14講 大規模災害と特殊災害</p> <p>[到達目標] 大規模災害の実態を具体的に説明できる。 特殊災害の種類とそれぞれの説明ができる。 本講義では、上記学習項目とそれに関連する基本知識を習得することを目的に講義を進行する。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答・予習内容に対する解説）</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間120分） 復習としては多数傷病者対応・特殊災害についてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>第15講 総復習・期末試験</p> <p>[到達目標] 第1～14回の救急医学概論の内容について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間120分） 復習としては、試験内容についてまとめること（所要時間120分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習内容について、授業内にて解説等を通したフィードバックを行う。 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間120分） 復習としては各講テーマについてまとめること（所要時間120分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容に沿って自己学習レポート作成し提出すること。 レポートに関しては確認を行い必要であればコメント記載し返却をする。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	救急隊員標準テキスト（へるす出版）
成績評価	本科講義における全コマ数3/5以上の出席と欠席レポートの全提出が期末試験受験の要件。 評価割合（筆記試験90%、小テスト提出評価10%） ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。
担当教員の基本情報	担当教員名：上久保 敦 研究室：6号館2階研究室

	メールアドレス：a_kamikubo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間 担当教員名：矢部 真弓 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：m_yabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間 担当教員：金川 陽亮 研究室：6号館 2階 助教研究室 メールアドレス：y_kanagawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	上久保 敦：消防機関および医療機関での臨床経験に基づいて講義を行う 矢部 真弓：医療機関での臨床経験に基づいて講義を行う 金川 陽亮：医療機関での臨床経験に基づき講義を行う
	【この授業とディプロマポリシーとの関連】◎-1,○-2,○-3 科目コード HE-1-EM1-RS-L-1
	アクティブラーニング有

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
山下 歩、坪倉 寛明、久保 敦士、福田 聖司、金川 陽亮、森田 浩章			
配当学科：救急救命学科	時間数：45時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	救急救助現場における安全管理を習得する。救急救命士と救助隊員が連携して活動ができるよう、ロープ及び各種救助用資器材の活用要領を習得する。また、自動車事故救出要領等、救急救命士として最低限必要とされる基礎的な救助救出要領を習得する。
授業計画	<p>第1～4講 基本動作 【到達目標】 個人動作、団体行動、意思伝達（合図・信号）要領を習得する。 部隊の編成要領、移動要領、点検要領、全員によるレンジャー行進等実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 訓練礼式実施後フィードバックする。 【備考】 （予習）各種授業で習得した規律訓練の内容を復習しておく。 （復習）各基本動作のポイントを整理解しておく。</p> <p>第5～7講 基本ロープ結索 【到達目標】 ロープによる結索法のうち（結節・結着・結合）について習得する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 結索実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）配信動画を閲覧し要領を確認しておく。 （復習）各基本結索のポイントを整理解しておく。</p> <p>第8～10講 応用ロープ結索 【到達目標】 ロープによる結索法のうち身体結索について習得する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 結索実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）配信動画を閲覧し要領を確認しておく。 （復習）各応用結索のポイントを整理解しておく。</p> <p>第11～14講 救助要領 【到達目標】 ロープブリッジの設定要領を実習する。 チロリアン渡過要領を実習する。 救助現場の応急処置要領について実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ロープブリッジの設定後フィードバックする。 【備考】 （予習）配信動画を閲覧し要領を確認しておく。 （復習）各基本動作のポイントを整理解しておく。</p> <p>第15～16講 救助資機材の取り扱い要領Ⅰ 【到達目標】 油圧式救助器具の取り扱い要領を実習する。 空気式救助器具、空気呼吸器の取り扱い要領を実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 救助器具の取り扱い実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）配信動画を閲覧し要領を確認しておく。 （復習）各基本動作のポイントを整理解しておく。</p> <p>第17～18講 救助資機材の取り扱い要領Ⅱ 【到達目標】 エンジンカッターの取り扱い要領を実習する。 チェーンソーの取り扱い要領を実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 救助器具の取り扱い実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）配信動画を閲覧し要領を確認しておく。 （復習）各基本動作のポイントを整理解しておく。</p> <p>第19～21講 車両救助要領 【到達目標】 自己及び要救助者の確実な安全確保を実施し事故車両から救出できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 救助器具の取り扱い実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）配信動画を閲覧し要領を確認しておく。 （復習）各基本動作のポイントを整理解しておく。</p>

	<p>第22～23講 集団災害</p> <p>【到達目標】 集団災害の概念と救急救命士の役割を理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 講義後フィードバックする。</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキストP232～244を読み災害医体制について熟知すること。 (復習) 講義内容を踏まえたうえ上記該当箇所を熟読すること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>(予習) シラバスに基づき予習を行う(45分) (復習) シラバスに基づき復習を行う(45分)</p>
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト〈全1巻〉(へるす出版)
参考書	<p>改訂3版 救助訓練マニュアル 東京法令出版第2版 ITLSアクセス メディカ出版 改訂2版補訂版 JPTECガイドブック へるす出版</p>
成績評価	<p>1、救急救命士としての規律、行動を理解し実行できる。 2、救急救助現場の安全管理の概念を理解できている。 3、ロープ結索及び各種救助用資器材の活用要領を習得できている。 4、基礎的な自動車事故救出要領を習得できている。 以上4点に着目し、その到達度等により成績を評価する。</p> <p>実技試験80% 平常点20% 授業への取り組み姿勢、規律、行動を総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下 歩 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間 連絡先 : a_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 坪倉 寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間 連絡先 : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp</p> <p>当教員名 : 久保 敦士 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間 連絡先 : 調整中</p> <p>担当教員名 : 福田 聖司 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間 連絡先 : s_fukuda@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 金川 陽亮 研究室 : 6号館2階 研究室 連絡先 : 調整中 オフィスアワー : 講義終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 森田 浩章 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後30分間 連絡先 : 調整中</p>
備考	<p>※ 天候や講義の進行上シラバスが変更になる事があります。 山下 歩: 消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 坪倉寛明: 消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 福田聖司: 消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 久保敦士: 消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 金川陽亮: 大学院での学習経験に基づき授業を行う。 森田浩章: 消防署での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4 科目ナンバー: HE-1-EM7-RS-P-1</p>
	課題等に対し、フィードバックが必要な場合は次回の講義時に行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	必修
担当教員			
福田 聖司、木村 隆彦、山下 歩、金川 陽亮			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：講義・実習/ブレンド ディット型	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の資格取得を目標とし、基本的な解剖学に基づいた救急処置法を身に付けるとともに、人の命の尊さ、大切さを理解し、救急救命処置要領を習得し、即戦力となる実践型教育を本授業の主眼とする。 救急救命士としての知識・技術の習得及び規律、礼儀が社会人として認められる教育を習いとする。 将来、救急救命士国家資格取得を見据えた知識・技術の習得と規律・礼儀を重んじた団体行動を養う救急救命士の育成を目標とする。 ファーストレスポンスレベルの基礎的な応急手当、救急処置法を身に付けるとともに、医療人としてあるべき倫理観を修得する。 病院前救急活動における様々な環境に対して、基礎的な応急手当、救急処置法を応用し、実践できる。
授業計画	<p>第1-4講 オリエンテーション・実習室および資器材の取り扱い 【到達目標】 救急実習室及び資器材の取扱要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいた演習の実施） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版などで関連部分を熟読すること、また取り上げられている資器材の名称とその機能について述べられるようになる。 （復習）オリエンテーション内容について理解を深める。</p> <p>第5-16講 一般市民が行う心肺蘇生法(成人・小児・乳児) 【到達目標】 一般市民が行う心肺蘇生要領(成人・小児・乳児)を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（事前課題に基づいたディスカッション） 【備考】 （予習）講義動画を視聴し、救急救命士標準テキスト第10版P372-378「人工呼吸/胸骨圧迫」、P419-427「救急蘇生法」など心肺蘇生法の関連部分を熟読すること、また取り上げられている資器材の名称とその機能について述べられるようになる。 ※成人に対する心肺蘇生法要領について調べ、そのアルゴリズムをレポートにまとめること。 （復習）小テストに解答し、誤答について自身で学習する。</p> <p>第17-20講 スキルチェック1/4(成人に対する心肺蘇生法) 【到達目標】 成人に対する心肺蘇生要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）心肺蘇生法のスキルを班で確認すること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第21-32講 バイタルサイン(呼吸・脈拍・血圧・意識)について 【到達目標】 バイタル資器材を使用した観察要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）講義動画を視聴し、救急救命士標準テキスト第10版P332-343「資器材の観察」などバイタル測定に必要な関連部分を熟読すること。また、取り上げられている資器材の名称とその機能について述べられるようになること。 （復習）小テストに解答し、誤答について自身で学習する。</p> <p>第33-36講 スキルチェック2/4(バイタルサイン(呼吸・脈拍・血圧・意識)) 【到達目標】 バイタルサイン(呼吸・脈拍・血圧・意識)の測定方法を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（学生間でのフィードバック） 【備考】 （予習）バイタルサインのスキルを班で確認すること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第37-44講 ファーストエイド(低体温、熱中症、大量出血、溺水)対応方法の習得 【到達目標】 様々な環境下で市民でも行えるファーストエイドスキルを身につける。 【授業形態】 アクティブラーニング有（対話型授業） 【備考】 主に講義動画を視聴し、関連する分野を救急救命士標準テキスト第10版P399-405「止血/創傷処置/固定」P812-813「溺水」、P815-820「熱中症」、P821-823「偶発生低体温」などを熟読すること。 （復習）小テストに解答し、誤答について自身で学習する。</p> <p>第45講 第5講～第44講のまとめ/記述テスト 【到達目標】 第5講～第44講までの内容を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有（試験内容に基づくフィードバック） 【備考】 （予習）これまでの実習内容について班で学習してくること。 （復習）授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第46-57講 気道管理方法の習得 【到達目標】 用手及び器具を用いた気道管理方法を身につける。 【授業形態】 アクティブラーニング有（対話型授業） 【備考】 主に講義動画を視聴し、関連する分野を救急救命士標準テキスト第10版P344-352「救急救命士が</p>

<p>第58-講61講</p> <p>第62-77講</p> <p>第78-81講</p> <p>第82-85講</p> <p>第86-89講</p> <p>第90講</p>	<p>行う処置」を熟読すること。またそれに関連する観察方法なども熟読すること。 (復習)小テストに解答し、誤答について自身で学習する。 スキルチェック3/4(気道管理(用手・器具))</p> <p>【到達目標】気道管理(用手気道確保、用手気道異物除去、器具による異物除去、経口/経鼻エアウェイ、吸引器と清拭)のスキルを習得すること。 【授業形態】アクティブラーニング有(学生間でのフィードバック) 【備考】 (予習)気道管理のスキルを班で確認すること。 (復習)授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>包括的除細動(VF, VT)の習得 【到達目標】除細動器を用いた包括的除細動(VF, VT)方法を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有(対話型授業) 【備考】 主に講義動画を視聴し、関連する分野を救急救命士標準テキスト第10版P379-382「電気ショック」を熟読すること。また包括的除細動に必要な心肺蘇生法などの関連する内容を熟読すること。 (復習)小テストに解答し、誤答について自身で学習する。</p> <p>スキルチェック4/4(包括的除細動) 【到達目標】包括的除細動のスキルを習得すること。 【授業形態】アクティブラーニング有(学生間でのフィードバック) 【備考】 (予習)包括的除細動のスキルを班で確認すること。 (復習)授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること(所要時間30分)</p> <p>搬送方法・体位管理方法 【到達目標】ストレッチャー操作や適切な体位管理方法を身につけること 【授業形態】アクティブラーニング有(学生間でのフィードバック) 【備考】 救急救命士標準テキスト第10版P436-447「傷病者搬送」を熟読すること。それに関連する内容も熟読すること。 (復習)授業終了後に自身で反省点を見つけて学習する。</p> <p>総合想定訓練(異物窒息傷病者を救命する) 【到達目標】異物窒息傷病者に適切な救命活動ができる。 【授業形態】アクティブラーニング有(学生間でのフィードバック) 【備考】 (予習)異物窒息傷病者に対する知識とスキルを班で確認応用し実技に活かす術を熟考すること。 (復習)授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p> <p>第46講～第89講のまとめ/記述テスト 【到達目標】第46講～第89講までの内容を習得すること 【授業形態】アクティブラーニング有(試験内容に基づくフィードバック) 【備考】 (予習)これまでの実習内容について班で学習してくること。 (復習)授業内でのフィードバック内容について自身で課題を考え、学習すること。</p>
<p>授業時間外の学習(準備学習等)について</p>	<p>《予習》シラバス内容を確認し、小テストや事前課題を元に改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する。また、随時配信される授業用動画を必ず視聴し授業に臨むこと(所要時間60分) 《復習》授業内容や小テストなどについて改訂第10版救急救命士標準テキストの関連ページを熟読する。(所要時間30分)</p>
<p>教科書</p>	<p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版) 改訂第5版 救急技術マニュアル(東京法令出版)</p>
<p>参考書</p>	<p>JRC蘇生ガイドライン2020(医学書院) 改訂第6版 救急蘇生法の指針2020(市民用・解説編)(東京法令出版)</p>
<p>成績評価</p>	<p>前期及び後期の記述テストをすべて60%以上の正答率を満たすこと、提出物をすべての提出していること、すべてのスキルチェックに合格していることを、成績評価の前提とする。 最終評価:知識・理解32%、思考・判断8%、関心・意欲8%、態度12%、技能・表現40% ※詳細は別紙ルーブリック評価表に準ずる。 ※記述テストおよびスキルチェックの受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断での欠席・遅刻・早退があった場合や、受講態度・服装等が不適切な場合は成績評価の対象としないことがある。 ※架空もしくは不正出席は、重大な不正行為であるため発覚した場合は、本試験を受験する権利を失い、再試験のみの受験扱いとなります。また、架空もしくは不正出席が発覚した日は欠席扱いとなります。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 福田 聖司 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス: si_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 木村 隆彦 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 山下 歩 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス: a_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 金川 陽亮 研究室 : 6号館2階 研究室</p>

	メールアドレス:y_kanagawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	福田聖司：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 木村隆彦：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 山下歩：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 金川陽亮：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1, ○-4 科目ナンバー HE-1-EM9-RS-P-1
	提出されたレポートについて、評価及びコメントを記載して返却する。 小テストは解答後に正答を提示する。 事前学習課題について、授業内でディスカッションを行う。
	Googleクラスルーム使用：有（資料配布、授業動画の配信、授業内アンケート）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
福田 聖司、金川 陽亮、山下 歩、矢部 真弓、福井 建皓、佐藤 洋二郎、田村 浩志、皆藤 竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>プール、海における水難事故に対する、1) 危険予測・予防する能力、2) 自身の身を守る（セルフレスキュー）能力、3) バイスタンダーとしての最低限の救助方法（バイスタンダーレスキュー）を理解・習得する。さらに 海浜で起こる事故に際し、ライフセーバーを含めた関係機関の活動が理解できる。また、本実習を通して、団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀を養い、救急救命士としての心構え、人格形成を養うことができる。</p>
授業計画	<p>第1講 ライフセービング実習オリエンテーション [到達目標] 実習内容についての授業目標、実習意義、課題を理解する。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第2講 実習内で必要なコミュニケーションスキル [到達目標] バディシステム、規律、シグナル(ホイッスル、旗)、避難行動を習得する。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第3-9講 (プール実習) ウォーターセーフティ「危機回避能力」スキル [到達目標] 以下の水辺におけるウォーターセーフティ「危機回避能力」を習得する。 入水法、水中歩行、サバイバル・スイミング、基本泳法、PFD着脱/ポジション、溺者への接近/防御法、救助法(トーク、リーチ、スロー)を訓練する。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第10講 (プール実習) ウォーターセーフティスキル まとめ/実技試験 [到達目標] 第3-9講に関連するウォーターセーフティ「危機回避能力」の確認をする。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第11講 海の知識 [到達目標] 海実習に必要な知識(気象海象/海洋生物/溺水・低体温/日焼け・熱中症)などを習得する。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第12-16講 (海実習) サーフスイムスキル/トレーニング/傷病者搬送(キャリアー) [到達目標] 以下の海辺における基礎的なスキルを習得する。 プール実習内で習得したウォーターセーフティ及びサーフスイムスキル、傷病者搬送(キャリアー)、海辺における人命救助に必要なトレーニングを訓練する。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第17-26講 (海実習) サーフレスキュースキル [到達目標] 以下の海辺におけるサーフレスキュースキルを習得する。 レスキューの基本原則、ボードレスキュー、チューブレスキューを訓練する。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第27-28講 (海実習) サーフレスキュー まとめ/実技試験 [到達目標] 第17-26講に関連するサーフレスキュースキルの確認をする。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。</p>

	<p>(復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり) 第29-30講 実習フィードバック まとめ/筆記試験 [到達目標] 第3-28講に関連する知識の確認をする。また、グループディスカッションを行いリーダーシップや論理的思考力、コミュニケーション能力などを得る。 (予習) 事前にシラバスを確認し、必要であれば教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。 (復習) 学習した内容をレポートにまとめること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	《予習》シラバス内容を確認し、基本泳法・セルフレスキュー・バイスタンダーレスキューなどについて、参考書や改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する。また、関連動画を視聴、必要があれば泳力向上などに努め授業に臨むこと (所要時間30分) 《復習》授業内容をまとめ、関連テキストを熟読し、必要があれば実技練習などをする。(所要時間30分)
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
参考書	サーフライフセービング教本 (公益財団法人 日本ライフセービング協会 発行) 水難学会指導員要請講習テキスト"ういてまて"(一般社団法人 水難学会 発行)
成績評価	筆記試験20%、実技試験60%、平常点(授業態度)20% ※平常点には授業参加意欲や態度を含めた客観的な評価を用いて採点する。 ※授業をやむを得ない理由を除いて遅刻した場合は参加を認めない場合がある。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 福田聖司 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス: si_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 金川 陽亮 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : y_kanagawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 山下 歩 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : a_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 矢部 真弓 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス: m_yabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 福井 健皓 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス: k_fukui@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	福田聖司: 消防組織及びライフセーバーとしての臨床経験に基づいて授業を行う。 金川陽亮: 医療機関及びライフセーバーとしての臨床経験に基づいて授業を行う。 山下 歩: 消防組織としての臨床経験に基づいて授業を行う。 矢部 真弓: 医療機関での臨床経験に基づいて授業を行う。 福井 健皓: 当該領域の大学での教育経験を有する。その経験をもとに講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4 科目ナンバー HE-1-HA6-RS-P-0
	Googleクラスルーム使用: 有 (資料配布、実技動画の配信)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
西村 克美			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業で学ぶ身体活動を、生涯スポーツとして自分の生活に取り込み、それを継続して楽しく実践することができる能力と習慣の構築方法を自分で確立できる人に育ててもらいたい。本時受講生は、将来、救急救命士を目指すにあたり、体力向上を通じて心身の健康増進を図り、それを実践する運動習慣を獲得することを目標に置く。すなわち、自分の心身の状態を自己評価し、さらなる体力向上と健康の保持増進に取り組むことができるようになる。また、スポーツ活動においては仲間が必要である、本授業中に多くの新しい仲間をつくってほしい。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス(ウォームアップ、心拍数測定、グループ分け等) [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 実習</p> <p>第2講 体力測定「握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、腕立て伏せ」① [到達目標] 体力測定について理解し、実践 できるようになる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第3講 柔軟体操、ランニング、アジリティ [到達目標] アジリティを習得できるようになる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第4講 バドミントンの道具を使って、ウォームアップをする (トレーニング：腕立て伏せ、背筋、腹筋) ① [到達目標] トレーニングを習得できるようになる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第5講 バドミントンの道具を使って、ウォームアップをする (トレーニング：スクワット、バーピージャンプ) ② [到達目標] サーキット・トレーニングを体得することができる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第6講 バドミントンの道具を使って、ウォームアップをする (トレーニング：ダッシュ、手押し車) ③ [到達目標] トレーニングを習得することができる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第7講 バレーボールの道具を使って、ウォームアップをする (基礎トレーニング) ① [到達目標] 基礎トレーニングができるようになる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第8講 バレーボールの道具を使って、体力づくりをする (基本トレーニング) ② [到達目標] 基本トレーニングを理解し、習得することができる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第9講 バレーボールの道具を使って、体力づくりをする (応用トレーニング) ③ [到達目標] コミュニケーション能力や全身持久力を習得することができる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第10講 バレーボールの道具を使って、トレーニングをする (応用トレーニング) ④ [到達目標] 応用トレーニングを習得できるようになる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第11講 バasketボールの道具を使って、ウォームアップをする (基礎トレーニング) ① [到達目標] ウォームアップの習得ができるようになる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第12講 バasketボールの道具を使って、体力づくりをする (基本トレーニング) ② [到達目標] 体力づくりを理解することができる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第13講 バasketボールの道具を使って、トレーニングをする (全身持久力) ③ [到達目標] コミュニケーション能力や全身持久力を習得することができる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第14講 バasketボールの道具を使って、トレーニングをする (応用トレーニング) ④ [到達目標] 応用トレーニングを習得できるようになる。 [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第15講 体力測定「握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、腕立て伏せ」② [到達目標] (まとめ) 第1講～第14講を総括できるようになる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>各実技タイトルを事前学習 (予習35分) し、実技で学習した内容をまとめておく (復習35分)。就こうとする職業の専門的視点から見た、「体力づくりトレーニングメニュー」を作成する。「基礎体力の向上」および「友達とのコミュニケーション」ができるようになる。</p>
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度

	10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 西村克美 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : オフィスアワー :
備考	①服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。 ②水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-5, 技能・表現。 ④科目ナンバー：HE-1-HA9-ES-P-0。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	対面実技授業+ブレンディッド	
添付ファイル			

授業目標	○救急救命士取得のための体力づくりを体験理解できるようになる。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 体育館に運動・スポーツに適した服装に着替えて室内シューズで集合してください。 ◎救急救命士取得を目指すための体力づくりについて体験理解できる。 オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 ウォーキング ◎到達目標：生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>3回目 ジョギング1 ◎到達目標：体力づくりのためのジョギングの基本(フォーム等)を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>4回目 ジョギング2 ◎到達目標：ジョギングの実践を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>5回目 筋力トレーニング1 到達目標：自重とメディシンボール使用の筋力トレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>6回目 筋力トレーニング2 到達目標：自重とロープ使用の筋力トレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>7回目 持久力トレーニング1 到達目標：鬼ごっこや遊び要素のトレーニングで持久力トレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>8回目 持久力トレーニング2 到達目標：インターバルトレーニングで持久力トレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>9回目 サーキットトレーニング1 到達目標：各種目の時間設定で行うサーキットトレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>10回目 サーキットトレーニング2 到達目標：各種目回数設定で行うサーキットトレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>11回目 調整力・バランストレーニング1 到達目標：風船とボール使用の調整力・バランストレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>12回目 調整力・バランストレーニング2 到達目標：マット運動で調整力・バランストレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>13回目 アジリティトレーニング1 到達目標：マーカーコーン使用のアジリティトレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>14回目 アジリティトレーニング2 到達目標：ラダー、ミニハードル使用のアジリティトレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>15回目 まとめ 到達目標：総合的な体力づくり実践について体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	出席状況と授業の取り組み姿勢と態度、コミュニケーション、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業の前後

備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部運藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎ - 1
	HE9-HA-ES-P-0